県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

多肥宮尻遺跡

2018.3

香川県教育委員会

序　文

本書には、県道太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した香川県高松市多肥上町に所在する多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）の報告を収録しています。

多肥宮尻遺跡では、香東川が形成した扇状地を刻む旧河道があり、縄文時代晩期から中世にかけての複数の流路が見つかっています。流路からは多量の土器片をはじめ木器を出土しており、当該期の歴史を考えるうえで貴重な資料を得ることができました。

とりわけ、旧河道は地表面を掘り込んで河道が形成されたのち、その掘り込み部分の中で河道の流下・堆積が繰り返されており、のちの時代の人間生活に影響を与えたものと考えられます。また、古代の祭祀具である人形の出土は、周辺の遺跡において事例が明らかにされつつある古代の祭祀に関する資料として注目されるなど、多くの資料が得られています。

本報告書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご協力とご指導をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

香川県埋蔵文化財センター

所長　増田　宏

例　言

1　本報告書は、県道太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した、香川県高松市多肥上町に所在する多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）の報告を収録している。

2　発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（当時）が調査担当者として実施した。

3　発掘調査期間及び担当は次の通りである。

期間　平成９年４月１日～平成９年９月30日

担当　主任技師　佐々木正之　技師　松本和彦

期間　平成10年10月１日～平成11年３月31日

担当　文化財専門員　植松邦浩　技師　豊島修

期間　平成11年４月１日～９月30日

担当　文化財専門員　川井國博　技師　小野秀幸

4　調査にあたって、次の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略、名称は調査時）。

香川県土木部道路建設課、高松市都市計画課、地元自治会、地元水利組合

5　報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆・編集は木下晴一、山元素子が担当した。

6　報告書で用いる座標系は、世界測地系国土座標第Ⅳ系で、標高は東京湾平均海水面を基準とした。

7　遺構は次の略号により表示した。

SB　掘立柱建物　　SP　柱穴　　SK　土坑　　SD　溝状遺構　　SX　性格不明遺構

SR　旧河道

8　石器実測図中、輪郭線の周りの実線は潰れを表す。

9　遺構断面図中の注記の色調及び土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2010版』を参照した。土器観察表中の胎土中の砂粒の「粗」は径４mm以上、「中」は0.5mm以上、「細」は0.5mm未満を基準とした。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

10　縄文時代晩期の土器の年代観については、平井泰男「中部瀬戸内地方における縄文時代後期末葉から晩期の土器編年試案」（土器持寄会論文集刊行会『突帯文と遠賀川』2000年）、弥生土器については、真鍋昌宏「讃岐地域」（菅原康夫・梅木謙一編『弥生土器の様式と編年－四国編－』2000年）を参考とした。また中世土器の器形分類、時期区分は佐藤竜馬「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第４冊　空港跡地遺跡Ⅳ　2000年３月　香川県教育委員会　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　香川県土地開発公社　第５章　まとめ　第１節　高松平野と周辺地域における中世土器の編年」によった。

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過（木下）…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査の経過…… 2
　第３節　調査体制・整理体制…… 2

第２章　遺跡の立地と環境（木下）…… 5
　第１節　地理的環境…… 5
　第２節　歴史的環境…… 7

第３章　調査の成果…… 9
　第１節　検出した遺構・遺物（旧河道以外）（山元）…… 9
　第２節　旧河道の調査（木下、木製品は山元）…… 47
　第３節　遺構外の遺物（木下）…… 116

第４章　自然科学分析（山元）…… 119
　第１節　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果 (1)…… 119
　第２節　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果 (2)…… 129
　第３節　多肥宮尻遺跡出土木材の樹種同定結果 …… 135

第５章　まとめ…… 139
　第１節　遺構の変遷（山元）…… 139
　第２節　多肥宮尻遺跡の旧河道（木下）…… 140

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図 (1) ･････････････････････････････1
第 2 図　遺跡位置図 (2) ･････････････････････････････5
第 3 図　周辺の遺跡･････････････････････････････････6
第 4 図　基本層序柱状図････････････････････････････9
第 5 図　調査区割図 ････････････････････････････････10
第 6 図　遺構配置図 (1) ････････････････････････････11
第 7 図　遺構配置図 (2) ････････････････････････････12
第 8 図　遺構配置図 (3) ････････････････････････････13
第 9 図　遺構配置図 (4) ････････････････････････････14
第 10 図　SK3202　平・断面図、出土遺物実測図 ･･････15
第 11 図　SD2301・SD2302　出土遺物実測図 ･･････････15
第 12 図　SD2301・SD2302　平・断面図 ･･････････････16
第 13 図　SD1205　平・断面図、出土遺物実測図 (1) ････18
第 14 図　SD1205　出土遺物実測図 (2) ･･････････････19
第 15 図　SD1205　出土遺物実測図 (3) ･･････････････20
第 16 図　SB2301　平・断面図 ･･････････････････････20
第 17 図　SP1352・SP1374・SP1382・SP3301・SP3367・
SP3372　平・断面図、出土遺物実測図 ･･････21
第 18 図　SK1201・SD1201 ～ SD1203　平・断面図･････23
第 19 図　SK1203・SK1304 ～ SK1308・SK3303
平・断面図、出土遺物実測図･･････････････24
第 20 図　SK3304・SK3305　平・断面図 ･･････････････25
第 21 図　SX1301・SX1302・SD1101・SD1103
平・断面図、出土遺物実測図･･････････････27
第 22 図　SD1104・SD1105　平・断面図 ･･････････････28
第 23 図　SD1201 ～ SD1203　出土遺物実測図 ･･････････29
第 24 図　SD1301　平・断面図 ･･････････････････････30
第 25 図　SD3301 ～ SD3304
平・断面図、出土遺物実測図･･････････････31
第 26 図　SD3305 平・断面図、出土遺物実測図 ････････32
第 27 図　SK1303・SK3101・SD3101
平・断面図、出土遺物実測図･･････････････33
第 28 図　SX3302・SX3201　平・断面図 ･･････････････34
第 29 図　SX3202　平・断面図 ･･････････････････････35
第 30 図　SX3203・SX3204
平・断面図、出土遺物実測図･･････････････36
第 31 図　SD1303・SD1501　平・断面図 ･･････････････37
第 32 図　SD1502　平・断面図 ･･････････････････････38
第 33 図　SD2303　平・断面図 ･･････････････････････40
第 34 図　SD2304・SD3202　平・断面図 ･･････････････41
第 35 図　SP2301 ～ SP2303　平・断面図 ･･････････････42
第 36 図　SK1102・SK1204　平・断面図 ･･････････････43
第 37 図　SX1201・SK3301・SK3201　平・断面図･･････44
第 38 図　SD1106・SD1204・SD1206・SD3203
平・断面図･･････････････････････････45
第 39 図　旧河道　平面図･･････････････････････････46
第 40 図　SR01　断面図 ･･････････････････････････47
第 41 図　SR01 最下層　出土遺物実測図 (1) ･･････････48
第 42 図　SR01 最下層　出土遺物実測図 (2) ･･････････49
第 43 図　SR02　グリッド配置図 ･･････････････････50
第 44 図　SR02　断面図 ･･････････････････････････51
第 45 図　SR02・SR03　断面図･･････････････････････52
第 46 図　SR02　中層 (グリッド F) 出土遺物実測図･････53
第 47 図　SR02　中層 (グリッド E) 出土遺物実測図･････53
第 48 図　SR02　中層 (グリッド C) 出土遺物実測図･････54
第 49 図　SR02　中層 (グリッド I・V) 出土遺物実測図･･54
第 50 図　SR02　中層 (グリッド A) 出土遺物実測図 (1)･･55
第 51 図　SR02　中層 (グリッド A) 出土遺物実測図 (2)･･56
第 52 図　SR02　中層　出土遺物実測図 ･･････････････57
第 53 図　SR02　上層 (グリッド G) 出土遺物実測図･････58
第 54 図　SR02　上層 (グリッド F) 出土遺物実測図 (1)･･59
第 55 図　SR02　上層 (グリッド F) 出土遺物実測図 (2)･･60
第 56 図　SR02　上層 (グリッド E) 出土遺物実測図 (1)･･61
第 57 図　SR02　上層 (グリッド E) 出土遺物実測図 (2)･･62
第 58 図　SR02　上層 (グリッド E) 出土遺物実測図 (3)･･63
第 59 図　SR02　上層 (グリッド M) 出土遺物実測図 ････63
第 60 図　SR02　上層 (グリッド D) 出土遺物実測図 (1)･･64
第 61 図　SR02　上層 (グリッド D) 出土遺物実測図 (2)･･65
第 62 図　SR02　上層 (グリッド D) 出土遺物実測図 (3)･･66
第 63 図　SR02　上層 (グリッド D・C) 出土遺物実測図 ･67
第 64 図　SR02　上層 (グリッド C) 出土遺物実測図 (1)･･68
第 65 図　SR02　上層 (グリッド C) 出土遺物実測図 (2)･･69
第 66 図　SR02　上層 (グリッド C) 出土遺物実測図 (3)･･70
第 67 図　SR02　上層 (グリッド C) 出土遺物実測図 (4)･･71
第 68 図　SR02　上層 (グリッド K) 出土遺物実測図 ････72
第 69 図　SR02　上層 (グリッド J・B) 出土遺物実測図 (1)73
第 70 図　SR02　上層 (グリッド J・B) 出土遺物実測図 (2)74
第 71 図　SR02　上層 (グリッド A・I・T)
出土遺物実測図 (1) ･･････････････････････75
第 72 図　SR02　上層 (グリッド A・I・T)
出土遺物実測図 (2) ･･････････････････････76
第 73 図　SR02　上層 出土遺物実測図 (1) ･･････････････77
第 74 図　SR02　上層 出土遺物実測図 (2) ･･････････････78
第 75 図　SR02　出土層位・グリッド不明
出土遺物実測図 (1) ･･････････････････････79
第 76 図　SR02　出土層位・グリッド不明
出土遺物実測図 (2) ･･････････････････････80
第 77 図　SR03　断面図 ･･････････････････････････80
第 78 図　SR03　出土遺物実測図 (1)･･････････････････81
第 79 図　SR03　出土遺物実測図 (2)･･････････････････82
第 80 図　SR06 ～ SR08　変遷図･･････････････････････83
第 81 図　SR06 ～ SR08 の分類図 ･･････････････････84
第 82 図　SR06・SR07　断面図 (1) ･･････････････････84
第 83 図　SR06・SR07　断面図 (2) ･･････････････････85
第 84 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (1)･･･････････86
第 85 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (2)･･･････････87
第 86 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (3)･･･････････88
第 87 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (4)･･･････････89
第 88 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (5)･･･････････90
第 89 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (6)･･･････････91
第 90 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (7)･･･････････92
第 91 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (8)･･･････････93
第 92 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (9)･･･････････94
第 93 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (10)･･････････95
第 94 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (11)･･････････96
第 95 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (1)･･･････････97
第 96 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (2)･･･････････98
第 97 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (3)･･･････････99
第 98 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (4)･･･････････100
第 99 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (5)･･･････････101
第 100 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (6)･･････････102
第 101 図　SR07　出土遺物実測図 (1)･･･････････････104
第 102 図　SR07　出土遺物実測図 (2)･･･････････････105
第 103 図　SR07　出土遺物実測図 (3)･･･････････････106

第 104 図　SR07　出土遺物実測図 (4)……107
第 105 図　SR07　出土遺物実測図 (5)……108
第 106 図　SR07　出土遺物実測図 (6)……108
第 107 図　SR07　出土遺物実測図 (7)……109
第 108 図　SR07　出土遺物実測図 (8)……110
第 109 図　SR07　出土遺物実測図 (9)……111
第 110 図　SR08　出土遺物実測図 (1)……112
第 111 図　SR08　出土遺物実測図 (2)……113
第 112 図　SR08　出土遺物実測図 (3)……113
第 113 図　SR06 か SR07　層位不明　出土遺物実測図‥114
第 114 図　SR06 か SR08　層位不明　出土遺物実測図‥115
第 115 図　遺構外　出土遺物実測図 (1)……116
第 116 図　遺構外　出土遺物実測図 (2)……116
第 117 図　出土位置不明の遺物実測図……117
第 118 図　遺構外　出土遺物実測図 (3)……117
第 119 図　地域概念図……140
第 120 図　10cm 等高線図 ……141 ～ 142
第 121 図　白黒空中写真の濃度強調図……144
第 122 図　多肥宮尻遺跡の旧河道……146

表目次

第 1 表　調査体制……2
第 2 表　整理体制……3
第 3 表　多肥宮尻遺跡出土木製品同定表……122
第 4 表　多肥宮尻遺跡の樹種同定結果……130
第 5 表　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果……135
第 6 表　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧‥137
第 7 表　土器観察表 (1)　……151
第 8 表　土器観察表 (2)　……152
第 9 表　土器観察表 (3)　……153
第 10 表　土器観察表 (4)　……154
第 11 表　土器観察表 (5)　……155
第 12 表　土器観察表 (6)　……156
第 13 表　土器観察表 (7)　……157
第 14 表　土器観察表 (8)　……158
第 15 表　土器観察表 (9)　……159
第 16 表　土器観察表 (10)　……160
第 17 表　土器観察表 (11)　……161
第 18 表　土器観察表 (12)　……162
第 19 表　土器観察表 (13)　……163
第 20 表　土器観察表 (14)　……164
第 21 表　土器観察表 (15)　……165
第 22 表　土器観察表 (16)　……166
第 23 表　土器観察表 (17)　……167
第 24 表　土器観察表 (18)　……168
第 25 表　土器観察表 (19)　……169
第 26 表　土器観察表 (20)　……170
第 27 表　土器観察表 (21)　……171
第 28 表　土器観察表 (22)　……172
第 29 表　土器観察表 (23)　……173
第 30 表　土器観察表 (24)　……174
第 31 表　土器観察表 (25)　……175
第 32 表　土器観察表 (26)　……176
第 33 表　土器観察表 (27)　……177
第 34 表　土器観察表 (28)　……178
第 35 表　土器観察表 (29)　……179
第 36 表　土器観察表 (30)　……180
第 37 表　土器観察表 (31)　……181
第 38 表　土器観察表 (32)　……182
第 39 表　土器観察表 (33)　……183
第 40 表　土器観察表 (34)　……184
第 41 表　石器観察表（1）　……185
第 42 表　石器観察表（2）　……186
第 43 表　石器観察表（3）　……187
第 44 表　木器観察表　……188

写真図版目次

図版１　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真１・・・・・・・・・・・・・・・・120
図版２　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真２・・・・・・・・・・・・・・・・121
図版３　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真３・・・・・・・・・・・・・・・・122
図版４　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真４・・・・・・・・・・・・・・・・123
図版５　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真５・・・・・・・・・・・・・・・・124
図版６　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真６・・・・・・・・・・・・・・・・125
図版７　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真 (1)・・・・・・・・・・・129
図版８　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真 (2)・・・・・・・・・・・130
図版９　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真 (3)・・・・・・・・・・・131
図版 10　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真・・・・・・・・・・・・・135
図版 11　写真１　遺構上空から北を望む
　　写真２　多肥宮尻遺跡（南から）
図版 12　写真３　多肥宮尻遺跡（南から）
　　写真４　多肥宮尻遺跡（北から）
図版 13　写真５　SK3202　断面 (南から)
　　写真６　SD2302　断面 (南から)
　　写真７　SD2301　断面 (東から)
　　写真８　SD2301　断面 (東から)
　　写真９　SD2301　断面 (東から)
　　写真 10　SD2301　断面 (東から)
　　写真 11　SD1205　断面 (北東から)
　　写真 12　SD1205　断面 (東から)
図版 14　写真 13　SD1205 断面 (西から)
　　写真 14　SD1205　断面 (東から)
　　写真 15　SD1205　断面 (南西から)
図版 15　写真 16　11 ～ 13 世紀代ピット群 (南東部)　(南西から)
　　写真 17　11 ～ 13 世紀代ピット群 (南部)　(東から)
　　写真 18　11 ～ 13 世紀代ピット群 (西部)　(東から)
図版 16　写真 19　SB2301　全景 (南から)
　　写真 20　SB2301 内 P1 断面 (南から)
　　写真 21　SB2301 内 P2 断面 (南から)
　　写真 22　SB2301 内 P3 断面 (南から)
　　写真 23　SB2301 内 P4 断面 (南から)
　　写真 24　SK1304　断面 (南から)
　　写真 25　SK1306　断面 (北西から)
図版 17　写真 26　SK1307　断面 (西から)
　　写真 27　SD1101　断面 (西から)
　　写真 28　SD1202　断面 (南から)
　　写真 29　SD1203　断面 (北から)
　　写真 30　SD3301　断面 (北から)
　　写真 31　SD3302　断面 (北から)
　　写真 32　SD1304　断面 (南から)
　　写真 33　SD3303　断面 (南から)
図版 18　写真 34　SD3304　断面 (北から)
　　写真 35　SX3201　断面 (南東から)
　　写真 36　SX3202　断面 (西から)
　　写真 37　SD2303　断面 (東から)
　　写真 38　SD2303 石垣検出状況 (東から)
　　写真 39　SD2303 石垣検出状況 (南から)
　　写真 40　SD1502　全景 (東から)
　　写真 41　SP2302　断面 (南から)
図版 19　写真 42　SR01　完掘状況（東から）
　　写真 43　SR01　断面（東南から）
　　写真 44　SR02　完掘状況　（西南から）
図版 20　写真 45　SR02　完掘状況（西から）
　　写真 46　SR02　断面（西から）
　　写真 47　SR02（グリッド C）　上層黒色粘質土
　　遺物出土状況
図版 21　写真 48　SR02（グリッド A）　上層黒色粘質土
　　遺物出土状況
　　写真 49　SR02（グリッド A）　上層黒色粘質土
　　遺物出土状況
　　写真 50　SR02（右）・SR03　完掘状況（東から）
図版 22　写真 51　SR03　掘削状況
　　（手前が木器集中地点）（南から）
　　写真 52　SR02・03　断面　（北東から）
　　写真 53　SR05　完掘状況　（南から）
図版 23　写真 54　SR06・07　掘削状況　（東から）
　　写真 55　SR06 ～ 08 等　掘削状況　（東から）
　　写真 56　SR06　掘削状況　（西から）
図版 24　写真 57　SR07・08　掘削状況　（北から）
　　写真 58　SR06・07 等　掘削状況　（東から）
　　写真 59　SR06 中層　遺物出土状況　（南から）
図版 25　写真 60　SR06 中層　遺物出土状況　（西から）
　　写真 61　SR07　遺物出土状況　（南から）
　　写真 62　SR07　遺物出土状況　（南から）
図版 26　写真 63　SR07　遺物出土状況　（南から）
　　写真 64　SR07　遺物出土状況　（南から）
　　写真 65　SR07　遺物出土状況　（北東から）
図版 27　出土遺物（１）
図版 28　出土遺物（２）
図版 29　出土遺物（３）
図版 30　出土遺物（４）
図版 31　出土遺物（５）
図版 32　出土遺物（６）
図版 33　出土遺物（７）
図版 34　出土遺物（８）
図版 35　出土遺物（９）
図版 36　出土遺物（10）
図版 37　出土遺物（11）
図版 38　出土遺物（12）
図版 39　出土遺物（13）
図版 40　出土遺物（14）
図版 41　出土遺物（15）
図版 42　出土遺物（16）

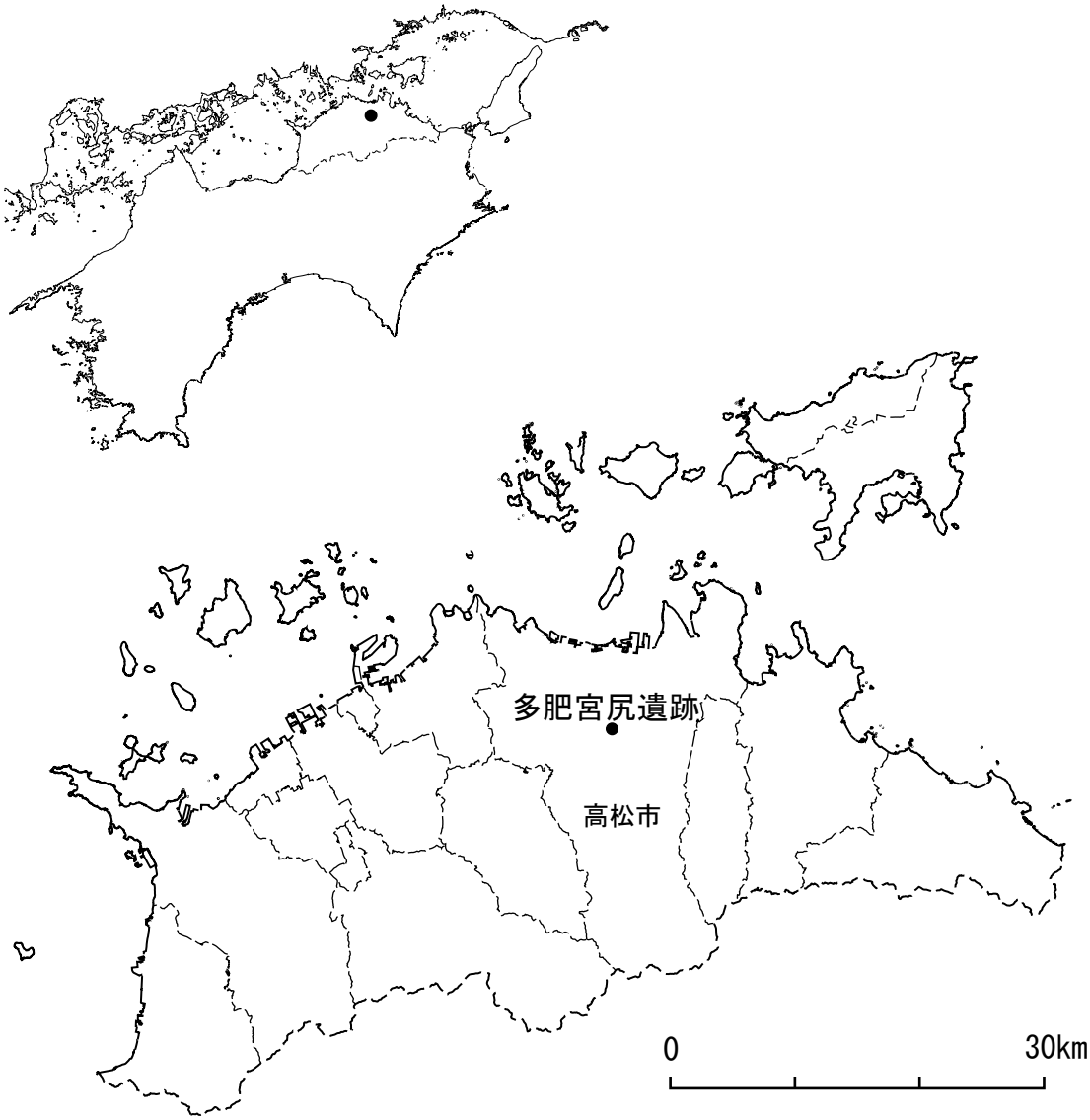
付図

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

県道太田上町志度線は、高松市街地南部の東西方向の通行を円滑化するために計画され、高松空港跡地（インテリジェントパーク）の整備事業に伴って、部分的な整備が行われた。その後、空港跡地から西への延伸が進められたが、路線に面する高松土木事務所、高松南警察署の整備も同時に行われたこともあり、開通が急がれる工事となった。

香川県教育委員会は、平成８年に用地買収が完了した地筆について試掘調査を行い、遺構・遺物の存在を確認したため、小字の宮尻の範囲を「多肥宮尻遺跡」として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。そして、この結果に基づき、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（当時）との間で、「埋蔵文化財調査委託契約」を締結し、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査を担当することとなった。



第１図　遺跡位置図（１）

第２節　調査の経過

調査対象地は、県道太田上町志度線の路線上の南北幅 25 m、東西長 400 m強の範囲である。調査着手前は溜池、田、畑、宅地、雑種地として登記されていた。調査対象面積は丈量図から 10,845㎡を測る。事業実施を急いだ関係で、調査対象地内に未買収地を含む中で虫食い状に調査を進めていくこととなり、平成９年４月から平成 11 年９月までの延べ 18 カ月間に及ぶ調査となった。各年度の調査地は第２図、調査体制は第１表のとおりである。

第３節　調査体制・整理体制

平成９年度

香川県教育委員会事務局　文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	菅原　良弘	所長	大森　忠彦
課長補佐	北原　和利	次長	小野　善範
総務		総務	
係長	山崎　隆	参事	別枝　義昭
主査	星加　宏明（～５／31）	副主幹兼係長	田中　秀文
主査	松村　崇史（６／１～）	主査	林　　照代
主事	打越　和美	主査	西川　大
埋蔵文化財		主事	細川　信哉
副主幹	渡部　明夫	調査	
文化財専門員	木下　晴一	参事	近藤　和史
技師	塩崎　誠司	主任文化財専門員	大山　真充
		主任技師	佐々木正之
		技師	松本　和彦
		調査技術員	滝井　理加

平成 10 年度

香川県教育委員会事務局　文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	小原　克己	所長	菅原　良弘
課長補佐	北原　和利	次長	小野　善範
総務		総務	
副主幹兼係長	西村　隆史	参事	別枝　義昭
係長	山崎　隆（～５／31）	副主幹兼係長	田中　秀文
係長	中村　禎伸（６／１～）	主査	長尾　寿江子
主査	三宅　陽子（６／１～）	主査	新　　一郎
主査	松村　崇史	主査	林　　照代
主事	打越　和美（～５／31）	主事	細川　信哉
埋蔵文化財		調査	
副主幹	渡部　明夫	主任文化財専門員	大山　真充
係長	西村　尋文	文化財専門員	植松　邦浩
主任技師	塩崎　誠司	技師	豊島　修
		調査技術員	香川　直孝

平成 11 年度

香川県教育委員会事務局　文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	小原　克己	所長	菅原　良弘
課長補佐	小国　史郎	次長	川原　裕章
総務		総務	
係長	中村　禎伸	副主幹兼係長	田中　秀文
主査	三宅　陽子	副主幹兼係長	六車　正憲
主査	松村　崇史	係長	新　　一郎
埋蔵文化財		主査	長尾　寿江子
副主幹	廣瀬　常雄	主査	山本　和代
係長	西村　尋文	主任主事	細川　信哉
文化財専門員	森　格也	調査	
主任技師	塩崎　誠司	参事	長尾　重盛
		主任文化財専門員	大山　真充
		文化財専門員	川井　國博
		技師	小野　秀幸
		調査技術員	秋山　亮

第１表　調査体制

整理調査は、平成 28 年度に 10 カ月の期間で行った。４月～７月の４カ月間は山元が整理を担当した。山元は、当遺跡から出土している木製品の保存処理を年度内に完了させるため、木製品の整理を先行するとともに、旧河道以外の遺構の整理を実施した。12 月から３月は木下が担当し、旧河道から出土した土器および石器を中心に整理を実施し、同時に２，３月に信里が主に遺物収納に係る整理を担当した。

報告書は、各々の分担分について木下、山元が原稿を執筆し、編集した。平成 28 年度の整理体制は第２表のとおりである。

平成 28 年度

香川県教育委員会事務局　生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	小柳　和代	所長	増田　宏
副課長	片桐　孝浩	次長	森　格也
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
課長補佐	愛染伊知朗	課長（兼）	森　格也
副主幹	松下由美子	副主幹	斎藤　政好
主事	和木　麻佳	主任	寺岡　仁美
文化財グループ		主任	高木　秀哉
課長補佐（兼）	片桐　孝浩	主任	丸尾麻知子
主任文化財専門員	山下　平重	主任	岩﨑　昌平
主任文化財専門員	乗松　真也	主任	西谷　敬司
		資料普及課	
		課長	古野　徳久
		主任文化財専門員	木下　晴一
		主任文化財専門員	信里　芳紀
		文化財専門員	山元　素子

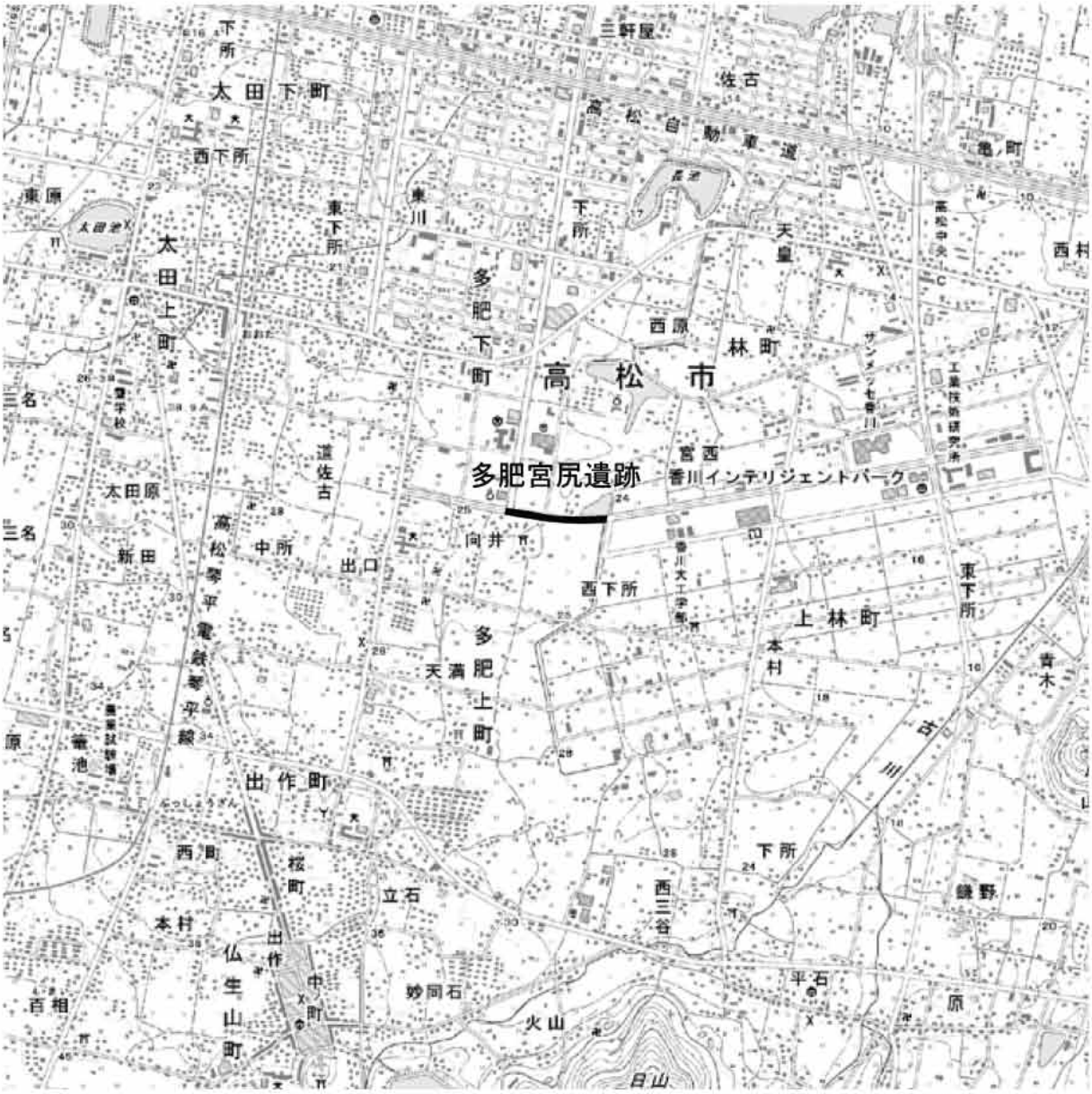
第２表　整理体制

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

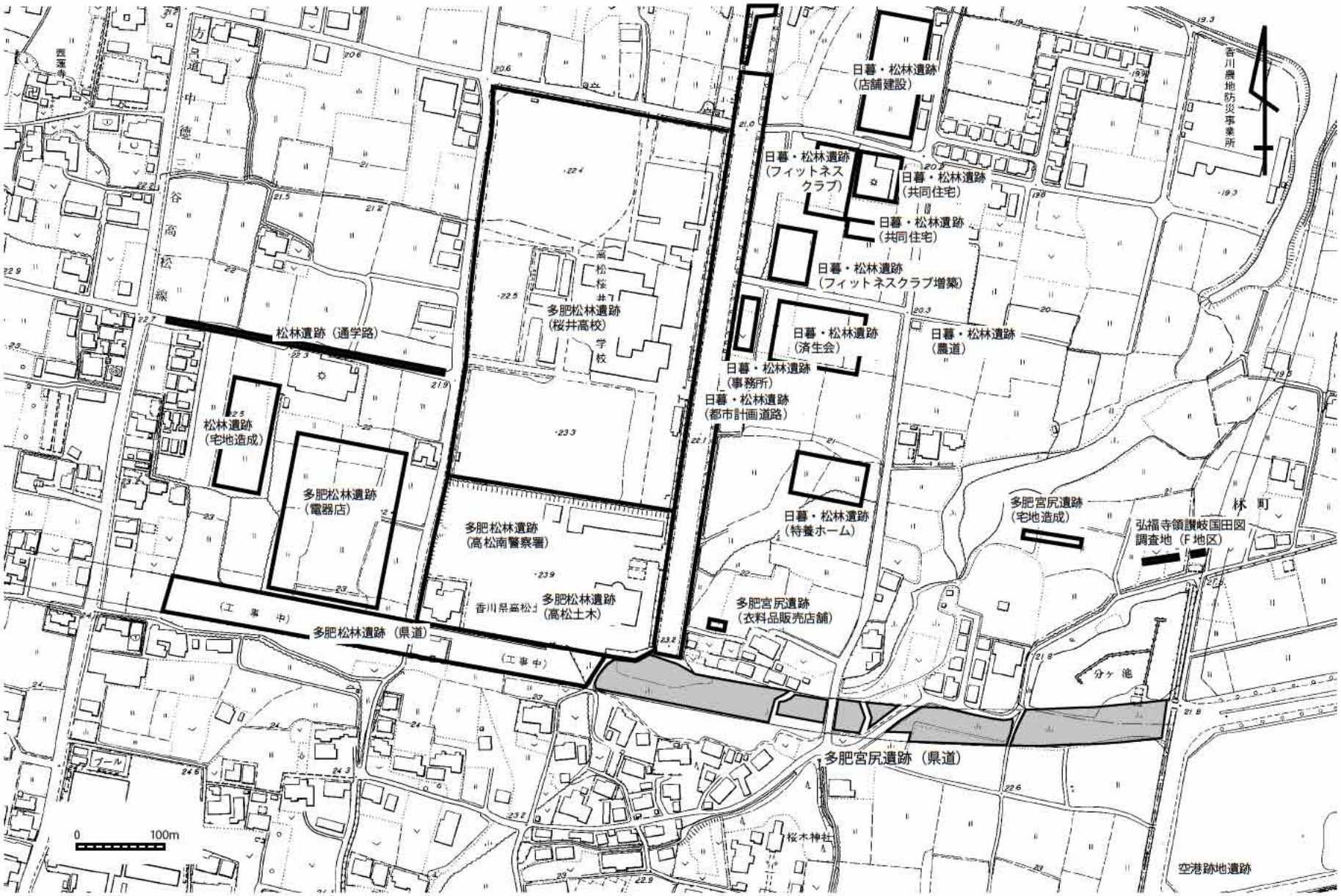
高松平野は、香東川が形成した扇状地と新川、春日川が形成した三角州性の平野からなる。平野上には広範に条里型地割がひろがるが、新川や春日川の下流域には条里型地割は見られず、平野の形成時期が新しいことを示している。一方、香東川扇状地は長さ10km、幅９km、平均勾配８‰の規模で、扇面を開折する旧河道の埋土中に喜界アカホヤ火山灰が見られるほか、扇端付近の扇状地を覆う堆積層中に姶良丹沢火山灰が堆積する等、形成年代が更新世に遡る資料が得られはじめている。

多肥宮尻遺跡は、香東川扇状地の扇央付近に位置し、この付近での勾配は６‰ほどで、西南から東北方向に傾斜している。地表には現在も微凹地として明瞭に確認できる旧河道が見られるが、遺跡は、旧



（国土地理院１/25.000 地形図「高松南部」を使用）

第２図　遺跡位置図 (2)



（高松市都市計画図「太田」を使用）

第３図　周辺の遺跡

河道が見かけのうえで分岐する地点に位置している。

第２節　歴史的環境

多肥宮尻遺跡周辺は、土地区画整理事業、県道改築、高等学校新設、県施設新築等の事業が集中した結果、県内では遺跡の発掘調査が集中する地域である。縄文時代晩期の遺物を包含する旧河道が見られたのち、弥生時代前期には灌漑用水路と考えられる溝状遺構が見られ、弥生時代中期中葉になると竪穴建物や掘立柱建物からなる集落が展開する。その後、空白期間を挟んで弥生時代後期以降に小規模な集落が点在、古墳時代中期から後期に至り、旧河道等からまとまった量の遺物が出土するようになる。古代においては、周辺にひろがる条里型地割と方向を一致させる掘立柱建物や溝状遺構が見られるほか、多肥松林遺跡（高松土木）では墨書のある須恵器・黒色土器 19 点が出土している。

これらの遺跡の動向は、旧河道や溝状遺構の面的な復原や微高地の把握等、地形と関連付けての検討が深められているほか､弥生時代中期から古墳時代後期にかけての長期にわたり基幹的な灌漑用水路が、同一ルートで維持・管理されていることが明らかにされるなどの成果を生んでいる。

このほか､当遺跡から西方に所在する遺跡から､大地震の際に生じたと考えられる噴礫が多数見つかっている。低地で通有に見られる噴砂と異なり、礫を噴き上げる事例は希少であり、研究の深化が望まれる。また、考古学的な検証は得られていないが、多肥宮尻遺跡の東端は、条里型地割のズレから古代の山田郡と香川郡の境界と考えられている。

参考文献

1　大嶋和則編　1996『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　松林遺跡』高松市教育委員会
2　大嶋和則編　2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査　松林遺跡（第２次調査)』高松市教育委員会
3　山下平重編　1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　多肥松林遺跡』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
4　松本和彦編　2016『高松土木事務所新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥松林遺跡』香川県教育委員会
5　蔵本晋司編　2017『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥松林遺跡』香川県教育委員会
6　宮崎哲治　2005「高松南警察署移転整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥松林遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報　平成 15 年度』香川県埋蔵文化財センター
7　大嶋和則編　2006「多肥松林遺跡（電器店)」『電器店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
8　山本英之・中西克也編　1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書　日暮・松林遺跡』高松市教育委員会
9　大嶋和則編　2003『香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡（済生会)』高松市教育委員会
10　大嶋和則編　2005「日暮・松林遺跡（農道)」『高松市内遺跡発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
11　小川賢編　2005『フィットネスクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡（フィットネスクラブ)』高松市教育委員会
12　大嶋和則　2005「日暮・松林遺跡（共同住宅)」『高松市内遺跡発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
13　大嶋和則編　2005『日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム)』高松市教育委員会
14　小川賢　2007「日暮・松林遺跡（事務所建設)」『高松市内遺跡発掘調査概報－平成 18 年度－』高松市教育委員会
15　渡邊誠編　2007「日暮・松林遺跡」『共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
16　小川賢ほか編　2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　多肥宮尻遺跡』高松市教育委員会
17　大嶋和則編　2006『衣料品販売店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　多肥宮尻遺跡（衣料品販売店舗)』高松市教育委員会
18　山本英之編　1999「讃岐国弘福寺領の調査」『第２次弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会
19　川畑總　2001『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊　凹原遺跡』高松市教育委員会
20　木下晴一　2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第５冊　空港跡地遺跡Ⅴ』香川県教育委員会　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

第３章　調査の成果

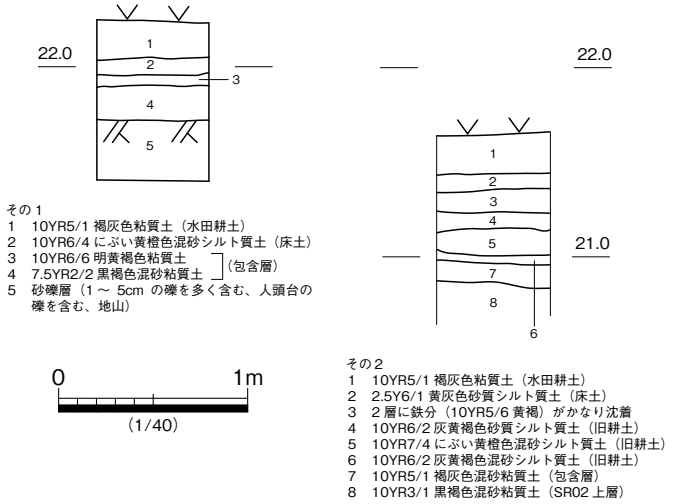
第１節　検出した遺構・遺物（旧河道以外）

１．はじめに

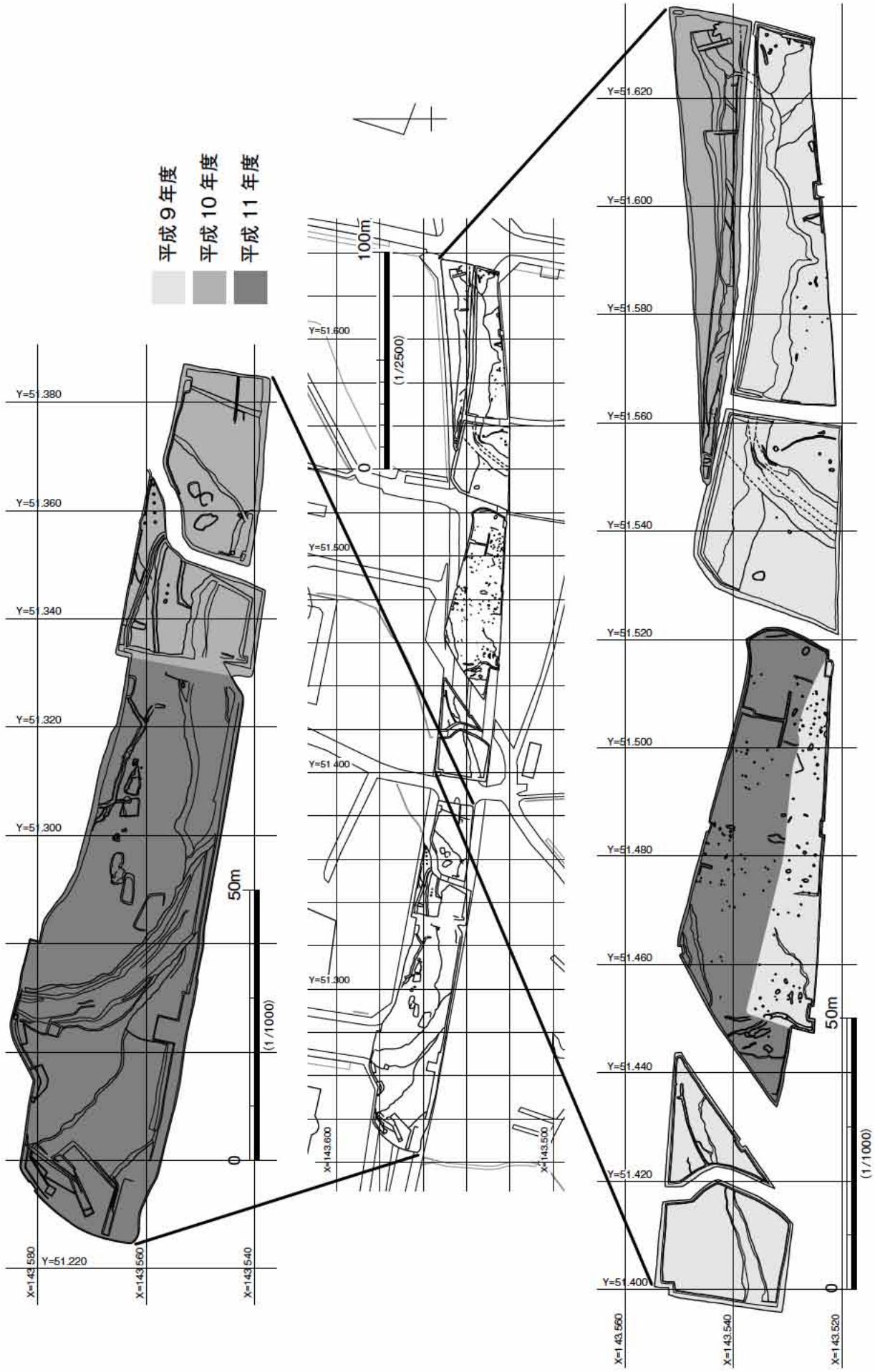
多肥宮尻遺跡からは、弥生時代前期末から近世に至る掘立柱建物、柱穴、土坑、溝状遺構のほか、複数の旧河道が検出されている。出土遺物（土器、石器）は 28 リットル入りコンテナ 125 箱で、このうち旧河道からの出土遺物が 122 箱と大半を占める。このため、掘立柱建物等の遺構・遺物と旧河道とに節を分けて報告することとする。なお、掘立柱建物等の遺構は、調査時に年度ごとに遺構番号を付しているため、新たに遺構番号を付すこととし、４桁の数字で表している。千の位は１～３の番号を付しているが、これは平成９年度調査を１、10 年度調査を２、11 年度調査を３としている。百の位は、各々の年度の調査区を示す。調査区の番号は第５～９図に示す通りである。一方、旧河道は一条の調査が複数の年度にまたがるものがあるため、SR01 から番号を新たに振りなおしている。

２．基本層序

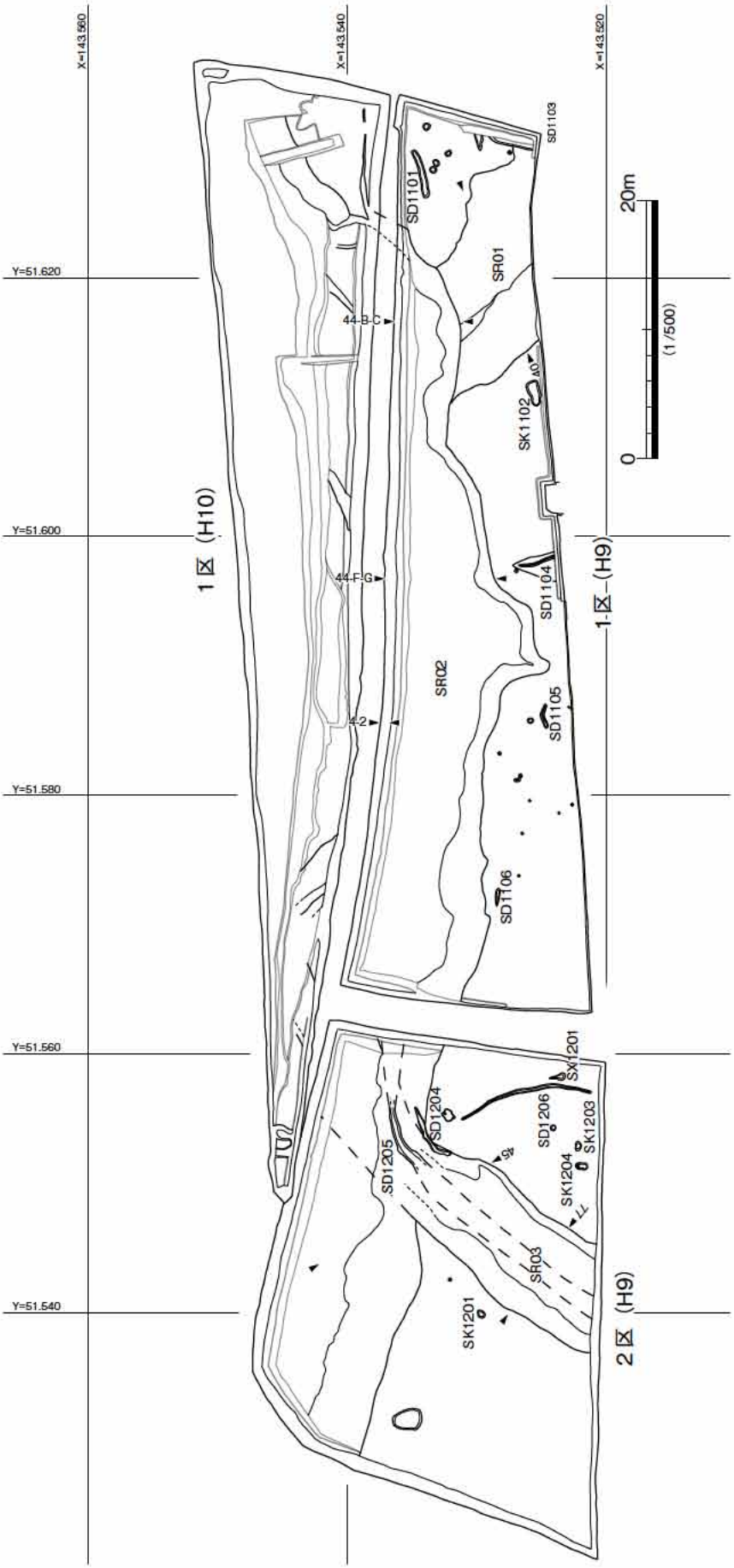
基本層序（作成位置は第６・７図参照。4-1,4-2 と示す。）は、耕作土下に包含層をはさみ灰色砂礫層（第４図左・５層　部分的には明黄褐色粘質土層）の地山が認められる。砂礫層は拳大から人頭大の礫を含み、１～５㎝の礫を主体とするものである。旧河道が伏在する範囲では、耕作土の下に中世前半以降の連続した水田層が堆積し、褐灰色粘質土層（第４図右・７層）を経て旧河道埋土もしくは地山層に至る。



第４図　基本層序柱状図


平成９年度
平成 10 年度
平成 11 年度
Y=51.380
Y=51.360
Y=51.340
Y=51.320
Y=51.300
Y=51.220
X=143.580
X=143.560
X=143.540
50m
(1/1000)
100m
(1/2500)
Y=51.600
Y=51.500
Y=51.400
Y=51.300
X=143.600
X=143.500
Y=51.620
Y=51.600
Y=51.580
Y=51.560
Y=51.540
Y=51.520
Y=51.500
Y=51.480
Y=51.460
Y=51.440
Y=51.420
Y=51.400
X=143.560
X=143.540
X=143.520
50m
(1/1000)

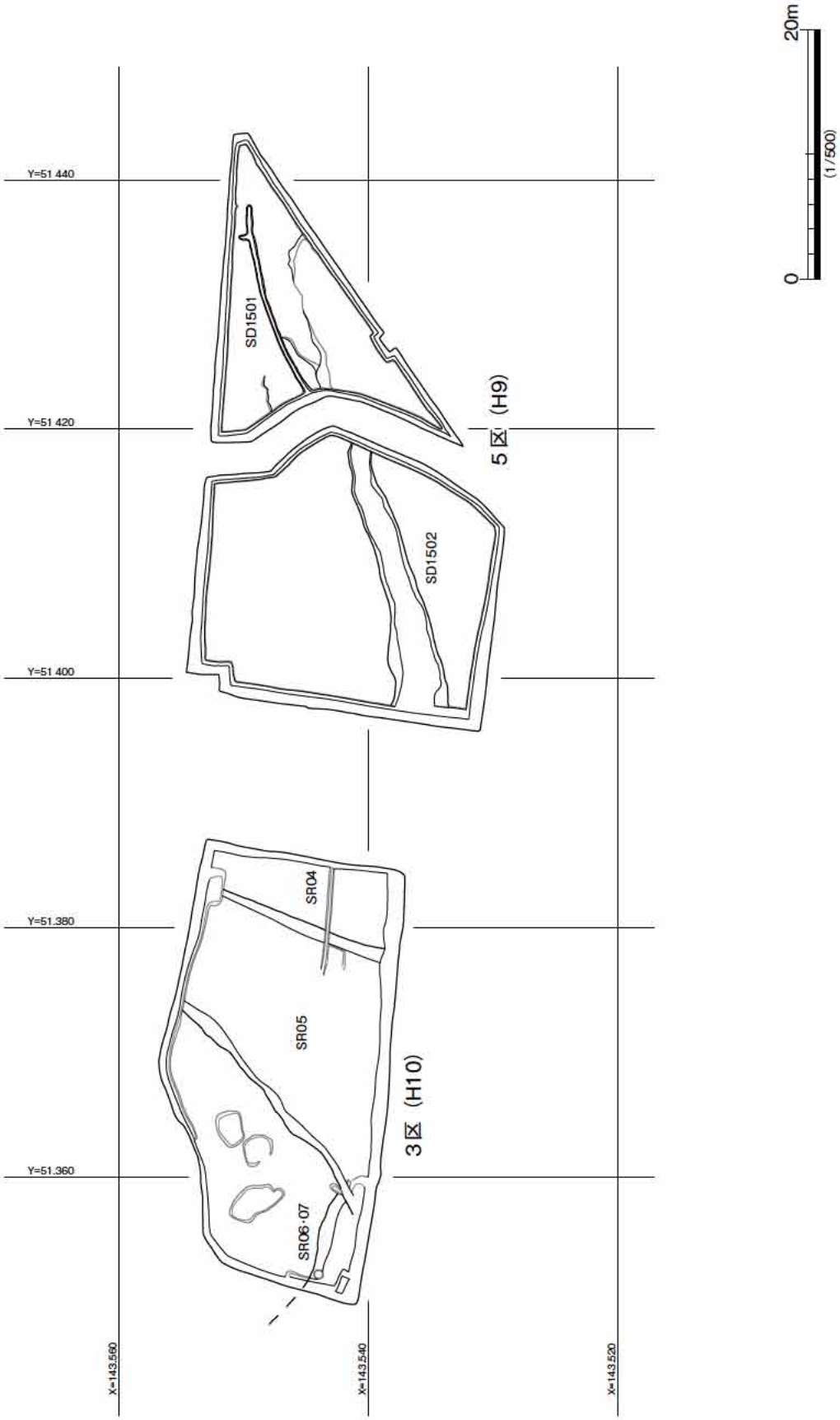
第５図　調査区割図


X=143.560
X=143.540
X=143.520
Y=51.620
Y=51.600
Y=51.580
Y=51.560
Y=51.540
1区（H10）
1区（H9）
2区（H9）
SD1101
SD1103
SR01
SR02
SR03
SK1102
SD1104
SD1105
SD1106
SD1204
SD1205
SD1206
SK1201
SK1203
SK1204
44-B-C
44-F-G
4-2
40
45
46
47
0
20m
(1/500)

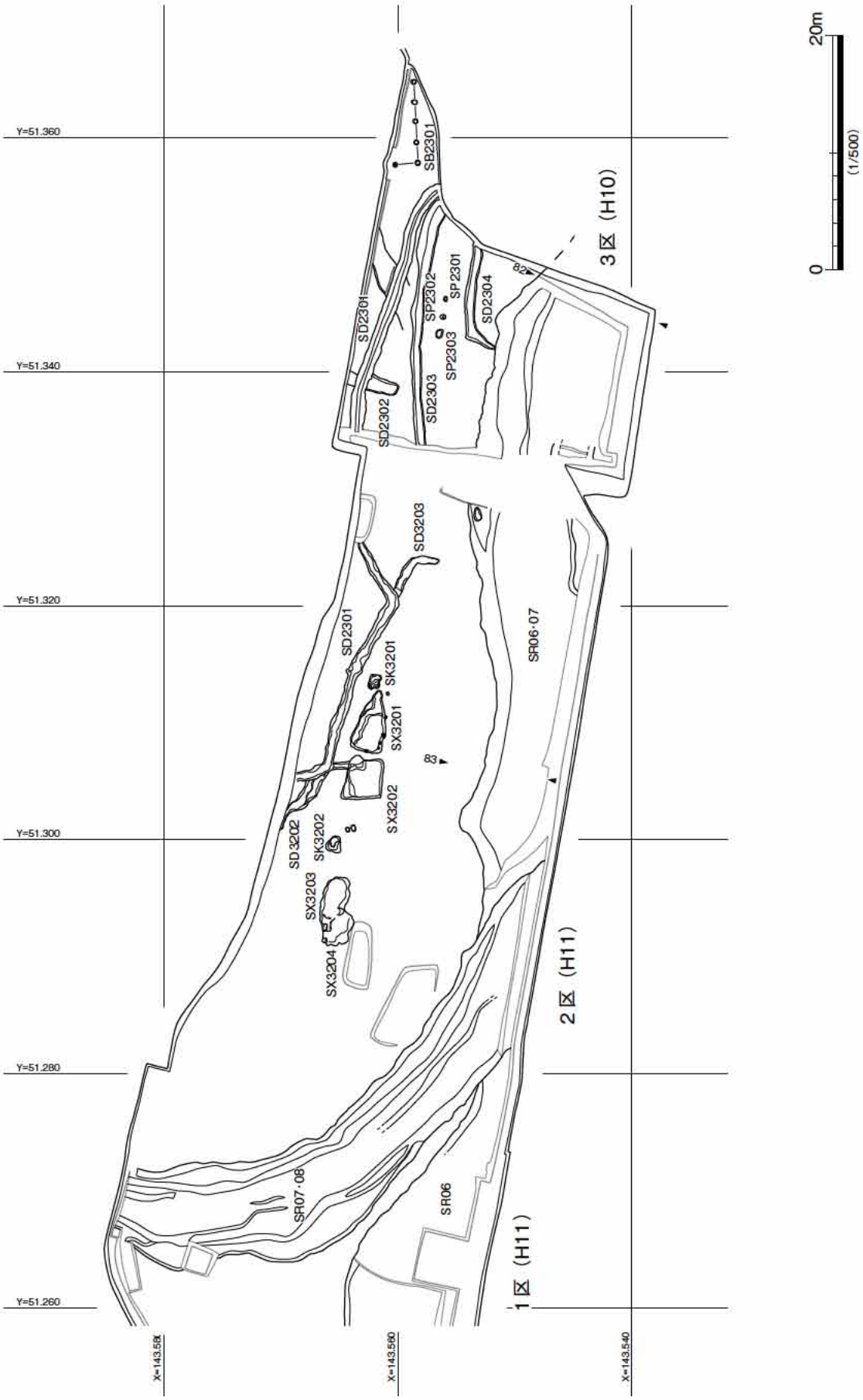
第６図　遺構配置図 (1)

Y=51.520
Y=51.500
Y=51 480
Y=51 460
Y=51 440
X=143.560
X=143.540
X=143.520
3区（H11）
3区（H9）
SX3302
SK3301
SD1301
SK1308
4-1
SK3304
SP3372
SK3303
SP3301
SP3367
SD3305
SD1303
SX1301
SP1352
SK1303
SK1304
SP1382
SK1305
SK1306
SX1302
SK1307
SP1374
SD3301
SD3303
SK3305
SD3302
SD3304
0
20m
(1/500)

第７図　遺構配置図 (2)

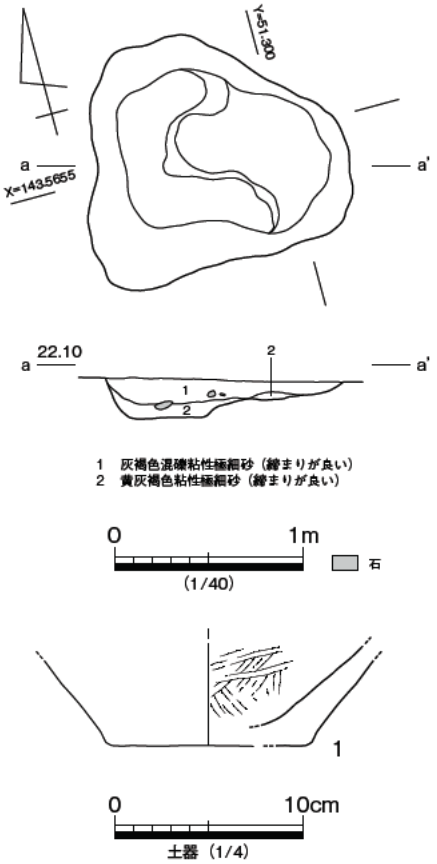

Y=51 440
Y=51 420
Y=51 400
Y=51.380
Y=51.360
X=143.560
X=143.540
X=143.520
SD1501
SD1502
5区（H9）
SR04
SR05
SR06・07
3区（H10）
0
20m
(1/500)

第８図　遺構配置図 (3)


Y=51.360
Y=51.340
Y=51.320
Y=51.300
Y=51.280
Y=51.260
X=143.580
X=143.560
X=143.540
SB2301
SD2301
SD2302
SD2303
SP2302
SP2303
SP2301
SD2304
82
3区（H10）
SD3203
SD2301
SK3201
SX3201
SX3202
83
SR06·07
SD3202
SK3202
SX3203
SX3204
2区（H11）
SR07·08
SR06
1区（H11）
0
20m
(1/500)

第９図　遺構配置図 (4)

３．弥生時代前期末～中期初頭の遺構・遺物



第 10 図　SK3202
平・断面図、出土遺物実測図

土坑

SK3202（第 10 図）

2 区（H11)SR06・SR07 の北側で検出した土坑である。不整円形で東側が一段高い。長軸 1.25 m、短軸 0.84 m、深さ 22cm、埋土は上層が灰褐色混礫粘性極細砂、下層は黄灰褐色粘性極細砂である。埋土中からは弥生土器片が出土した。

1 は弥生土器壺底部である。出土遺物により、弥生時代前期前半と考えられる。

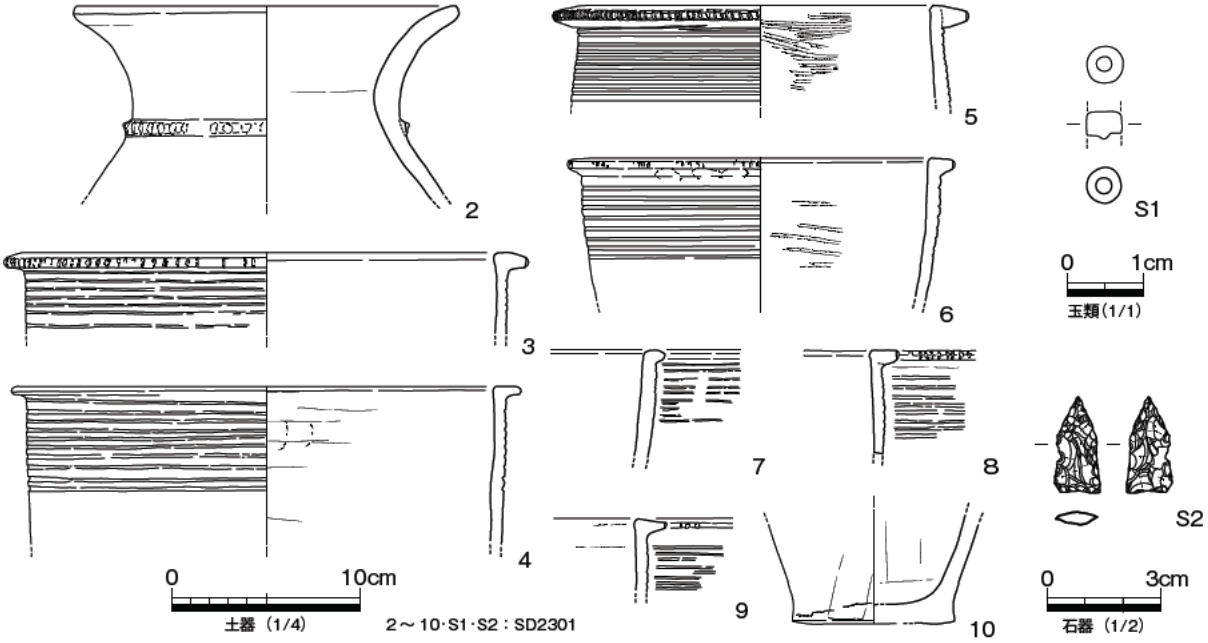
溝状遺構

SD2301（第 11･12 図）

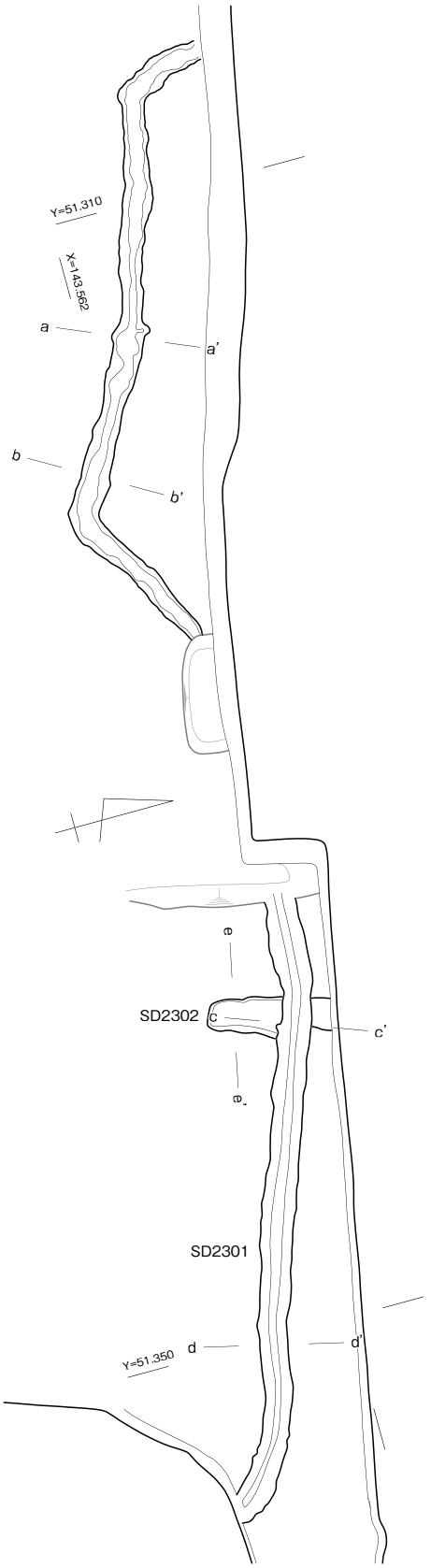
3 区 (H10) の SR06･SR07 の北側で、おおむね北西から南東方向へ蛇行する溝である。SR06・SR07 にほぼ平行して検出した。幅 1.1m、深さ 52cm である。溝底のレベルは西から東へ緩やかに傾斜している。埋土中からは弥生土器小片が出土した。

2 は弥生土器壺。頸部に刻目突帯を巡らせる。3 ～ 9 は甕。いずれも L 字口縁を持ち、8 ～ 10 条程度のヘラ描き沈線を巡らせる。3･5･6･8･9 は口縁端部に刻み目を付ける。10 は甕底部。S1 は碧玉製管玉。S2 はサヌカイト製打製石鏃である。

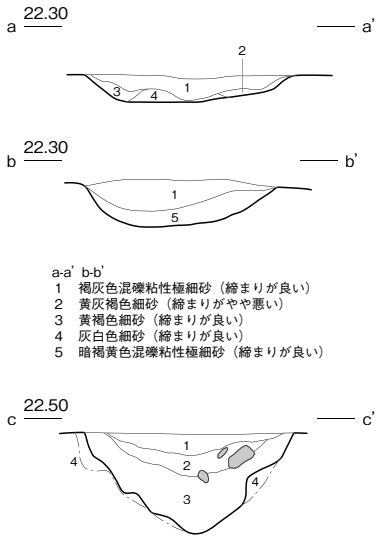
遺構の時期は出土遺物により、弥生時代前期末と考えられる。



第 11 図　SD2301・SD2302　出土遺物実測図

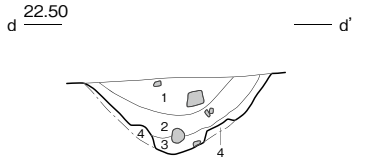


0　10m
（1/250）

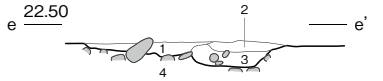


a-a' b-b'
1　褐灰色混礫粘性極細砂（締まりが良い）
2　黄灰褐色細砂（締まりがやや悪い）
3　黄褐色細砂（締まりが良い）
4　灰白色細砂（締まりが良い）
5　暗褐黄色混礫粘性極細砂（締まりが良い）

1　2.5Y4/2 暗灰黄色混粗砂粘質土（φ２㎝～拳大の礫を含む）
2　2.5Y6/2 灰黄色混シルト砂礫（φ２㎝～幼児頭大の礫を密に含む）
3　10YR4/2 灰黄褐色混礫粘質土（φ１㎝～幼児頭大の礫を比較的多く含む）
4　2.5Y7/4 浅黄色混シルト砂礫（ベース）



1　10YR5/3 にぶい黄褐色混粗砂粘質土（φ３㎝～拳大の礫をまばらに含む）
2　10YR4/2 灰黄褐色混粗砂粘質土（φ３㎝～拳大の礫をまばらに含む）
3　10YR5/2 灰黄褐色混粗砂粘質土（φ３㎝程の礫をまばらに含む）
4　10YR7/6 明黄褐混砂粘質土（１～３より粘性が強く砂分が少ない、ベース）



1　2.5Y5/2 暗灰黄色混シルト砂礫
2　2.5Y4/1 黄灰色混礫粘質土
3　2.5Y5/2 暗灰黄色混砂ブロック粘質土（礫をまばらに含む）
4　2.5Y7/8 黄色混シルト砂礫（こぶし大から幼児頭大の礫を密に含む、ベース）

0　1m　石
断面図（1/40）

第 12 図　SD2301・SD2302　平・断面図

SD2302（第 11･12 図）

SD2301 に直交して検出した溝である。北側は調査区外へ延びる。遺構の前後関係により、SD2301 より古い。検出長約 4.3m、幅 1.0m、深さ 12cm である。埋土中からは弥生土器片がわずかに出土した。

遺構の前後関係から SD2301 より古く、弥生時代前期末以前である。

４．古墳時代の遺構・遺物

溝状遺構

SD1205（第 13 ～ 15 図）

2 区 (H9) の SR02、SR03 上面で検出した溝である。溝と流路の埋土が類似しているため判別が難しく、断面観察により確認することができた。SR03 の上面を南側調査区外から北向きに流れ、調査区中程で SR02 に沿って東へ屈曲する。検出長約 28m、幅約 1.75m、深さ 68cm、埋土は上層が黒褐色粘質土、下層が黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは 6 世紀初頭および 7 世紀前半の 2 時期の遺物が出土した。自然河川埋没後に湿地状となったため、滞水を防ぐために掘削された水路と考えられる。

11 ～ 30、S3 は SD1205 上層から出土した遺物である。11･12 は弥生土器。11 は広口壺口縁部。口縁端部に沈線を 2 条巡らせる。12 は鉢底部。弥生時代後期。SR02 または SR03 からの混入と考えられる。13 ～ 18 は土師器。13 は高杯杯部、14 は高杯脚部である。15 は二重口縁壺。17･18 は甕。口径 16 cm程度である。19 ～ 30 は須恵器。19 ～ 24 は杯蓋。いずれも頂部は回転ヘラ削りを施す。口縁端部をほぼ平らにするもの（19・22)、内側に面を持つもの（20、23)、凹面状になるもの（21・24）がある。25･26 は蓋杯。25 は口縁端部は丸く収め、体部下半はヘラ削りする。26 は小片。口縁部の立ち上がりが退化し、杯部は浅い。27 は高杯脚部。方形の透かし孔が 2 ヵ所残り、脚部の残存状況から透かし孔は 3 カ所にあったと考えられる。28 は壺体部。29･30 は甕。30 は頸部に波状文が残る。S3 はサヌカイト製打製スクレイパー。

26 は 7 世紀前半の TK209 型式で、他はおおむね 6 世紀初頭の TK47 型式である。

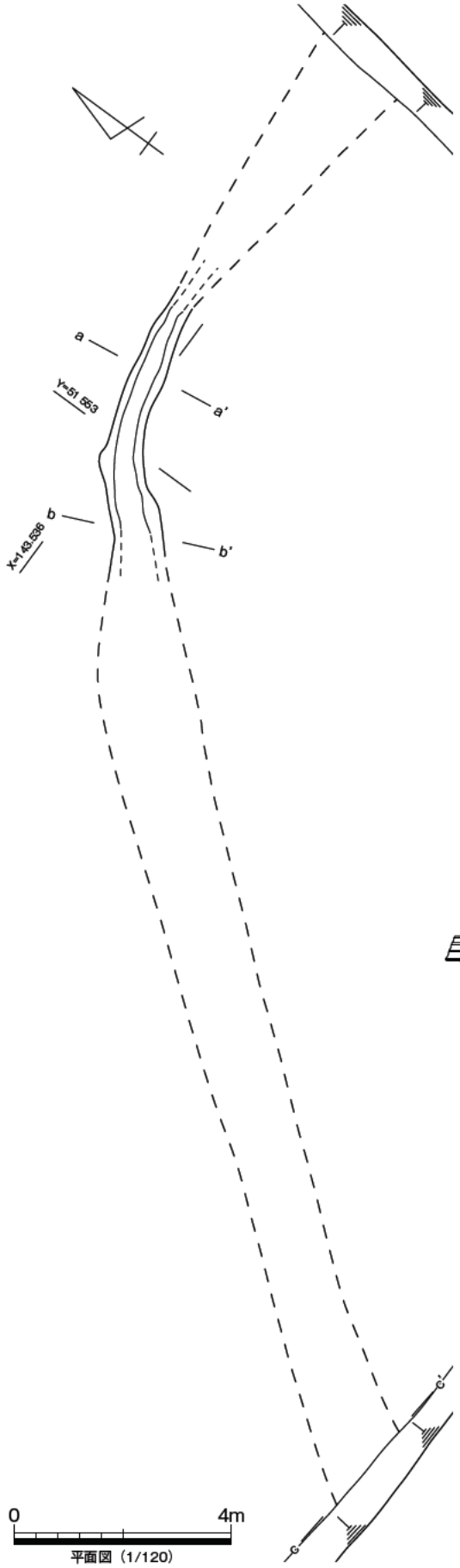
31 ～ 54 は出土層位不明の遺物である。31 は弥生土器広口壺口縁部。32 ～ 36 は土師器。32･33 は高杯杯部。内面は中心から放射状に、外面は上半部は横方向、下半部は分割と考えられるヘラミガキで仕上げる。34 ～ 36 は甕。37 ～ 45 は須恵器。37 ～ 43 は杯蓋。頂部には回転ヘラ削りを施す。口縁部と頂部の屈曲部は、凹線状となるもの（38･41･42）や段を持つもの（37･39）などがある。口縁端部は内側に面を持つものが多い（37･38･41･42)。40 は口縁端部を丸く収め、口縁部と頂部の境に明確な屈曲部を持たない。43 は頂部に回転ヘラ削り後「×」のヘラ描きを施す。44 ～ 47 は蓋杯。概ね口縁端部は丸く仕上げ、底部は回転ヘラ削りを施す。46 は口縁端部の返りの退化が進む。48･49 は高杯脚部。48 には 3 角形と考えられる透かし孔が、49 には長方形と考えられる透かし孔が 1 ヶ所に残る。50 ～ 54 は甕。いずれも口縁端部を外側へ肥厚させる。53 は口縁端部外側に 2 条の沈線を、52・53 は頸部外面にカキ目を施す。

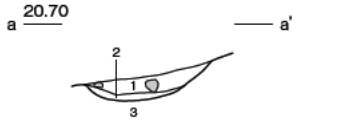
40・46 は 7 世紀前半の TK209 型式で、他は概ね 6 世紀初頭の TK47 型式と考えられる。

遺物には、自然河川からの混入と考えられる弥生土器を除けば、6 世紀初頭が主体で、7 世紀前半の遺物が少量混在する。

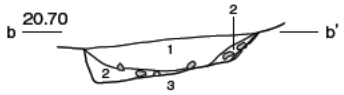
５．11 世紀後半～ 13 世紀前半の遺構・遺物

おもに SR03 と SR04 に挟まれた 3 区 (H9 及び H11)・5 区 (H9) にかけての微高地部分で当該期のピッ

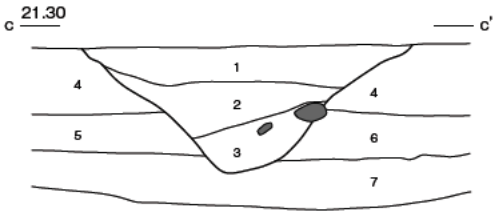




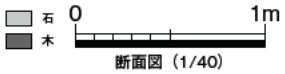
1　10YR3/1 黒褐色粘質土（小石を多く含む）
2　10YR5/1 褐灰色砂質土層
3　2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土層（ベース）



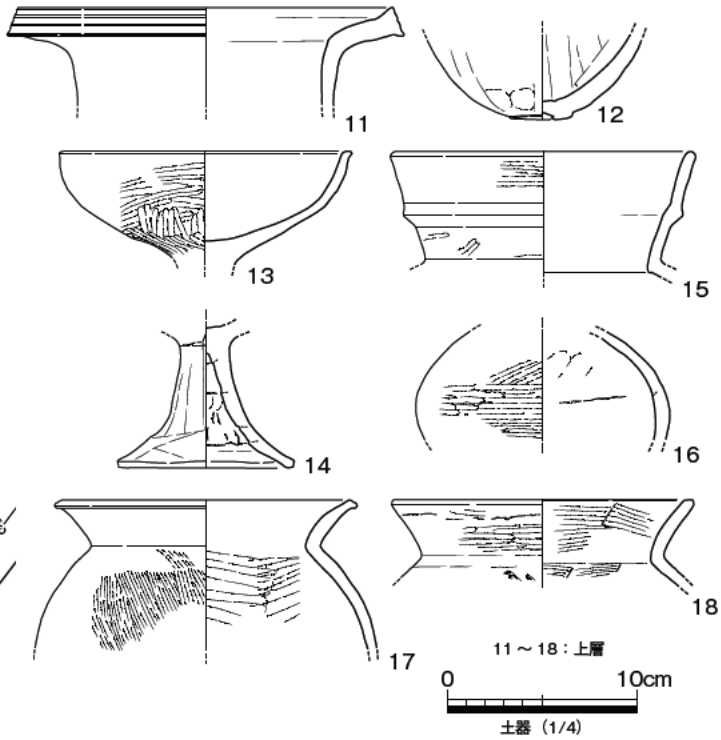
1　10YR3/1 黒褐色粘質土（粘性がかなり高い）
2　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土（砂質度が高い）
3　砂礫層



1　10YR3/2 黒褐色粘質土
2　5YR2/1 黒褐色混砂粘質土（比較的多く土器を含む（当初上面で SD1205 は確認できず SR03 を掘り切ったのち断面で確認した。そのため SD1205 の土器は SR03 と混在している））
3　7.5YR3/1 黒褐色混砂粘質土（この層の土質は６層及び５層に近似しており、SD1205 の底場が２層で３層は６層及び５層の可能性もある。６層から多量の木材等が検出されており図面的にも SD1205 の３層を上回る範囲で広がっているため当初 SR03 で検出した建築部材がこの層で出土していると現在考えている。その下層付近には植物遺体もみられる）
4　10YR3/1 黒褐色粘質土（SR03 埋土土層、西側の肩付近ではオーバーフロー気味に溜かたより東側に堆積している）
5　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土（砂質度がかなり高い、基本的には６層と同一層である）
6　10YR4/1 褐灰色砂質土（こぶし大の礫を多く含む、SR03 木材集中区はこの層を中心に検出されている）
7　7.5Y2/1 黒色混砂粘質土（植物遺体を比較的多く含み、ごく少量であるが弥生土器らしき土器片も見られる、５層より粘性が高い）

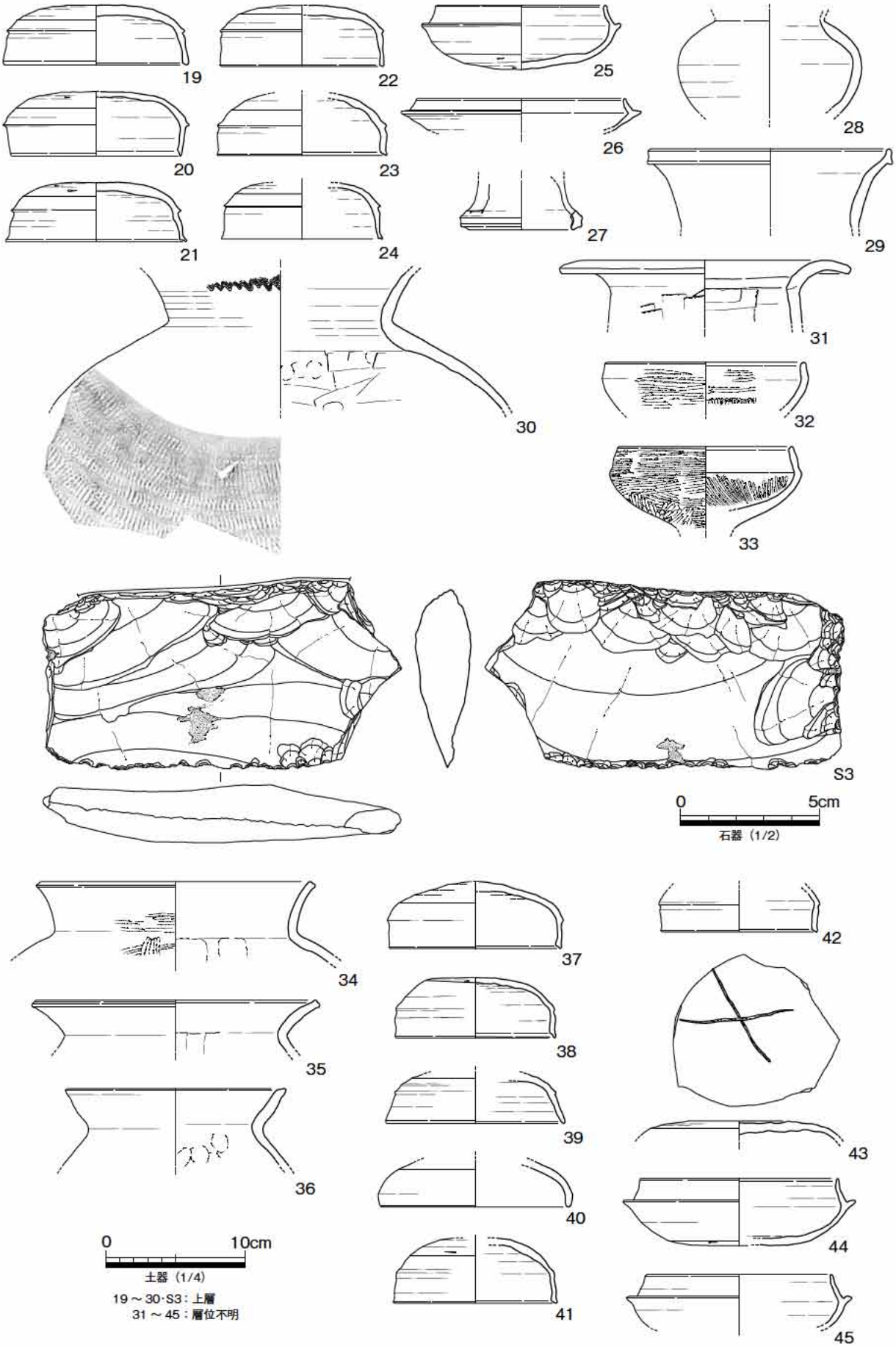


断面図（1/40）

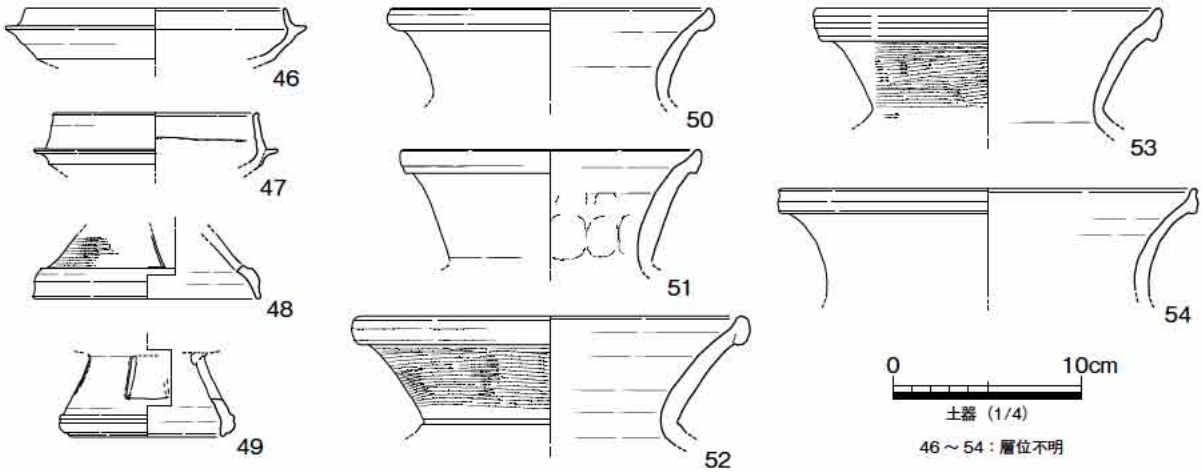


土器（1/4）

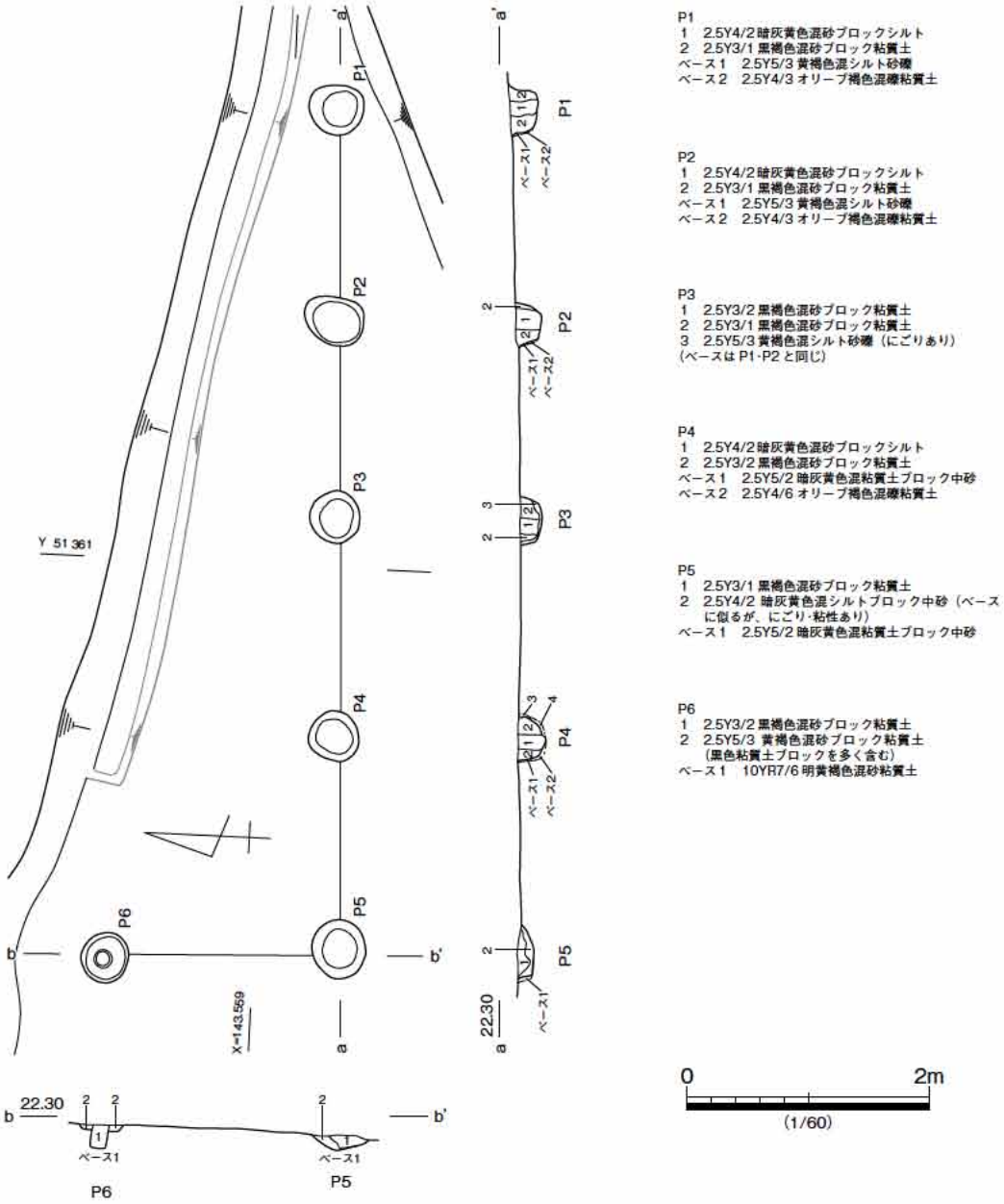
第 13 図　SD1205　平・断面図、出土遺物実測図 (1)



第 14 図　SD1205　出土遺物実測図 (2)



第 15 図　SD1205　出土遺物実測図 (3)



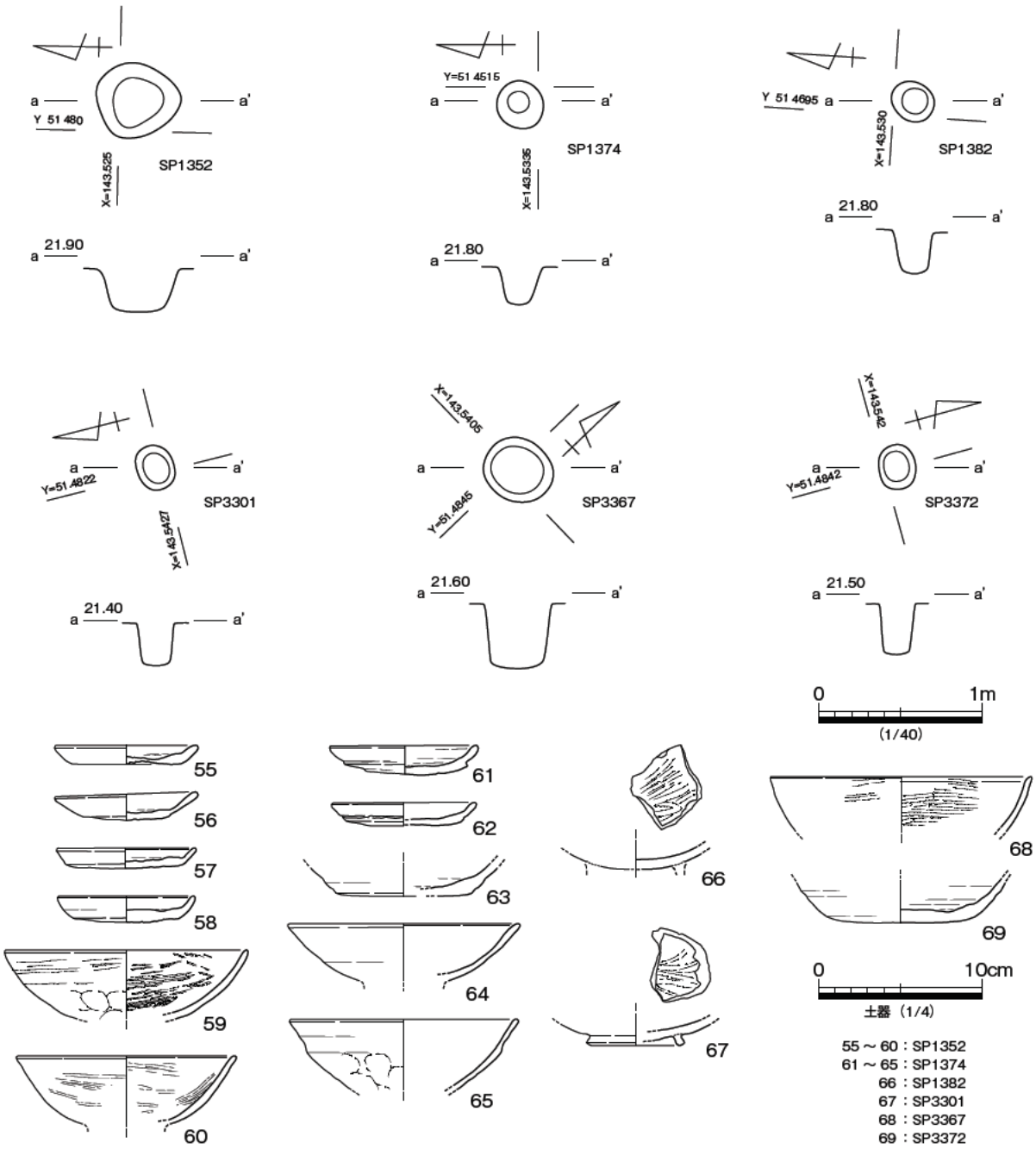
第 16 図　SB2301　平・断面図

ト、土坑、溝などを検出した。この時期の集落があったと考えられるが、遺構密度は疎らで、掘立柱建物はSR06の北側で１棟復元できたのみで、それ以外では復元できたものはない。

掘立柱建物

SB2301（第16図）

３区(H10)のSR06西部北側で検出した掘立柱建物である。北・東は調査区外へ延びる。桁行４間（7m）以上、梁間１間（1.9m）以上、桁行の柱間は1.7～1.8m程度で、建物の主軸方位はN88°Wである。柱穴は直径36cm程度、深さ18cm程度の円形である。柱穴埋土からは摩滅した土器小片が出土した



第17図　SP1352・SP1374・SP1382・SP3301・SP3367・SP3372
平・断面図、出土遺物実測図

が、時期が明らかになるものはない。

同時期の遺構は周辺にはないが、後述する SR03 と SR04 に挟まれた微高地部分で検出した 11 世紀後半～ 13 世紀前半のピットと遺構埋土が類似することから、同じ時期と考えられる。

柱穴

SP1352（第 17 図）

3 区 (H9) の微高地南部付近で検出したピットである。直径 52cm程度の円形で、深さ 28cm、埋土は黒褐色 (2.5Y3/1) 砂混粘質土でわずかに鉄分を含む。埋土中からは土師質土器片、黒色土器片が出土した。

55 ～ 58 は土師質土器皿。口径 8 ～ 9cm程度。底部はいずれも回転ヘラ切りによる。皿ＢⅢ－ 2 類。59・60 は黒色土器Ａ類椀。椀ＡⅡまたはⅢ類。

遺構の時期は出土遺物により概ね中世Ⅰ－ 3 期に相当することから、11 世紀後半～ 12 世紀前半と考えられる。

SP1374（第 17 図）

微高地西部、SD1304 の東側で検出した。直径 28cm、深さ 24cm、埋土は褐灰色 (10YR5/1) 砂混粘質土で、マンガン、鉄分の沈着がある。埋土中からは土師質土器片、瓦器片が出土した。

61 ～ 64 は土師質土器。61･62 は皿。ともに口径約 9cm。底部は回転ヘラ切りによる。皿ＢⅢ－ 2 類。63 は杯底部。小片。杯ＤⅡ－ 3 または 4 類。64 は椀。65 は和泉型瓦器椀。小片で摩滅が著しい。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ－ 1 期に相当することから、12 世紀第 3 ～第 4 四半期後半と考えられる。

SP1382（第 17 図）

微高地中央南寄りで検出したピットである。円形で直径 28cm、深さ 25cm、埋土は褐灰色 (10YR5/1) 砂混粘質土で、マンガン、鉄分の沈着がある。埋土中からは土師質土器片が出土した。

66 は土師質土器椀。高台部は剥離して残らない。内面にはヘラミガキを施す。

遺物からは詳しい時期は決め難いが、埋土の類似性から SP1374 と同様 12 世紀第 3 ～第 4 四半期後半と考えられる。

SP3301（第 17 図）

3 区 (H11) の微高地中央付近で検出したピットである。円形で直径 24cm、深さ 28cmである。埋土中からは瓦器椀小片、須恵器椀小片などが出土した。

67 は須恵器椀。内面にヘラミガキを施す。椀ＡⅡ－ 1 類。

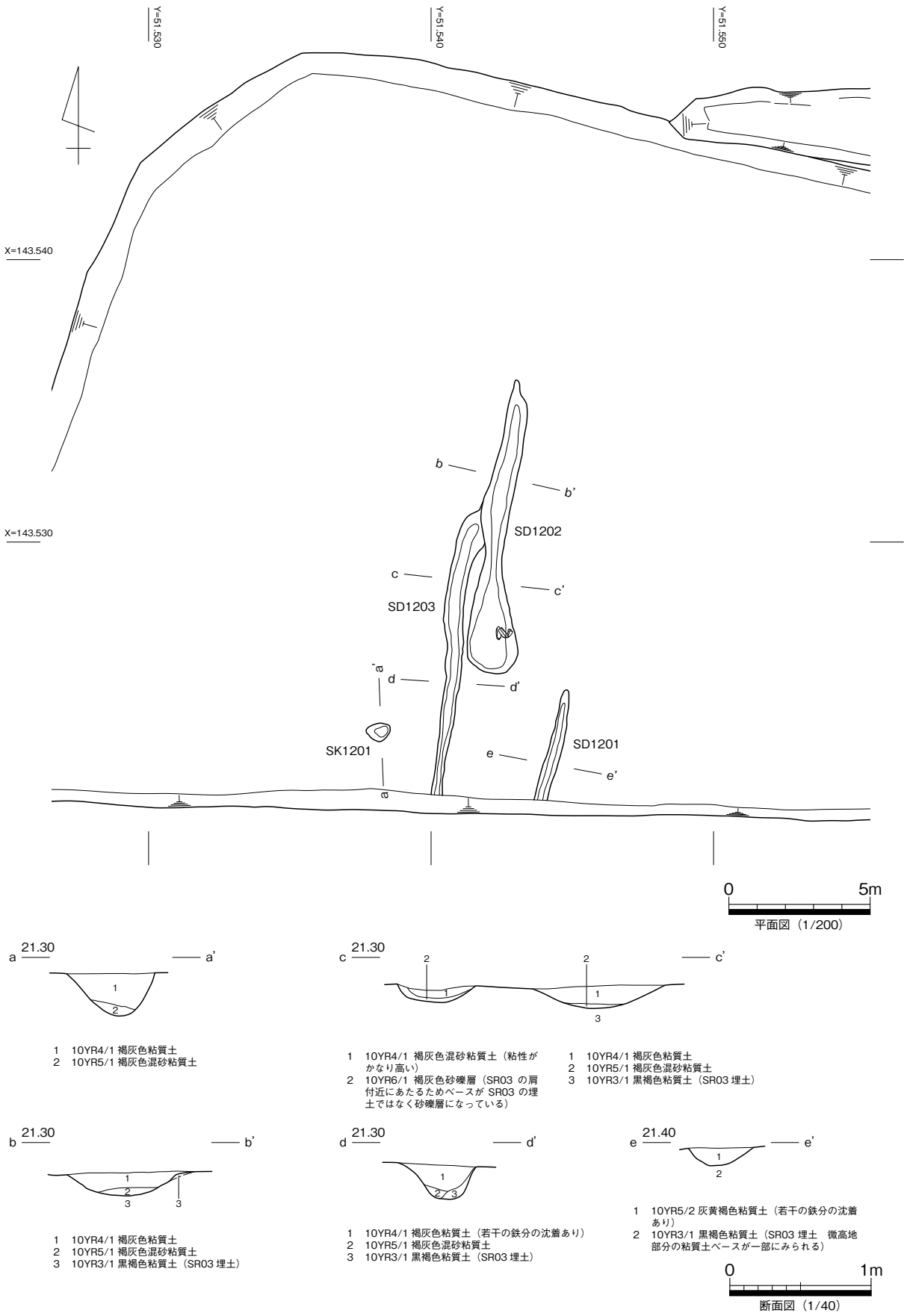
遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ－ 1 期に相当し、12 世紀第 3 ～第 4 四半期と考えられる。

SP3367（第 17 図）

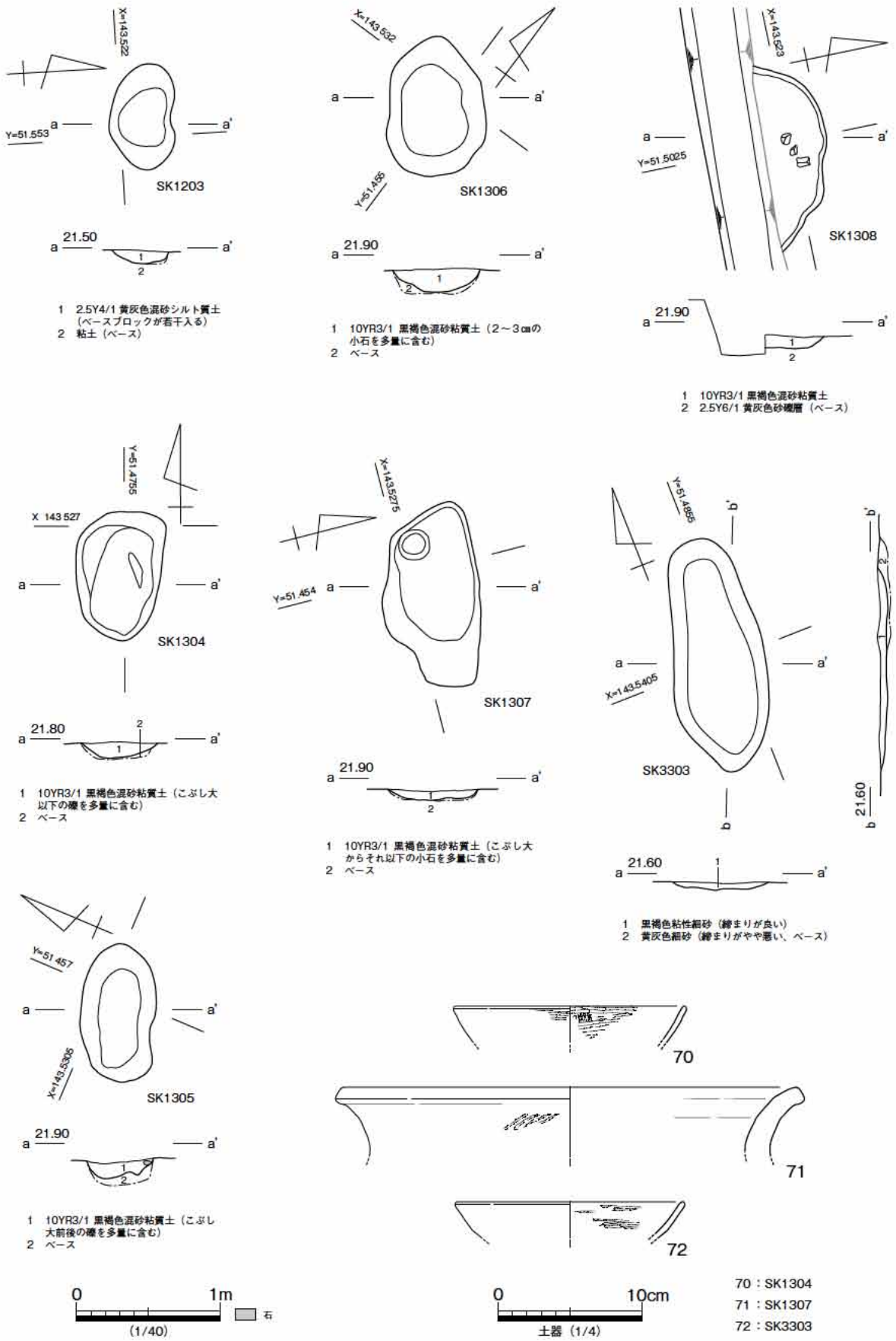
微高地中央付近北寄りで検出したピットである。円形で直径 40cm、深さ 40cmである。埋土中からは黒色土器椀Ａ類小片が出土した。

68 は黒色土器Ａ類椀。小片。内外面ともに横方向のヘラミガキを施す。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ－ 3 期に相当し、12 世紀第 1 ～第 2 四半期と考えられる。



第 18 図　SK1201・SD1201 ～ SD1203　平・断面図



第 19 図　SK1203・SK1304 ～ Sk1308・SK3303
平・断面図、出土遺物実測図

SP3372（第 17 図）

微高地中央付近北寄りで検出したピットである。円形で直径 24cm、深さ 30cmである。埋土中からは須恵器甕片、黒色土器Ａ類椀小片、土師質土器片が出土した。

69 は土師質土器杯。底部しか残らないが、杯ＤⅡ－３類と考えられる。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ－１期に相当し、12 世紀第３～第４四半期と考えられる。

土坑

SK1203（第 19 図）

SR02 南側、SR03 の東側で検出した土坑である。長軸 72cm、短軸 38cm、深さ 8cm、埋土は黄灰色砂混シルトでベースブロックを若干含む。埋土中からは土師質土器杯などの土器片やサヌカイト片が出土した。

遺構の時期は、出土遺物により周辺と同じ 12 世紀前後と考えられる。

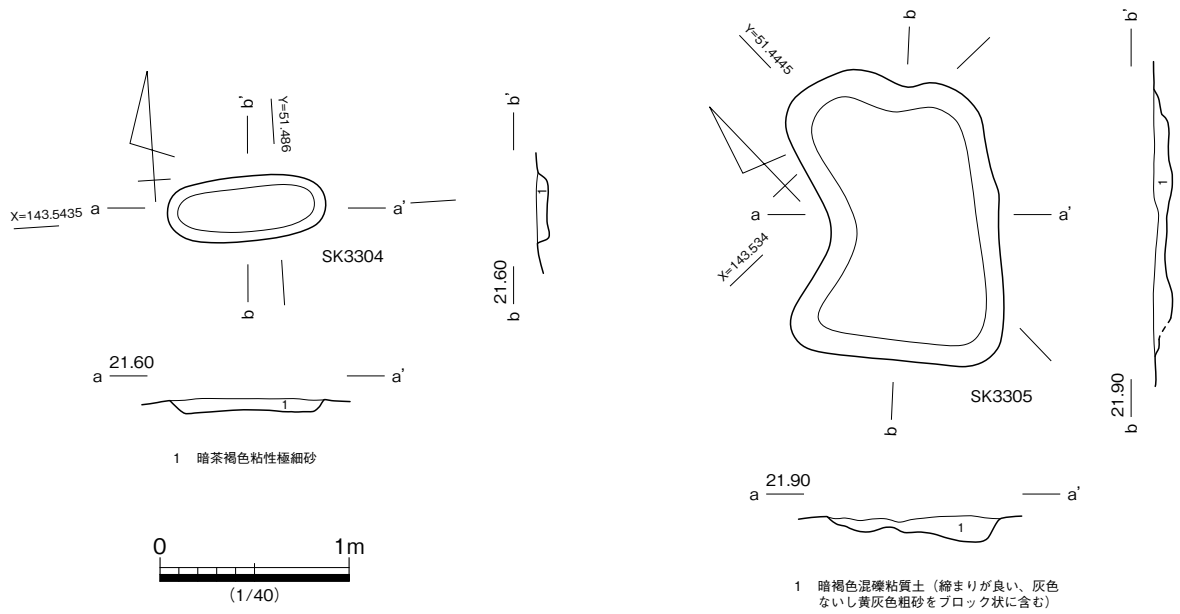
SK1201（第 18 図）

2 区 (H9) の SD1201 ～ SD1203 に近接して、SR03 の上面で検出した。不整円形で、概ね直径 64cm、深さ 30cm、埋土は褐灰色粘質土である。埋土中からは須恵器甕片などの土器小片が出土しただけであった。

遺構の時期は、後述する SD1202･1203 と埋土が共通することから 11 世紀後半～ 12 世紀前半と考えられる。

SK1304（第 19 図）

3 区 (H9) の微高地中央南寄りで検出した土坑である。楕円形で長軸 88cm、短軸 52cm、深さ 10cm、埋土は黒褐色混砂粘質土でこぶし大以下の礫を多量に含む。埋土中からは黒色土器Ａ類椀が出土した。



第 20 図　SK3304・SK3305　平・断面図

70 は黒色土器Ａ類椀。内外面とも横方向のヘラミガキを施す。内面は縦方向のヘラミガキの後横方向のヘラミガキを施す。黒色土器Ａ類椀Ⅱ－４類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ－３期に相当し、12 世紀第１～第２四半期頃と考えられる。

SK1305（第 19 図）

微高地西部で検出した土坑である。楕円形で長軸 96cm、短軸 46cm、深さ 12cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

SK1304 と同質埋土であることから、遺構の時期は 12 世紀前半頃と考えられる。

SK1306（第 19 図）

微高地西部で検出した土坑である。楕円形で長軸 98cm、短軸 60cm、深さ 16cm、埋土は黒褐色混砂粘質土で２～ 3cm の小石を多量に含む。埋土中からは出土遺物はなかった。

SK1304 と同一埋土であることから、遺構の時期は同じく 12 世紀前半頃と考えられる。

SK1307（第 19 図）

微高地南西部で検出した土坑である。不整形で長軸 128cm、短軸 60cm、深さ 5cm で埋土は黒褐色混砂粘質土でこぶし大以下の小石を多量に含む。埋土中からは土師質土器片、須恵器甕片が出土した。

71 は須恵器甕。甕Ｃ－３類。口縁端部は面を持ち、頸部外面には叩き痕が残る。

遺構の時期は、出土遺物や SK1304 と同質の埋土であることから中世Ⅰ－３期に相当し、12 世紀第１～２四半期と考えられる。

SK1308（第 19 図）

微高地東南部で検出した土坑である。南半部は調査区外へ延びる。楕円形で長軸 128cm、短軸 40cm 以上、深さ 8cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

SK1304 と同質の埋土であることから、遺構の時期は 12 世紀前半頃と考えられる。

SK3303（第 19 図）

３区 (H11) 微高地中央部北寄りで検出した土坑である。長楕円形で長軸 160cm、短軸 64cm、深さ 4cm で埋土は黒褐色粘性細砂である。埋土中からは黒色土器Ａ類椀、土師質土器杯などが出土した。

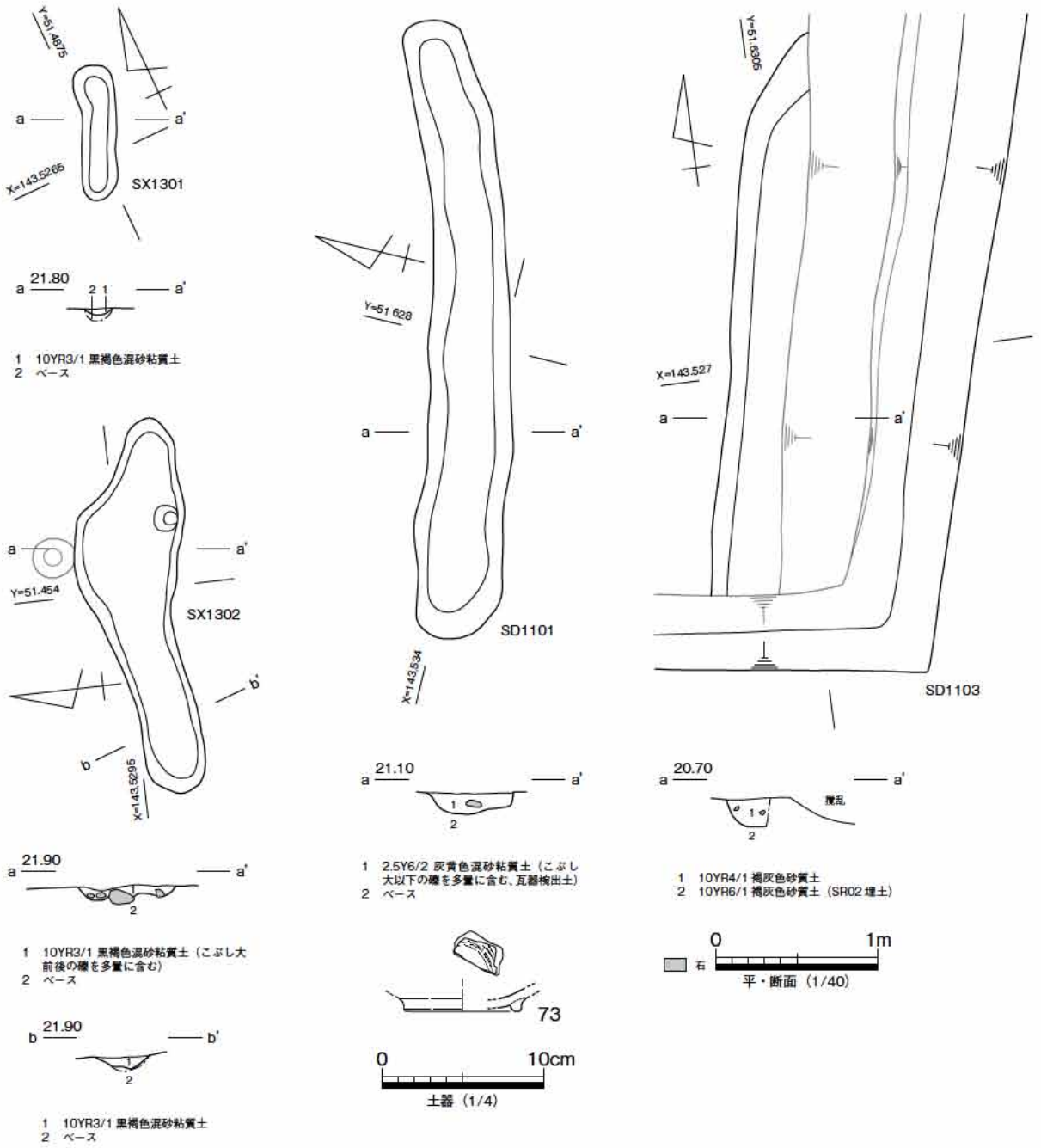
72 は黒色土器Ａ類椀。内面に横方向のヘラミガキが認められるが、外面調整は摩滅のため不明である。ＡⅡ－４類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ－３期に相当し、12 世紀第１～２四半期頃と考えられる。

SK3304（第 20 図）

微高地中央部北端付近で検出した土坑である。長楕円形で長軸 84cm、短軸 36cm、深さ８cm、埋土は暗茶褐色粘性極細砂である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は、SD3302 と埋土が同質であることから、13 世紀第３四半期と考えられる。



第 21 図　SX1301・SX1302・SD1101・SD1103　平・断面図、出土遺物実測図

SK3305（第 20 図）

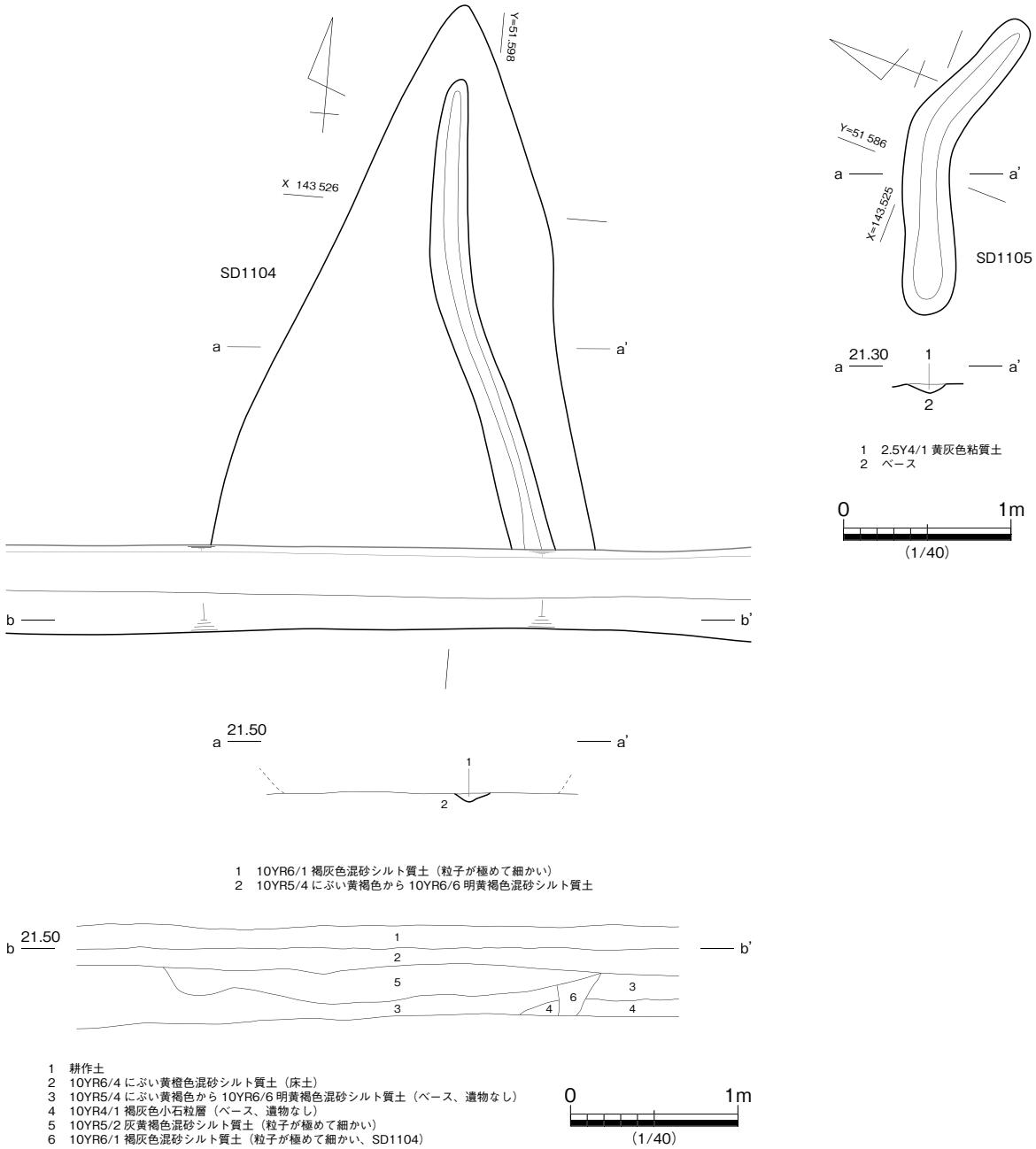
微高地の西端付近で検出した土坑である。ややいびつな隅丸方形で、長軸 140cm、短軸 92cm、深さ 12cm で埋土は暗褐色混礫粘質土である。底は凹凸がある。埋土中からは黒色土器Ａ類椀などが出土した。

遺構の時期は出土遺物により 12 世紀前半頃と考えられる。

性格不明遺構

SX1301（第 21 図）

3 区 (H9) の微高地中央部付近で検出した遺構である。長楕円形で長軸 82cm、幅 12cm、深さ 5cm、埋



第 22 図　SD1104・SD1105　平・断面図

土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中から出土遺物はなかった。

遺構の時期は、SK1304 の埋土と同質であることから、12 世紀第１～第２四半期と考えられる。

SX1302（第 21 図）

微高地の西端で検出した遺構である。長楕円形で長軸 232cm、幅 60cm、深さ 6cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中から出土遺物はなかった。

遺構の時期は、SK1304 などの埋土と同質であることから、12 世紀第１～第２四半期と考えられる。

溝状遺構

SD1101（第 21 図）

1 区 (H9) の調査区東端近く、SR02 にほぼ平行して検出した。検出長 3.8 m、幅 54cm、深さ 12cm、埋土は灰黄色混砂粘質土でこぶし大以下の礫を多量に含む。埋土中からは瓦器椀小片、土師質土器椀が出土した。

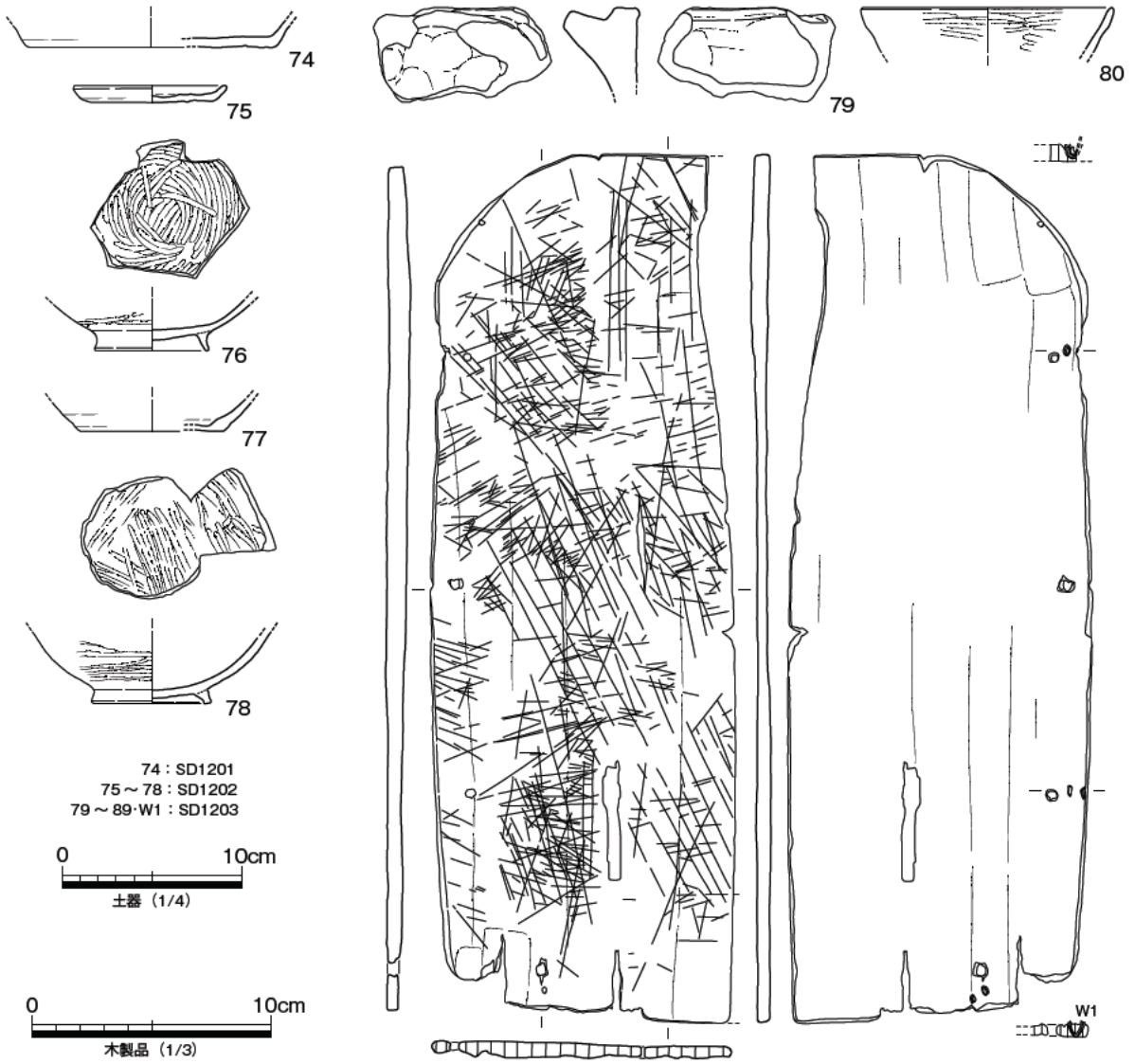
73 は土師質土器椀。小片。内面にヘラミガキが施される。外面調整は摩滅のため不明。

遺構の時期は出土遺物により 12 世紀後半と考えられる。

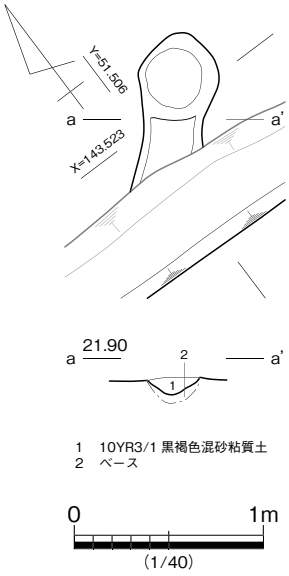
SD1103（第 21 図）

調査区東端で検出した溝である。東・南は調査区外へ延びる。検出長 3.4 m、幅 25cm 以上、深さ 16cm、埋土は褐灰色砂質土である。

出土遺物はなかったが、埋土が SD1202･03 と同質であることから、11 世紀後半～ 12 世紀前半の遺構と考えられる。



第 23 図　SD1201 ～ SD1203　出土遺物実測図



第 24 図　SD1301　平・断面図

SD1104（第 22 図）

調査区東南部、SR02 の南側で検出した溝である。SR02 とほぼ直交する。南は調査区外へ延びる。検出長 2.8 m、幅 20cm、深さ 20cm、埋土は褐灰色混砂シルト質土である。遺構の上面に近世の遺構と共通する土層が堆積する。埋土中からは黒色土器Ａ類椀、土師器椀の小片が出土した。

遺構の時期は土層堆積状況及び出土遺物により 12 世紀前半頃と考えられる。

SD1105（第 22 図）

SR02 の南側、SD1104 の西側で検出した溝である。SR02 にほぼ平行する。検出長は約 2 m、幅 22cm、深さ 7cm、埋土は黄灰色粘質土である。埋土中からは黒色土器Ａ類椀小片、弥生土器片がわずかに出土した。

遺構の時期は出土遺物から 12 世紀前半頃と考えられる。

SD1202（第 18･23 図）

SR03 上面で検出した。SD1201・SD1203・SK1201 に近接する。検出長約 10 m、幅 80cm、深さ 16cm、埋土は褐灰色粘質土である。

埋土中からは土師器小皿・椀、須恵器杯、黒色土器Ａ類椀などが出土した。

75･76 は土師質土器。75 は皿。ＢⅢ－２類。76 は椀。内外面ともにヘラ磨きを施す。ＡⅡ－３類。77 は須恵器杯。9 世紀後半。78 は黒色土器Ａ類椀。外面には平行のヘラミガキ、見込みに 1 方向、体部内面には 4 分割のヘラミガキが認められる。ＡⅡ－３または 4 類。77 は遺構の時期を示していないと考えられる。

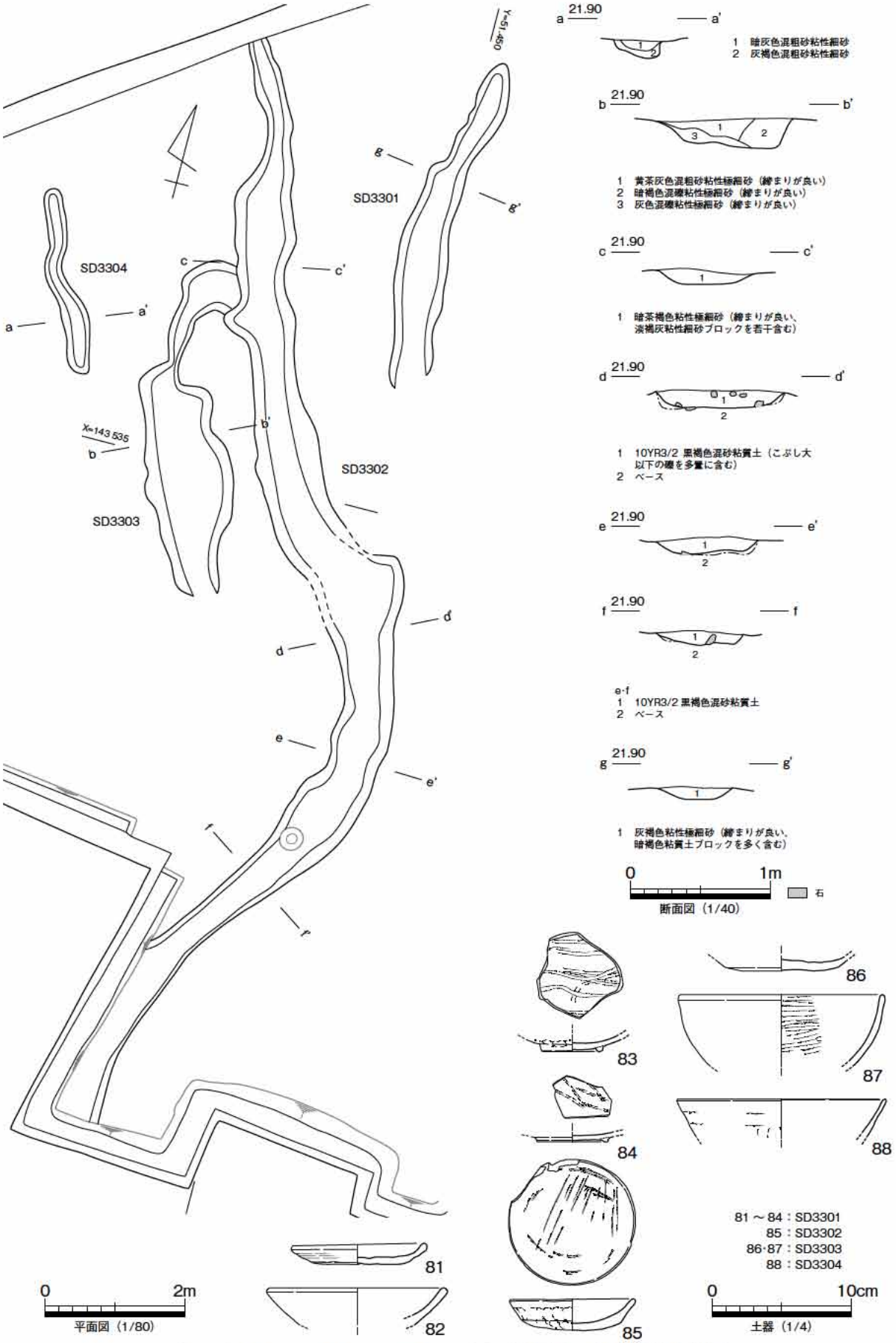
遺構の時期は、77 以外の出土遺物から中世Ⅰ－２～３期に相当し、11 世紀第 4 四半期～ 12 世紀第 2 四半期と考えられる。

SD1203（第 18･23 図）

SD1201・SD1202・SK1201 に近接して、SR03 上面で検出した。検出長約 10 m、幅 52cm、深さ 16cm、埋土は褐灰色粘質土である。遺構の切り合い関係からは SD1202 により消失するが、埋土は類似し、あまり時期差はないと考えられる。

79 は土師質土器竈。移動式の竈で、上部の受け口と上側の鍔の一部が残る。80 は黒色土器Ａ類椀。体部は直線的に立ち上がり内外面にはヘラミガキを施す。W1 は曲物底板。1 側縁部に 3 箇所、下部縁辺部に 1 か所穿孔が残る。片面に多数の使用痕が残り、転用品と考えられる。多量の木製品が出土した SR03 からの混入の可能性が高い。

遺構の時期は出土遺物や、位置が近接し埋土も同質の SD1202 と同じ 11 世紀後半～ 12 世紀前半と考えられる。



第 25 図　SD3301 ～ SD3304　平・断面図、出土遺物実測図

SD1301（第 24 図）

3 区 (H9) の微高地東部で検出した。南は調査区外へ延びる。検出長 68㎝、幅 28cm、深さ 10cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。

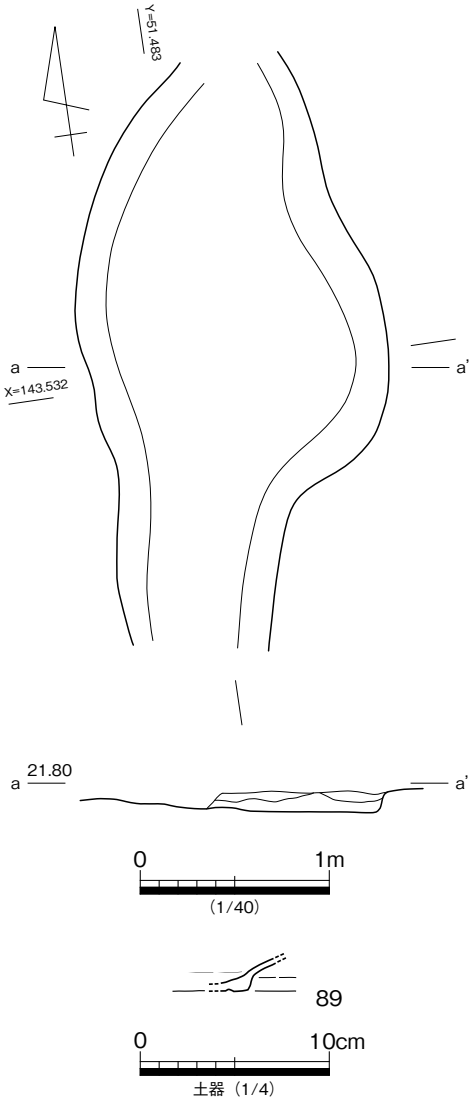
埋土中からは出土遺物はなかったが、遺構の埋土が SK1304 などと同質であることから、12 世紀前半と考えられる。

SD3301（第 25 図）

3 区 (H11) の微高地北西部で検出した溝である。検出長 4.8m、幅 52cm、深さ 8cm、埋土は灰褐色粘性極細砂で暗褐色粘質土ブロックを多く含む。埋土中からは瓦器椀、黒色土器Ａ類椀その他土器片が出土した。

81･82 は土師質土器。81 は皿。底部は回転ヘラ切りによる。ＢⅢ－１類。82 は杯。ＤⅡ－４類。83・84 は和泉型瓦器椀。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ－２期に相当し、13 世紀第３四半期と考えられる。



第 26 図　SD3305
平・断面図、出土遺物実測図

SD3302（第 25 図）

微高地西端部付近で検出した溝である。SD3301 の約 1.6 m西側で検出した。やや蛇行しながら北方向へ向く。幅約 90cm、深さ 6cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは瓦器椀・瓦器皿ほか土器小片が出土した。

85 は和泉型瓦器小皿。外面に顕著に指押さえ痕を残す。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ－２期に相当し、13 世紀第３四半期と考えられる。

SD3303（第 25 図）

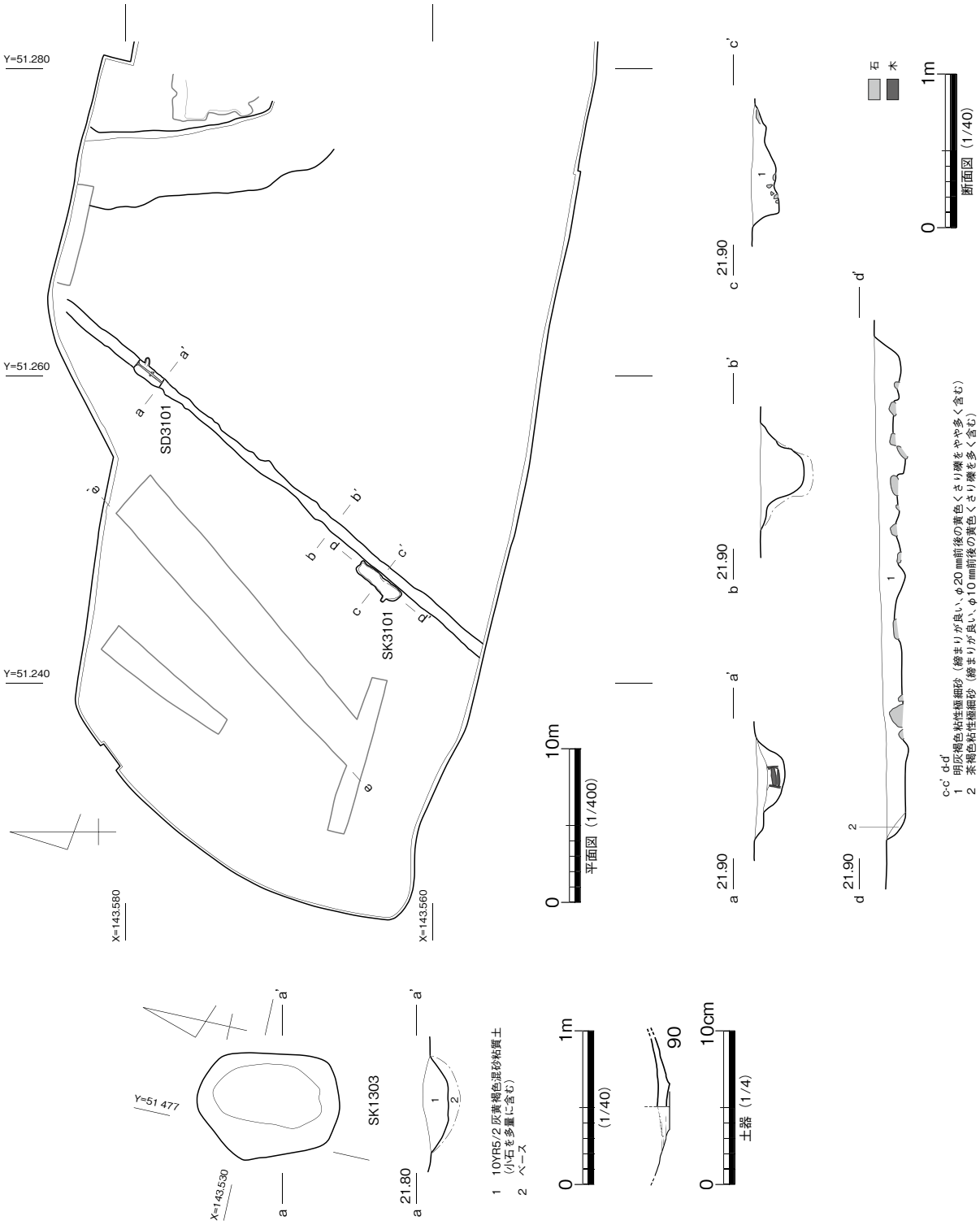
微高地西端付近で検出した溝である。SD3302 に近接して検出した。検出長約 2.2m、幅 96cm、深さ 20cm である。北側で SD3302 により消失し、東・北側へは連続しない。埋土中からは黒色土器椀Ａ類、土師質土器杯などが出土した。

86 は土師質土器杯。ＤⅡ－３または４類。87 は黒色土器Ａ類椀。内面は横方向のヘラミガキを施す。外面は摩滅のため不明。ＡⅡ－５または６類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ－２期に相当し、13 世紀第３四半期と考えられる。

SD3304（第 25 図）

微高地西端付近で検出した溝である。SD3302 の約 2.4ｍ西側で検出した。検出長 13.2m、幅 32cm、深さ 12cm である。埋土中からは土師質土器杯が出土した。



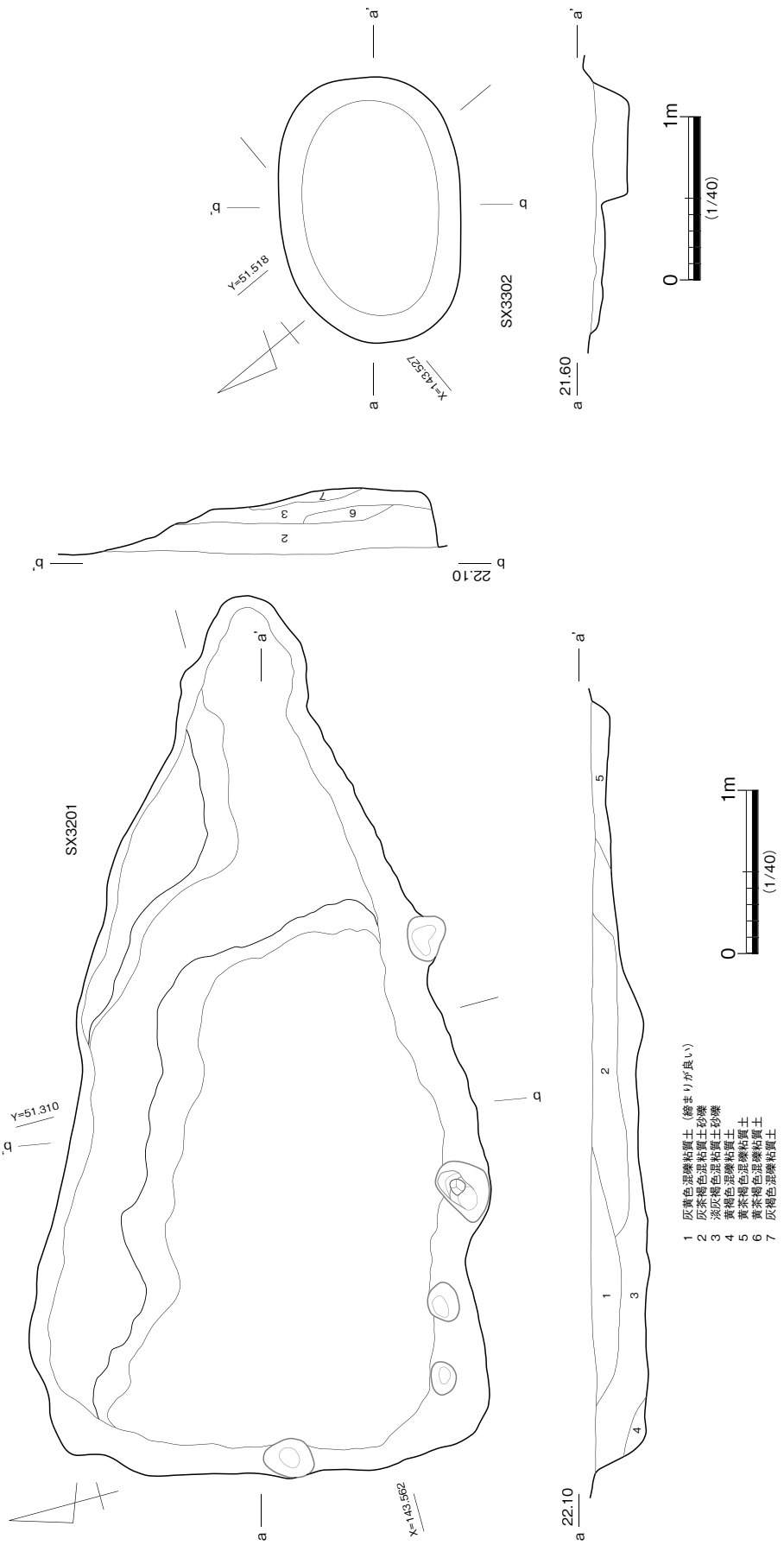
第27図　SK1303・SK3101・SD3101　平・断面図、出土遺物実測図

88 は土師質土器杯。ＤⅡ－２類。

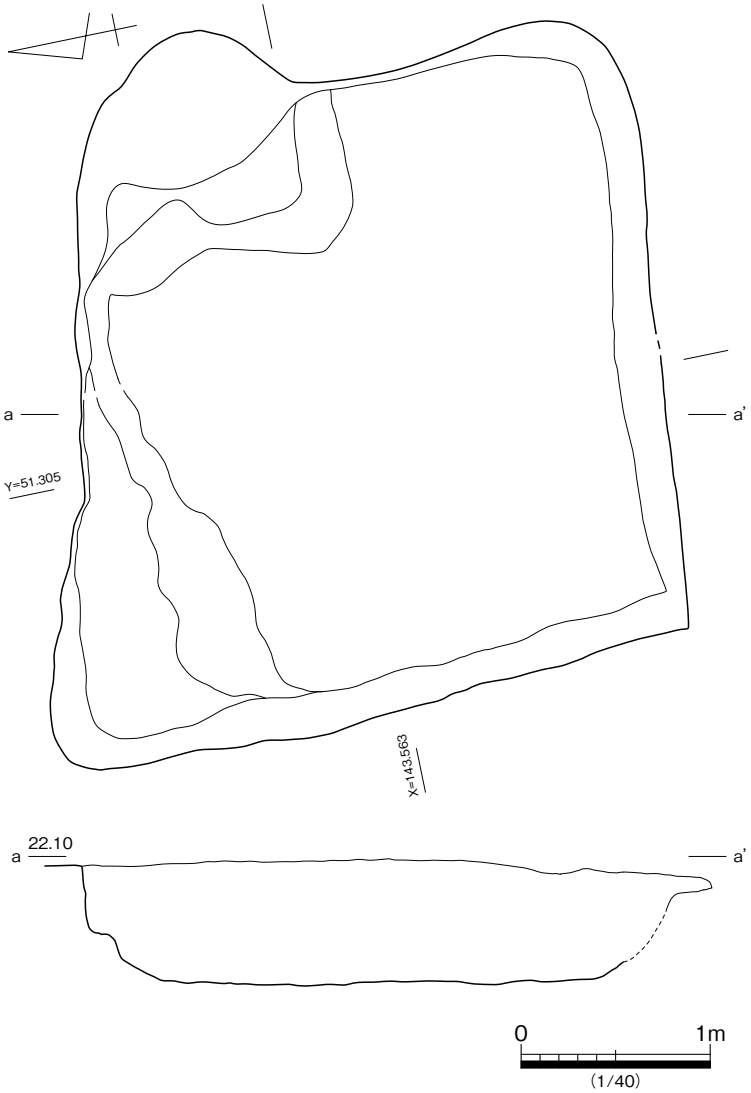
遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ期に相当し、13 世紀第１～２四半期と考えられる。

SD3305（第 26 図）

微高地中央付近で検出した溝である。検出長約 3.2m、幅 1.52m、深さ 10cm である。埋土中からは



第 28 図　SX3302・SX3201　平・断面図



第 29 図　SX3202　平・断面図

黒色土器Ａ類椀、土師質土器杯片が出土した。

89 は土師質土器杯小片。

遺構の時期は出土遺物により 12 世紀代と考えられる。

６．近世以降の遺構・遺物

土坑

SK1303（第 27 図）

3 区 (H9) の微高地中央やや南寄りで検出した土坑である。楕円形で長軸 94cm、短軸 64cm、深さ 16cm、埋土は灰黄褐色混砂粘質土で小石を多量に含む。埋土中からは陶器皿が出土した。

90 は陶器皿。内面から体部外面に灰釉を掛ける。

遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

SK3101（第 27 図）

1 区 (H11) の調査区西端付近で検出した土坑である。SR08 の上面で検出した。隅丸長方形で長軸 3.24m、短軸 76㎝、深さ 10cm、埋土は明灰褐色粘性極細砂である。SD3101 に隣接して検出した。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は決めがたいが、暗渠の構造から近世以降の時期が考えられる SD3101 と主軸方向が同じで、これと接する位置関係からほぼ同時期の遺構で、近世以降としたい。

性格不明遺構

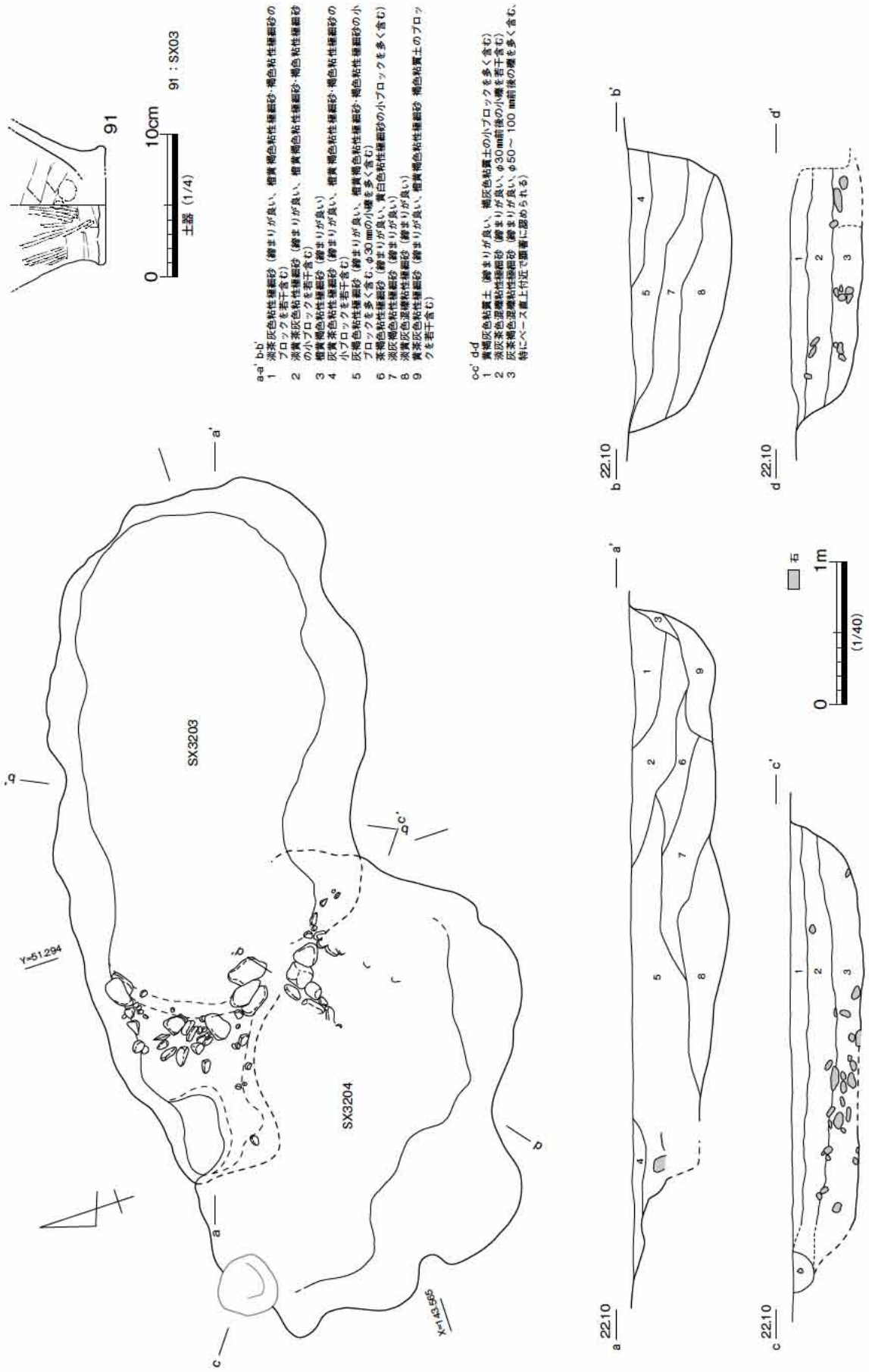
SX3302（第 28 図）

3 区 (H11) の調査区中央付近、微高地東端付近で検出した遺構である。東側が 1 段低い。楕円形で長軸 1.52m、短軸 1.00m、深さは浅い部分が 6㎝、深い部分が 24㎝である。埋土中からは平瓦片、焙烙片などが出土した。

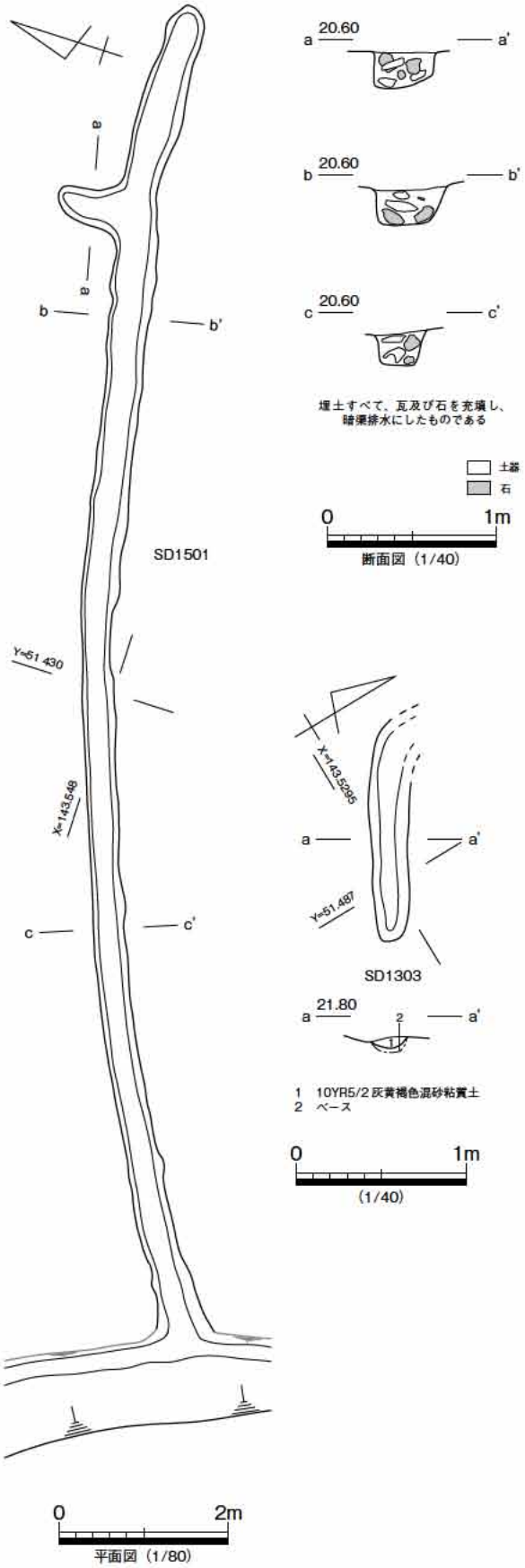
遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

SX3201（第 28 図）

2 区 (H11) の SR07 の北側、SX3202 の東側で検出した遺構である。不整形で長軸 5.36m、最大幅 2.08



第30図　SX3203・SX3204　平・断面図、出土遺物実測図



第 31 図　SD1303・SD1501　平・断面図

m、深さは 36cmである。南東から北西にかけて幅 40cm程度帯状に高い部分がある。埋土中からは摩滅した弥生土器や近世陶磁器片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

SX3202（第 29 図）

SR07 の北側、SX3201 の西側で検出した遺構である。概ね 1 辺 3.08 ～ 3.32m の方形で深さは 66cmである。北東隅、南西部は一段高い。埋土中からは摩滅した弥生土器片、須恵器片、近世陶磁器片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

SX3203･SX3204（第 30 図）

SR07 の北側、SK3202 の西側で検出した土坑である。連結した形状であるが、遺構の前後関係は明らかではない。SX3203 は不整円形で長軸 4.8m、短軸 2.2m、深さ 60cm、SX3204 は不整円形で長軸 3.3m、短軸 1.8m、深さ 52cmである。SX3203・SX3204 ともに弥生土器小片が出土した。遺物は弥生土器小片のみであったが、遺構の規模や埋土に礫が多く含まれるなど近世の遺構である SX3201 と共通し、遺構の時期は近世以降に下る可能性が高いと考えられる。

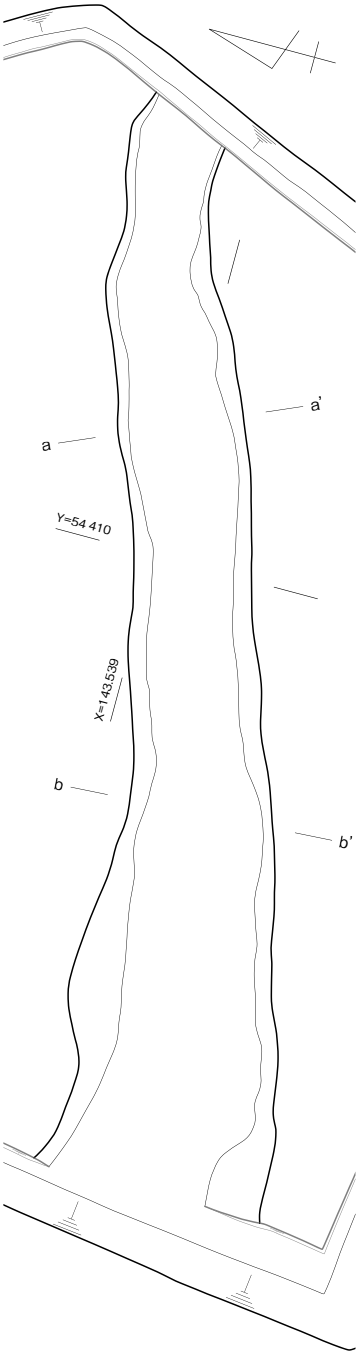
91 は弥生土器甕底部。弥生時代前期。

溝状遺構

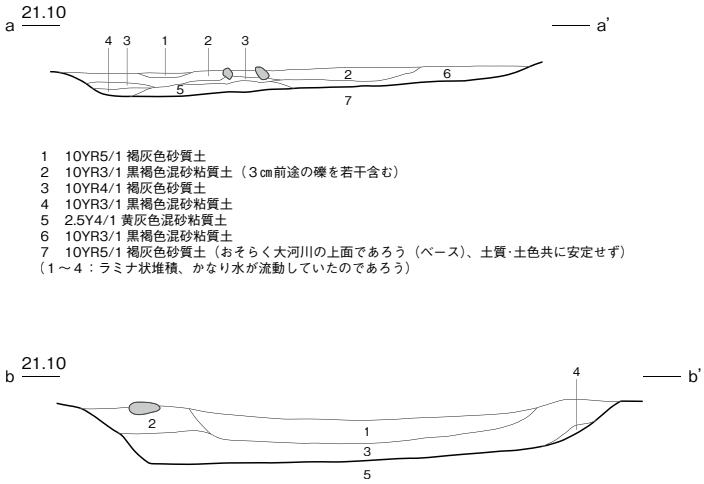
SD3101（第 27 図）

1 区（H11）の西端付近で検出した溝である。周辺の地割に沿う南北方向を指し、北・南側とも調査区外へ延びる。幅 64cm、深さ 16cm の暗渠であると考えられる溝内部には底板と側板２枚、蓋板から成る木製の樋が埋設されていた。

出土遺物はなかったが、暗渠の構造により近世以降と考えられる。



平面図（1/150）



1　10YR5/1 褐灰色砂質土
2　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土（3㎝前途の礫を若干含む）
3　10YR4/1 褐灰色砂質土
4　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土
5　2.5Y4/1 黄灰色混砂粘質土
6　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土
7　10YR5/1 褐灰色砂質土（おそらく大河川の上面であろう（ベース）、土質･土色共に安定せず）
（1～4：ラミナ状堆積、かなり水が流動していたのであろう）

1　10YR4/1 褐灰色混砂粘質土（若干の小石を含む）
2　2.5Y5/1 黄灰色混砂粘質土（こぶし大から1㎝前後の礫を比較的多く含む）
3　2.5Y4/1 黄灰色混砂粘質土
4　10YR4/1 褐灰色混砂粘質土
5　10YR5/1 褐灰色砂質土（おそらく大河川の上面であろう（ベース）、土質･土色共に安定せず）

0　1m　石

断面図（1/40）

第 32 図　SD1502　平・断面図

SD1201（第 18・23 図）

2 区 (H9) の SR03 上面で検出した。SD1202・SD1203・SK1201 に近接する。検出長約 4 m、幅 46cm、深さ 12cm、埋土は灰黄褐色粘質土で鉄分が若干沈着する。

埋土中からは土師質土器片、須恵器皿・甕片などが出土した。

74 は須恵器皿。9 世紀後半。

図示した遺物は 9 世紀後半であるが、埋土が近世の遺構である SK1303、SD1303 と同質であることから、近世以降の遺構としたい。

SD1303（第 31 図）

3 区（Ｈ９）の中央付近で検出した溝状遺構である。検出長 12.8m、幅 20cm、深さ 7cm、埋土は灰黄褐色混砂粘質土である。

埋土から出土遺物はなかったが、埋土が SK1303 と同じことから近世以降と考えられる。

SD1501（第 31 図）

5 区 (H9) の微高地の東側で検出した溝である。おおむね SD1502 と同じ方向を向き、地形に沿った方向と考えられる。検出長 15.6m、幅 40cm、深さ 20cm で、瓦や石を充填して埋められた様子が窺える。

出土遺物から暗渠であったと考えられ、近世以降と考えられる。

SD1502（第 32 図）

微高地の東側で検出した溝である。おおむね周辺の SR02 や SR06 と同じ方位を示し、幅 2.8m、深さ 22cm で、ラミナ状堆積が見られ、水の流れがあったことがわかる。埋土中からは土師質土器足釜脚部、瓦器椀片、陶器片等が出土した。

遺構の時期は近世陶器が出土していることから近世以降と考えられる。

SD2303（第 33 図）

3 区 (H10) の SR06 の北側で検出した溝である。SR06 とほぼ同じ方向を指すが隣接する調査区では検出されていない。幅 1.36m、深さ 40cm で灰黄色粗混砂粘質土である。溝の北側の一部に石組が残る。埋土中からは弥生土器片、須恵器片、磁器片等が出土した。

遺構の時期は出土遺物により、近世以降と考えられる。

SD2304（第 34 図）

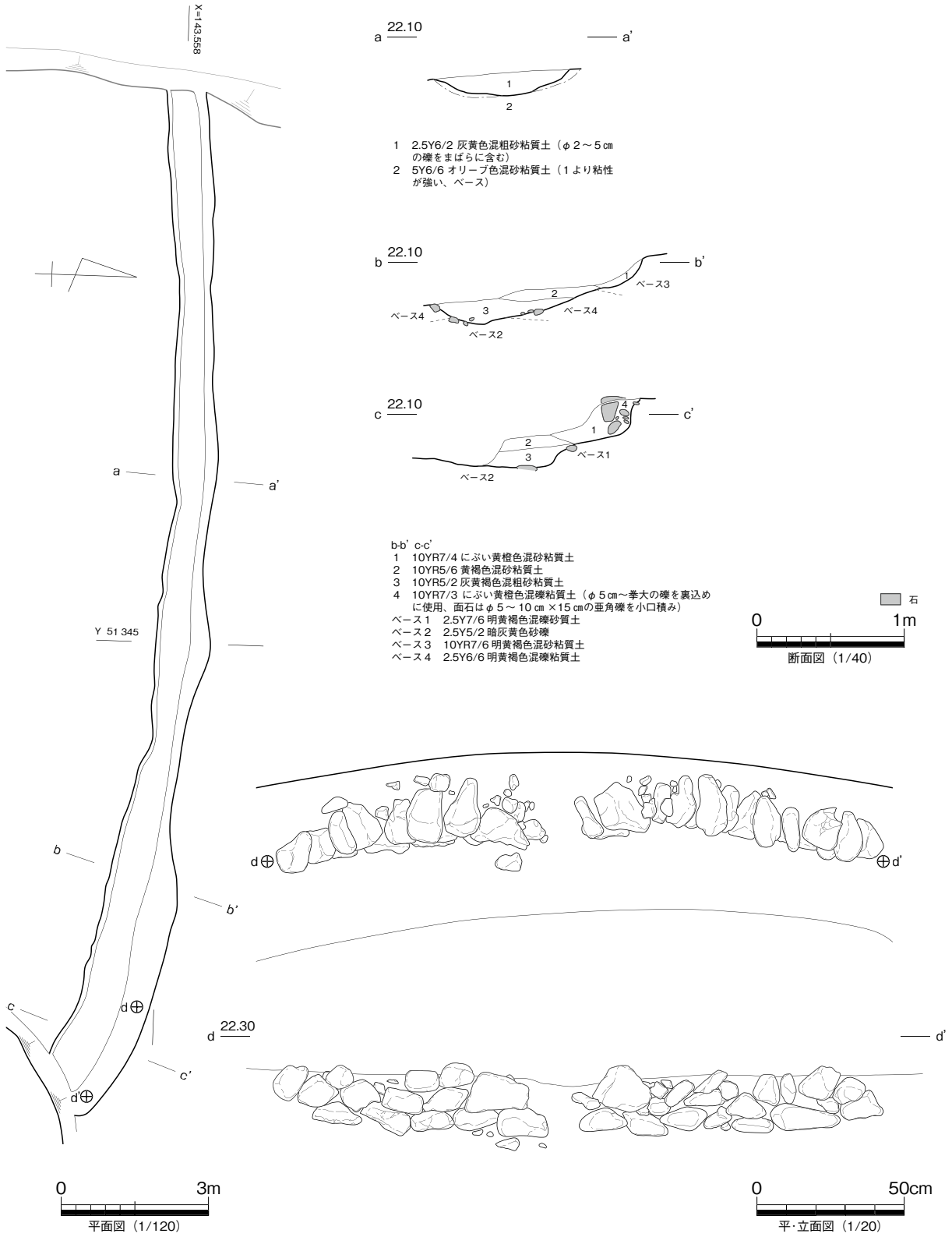
2 区 (H11) の SD2203 の南側で検出した溝である。検出した西端近くで南西へ屈曲する。東側は調査区外へ延びる。検出長 4.7m、幅 0.92m、深さ 18cm、埋土はオリーブ褐色混礫粗砂粘質土である。埋土中からは弥生土器・須恵器・磁器小片が出土した。SR06 と重複し、遺構検出時には前後関係は明らかではなかったが、出土遺物により SR06 より新しいと考えられる。

遺構の時期は出土遺物により、近世以降と考えられる。

SD3202（第 34 図）

SR06・SR07 の北側で検出した溝である。SD3201 と重複する付近で北西方向へ屈曲し、調査区外へ延びる。幅 0.60 ～ 0.84m、深さ 14cm である。埋土中からは近世磁器片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により、近世以降と考えられる。



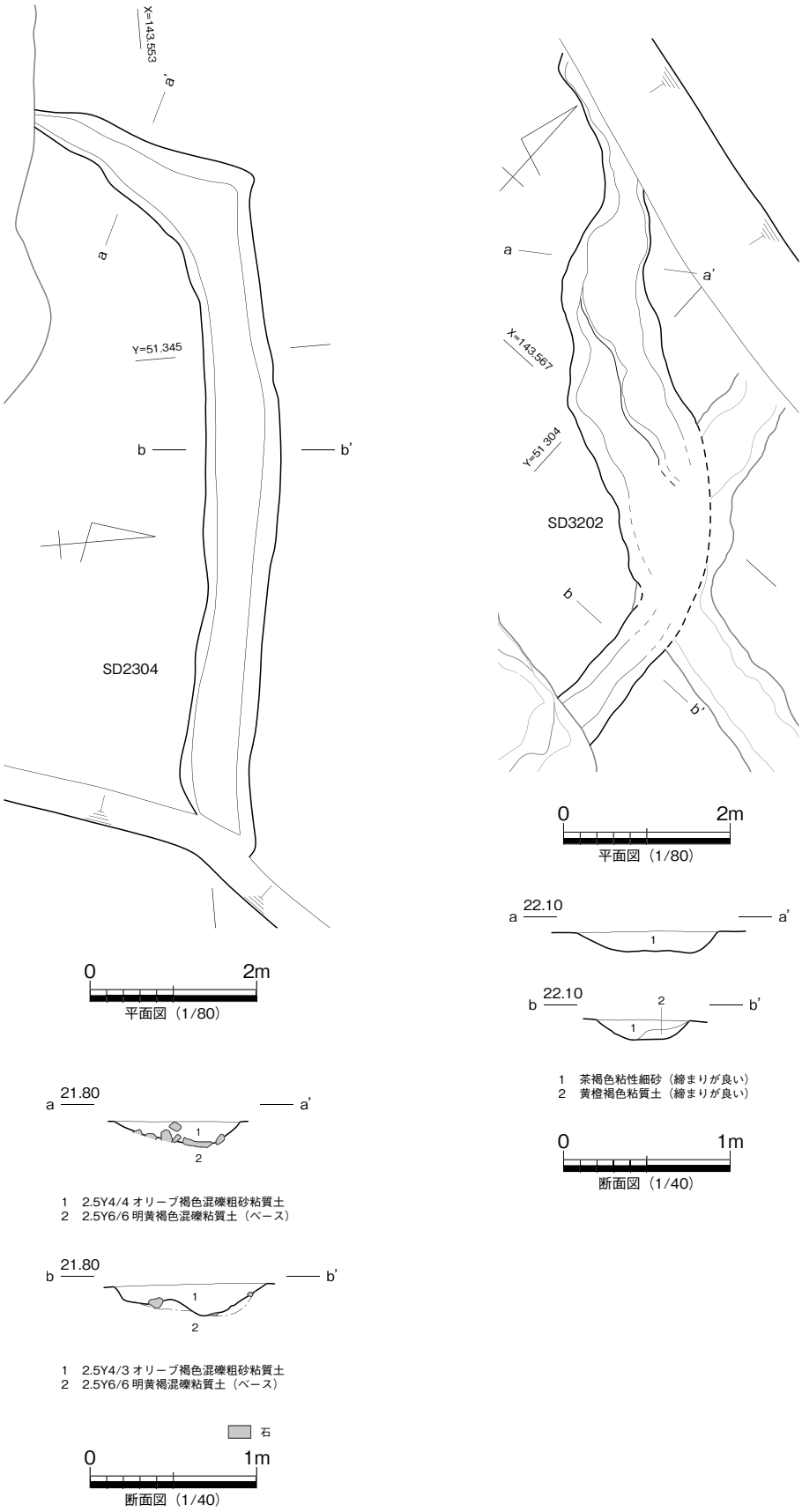
第 33 図　SD2303　平・断面図

7．時期不明の遺構

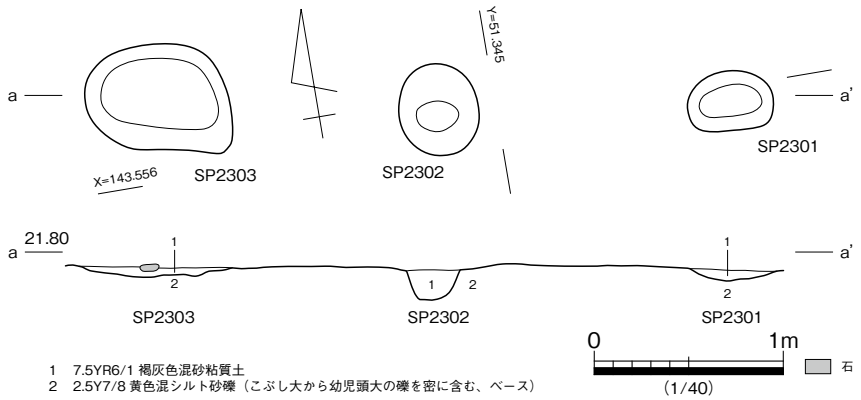
柱穴

SP2301 ～ SP2303（第 35 図）

3
区



第 34 図　SD2304・SD3202　平・断面図



第 35 図　SP2301 ～ SP2303　平・断面図

（H10）の SR06 の北側、SD2203 と SD2204 の間で検出したピット列である。3 穴検出した。ピット間隔は 0.9 ～ 1.2m である。ピットは円形または楕円形で、長径 48 ～ 76㎝程度、短径 32 ～ 52㎝である。深さは SP2302 は 16㎝、他は 5㎝程度で非常に浅い。埋土はいずれも褐灰色混砂粘質土である。SP2303 から摩滅した土器小片が出土したのみである。

遺構の時期は不明である。

土坑

SK1102（第 36 図）

1 区（H9）の東端付近で検出した土坑である。不整形で長軸 1.96m、短軸 0.96m、深さ 14cm で埋土はおおむね黄褐色粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

SK1204（第 36 図）

2 区 (H9) の SR02 の南側、SR03 の東側で検出した土坑である。長楕円形で長軸 0.94m、短軸 0.52m、深さ 15cm である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

SK3301（第 37 図）

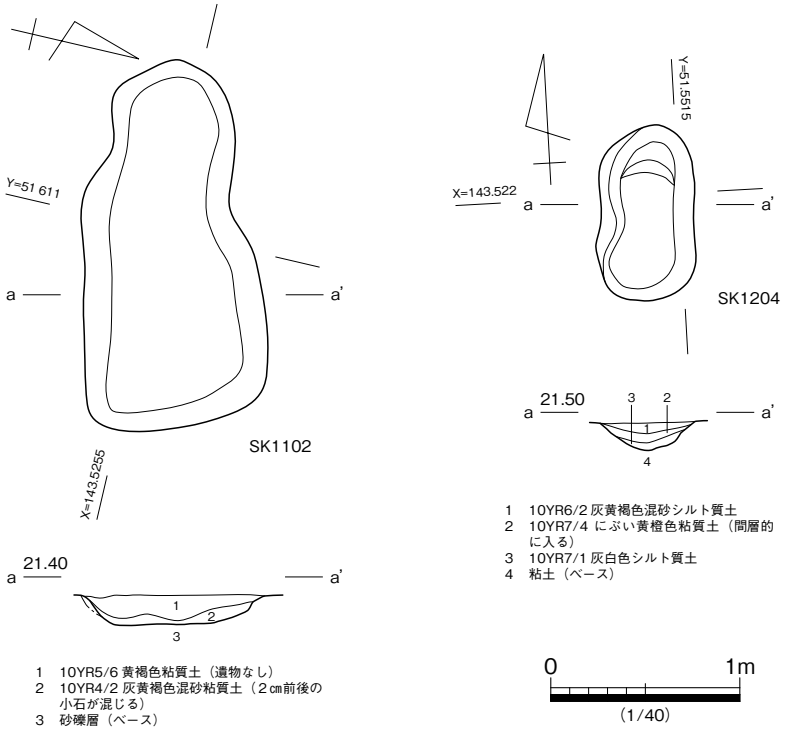
3 区 (H11 の) 中央付近の微高地で検出した土坑である。長楕円形で長軸 1.60m、短軸 0.52m、深さ 18cm である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

SK3201（第 37 図）

2 区 (H11) の SR06 北側で検出した土坑である。隅丸長方形に近い不整形である。長軸 1.16m、短軸 0.84m、深さは 18cm である。埋土中からは土器の小片が出土しただけである。

遺構の時期は不明である。



第 36 図　SK1102・SK1204　　平・断面図

性格不明遺構

SX1201（第 37 図）

2 区 (H9) の SR02 の南側、SR03 の東側で検出した遺構である。不整形で長軸 1.24m、最大幅 0.52m、深さ 12㎝、埋土は灰黄褐色混砂シルト質土でベースブロックを若干含む。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

溝状遺構

SD1106（第 38 図）

1 区 (H9) の SR02 の南側で検出した溝である。SR02 にほぼ平行して検出した。検出長 1.4 m、幅 24cm、深さ 5cm、埋土は褐灰色混砂粘質土である。

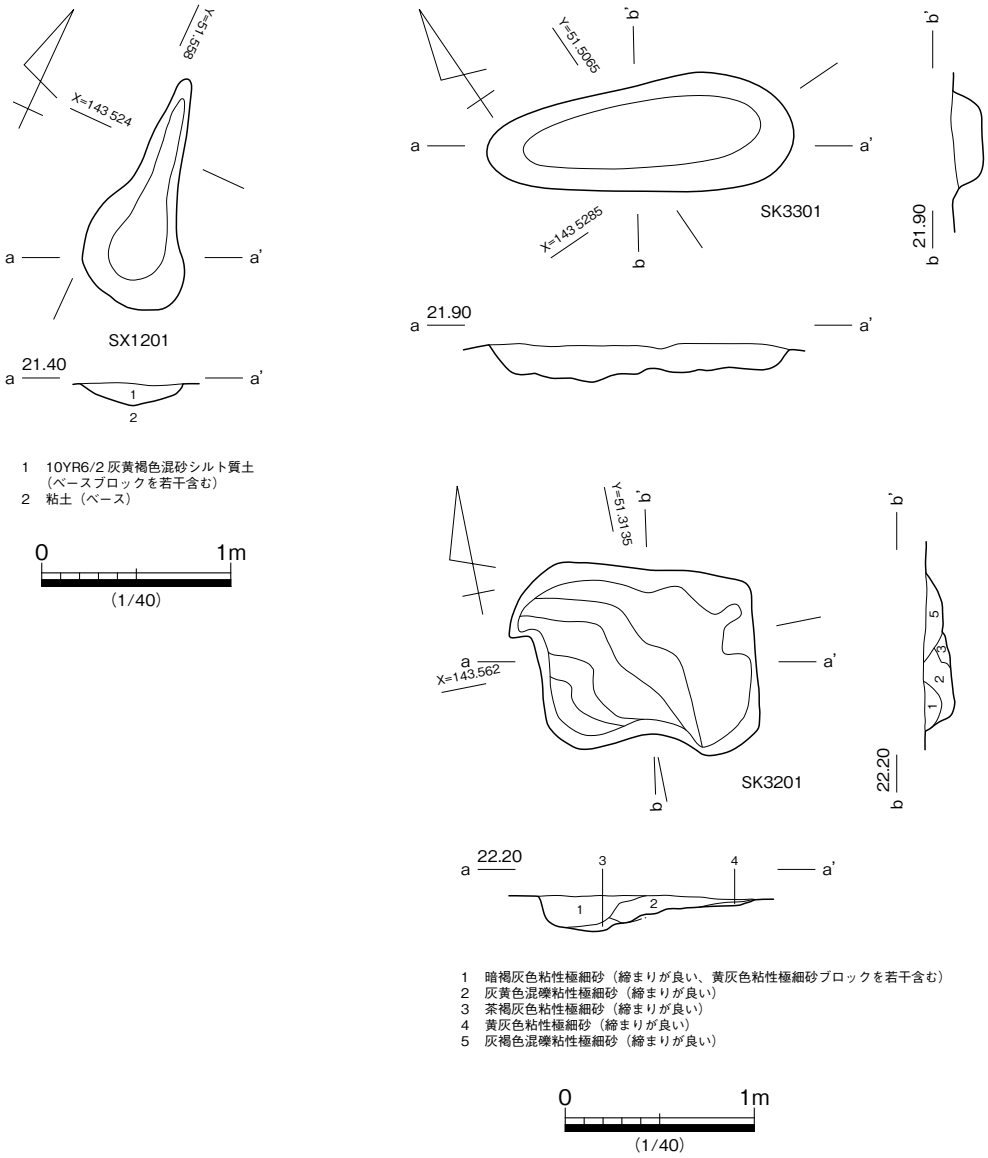
埋土中からは土器小片が出土したのみである。

遺構の時期は不明である。

SD1204（第 38 図）

2 区 (H9) の SR02 と SR03 の合流部の南辺に沿うように屈曲して検出した溝である。SR01、SR03 の埋没後に掘削される。検出長約 5 m、幅 40cm、深さ 16cm、埋土はおおむね黄灰色混砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。



第 37 図　SX1201・SK3301・SK3201　平・断面図

SD1206（第 38 図）

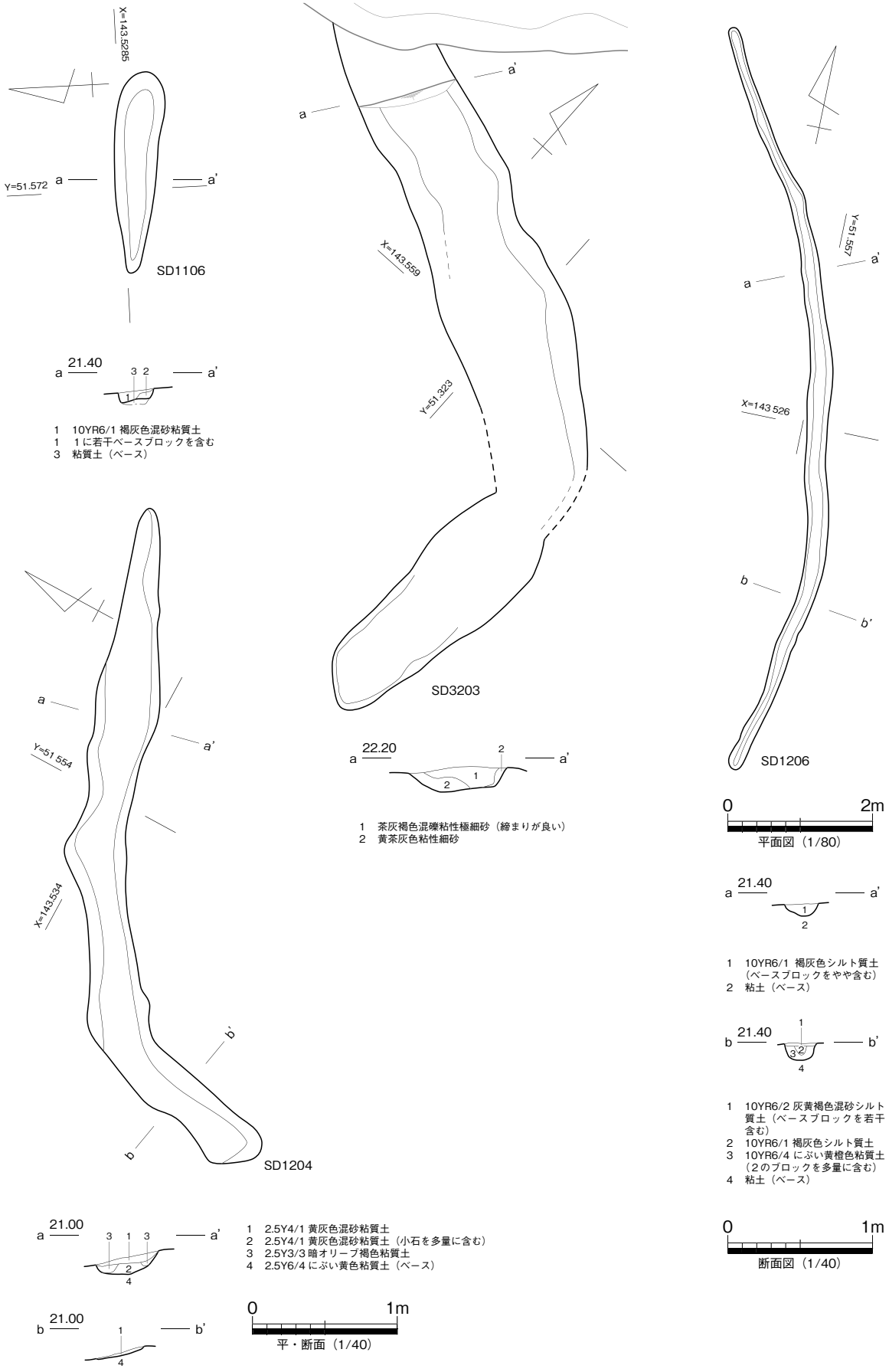
SR02 南側、SR03 東側で検出した溝である。検出長は 4.9m、幅 40cm、深さ 12cm で埋土は褐灰色シルト質土である。埋土中からは遺物は出土しなかった。

遺構の時期は不明である。

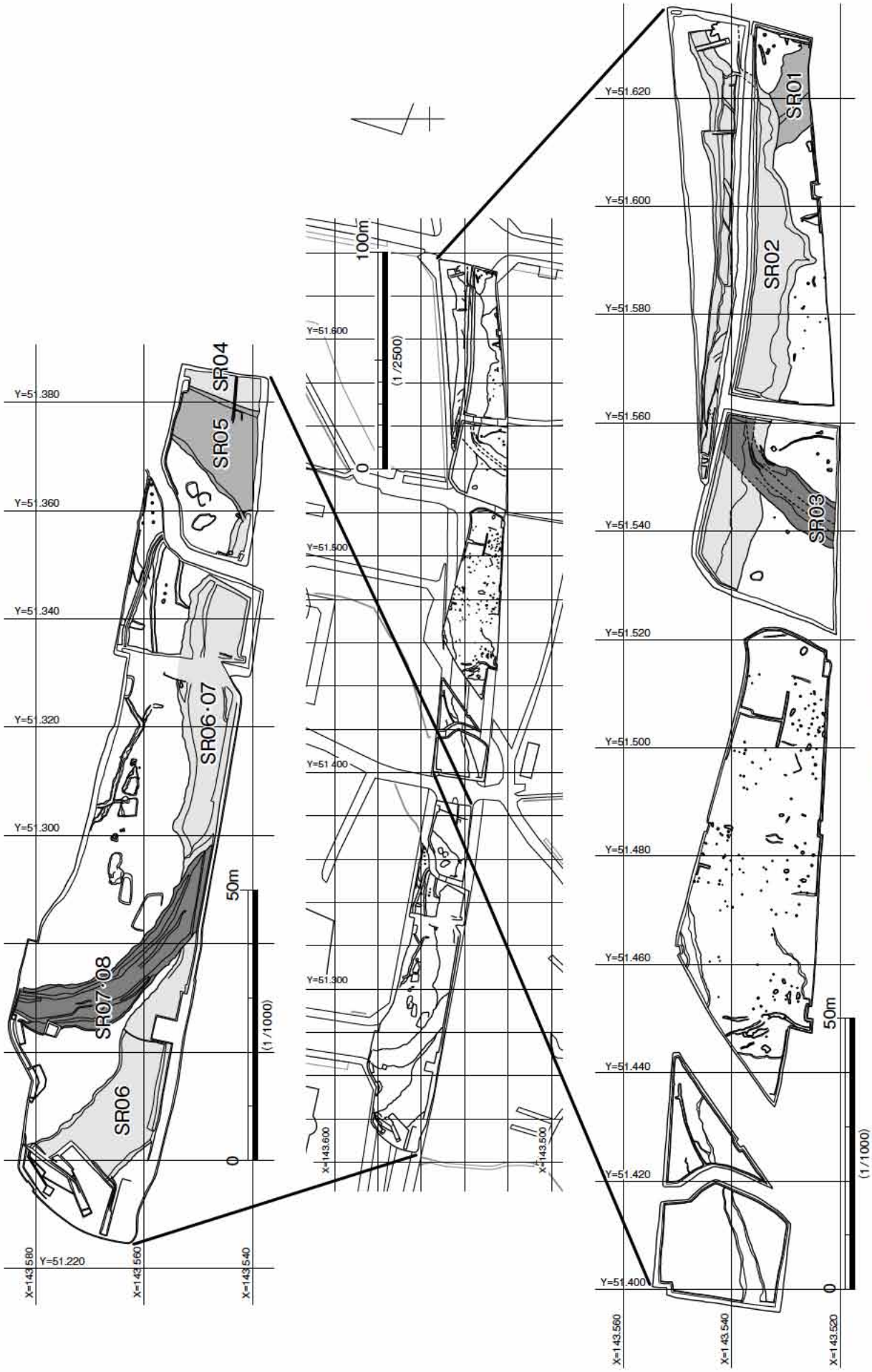
SD3203（第 38 図）

2 区（H11) の SR06 北側で検出した溝である。北西から約 3 m の地点で屈曲する。幅 64㎝、深さ 12 ㎝である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。



第 38 図　SD1106・SD1204・SD1206・SD3203　平・断面図


SR01
SR02
SR03
SR04
SR05
SR06
SR06·07
SR07·08
Y=51.620
Y=51.600
Y=51.580
Y=51.560
Y=51.540
Y=51.520
Y=51.500
Y=51.480
Y=51.460
Y=51.440
Y=51.420
Y=51.400
Y=51.380
Y=51.360
Y=51.340
Y=51.320
Y=51.300
Y=51.220
X=143.580
X=143.560
X=143.540
X=143.520
X=143.600
X=143.500
50m
100m
(1/1000)
(1/2500)
0

第 39 図　旧河道　平面図

第２節　旧河道の調査

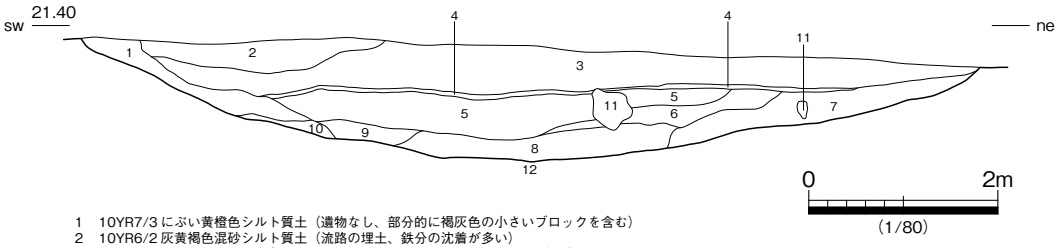
本遺跡からは複数の旧河道を検出している。これらは、第５章のまとめで触れるとおり、香東川が形成した扇状地面を開折して流れる旧河道の範囲の中で､流下･堆積が繰り返されたものである。したがって、以下にSR01 ～ 08として報告するものは、ある河道のある段階の堆積層に遺構番号を付すものも含まれている。なお、調査が３カ年にわたり、同一の河道に対して異なる遺構番号が付されるものがあるため、新たに遺構番号を付した。なお、断面図の取得位置については遺構配置図（第６～９図に図番号で示す）を参照されたい。

旧河道

SR01（第 40 ～ 42 図）

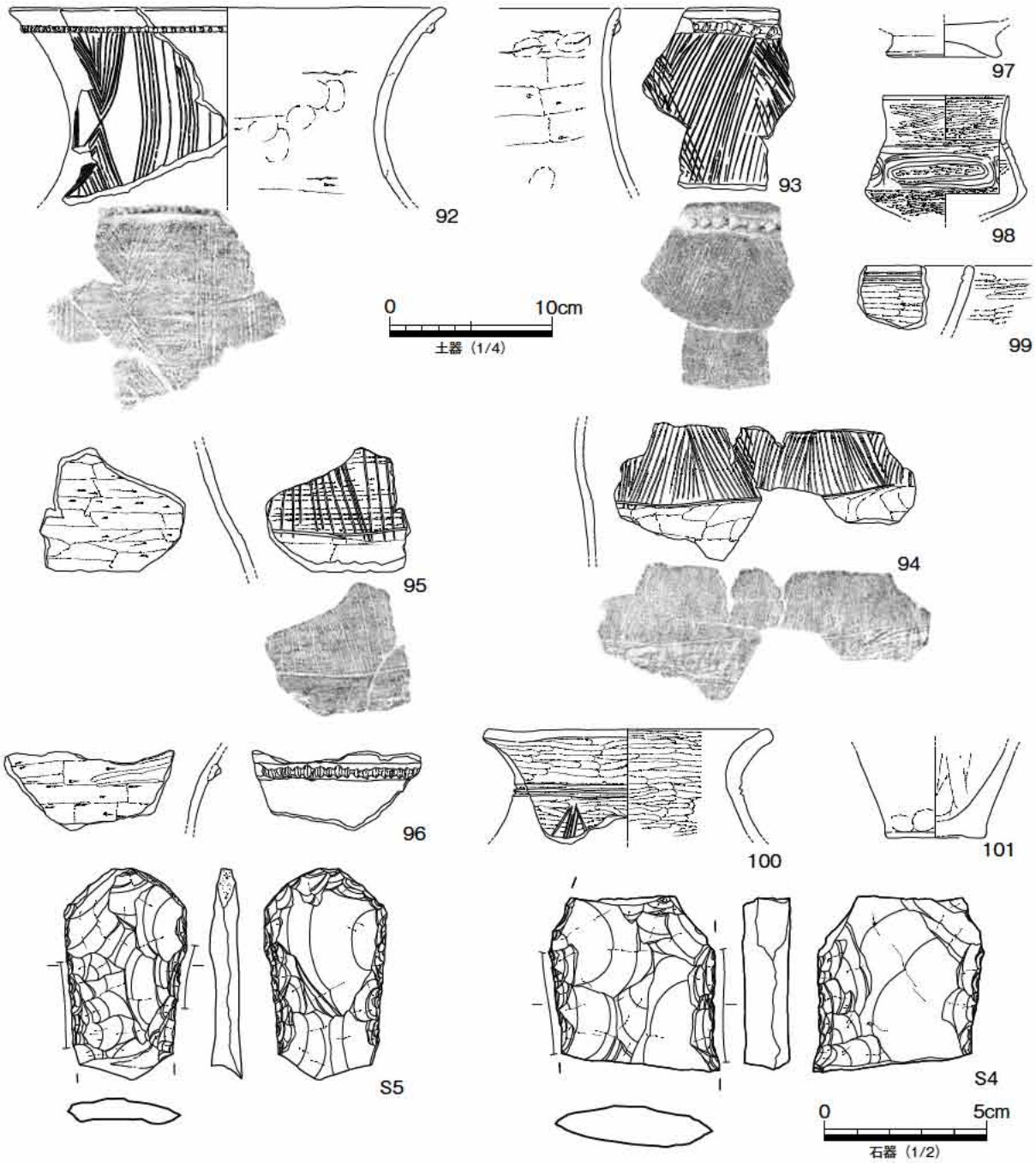
Ⅰ区（H9) 東端付近で検出した南東から北西方向に流れる旧河道である。平成９年度調査のSR02を改称した。川幅約9.5 m、深さ1.25 mの規模で、断面形は浅い椀状を呈する。北側はSR02に壊されており、検出長は約11 mである。埋土は３層に大別され、下層は非常にきめ細かい灰色細砂層、中層に黄灰色砂層、上層にやや粗い砂粒による黄灰色砂質土層が堆積する。

出土遺物は微量で、大半が河底付近の灰色細砂層から出土している。第41、42図は、SR01から出土した遺物実測図である。92は縄文時代晩期の深鉢の口縁部である。大きく外湾し、口縁端部から１㎝ほど下がった位置に刻み目を付した突帯を巡らせ、その下部にヘラ描き沈線による文様を描いている。文様は縦方向の沈線と、大きく「X」字を描き、その上下部分の内側を「X」と平行する沈線で埋めている。口縁端部に刻み目は見られない。93も深鉢である。93は斜め方向の平行する沈線を交互に配している。94は接合することはできないが、93と同一個体と思われるもので、口縁部から胴部付近の破片である。境界部に１条のヘラ描き沈線を巡らし、以下に貝殻条痕が見られる。93、94から深鉢は口縁端部下に１条の突帯を巡らすタイプであることがわかる。95も深鉢の口縁部と胴部の境界付近の破片、96は刻み目突帯部分で、深鉢口縁部付近の破片である。97は深鉢の底部と思われる。98は小型の浅鉢の胴部上半を長くのばして壺形とした土器である（扁平鉢形土器と呼称する研究者もいる)。精製のもので屈曲点付近に小孔がある。胴部外面に陽刻表現の三叉文を描く。99は浅鉢の口縁部の破片である。内外面ともにヘラミガキ、端部内面に２条のヘラ描き沈線が巡る。100は弥生時代前期の壺の口縁部である。頸部に２条のヘラ描き沈線が巡り、その下に縦方向の沈線と山形の沈線からなる文様の一



1　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト質土（遺物なし、部分的に褐灰色の小さいブロックを含む）
2　10YR6/2 灰黄褐色混砂シルト質土（流路の埋土、鉄分の沈着が多い）
3　2.5Y5/1 黄灰色砂質土層（ごく少量の遺物を含む、３～５㎝の小石をやや含む）
4　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土層（鉄分の沈着層）
5　2.5Y5/1 黄灰色砂層（３より砂質度が高い、遺物なし、小石もほとんど混じらない）
6　5Y5/1 灰色砂層（締まりがかなり良い、遺物なし、鉄分沈着）
7　10YR5/1 褐灰色砂質土層（６より締まりが悪い、遺物なし、鉄分沈着）
8　5Y4/1 灰色細砂層（締まりが良くきめが細やかな砂質土、鉄分が沈着、遺物なし、晩期土器数点含む）
9　2.5Y6/3 にぶい黄色細砂層（締まりが良くシルト質状、遺物なし）
10　5Y5/1 灰色細砂層（８とほぼ同じ土質を呈する）
11　2.5Y4/1 黄灰色混砂粘質土（ブロック状にかむ）遺構ではない
12　砂礫層（ベース）

第 40 図　SR01　断面図



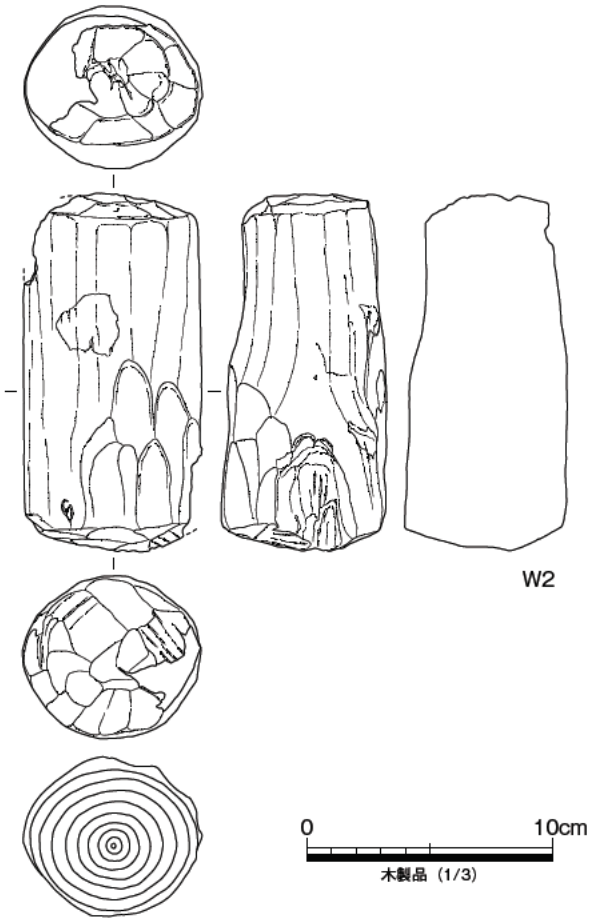
第 41 図　SR01 最下層　出土遺物実測図 (1)

部が認められる。内外面ともに丁寧にヘラミガキが見られる。101 は弥生前期土器の甕底部の小片である。

Ｓ４、Ｓ５はサヌカイト製の打製石斧である。いずれも基部付近の破片である。

W2 は木錘か。円柱状で両端とも工具で丸味を持たせる。

100、101 の弥生土器は、その他の土器片と同日に出土したもので、縄文土器との共伴は明らかであり SR01 は縄文時代晩期末から弥生時代前期前葉の年代が考えられる。また、SR01 は現地表面には痕跡が見られず、冒頭に記した扇状地上を開折する旧河道に合流する河道である。検出長がわずかであるため断定的なことはいえないが、本流に合流する一小流という位置付けが妥当と考える。なお、SR01



第 42 図　SR01 最下層　出土遺物実測図 (2)

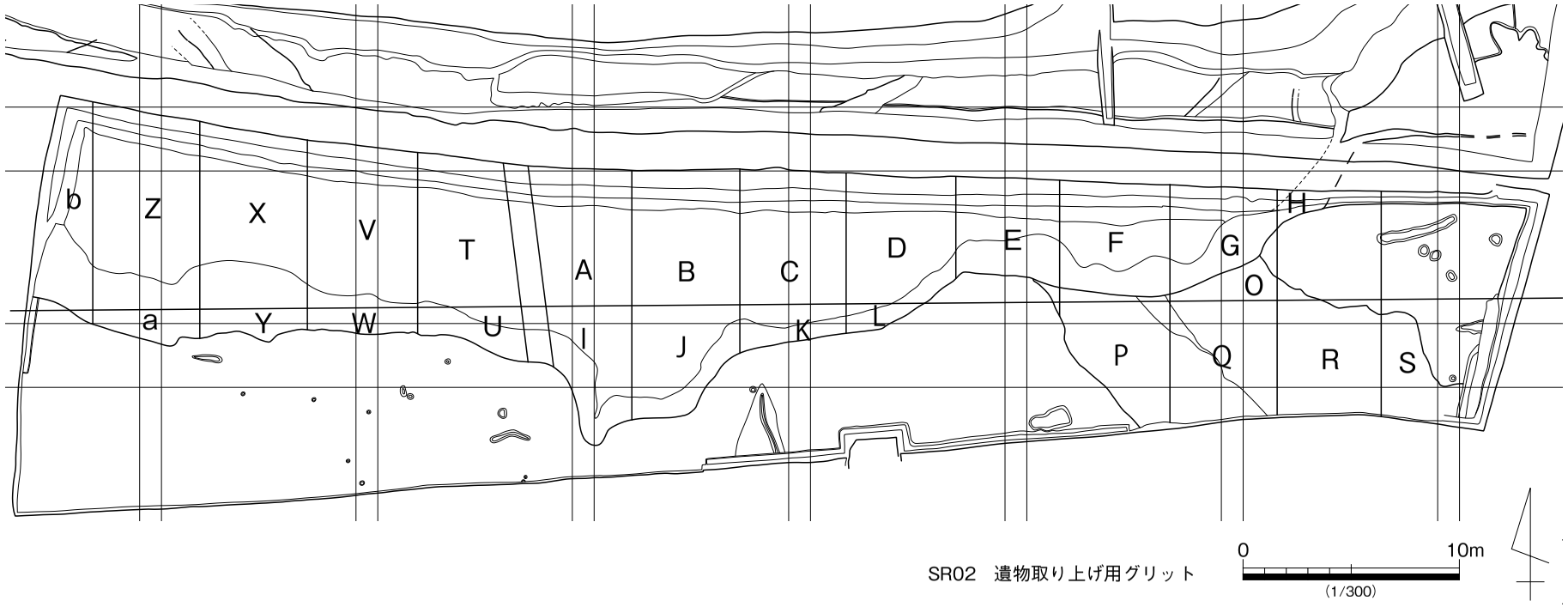
出土の土器については、概要報告で実測図が掲載され、すでに多くの検討が加えられており、ここで縄文土器として報告したものを含めて弥生時代前期前半に併行するという評価がくだされている（注）。しかしながら、多肥宮尻遺跡における当該期の遺物は旧河道中から出土したもので、縄文土器と弥生土器が共伴すると把握してよいかどうか確証がもてない。このため、以下においても突帯文系の土器を縄文土器として報告する。

（注）たとえば、信里芳紀･森下英治 1999「讃岐地方における弥生土器の基準資料Ⅱ（序章）－香川県内出土の突帯文土器を中心に－」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『研究紀要Ⅶ』など。

SR02（第 43 ～ 76 図）

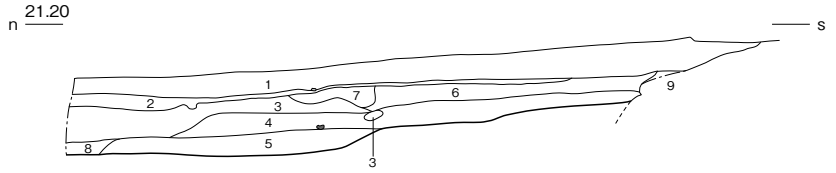
SR02 は、１区（H9)、１区（H10)、２区（H9) にまたがる旧河道であり、平成９年度調査の SR01 および平成 10 年度調査の SR9701 をまとめたものである。西から東方向に流れる旧河道で、北岸はため池によって壊されており、検出幅は最大で 14 m、深さ 1.6 mほどの規模、断面形は浅い椀状を呈する。埋土は一様ではないが、褐灰色砂質土の下層、黒褐色粘質土の中層、黒色混砂粘質土の上層の３層に大別される。出土した遺物の大半は上層、中層のもので、土器と石器で 28 リットル入りコンテナ 67 箱にのぼる。遺物は、東西方向を基準に 10 m単位のグリッドに分けて取り上げているので、グリッドごとにレイアウトして報告する。なお､調査担当者によると､SR02 全体において掘削方法に精粗があるため、グリッド毎の土器出土量等の情報は意味をなさないという教示を得ている。

第 46 図 102 ～ 106、Ｓ６、S7 は、グリッドＦの中層出土の遺物実測図である。102 は縄文時代晩期の深鉢の口縁部の破片である。口縁端部からわずかに下がった位置に刻み目突帯を付し、以下にヘラ描き沈線による文様を描く。103 は弥生時代前期の壺である。頸部が削り出し突帯に７条のヘラ描き沈線を巡らせている。104 は如意状口縁の弥生時代前期の甕である。口縁端部に刻み目、以下に３条のヘラ



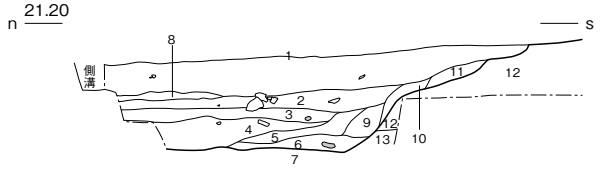
第 43 図　SR02　グリッド配置図

SR02 グリッドB･C 間断面

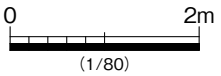


1　10YR4/1 褐灰色混砂粘質土（粘性が高い、土器を多量に含む、４～５㎝の小石を多く含む、遺物取り上げの黒色粘質土に対応）
2　10YR5/1 褐灰色砂質土層（１の粘質土と３･６の粘質土の間に薄く入る）
3　10YR3/1 黒褐色粘質土（１より粘性が高い、土器を多量に含む）
4　10YR5/1 褐灰色砂質土（一部ラミナ状に粘質土を包含、遺物取上の砂質土に対応）
5　10YR5/1 褐灰色砂質土（やや粘性が高い）
6　2.5Y3/1 黒褐色粘質土層（３とほぼ同質であるがやや粘性が高い）
7　10YR4/1 褐灰色混砂粘質土層
8　10YR3/2 黒褐色粘質土層（植物遺体のようなものを多量に含む）
9　10YR6/6 明黄褐色粘質土層（ベース、旧河道の肩）

SR02 グリッドF･G 間断面



1　10YR4/1 褐灰色混砂粘質土（粘性が高い、土器を多量に包含、４～５㎝の小石を多く含む、遺物取り上げの黒色粘質土に対応）
2　10YR3/1 黒褐色粘質土（１より粘性が高い、土器を多量に包含、遺物取り上げの黒色粘質土＋砂質土に対応）
3　5Y3/1 オリーブ黒色粘質土（２より粘性が極めて高い、遺物取り上げの黒色粘質土＋砂質土に対応）
4　10YR5/1 褐灰色砂質土（一部ラミナ状に粘質土を包含、上層より木製品出土、遺物取り上げ注記砂質土に対応）
5　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土（木を包含、遺物注記砂質土に対応）
6　10YR5/1 褐灰色砂質土（やや粘性が高い）
7　砂質土に２～10cm 前後の礫が多量に混じる
8　2.5Y4/1 黄灰色混砂粘質土（１より砂質度が高い）
9　2.5Y3/1 黒褐色混砂粘質土（１～２㎝前後の小石を含む）
10　2.5Y6/2 灰黄色砂質土（12 とほぼ同じであるが２のブロックを若干含む）
11　2.5Y5/1 黄灰色砂質土（10 より砂の粒子が荒い）
12　2.5Y6/2 灰黄色砂質土（鉄分の沈着がかなりみられる、SR01 の埋土）
13　10YR5/1 褐灰色砂質土（12 より締まりが良い）



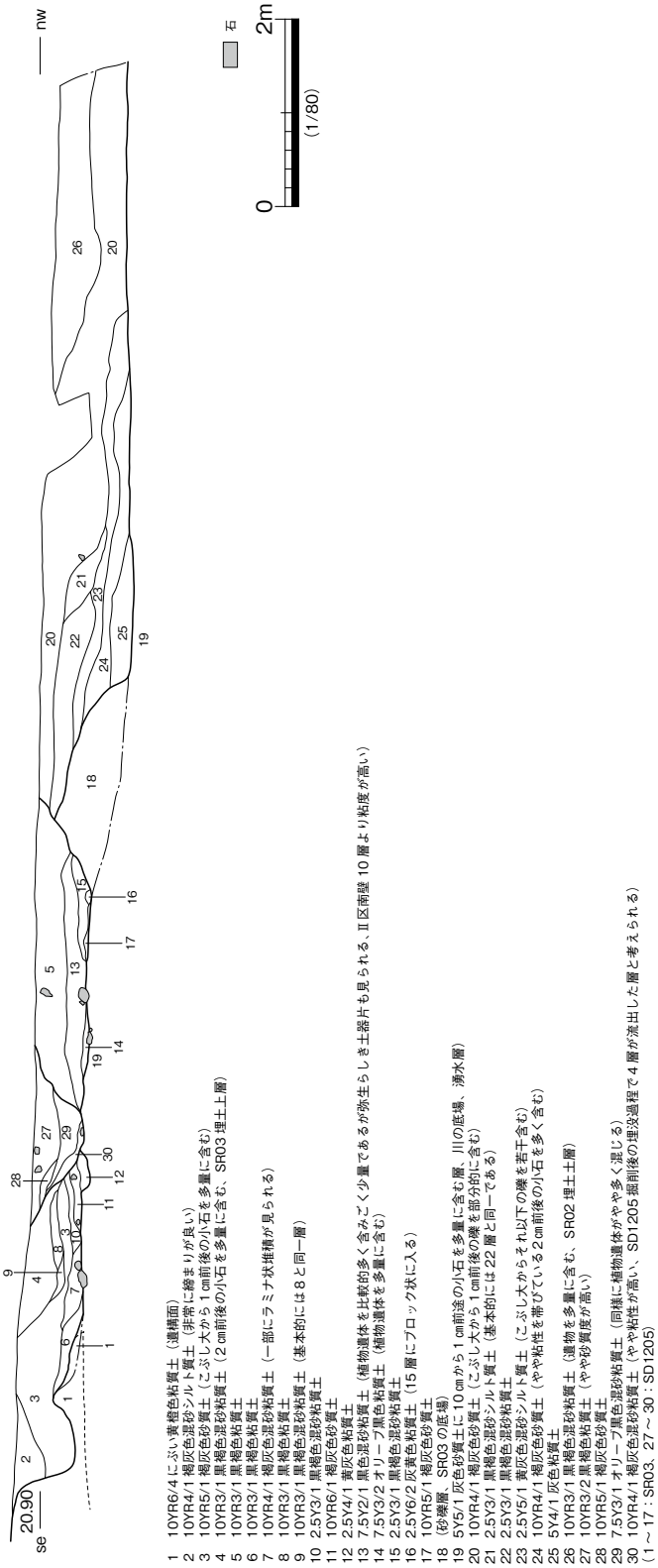
第 44 図　SR02　断面図

描き沈線を巡らす。105 も弥生時代前期の鉢もしくは高杯の口縁、106 は蓋形土器である。S6 はスクレイパー、S7 は刃部と基部を折損した打製石斧である。

第 47 図 107 ～ 110、S8 は、グリッドＥの中層出土の遺物実測図である。107、108 は弥生時代後期の壺、109、110 は同じく後期の高杯である。Ｓ８は形状から打製石斧の基部の破片と考える。グリッドＥの中層出土遺物はグリッドＦとは異なり、弥生時代後期前半の遺物が主体となる。SR02 中層は、弥生時代前期に埋没した河道を開折しながら弥生時代後期の河道が流れ、埋没したと判断され、弥生時代前期と後期の遺物が混在する様相を呈している。

第 48 図 111 ～ 113､Ｓ９､S10 は､グリッドＣの中層出土の遺物実測図である。111 は口縁端部に刻み目、端部よりわずかに下に刻み目突帯を付すもので、弥生時代前期の縄文系甕と考えた。縄文土器とするか弥生土器とするか悩ましいものがあるが、胎土や焼き上がりの様相のほか、ヘラ描き沈線がシャープなものを縄文土器と判断している。112 も口縁端部下に貼り付け突帯、以下に縦方向のヘラ描き沈線の文様を付す縄文系の甕、113 は如意状口縁で端部に刻み目、以下に２条のヘラ描き沈線を巡らす甕である。S10 は形状から未成品と考える。

第 49 図 114 ～ 118、S11、S12 は、グリッドＩ及びＶの中層出土の遺物実測図である。114 は弥生時代前期の壺の肩部の破片である。貼り付け突帯の両側に竹管文を巡らせている。115 も壺の肩部、多条のヘラ描き沈線を巡らす。116 は壺の胴部の破片、２条のヘラ描き沈線の下に円形浮文を巡らせる。



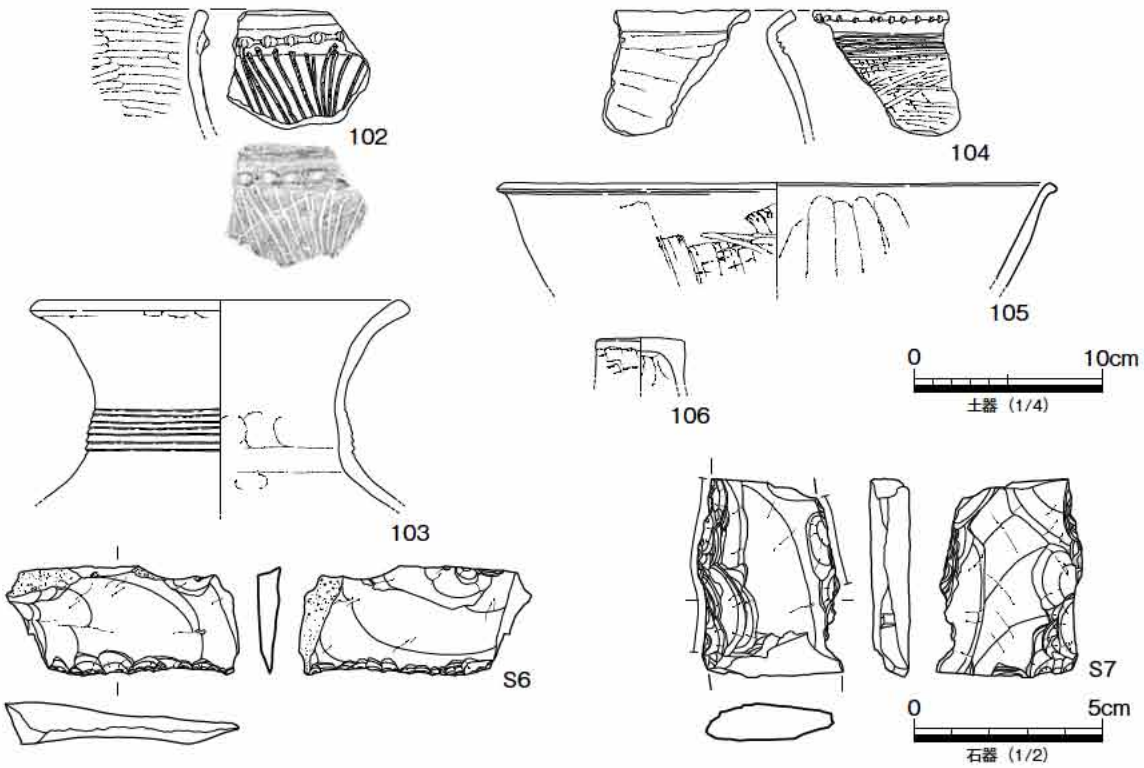
第45図　SR02・SR03　断面図

S11は先端を尖らせた刃部を作りだすが、細部調整を途中で放棄した未成品である。S12は打製石斧の基部片である。

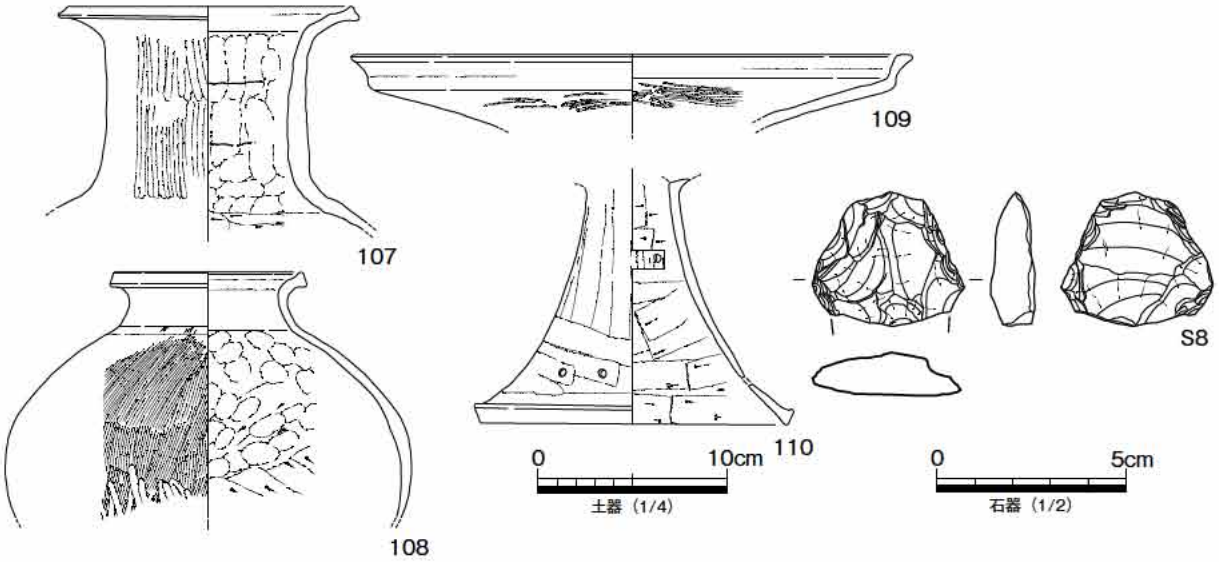
第50図W3、W4はグリッドAの中層出土の遺物実測図である。W3は広鍬。舟形隆起より右側と左側縁部の一部が欠損する。鍬身左側上部に方形の小孔が残る。W4は広鍬未成品。舟形隆起の部分に柄を通す穴があけられていない。第51図のW5は、ミカン割材の形状であるが、幅が狭く、ミカン割材製作時に生じた端材と考えられる。

第52図は、平成10年度調査分の出土遺物実測図である。SR02の平成10年度調査は、平成9年度調査分よりも河道の中心付近が対象である。ため池の池浚えによって大半が壊されており、わずかに平成9年度調査における中層以下の一部を検出したにとどまる。出土遺物は28リットル入りコンテナ2箱で、平成9年度調査対象地より出土遺物量が極めて少ないことを、当該期の集落が河川南側に展開したためと調査者は想定している。

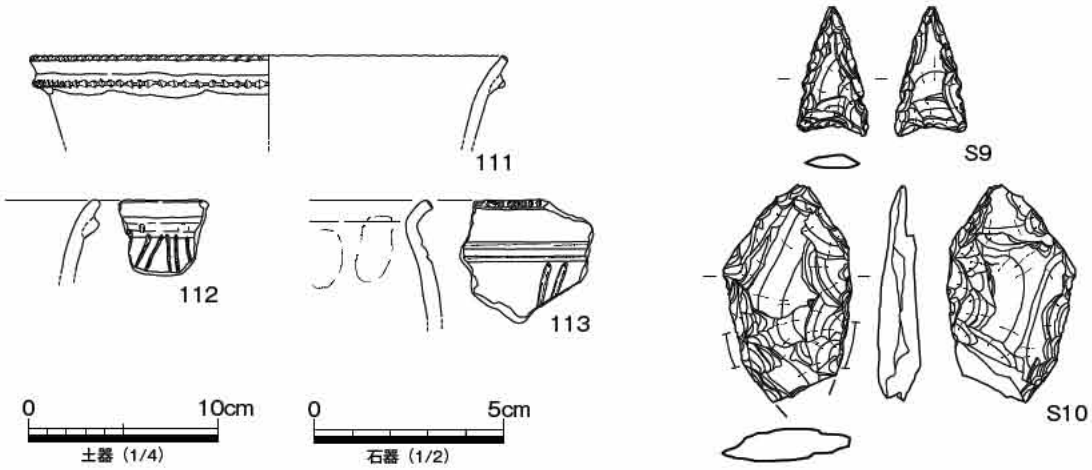
119～123は縄文土器と判断した。119は刻み目突帯の下に、鋭角に交わる2辺を上下に交互に配し、その内部に2、3条の沈線を描いている。123は壺とした。124は弥生時代前期の壺。短く外反する口縁をもち、肩部に1条のヘラ描き沈線を巡らす。前期の前半に位置づけられる。125は如意状で端部に刻み目、以下に2条のヘラ描き沈線を巡らす甕、127、128は甑、129は粘土塊をそのまま脚



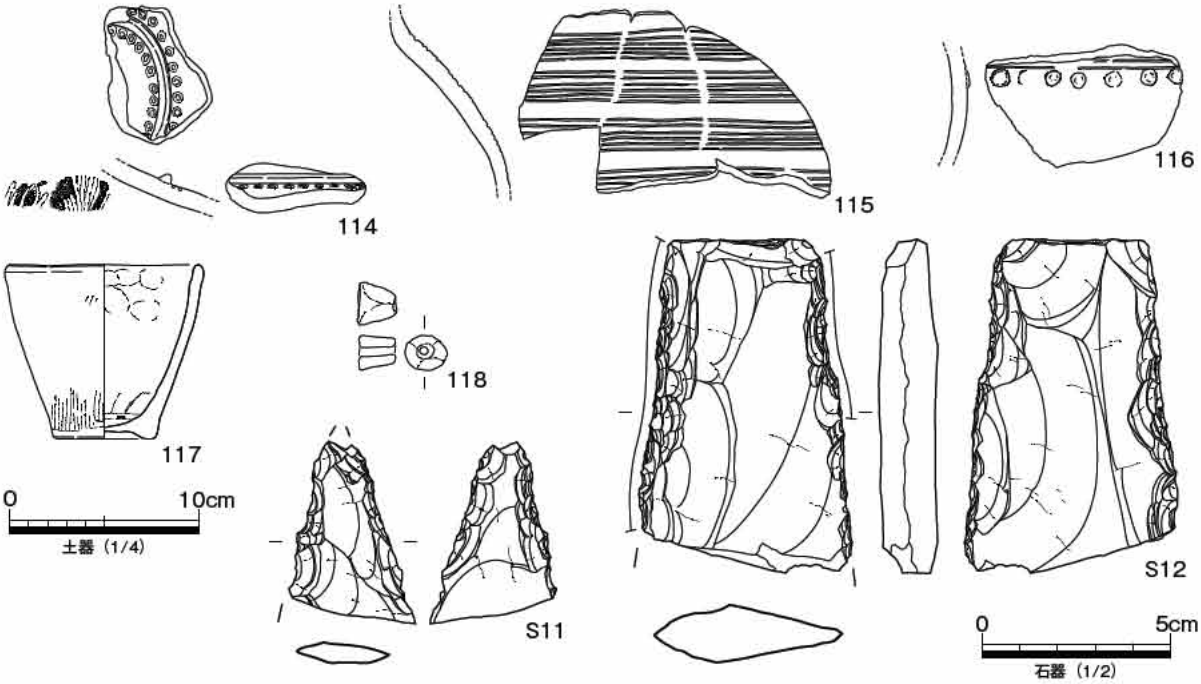
第 46 図　SR02　中層（グリッド F）　出土遺物実測図



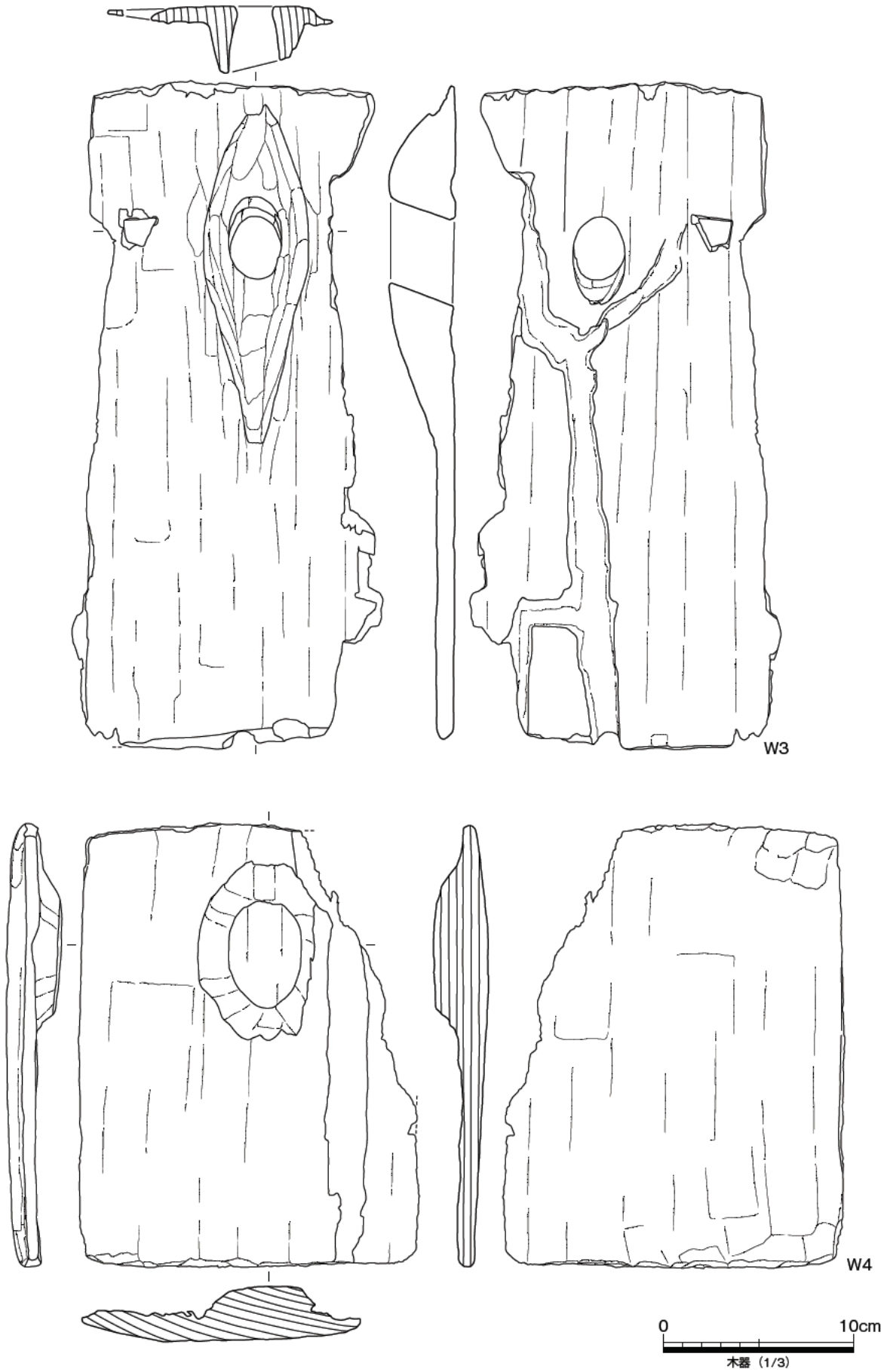
第 47 図　SR02　中層（グリッド E）　出土遺物実測図



第 48 図　SR02　中層（グリッド C）　出土遺物実測図



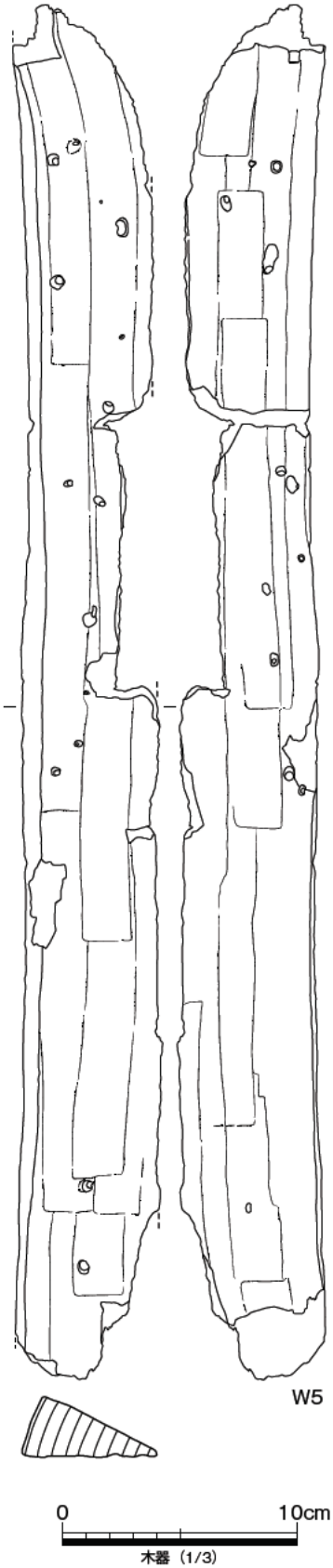
第 49 図　SR02　中層（グリッド I・V）　出土遺物実測図



第 50 図　SR02　中層（グリッド A）　出土遺物実測図 (1)

部とした高杯である。S13 は両側縁に抉りを入れ、背部を潰した打製石庖丁である。

以上が、SR02 の中層から出土した遺物である。先述したとおり少量の縄文時代晩期の土器、弥生時代前期前半および中葉の土器、弥生時代後期前半の土器が混在する。なお、この上層の黒褐色粘質土層中から出土する土器も同様の様相を示す。



第 51 図　SR02　中層（グリッド A）　出土遺物実測図 (2)

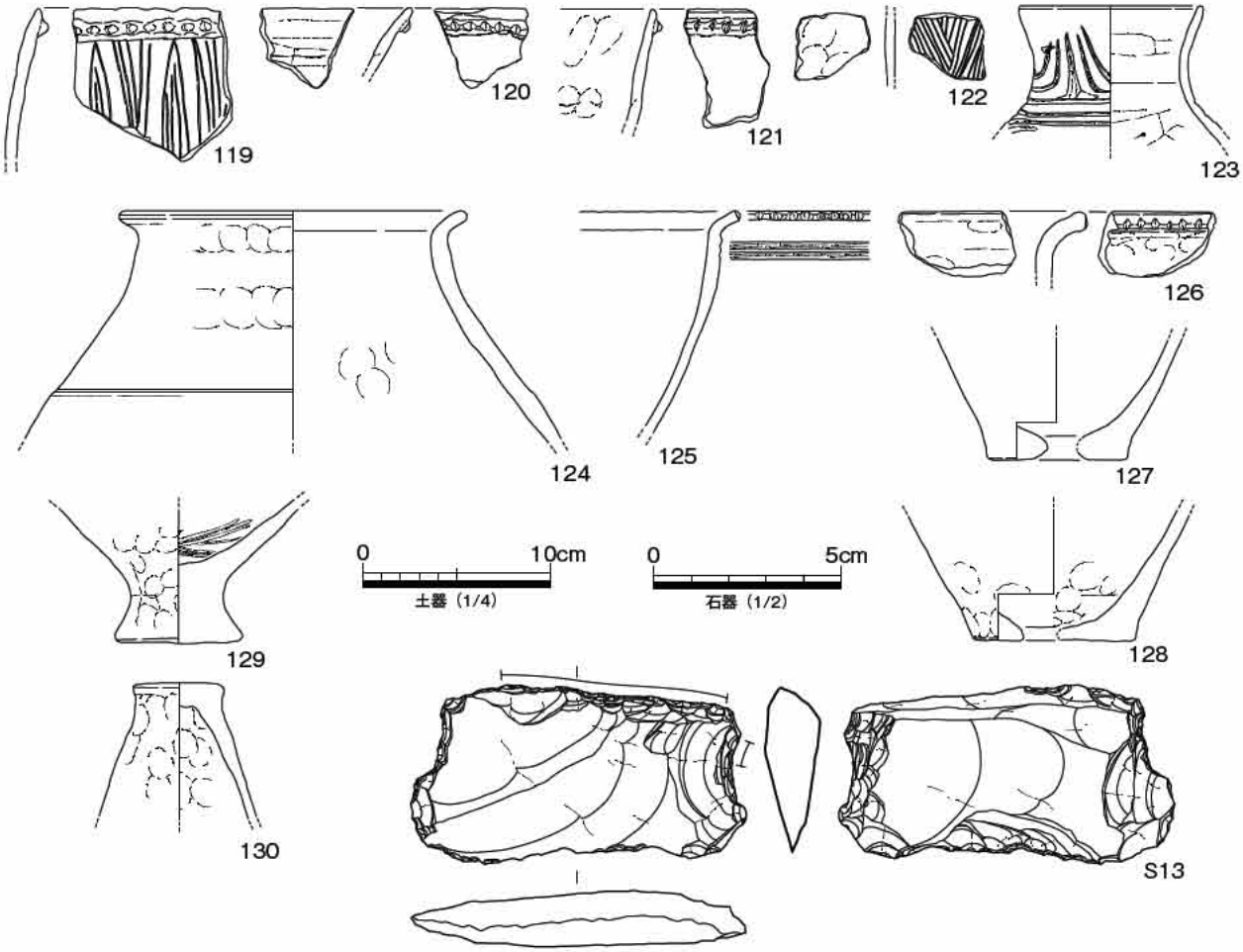
SR02 上層の黒褐色粘質土層出土の遺物もグリッド毎に報告する。

第 53 図はグリッド G の上層出土の遺物実測図である。131 ～ 137 は弥生時代前期のもので、131 は頸部に 4 条のヘラ描き沈線を巡らす壺、132 ～ 134 は逆 L 字状口縁の甕（135 も口縁部が剥落しており、逆 L 字状口縁と考えられる）である。132 は 12 状のヘラ描き沈線の下に刺突文を巡らし、133 は 8 条のヘラ描き沈線を巡らす。136 は鉢、137 は小型の蓋である。139 は弥生時代後期後半に下る甕である。内面は胴部中位以下をヘラ削りしている。S14 は打製石庖丁、一側縁に抉りが見られ、片側は折損する。

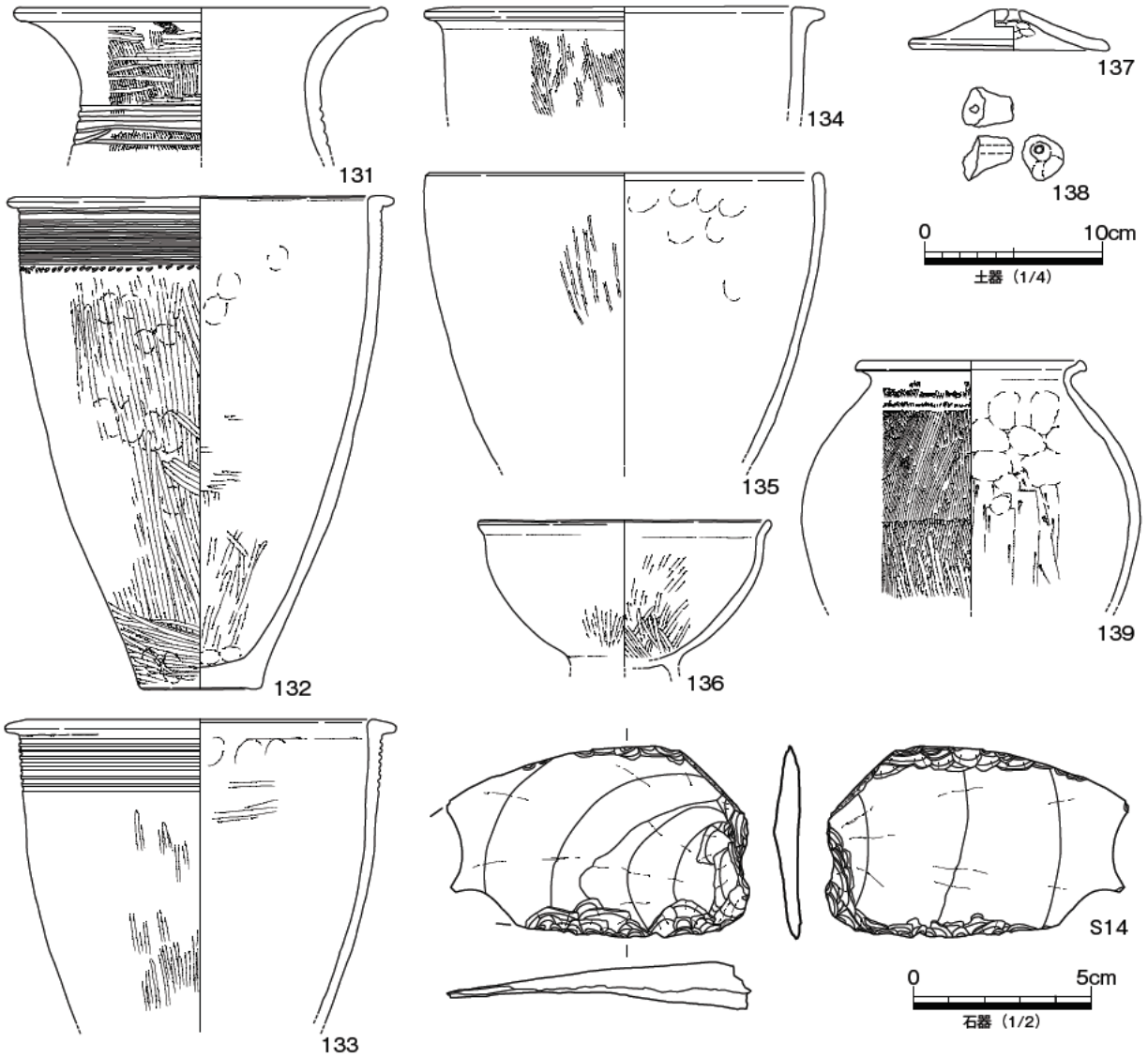
第 54、55 図はグリッド F の上層出土の遺物実測図である。第 54 図は弥生時代前期、第 55 図は弥生時代後期の遺物である。140 ～ 145 は壺である。140、141 は口縁部内面に貼り付け突帯による文様がある。141 ～ 144 は肩部、胴部に多条のヘラ描き沈線が見られる。146 ～ 149 は甕、いずれも口縁端部に刻み目をもち、如意状の断面形の 146、147 は 4 条と 14 条のヘラ描き沈線、逆 L 字状の断面形の 148、149 は 8 条と 11 条のヘラ描き沈線、148 は沈線下に刺突文が施される。150 は高杯の杯部と脚部の境界部である。突帯が巡り、以下にヘラ描き沈線による文様帯がある。

第 55 図 153 ～ 156 は甕、157 ～ 166 は高杯である。いずれも香東川下流域の胎土によって製作されている。153、155、156 の外面は上半がハケ、下半がヘラミガキ、153 は胴部最大径のやや上位に板状工具による圧痕が巡る。157 ～ 161 は高杯の杯部である。口縁部は上方に立ち上がったあとに緩く外反する形態で、157 ～ 159 は口縁端部上面に平坦面が残る。内外面のいずれもヘラミガキされている。このほかに鉢、製塩土器等が出土している。

第 56 ～ 58 図はグリッド E の上層出土の遺物実測図である。172 は縄文晩期の深鉢の小片である。173 の壺は、口縁端部に刻み目を施し、口縁部内面にも刻み目突帯を巡らせている。174 ～ 177 は壺、175、176 は胴部最大径付近と頸部との境界の中間



第 52 図　SR02　中層　出土遺物実測図

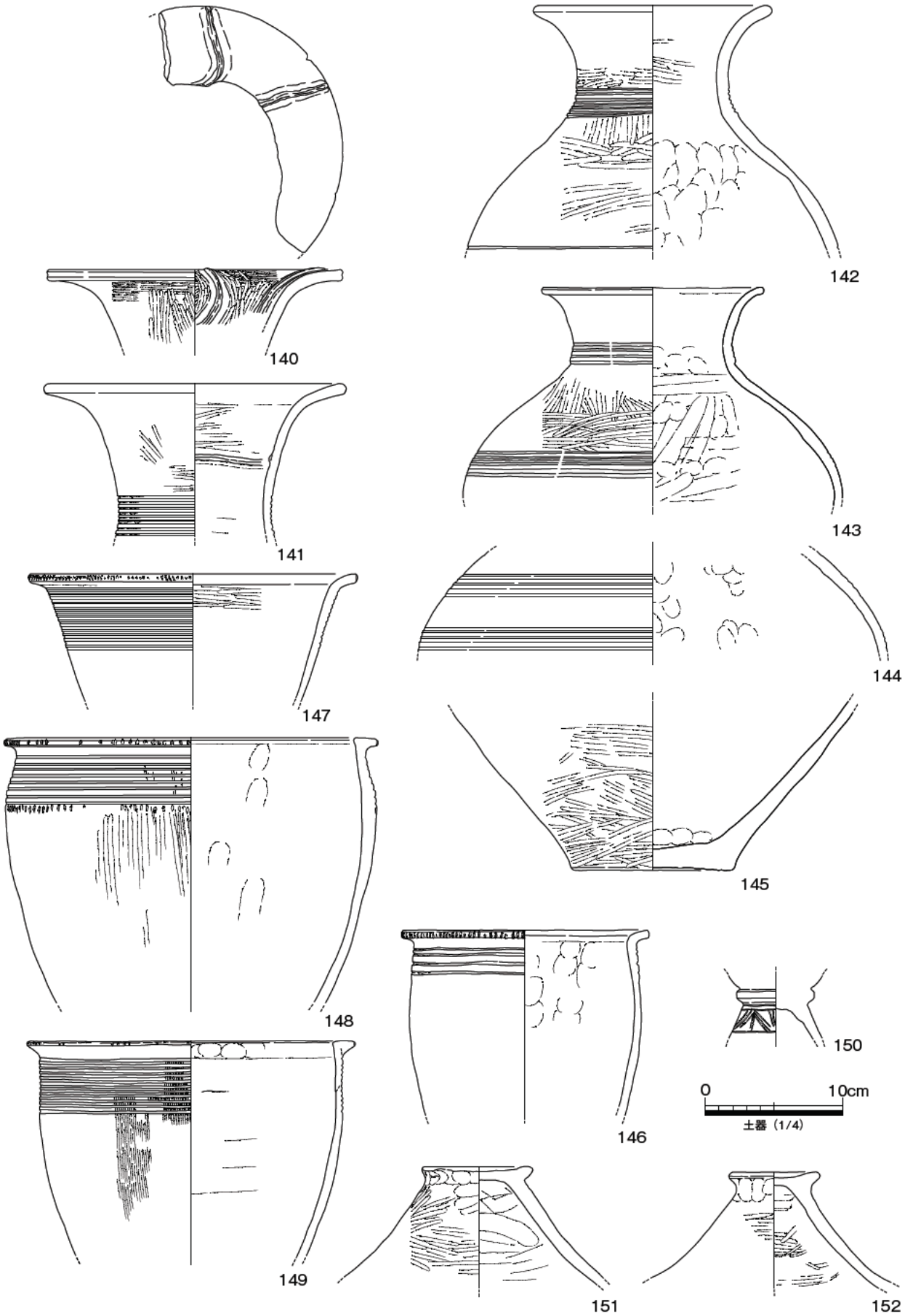


第 53 図　SR02　上層（グリッド G）出土遺物実測図

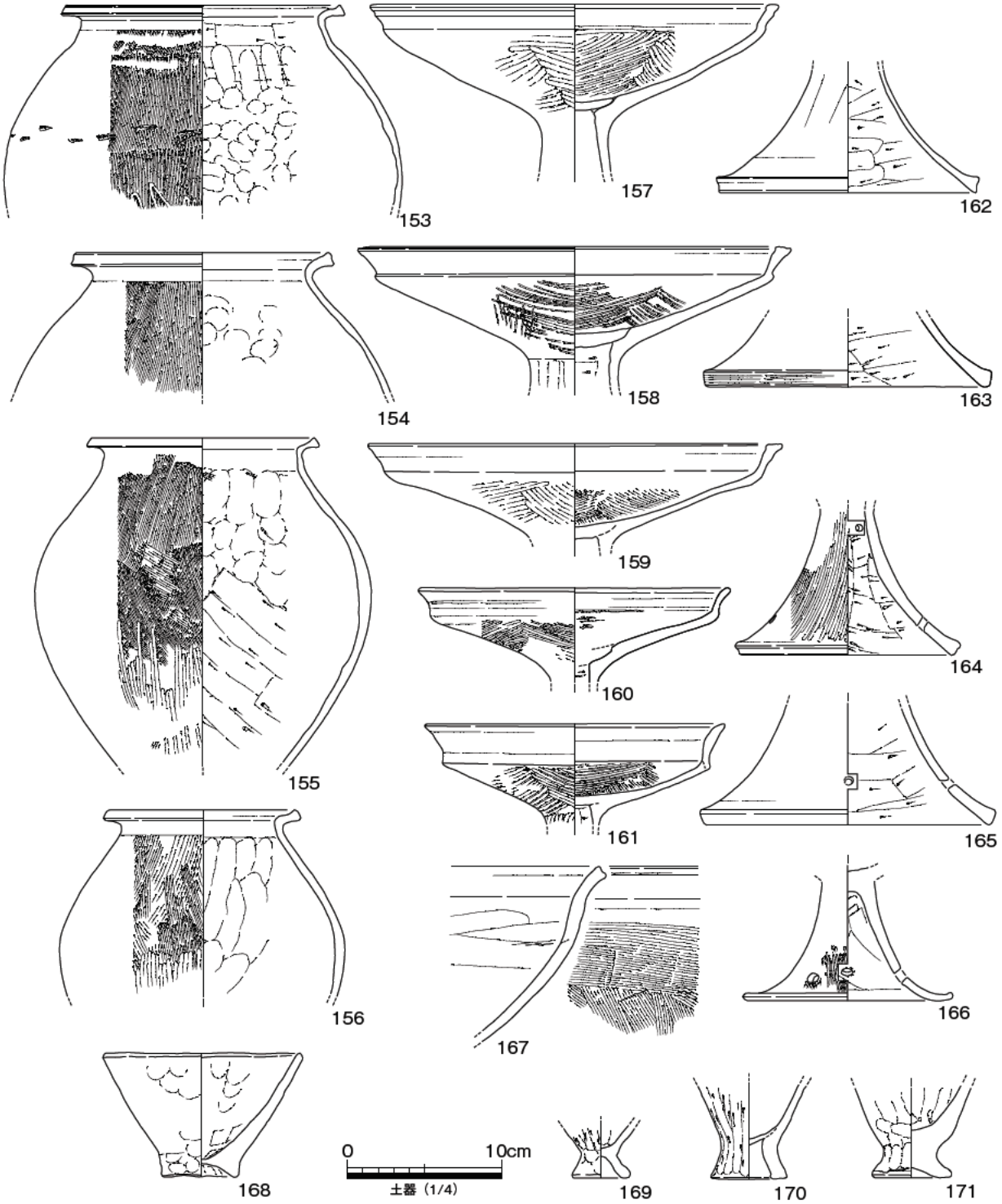
に数条のヘラ描き沈線を施す。175 はさらに頸部に刻み目突帯とヘラ描き沈線を巡らす。177 は胴部最大径付近に 3 条の貼り付け突帯を巡らせている。178 ～ 180 は壺胴部の破片である。ヘラ描き沈線間に刺突文を巡らすもの（178）、ヘラ描き沈線と刻み目突帯を巡らせるもの（179、180）がある。181 ～ 187 は甕である。181 は如意状口縁で 1 条のヘラ描き沈線が巡る。186、187 は下方に突出する逆 L 字状口縁で、端部に刻み目が施される。190、191 は高杯、192 は鉢としたが蓋である可能性もある。

第 57 図は第 55 図掲載の土器と類似する様相を呈する。206 の須恵器杯蓋は混入と考えられる。SR02 上層には一定量の古墳時代以降の遺物が出土しているが、黒褐色粘質土層上に存在した遺構を的確に把握することは困難で、一定量の後代の遺物が混入することはやむをえないことと考える。

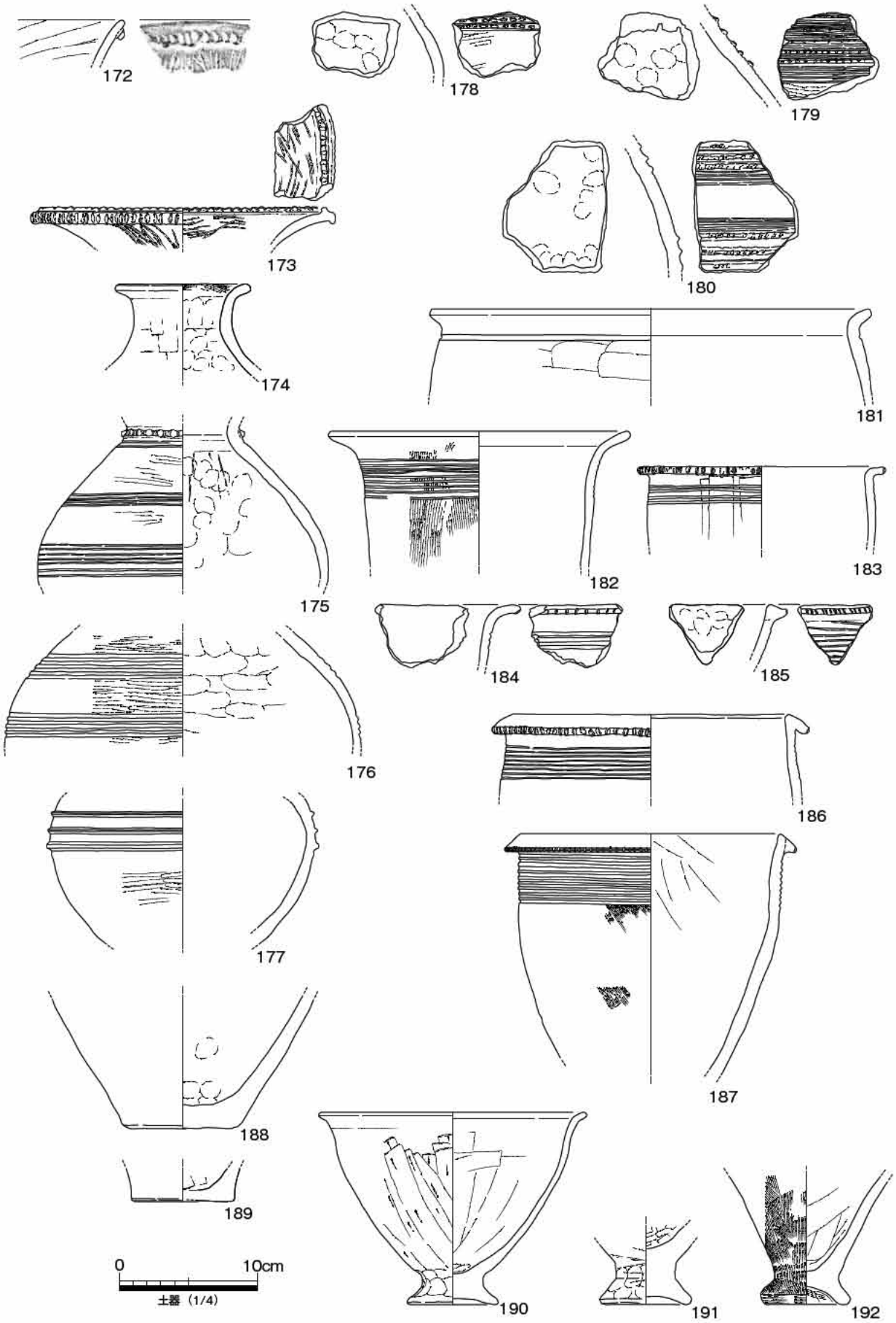
第 58 図 S16 はグリッド E 上層出土の太型蛤刃石斧である。先端部を折損する。重さ 1230 g を測る大型品である。



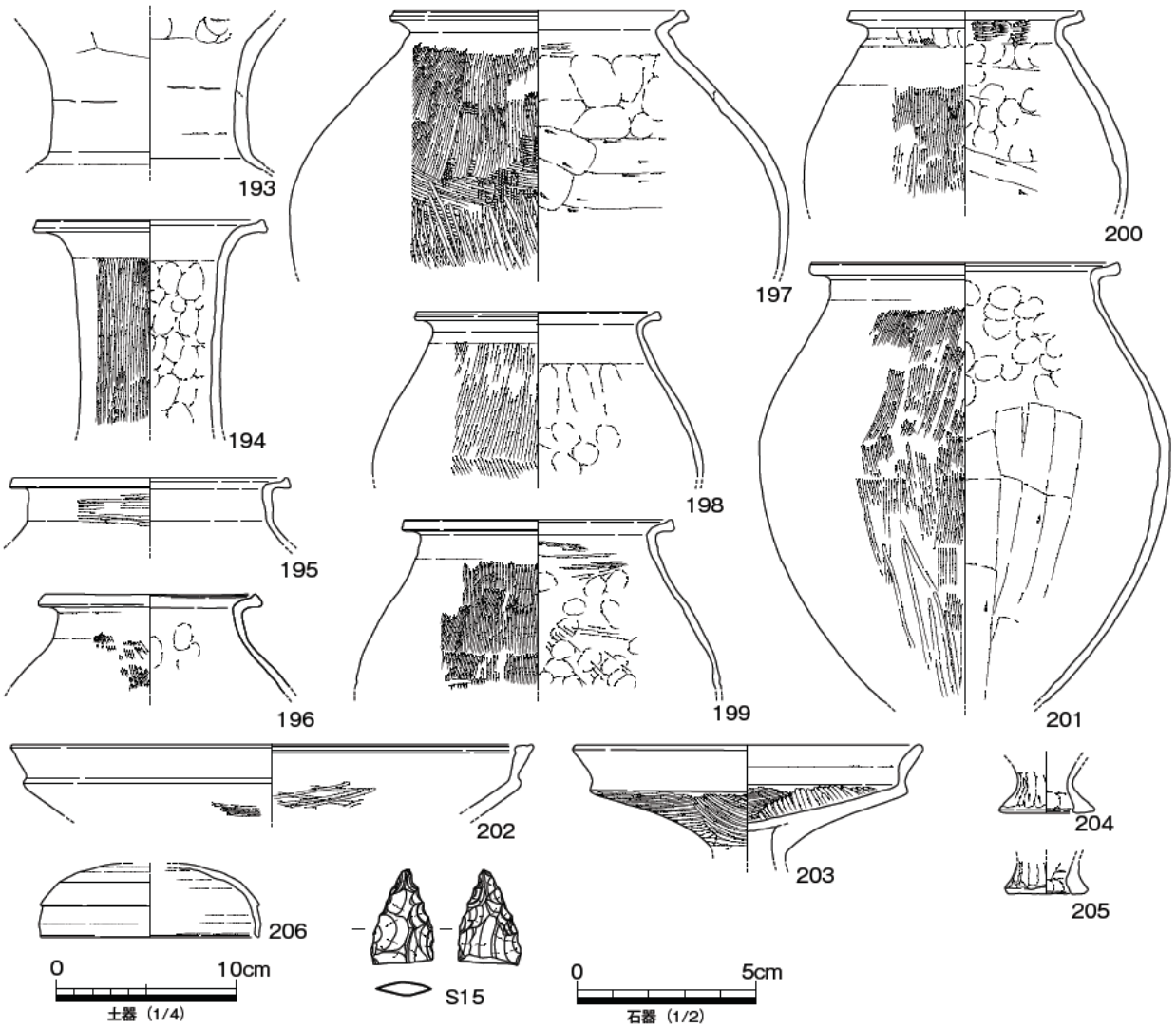
第 54 図　SR02　上層（グリッド F）出土遺物実測図 (1)



第 55 図　SR02　上層（グリッド F）出土遺物実測図 (2)



第 56 図　SR02　上層（グリッド E）出土遺物実測図 (1)

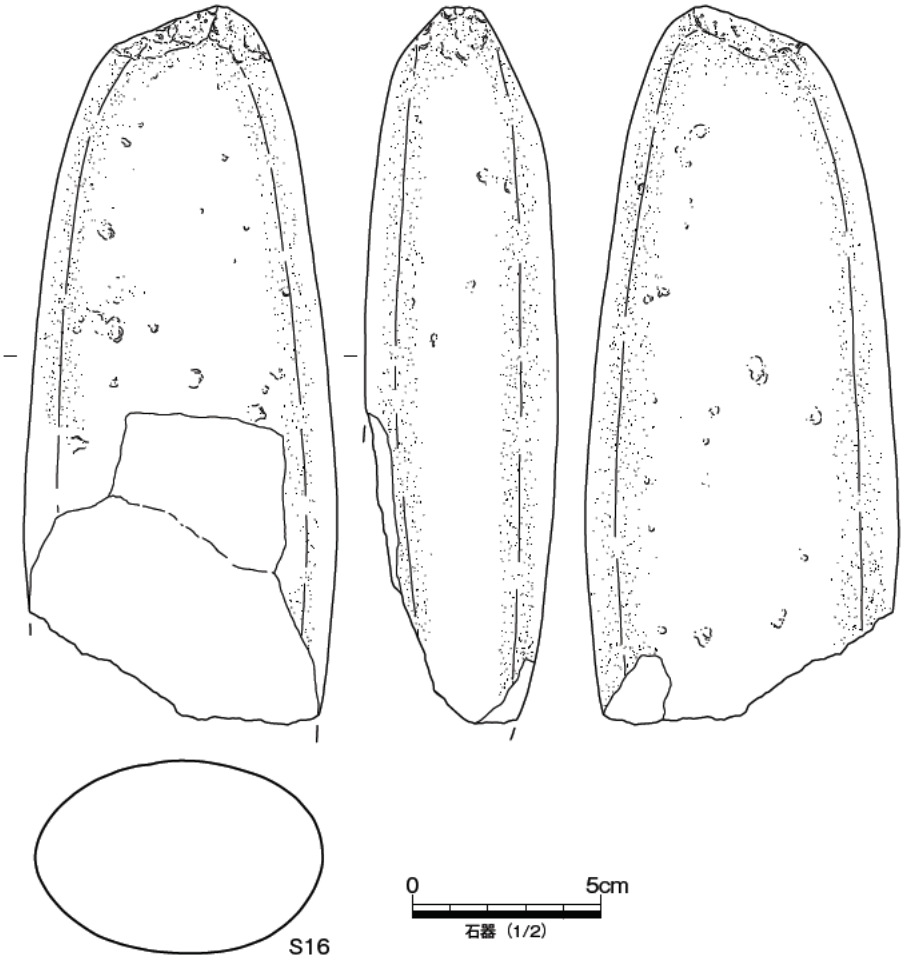


第 57 図　SR02　上層（グリッド E）出土遺物実測図 (2)

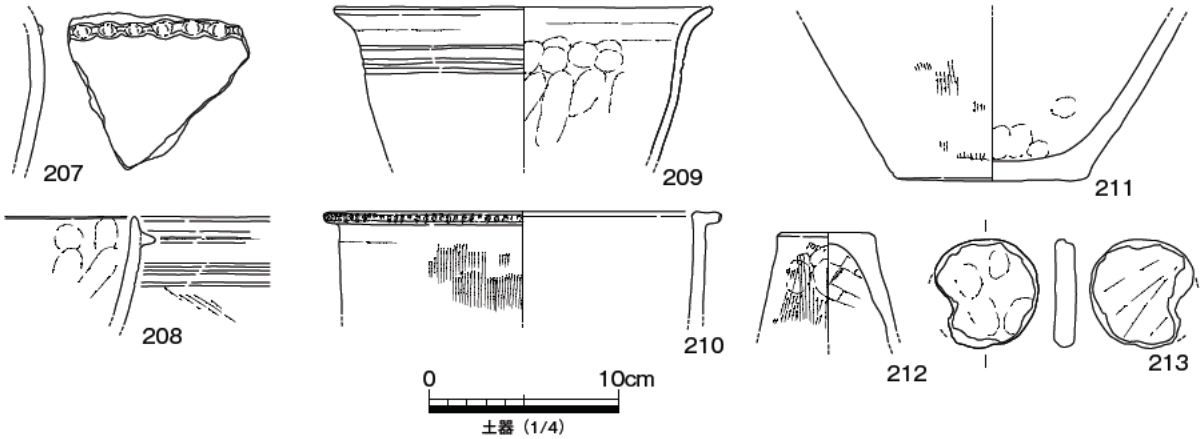
第 59 図はグリッド M 上層出土の遺物実測図である。207 は刻み目突帯を付す壺の破片、208 は口縁部やや下に貼り付け突帯を付し、３条のヘラ描き沈線を巡らす甕、209 は如意状口縁で３条のヘラ描き沈線を巡らす甕、210 は逆 L 字状で口縁端部に刻み目を施す甕である。

第 60 ～ 62 図及び第 63 図 W ８はグリッド D 上層出土の遺物実測図である。214､215 は縄文土器深鉢、216 ～ 222 は弥生時代前期の壺である。220 は外面に複数の円形浮文を付している。223 ～ 232 は甕である。230 は口縁端部に刻み目を施し､上面に竹管文を並べている。また､小孔が見られる。233 の壺の底部には、底部外面に４条のヘラ描き沈線が巡っている。240、241 は蓋形土器、242 ～ 244 は紡錘車である。

245 ～ 262 は弥生時代後期に属すると考えられる。245 の壺は口縁端部に２条の擬凹線文をもち、頸部外面はハケの後にヘラミガキによる平行する文様を施す。246 は香東川下流域の胎土による長頸壺である。胴部下半はハケの後にヘラミガキされ、上半はハケ、頸胴部の境界に１条の沈線を巡らし、その上にハケ原体による圧痕文を巡らせる。253 ～ 256 は高杯､257 は大型の鉢､258 は脚台を持つ鉢である。263 の高杯は杯部内面の絞り目から土師器と考えられる。264 の須恵器杯身と合わせて混入と考えられ



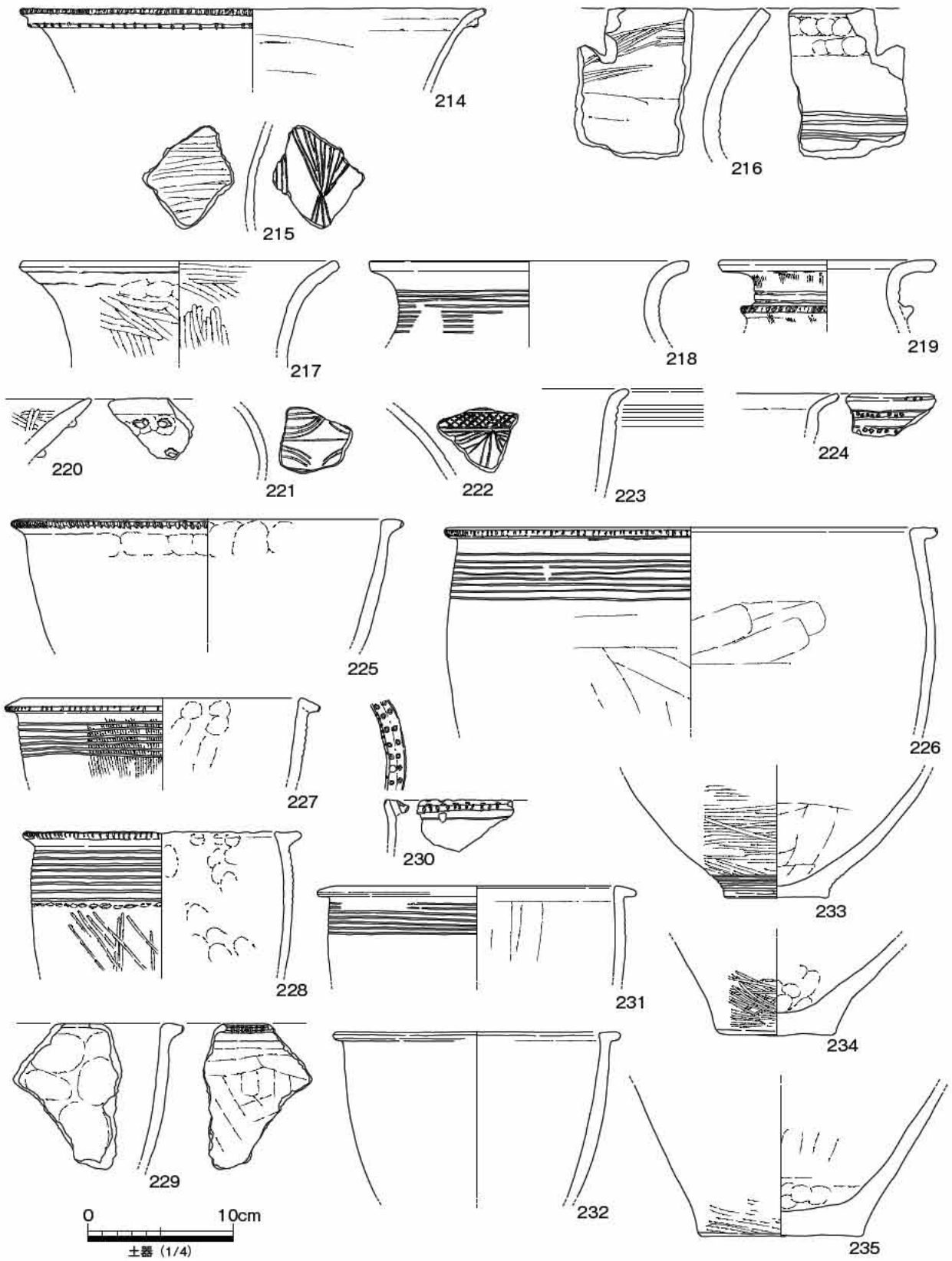
第 58 図　SR02　上層（グリッド E）出土遺物実測図 (3)



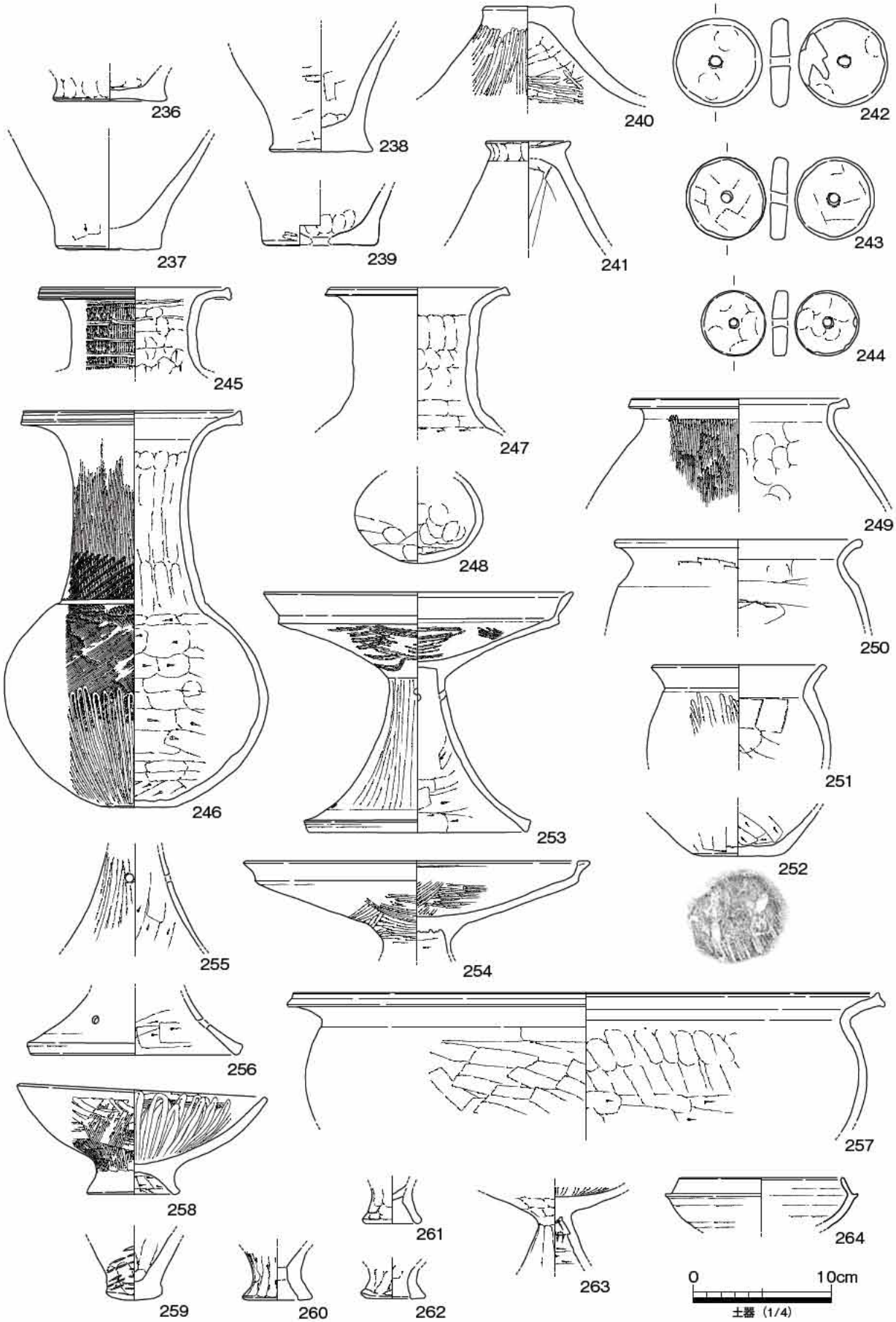
第 59 図　SR02　上層（グリッド M）出土遺物実測図

る。このほかサヌカイト製の打製石鏃（S17）、打製石庖丁（S18）、磨製石庖丁が出土している。

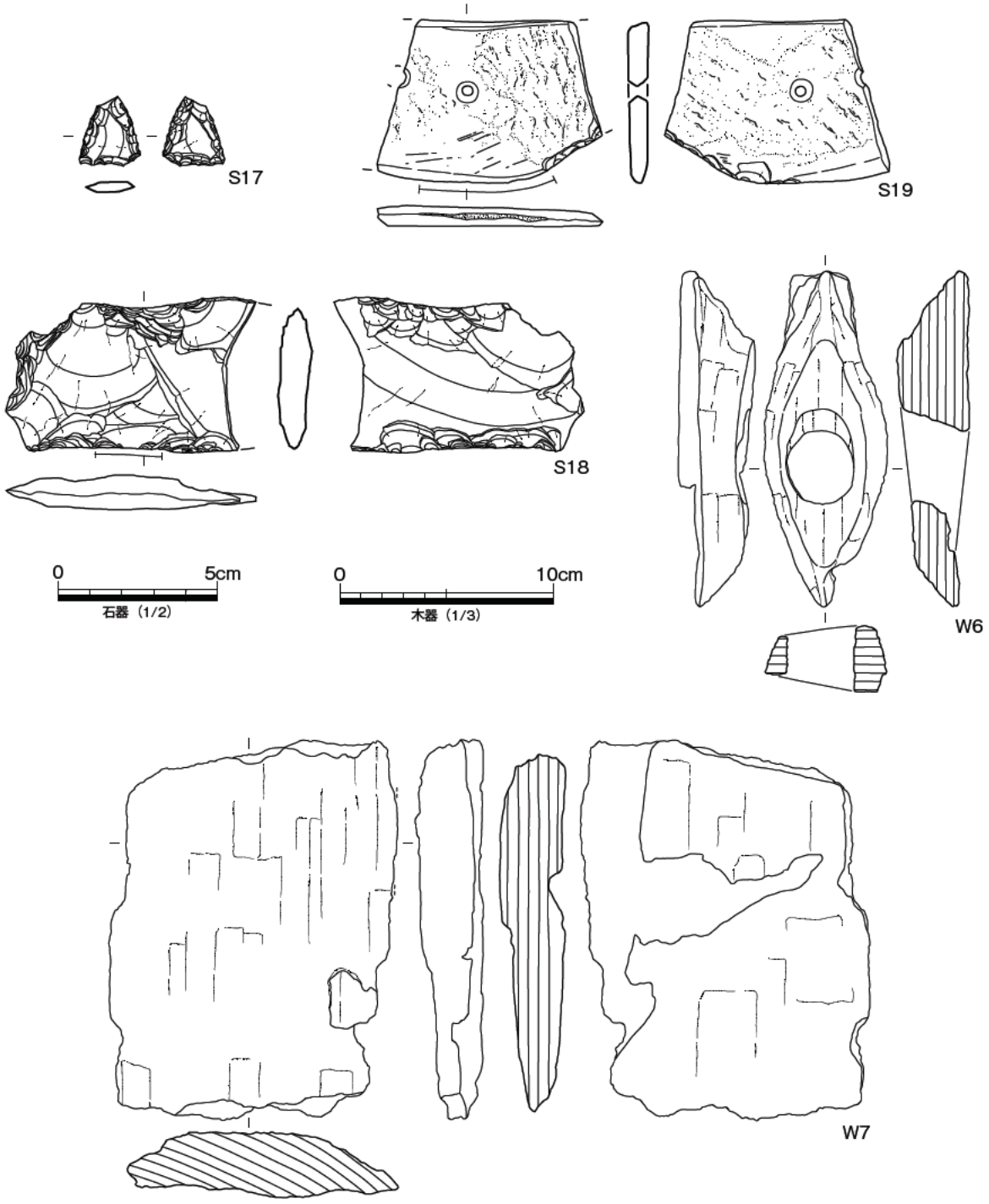
W6 は鍬の舟形隆起の部分。W7 は厚みのある板状の木製品。鍬の未成品の一部と考えられる。W8 は曲柄広鍬。身幅は直線的で、下側の刃の部分は欠損する。



第 60 図　SR02　上層（グリッド D）出土遺物実測図 (1)

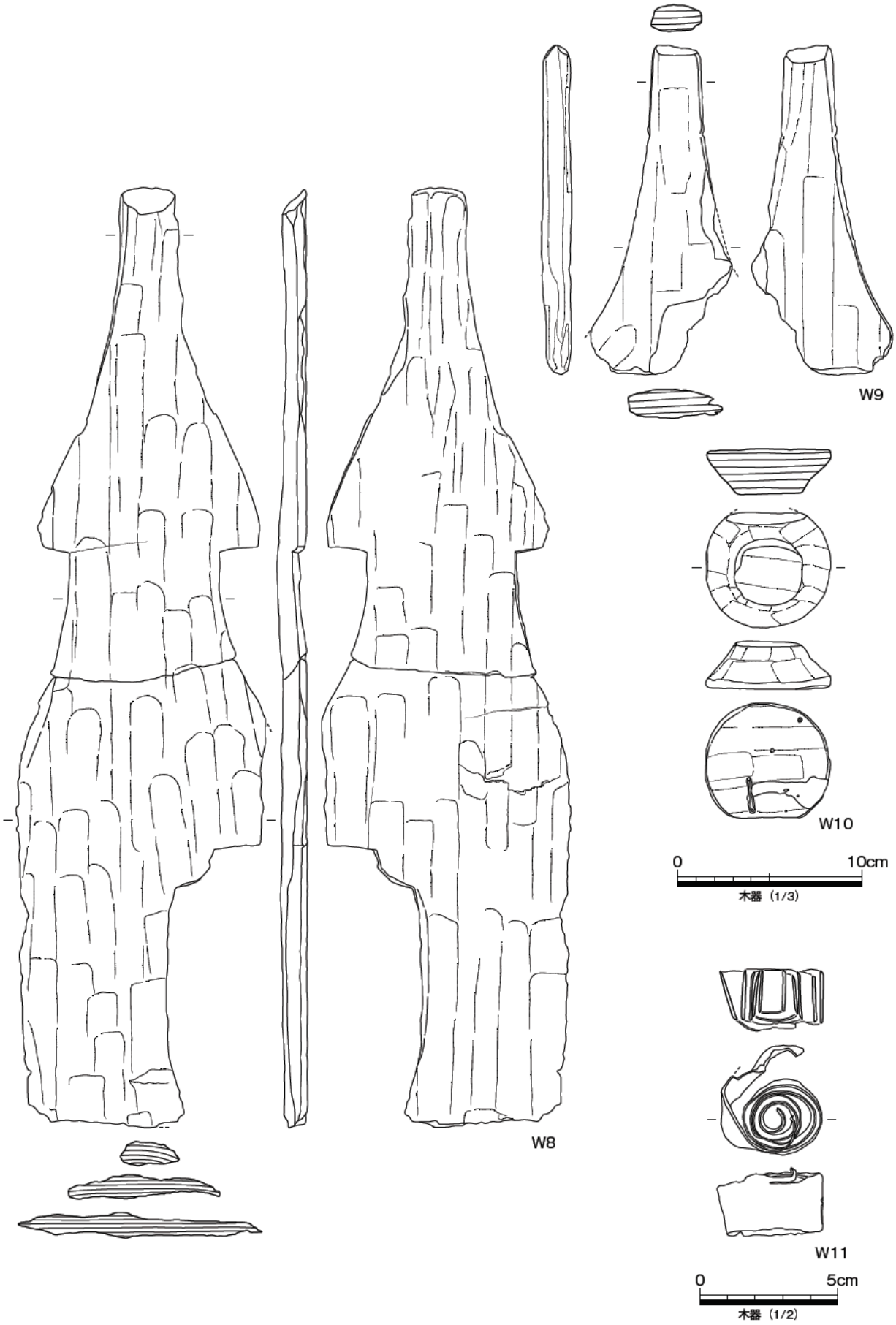


第61図　SR02　上層（グリッドD）出土遺物実測図(2)

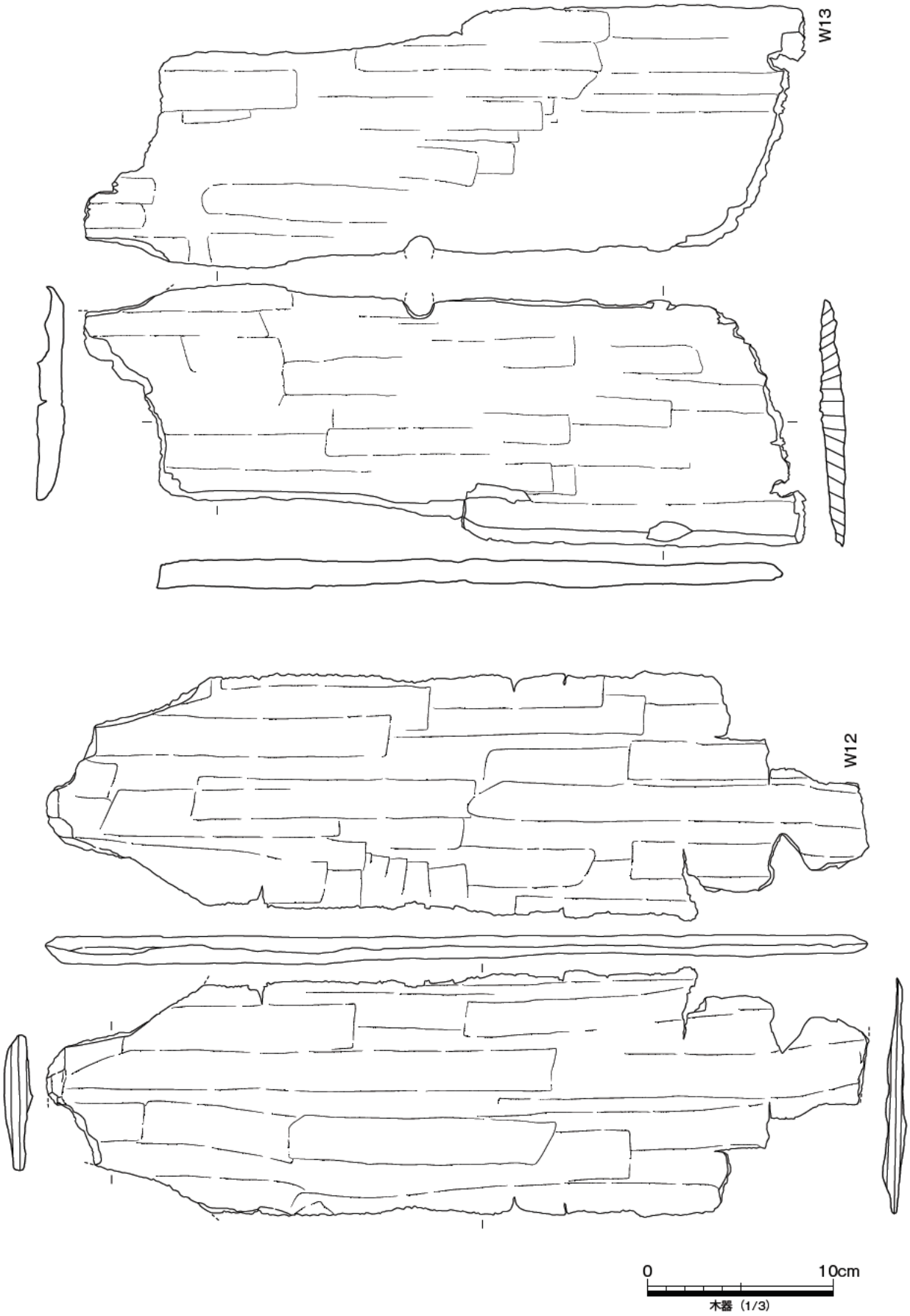


第 62 図　SR02　上層（グリッド D）出土遺物実測図 (3)

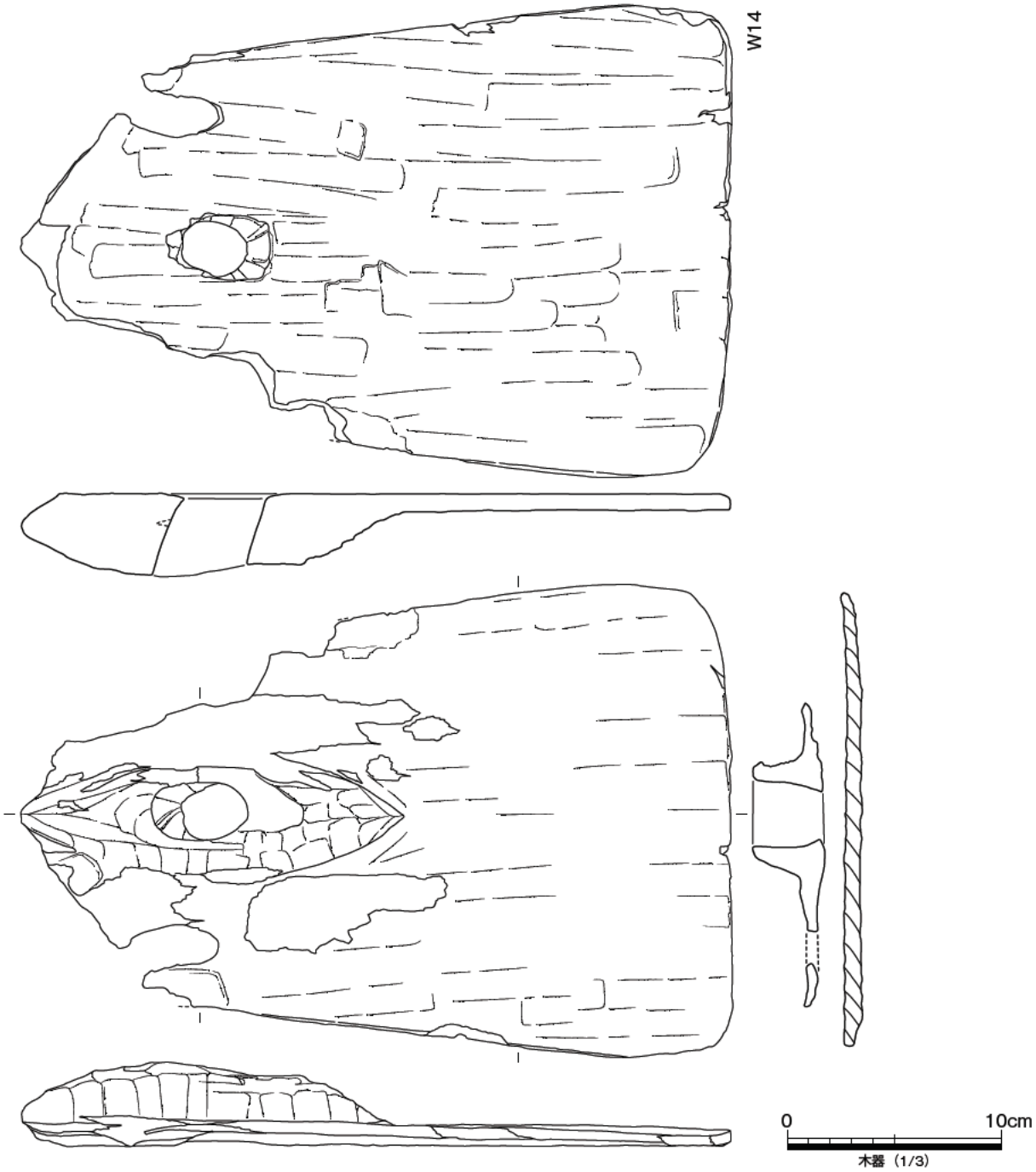
第 63 図（W 9 ～ 11）～ 67 図は、グリッド C 上層出土の遺物実測図である。W9 は曲柄広鍬の柄の取り付け部分。W10 は用途不明。円錐形の上部を切り離した形状で、上面、下面とも平らにする。W11 は薄く木材を削った削りくず。W12 は鋤または掘り棒と考えられる。W13 は板状の木製品で、円形の穴が 1 ヶ所に残る。残存状態は良くないが、鋤の一部と考えられる。W14 は広鍬。刃が下側へ広がる形状。舟形隆起より右側と左側上部が欠損する。舟形隆起の左側には円孔が残る。



第 63 図　SR02　上層（グリッド D・C）出土遺物実測図

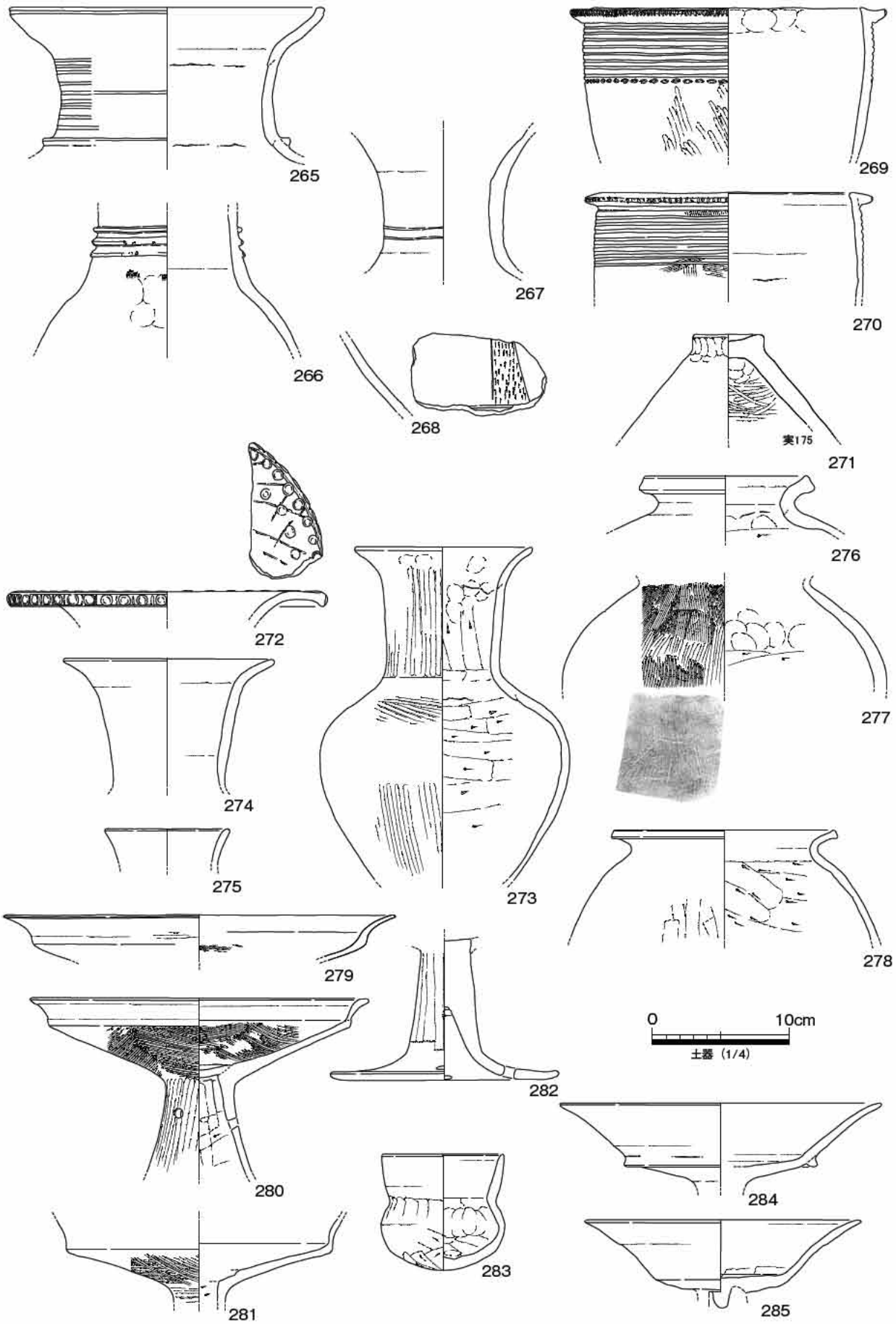


第 64 図　SR02　上層（グリッド C）出土遺物実測図 (1)

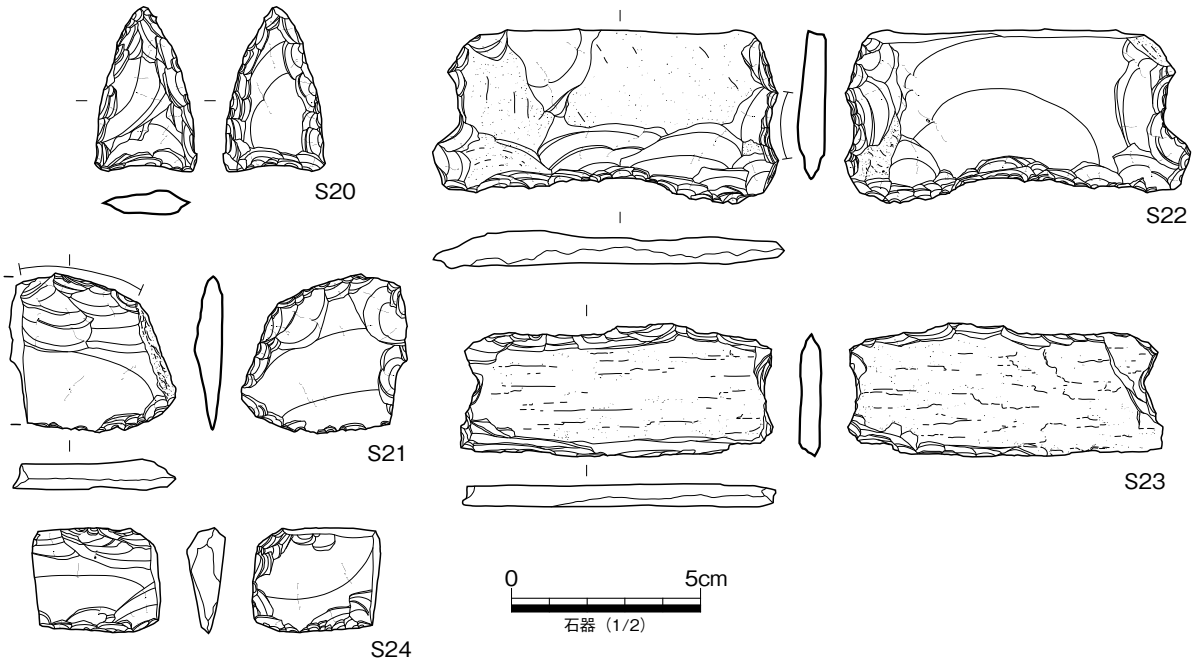


第 65 図　SR02　上層（グリッド C）出土遺物実測図 (2)

265 は直立する頸部から内湾する口縁部をもつ壺で、頸胴部の境界に貼り付け突帯、頸部に９条のヘラ描き沈線を巡らす。266 は頸部に３条の貼り付け突帯、267 は３条のヘラ描き沈線を巡らす。268 は壺の肩部の破片と見られ、沈線で区画した内側に縦方向の列点を多数施している。269、270 の甕は逆 L 字状口縁で、口縁端面に刻み目を施し８、９条のヘラ描き沈線を巡らす。また、269 はその下に刺突文を巡らしている。272 の壺は口縁端部に円形浮文と刻み目を交互に配し、口縁内面に斜格子文と２列の円形浮文を巡らす。弥生時代Ⅲ様式の壺である。277 は肩部にヘラによる記号文が認められる。279



第 66 図　SR02　上層（グリッド C）出土遺物実測図 (3)



第 67 図　SR02　上層（グリッド C）出土遺物実測図 (4)

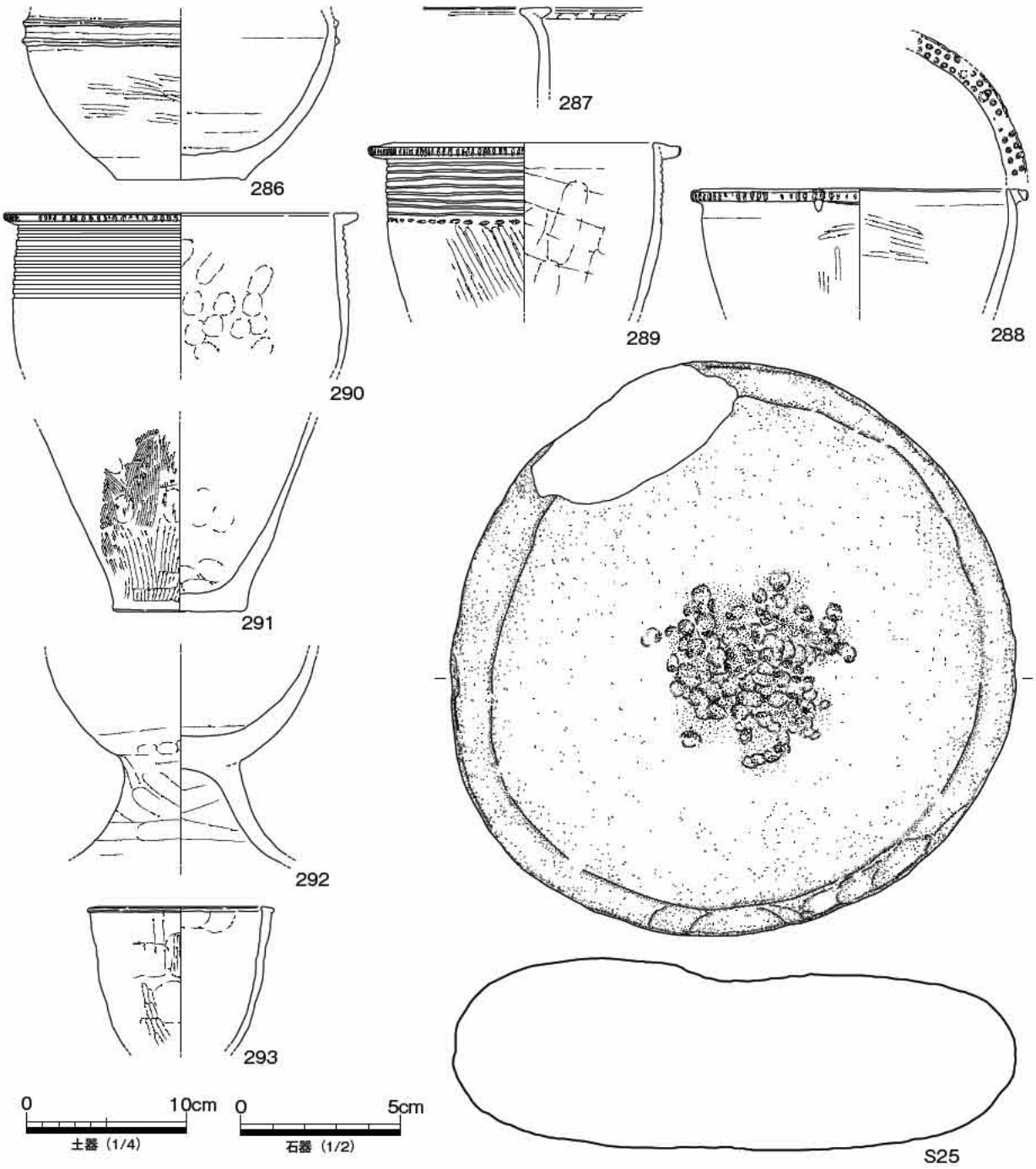
～ 282 は高杯。279 ～ 281 は「ハ」字状の脚部を持つと思われるが、282 のように直立気味の脚から水平方向に開き脚端部を作るタイプと共伴するようで、第 55 図 164、165 と 166 との間でも見られる。283 ～ 285 は古墳時代の土師器であり混入と考えられる。

S20 は大型の石鏃、S21 はスクレイパーである。S22 は両面に自然面ののこる打製石庖丁、S23 は緑泥片岩製で、両側縁に抉りを入れた打製石庖丁、S24 は楔形石器である。

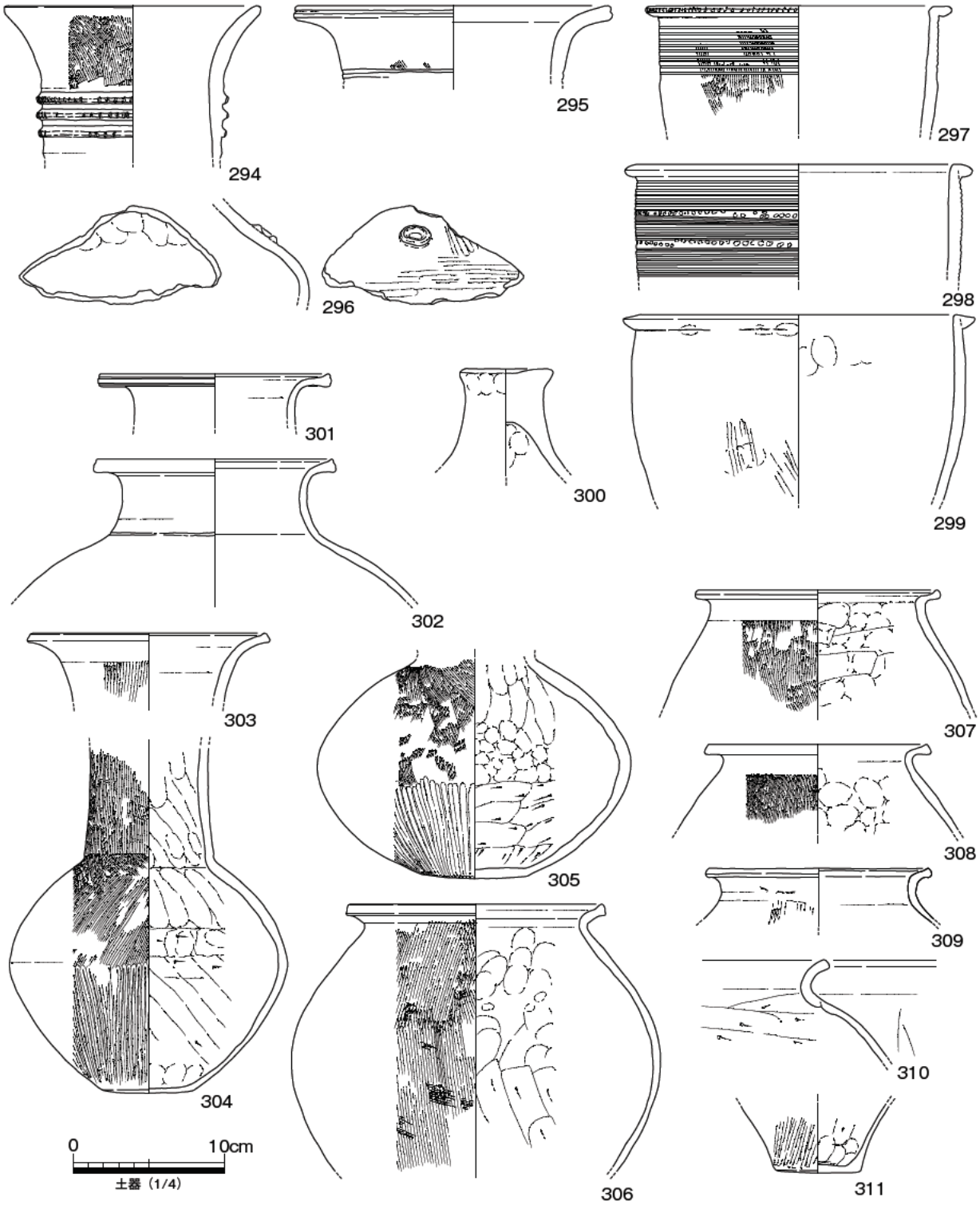
第 68 図はグリッド K の上層出土の遺物実測図である。286 は胴部最大径付近に２条以上の貼り付け突帯を付す壺、287 ～ 291 は甕である。288 は口縁部上面に竹管文を巡らし、２孔を一対とすると考えられる小孔がある。292 は高杯、293 は鉢である。S25 はやや扁平な砂岩円礫で、一面の中央部に敲打痕ののこる凹石である。

第 69､70 図はグリッド J･B の上層出土の遺物実測図である。294 ～ 300 は弥生時代前期の土器である。294 ～ 296 は壺で、296 は肩部に輪状の円形浮文を付している。297 ～ 299 は甕、298 は 20 条を越えるヘラ描き沈線と列点文を巡らす。301 ～ 324 は弥生時代後期前半の土器である。301 ～ 305 は壺、304、305 の胴部外面上半はハケ、下半はヘラミガキ、内面下半はヘラ削りである。丸底化が認められるが、まだ明瞭な平底である。306 ～ 311 は甕､312 ～ 319 は高杯､320 ～ 322 は鉢､323､324 は製塩土器である。S27 は扁平な砂岩円礫の凹石である。両面に敲打痕が認められる。S26 は刃部を折損した打製石斧と考える。

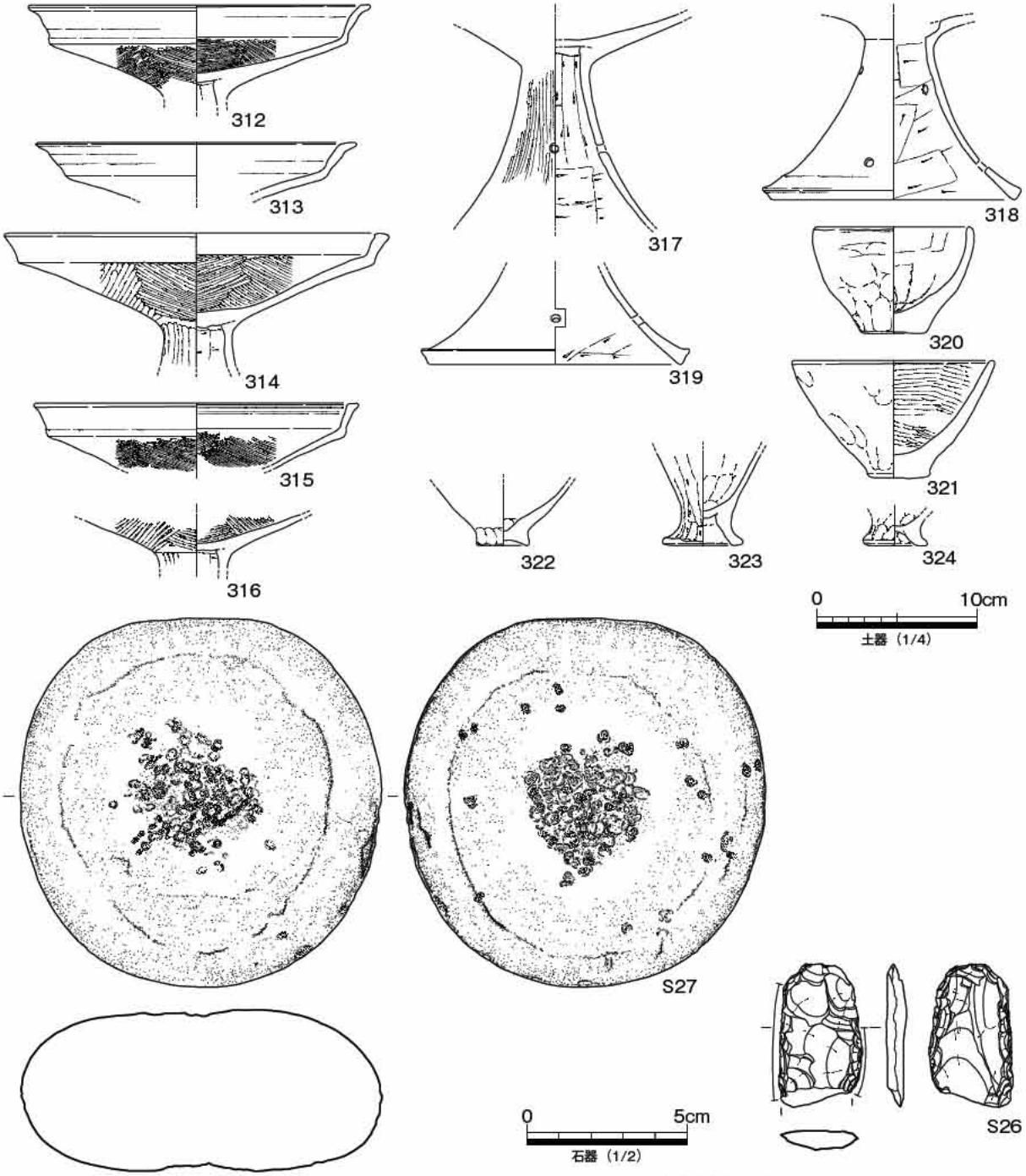
第 71、72 図はグリッド A・I・T の上層出土の遺物実測図である。325 は壺の胴部の破片と思われるが、櫛描きにより波状文や直線文が施されている。326 は大型の壺底部である。328 ～ 344 は弥生時代後期前半の土器である。328 ～ 331 は壺、331 は円盤状の底部をもつ。332 ～ 337 は甕とした。333 は胴部最大径付近で屈曲し、外反気味に立ち上がる形態である。334 は指押えが明瞭にのこる粗製のもの。香東川下流域の胎土で作られる。338 ～ 342 は高杯である。338 ～ 340 は完形に近い状態で出土している。



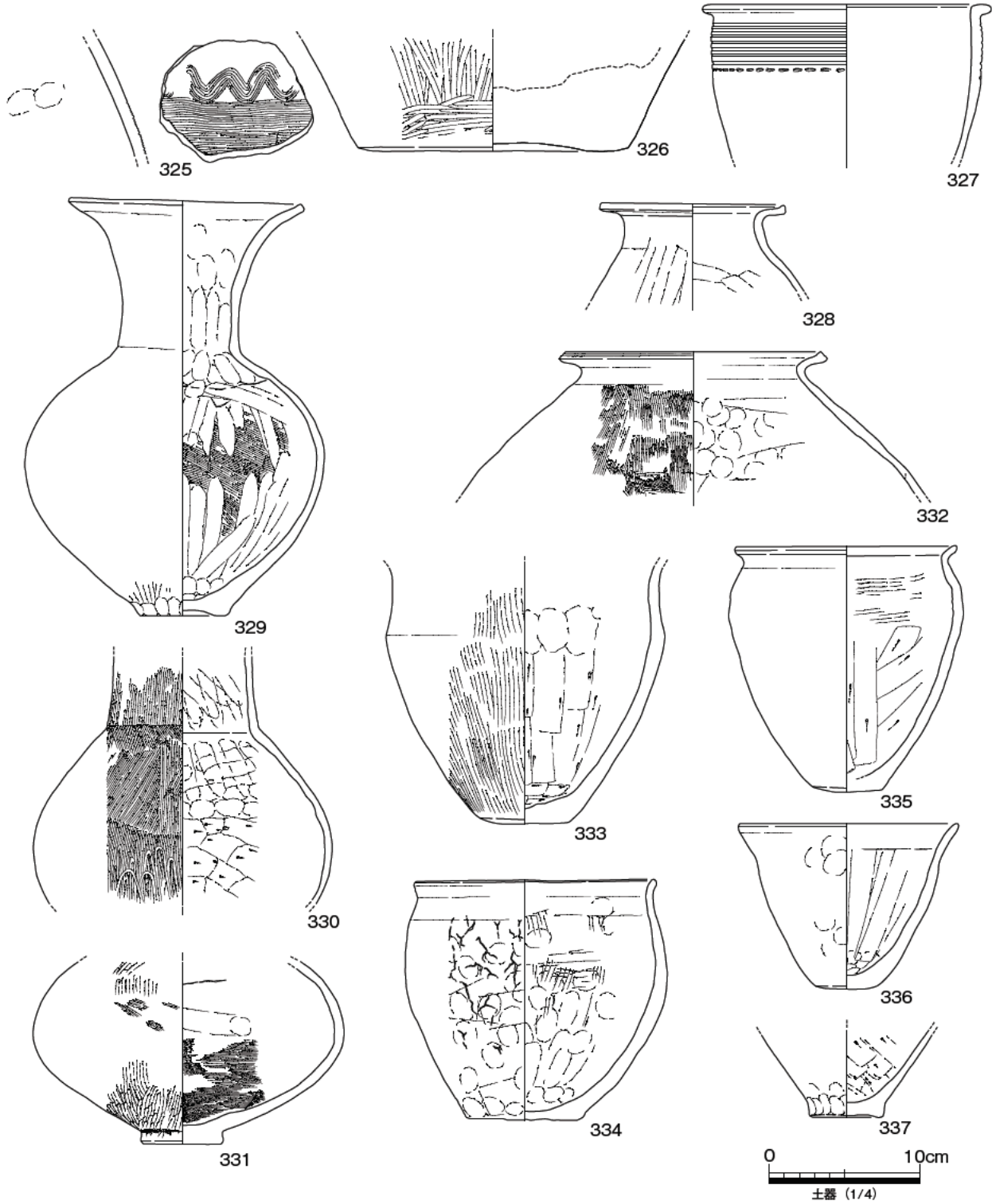
第 68 図　SR02　上層（グリッド K）出土遺物実測図



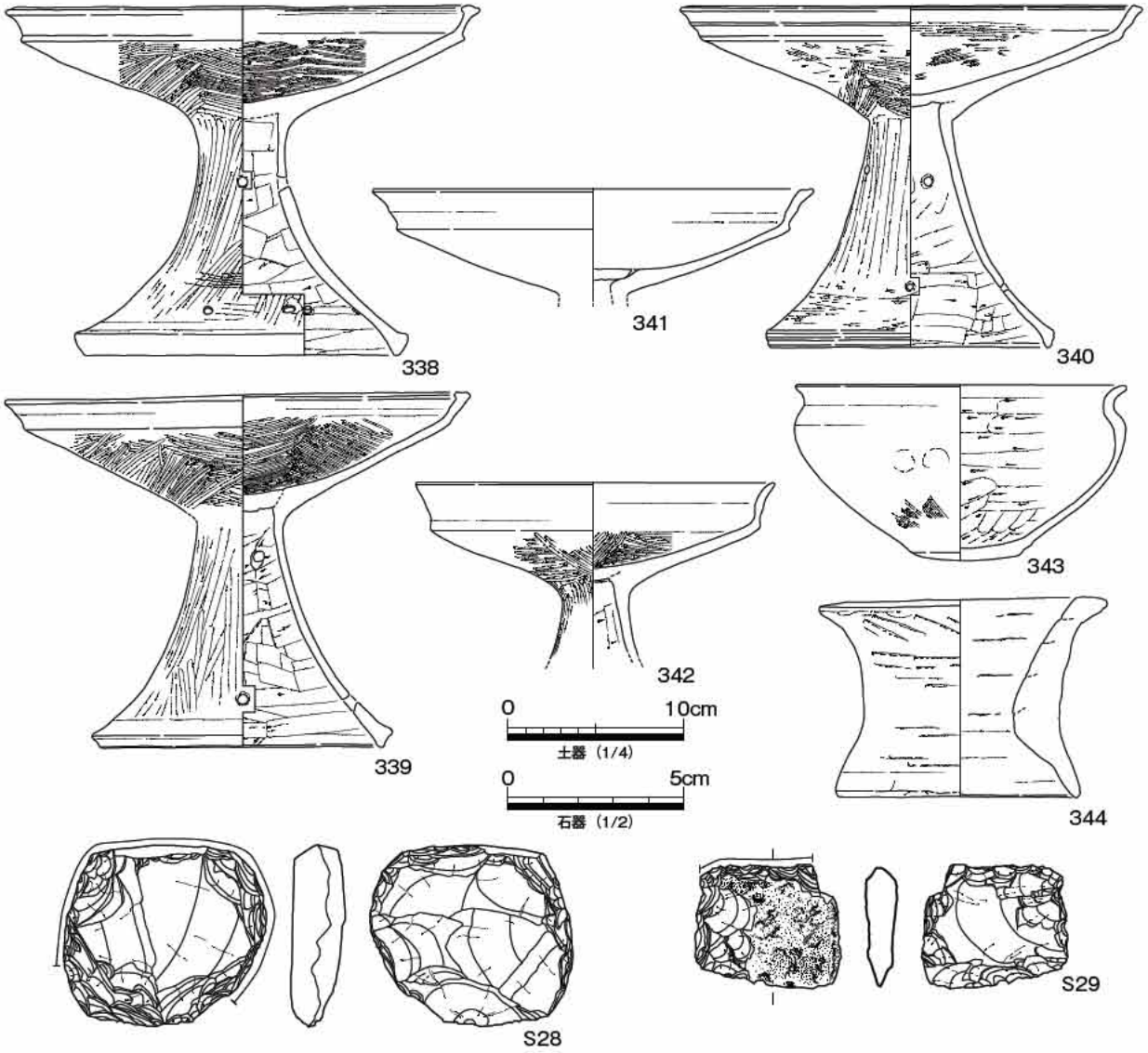
第69図　SR02　上層（グリッドJ・B）出土遺物実測図(1)



第 70 図　SR02　上層（グリッド J・B）出土遺物実測図 (2)



第 71 図　SR02　上層（グリッド A・I・T）出土遺物実測図 (1)

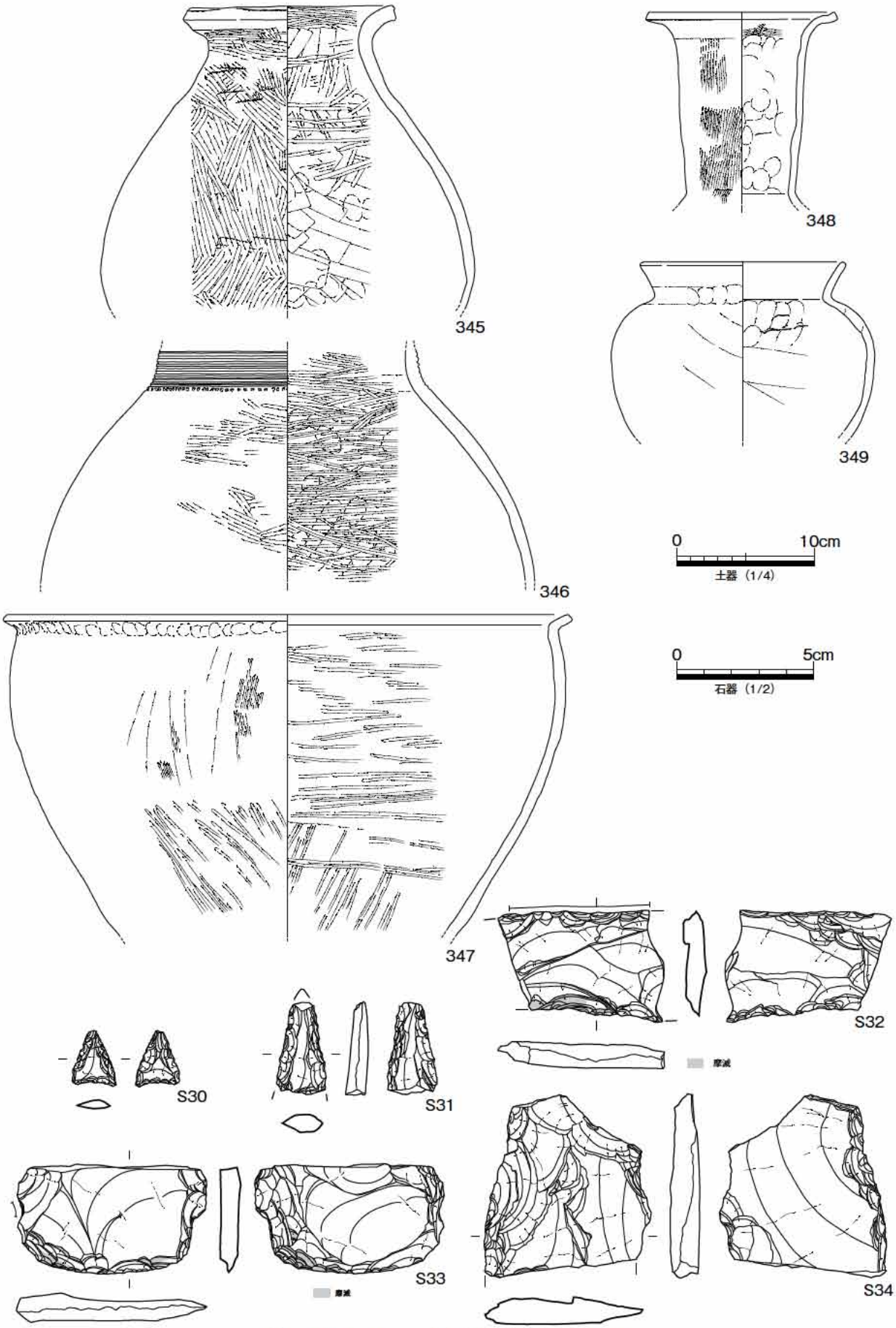


第 72 図　SR02　上層（グリッド A・I・T）出土遺物実測図 (2)

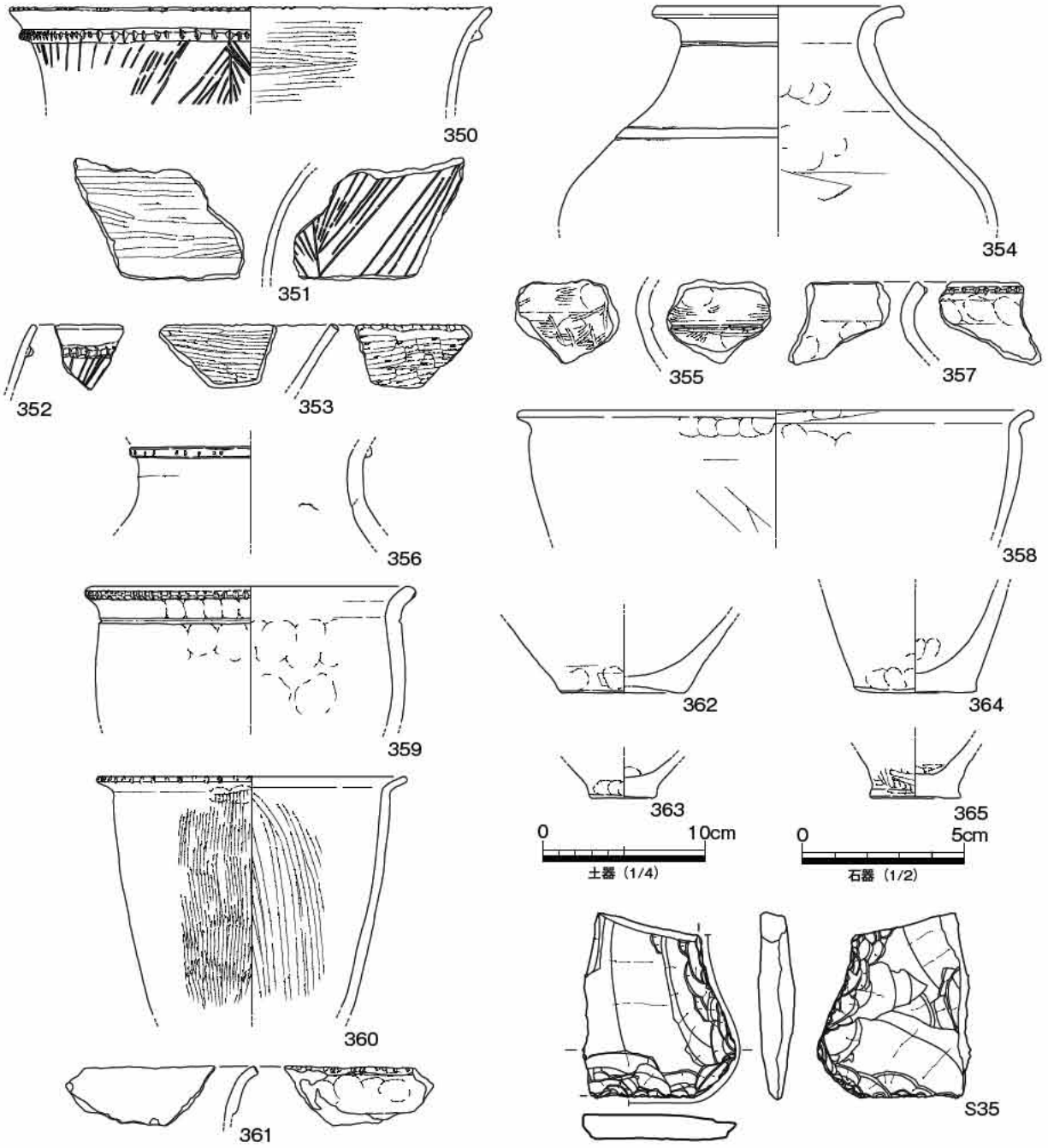
いずれも香東川下流域の胎土で製作されている。343 は内面をヘラ削りした鉢、344 は肉厚で粗雑なつくりの器台である。S28、S29 は楔形石器。上辺に敲打による潰れ、下辺に微細な階段状剥離が見られる。

第 73 図は、SR02 上層（平成 9 年度調査分）出土で、出土グリッドが不明な遺物実測図である。345 ～ 347 は弥生時代前期の土器である。345、346 の壺は内外面がヘラミガキされ、346 は頸部に 9 条以上のヘラ描き沈線と刺突文が巡る。347 も内外面をヘラミガキした甕である。348 は弥生時代後期の長頸壺、349 は土師器甕である。S30、S31 は打製石鏃、S32 はスクレイパーである。背面に刃潰れ、刃部に摩滅が見られる。S33 は両側縁に抉りが見られることから打製石庖丁とした。折損した打製石斧刃部を再利用した可能性がある。S34 は形状から打製石斧の基部とした。

第 74 図は平成 10 年度調査の SR02 上層出土の遺物実測図である。古い様相をもつ土器が多い。350 ～ 353 は縄文時代晩期と考えられるものである。350 の深鉢は口縁端部の上面に刻み目を持ち、端部のやや下に刻み目突帯を巡らす。さらに頸部に斜行線を中心とするヘラ描き沈線文がある。351 も深鉢頸



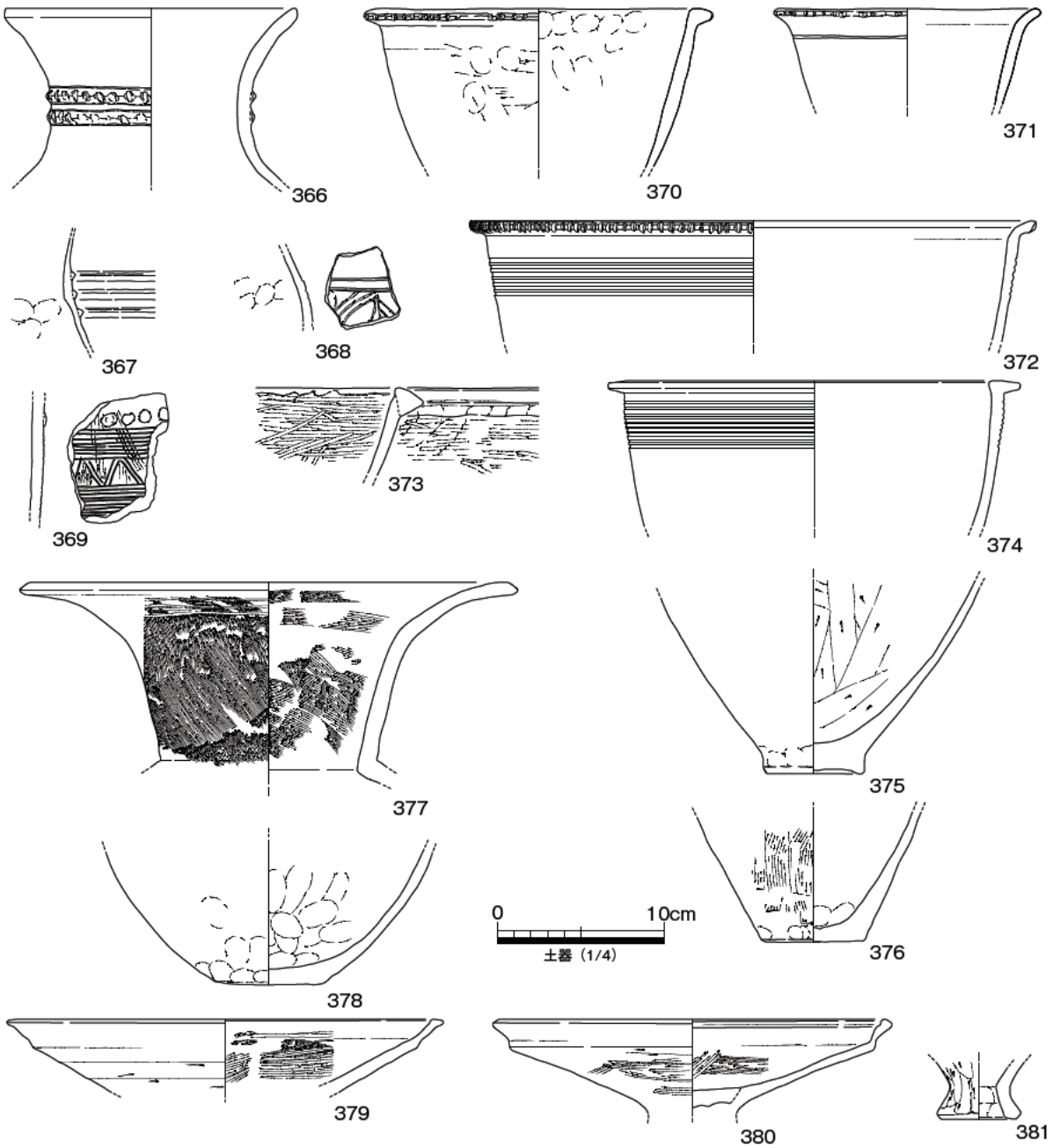
第 73 図　SR02　上層 出土遺物実測図 (1)



第 74 図　SR02　上層 出土遺物実測図 (2)

部と考えられ、斜行線によるヘラ描き沈線文がある。353 は口縁端部に押捺による刻み目をもつ浅鉢である。内面はヘラミガキ、外面には貝殻条痕が認められる。354 ～ 356 は壺。355 は肩部の破片と見られ、有段である。357 ～ 361 は甕。いずれも如意状口縁で 361 は有段のものである。S35 は打製石斧の刃部と片側側縁部の破片である。

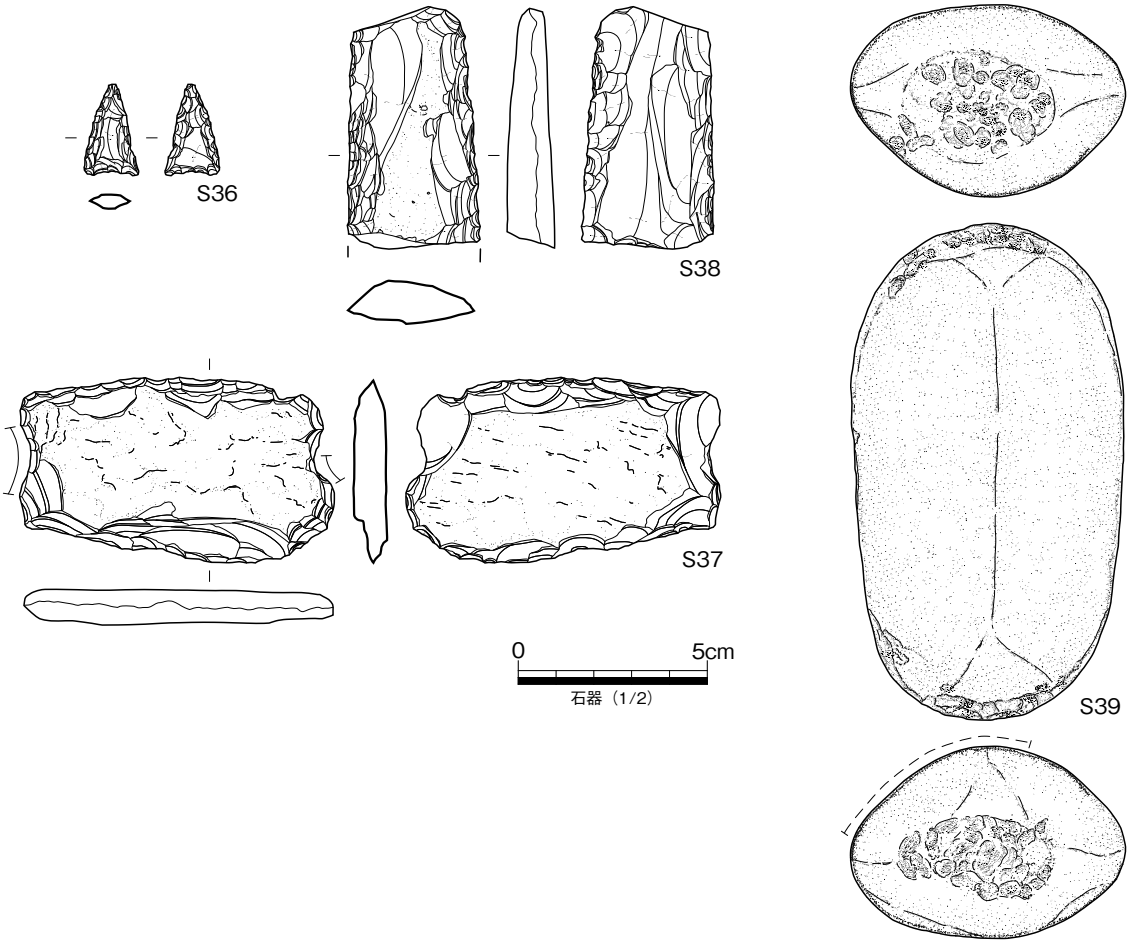
第 75、76 図は、平成 9 年度調査分の SR02 出土の遺物のうち、トレンチ調査等による検出のため、出土層位および出土グリッドが不明の土器の実測図である。377 の広口壺が弥生時代後期後半のもので異質な以外は、このほかの SR02 出土遺物の様相と同じである。S37 は結晶片岩製の打製石庖丁、S38



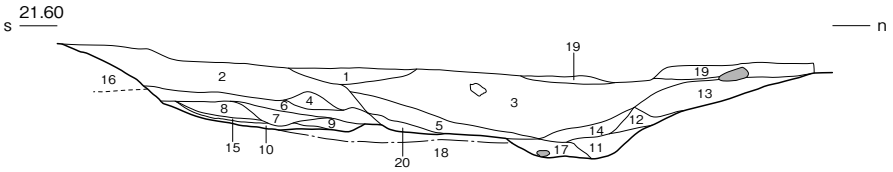
第 75 図　SR02　出土層位・グリッド不明　出土遺物実測図 (1)

は幅狭であるが打製石斧の基部と考える。S39 は握りやすい大きさの砂岩亜円礫で、短側辺の両側に敲打痕の見られる敲石である。

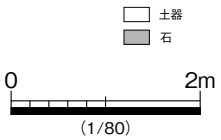
以上が、SR02 から出土した遺物である。中層においても上層においても、縄文時代晩期末から弥生時代前期前葉、弥生時代前期中葉、弥生時代後期前葉を主体とする遺物が、グリッドによってやや粗密を見せながら混在している。これらには顕著な摩滅は見られず、ある時期の遺物が埋没（堆積）して後に、次の時期の河道が流下して遺物が埋没した結果、混在しているというよりも、堆積物の供給が止まり、長く凹地となっていた場所に遺物が堆積した結果、異なる時期の遺物が混在するようになったと理解する方が実態に近いと考える。



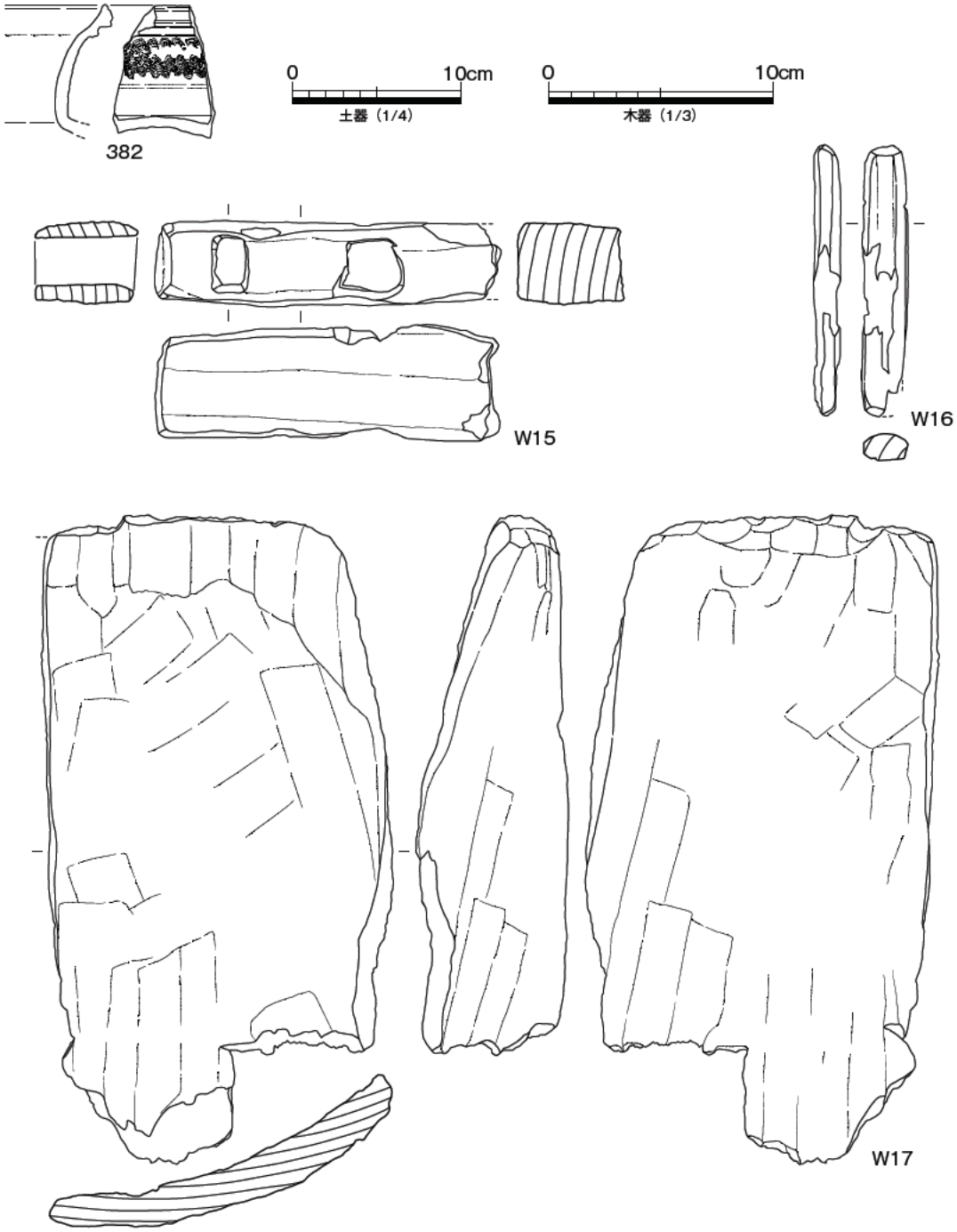
第 76 図　SR02　出土層位・グリッド不明　出土遺物実測図 (2)



1　2.5Y6/1 黄灰色混砂粘質土（炭をやや含む、古代水田層）
2　2.5Y5/1 黄灰色砂質土（締まりが極めて良くシルト質化している、鉄分沈着あり）
3　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土（粘性が極めて高い木材集中区の埋土）
4　10YR5/1 褐灰色砂質土（２～３㎝の小石を多量に含む）
5　2.5Y4/1 黄灰色粘質土（植物などの有機物を多く含む、３より粘性は高い）
6　10YR5/1 褐灰色混砂粘質土（２の層に近似しているが、やや粘性を帯びている）
7　10YR4/1 褐灰色混砂粘質土
8　2.5Y3/1 黒褐色混砂粘質土
9　2.5Y3/1 黒褐色粘質土（やや砂粒を含む、15 層と近似しているが 15 層は粘性が高い）
10　10YR5/1 褐灰色粘質土
11　10YR3/1 黒褐色混砂粘質土
12　2.5Y4/2 暗灰黄色混砂粘質土
13　10YR5/1 褐灰色混砂礫層（18 の砂礫層に近似しているがやや粘性を帯びており川の肩ではないと考える）
14　10YR2/1 黒色粘質土（粘性が高い）
15　10YR3/1 黒褐色粘質土（極めて粘性が高い）
16　2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土
17　10YR6/1 褐灰色粘質土
18　砂礫層
19　10YR3/2 黒褐色粘質土（３層に極めて近い）
20　2.5Y4/1 黄灰色混砂粘質土（5 層に近似しているがやや砂質度が高い）



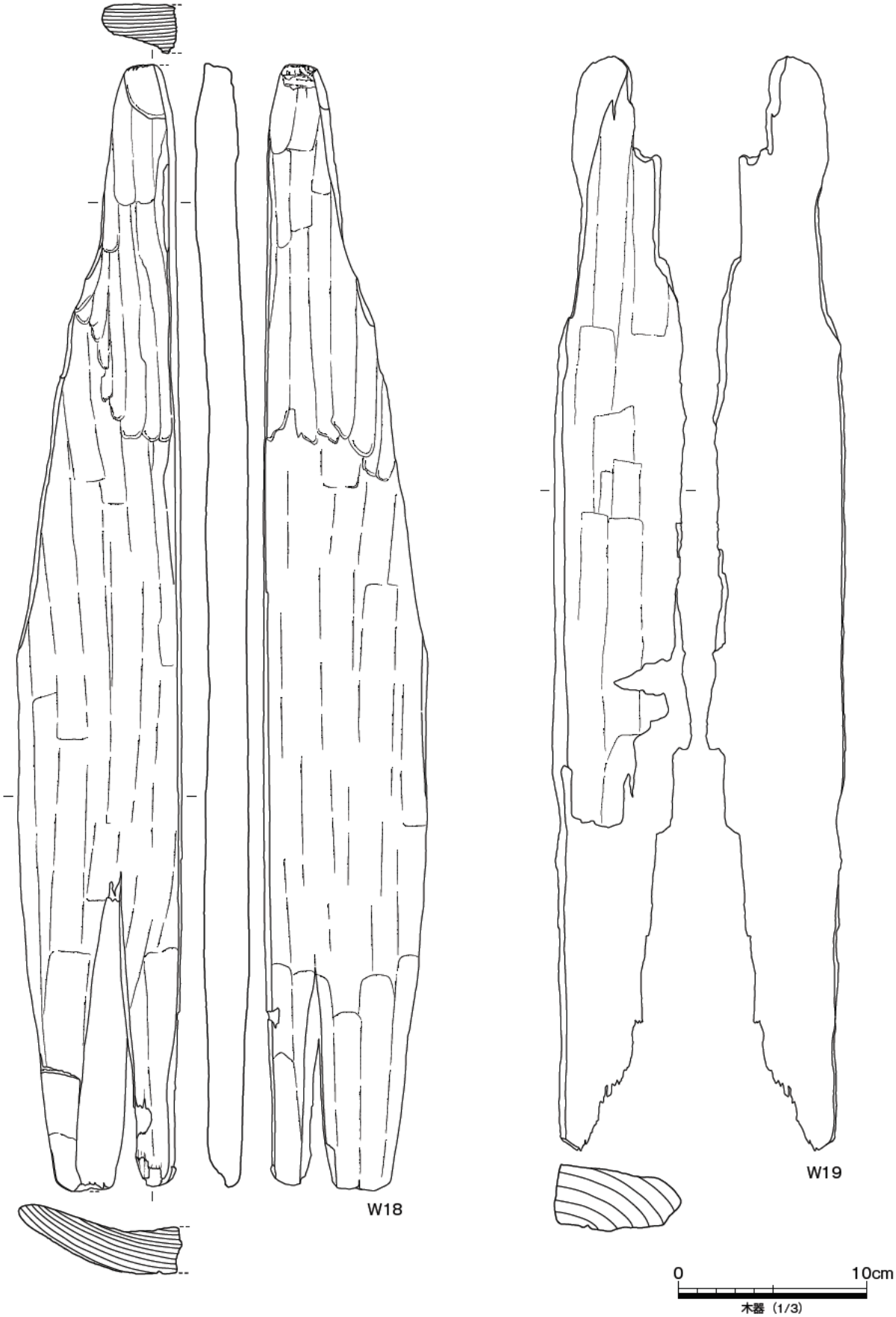
第 77 図　SR03　断面図



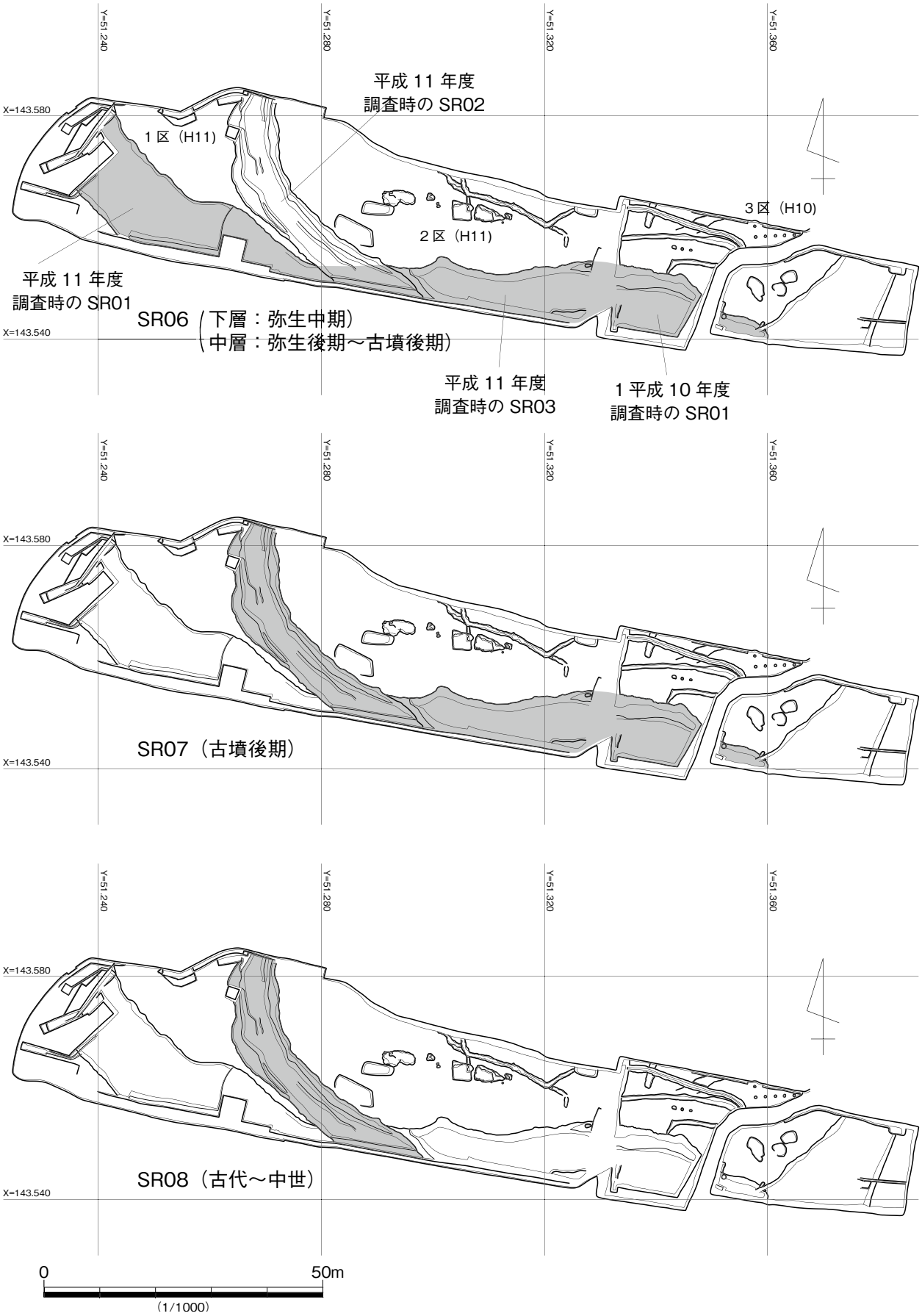
第 78 図　SR03　出土遺物実測図 (1)

SR03（第 77 ～ 79 図）

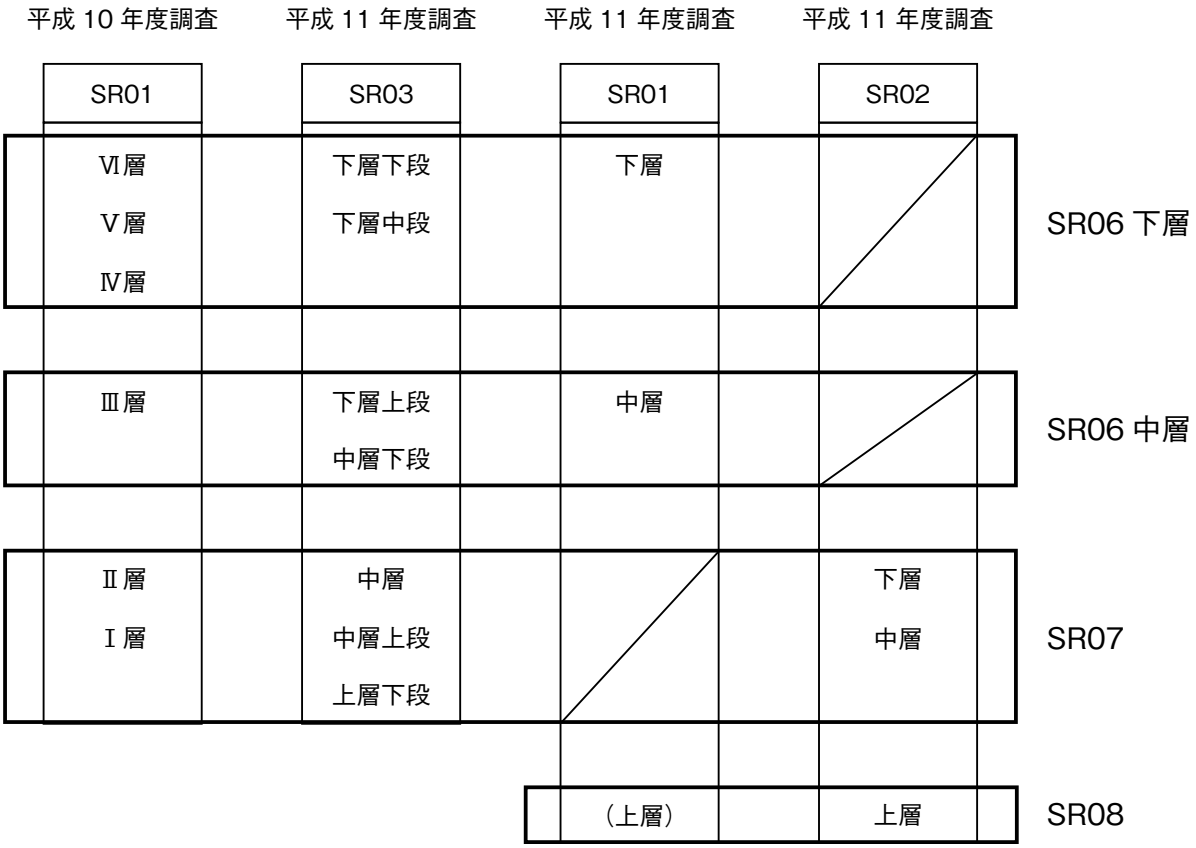
２区（H9) を南西－北東方向に横切る旧河道である。SR02 上層と切り合い関係があり、SR02 上層よりも新しい。幅約 8.5 m、深さ約 0.9 mの規模で、断面形は浅い皿状を呈する。出土遺物は僅少で、28 リットル入りコンテナ８分の１ほどの量である。なお、数点の木製品が出土している。第 78 図 382 は SR03 出土の須恵器甕である。SR03 の埋没後に掘削された SD1205 の年代が６世紀初頭から７世紀前半と考えられていることから、SR03 の年代を示すものではない。このほかに SR03 出土の遺物で年代を決められる遺物はなく、SR02 上層埋没以降、SD1205 掘削以前という年代が押えられるにすぎない。



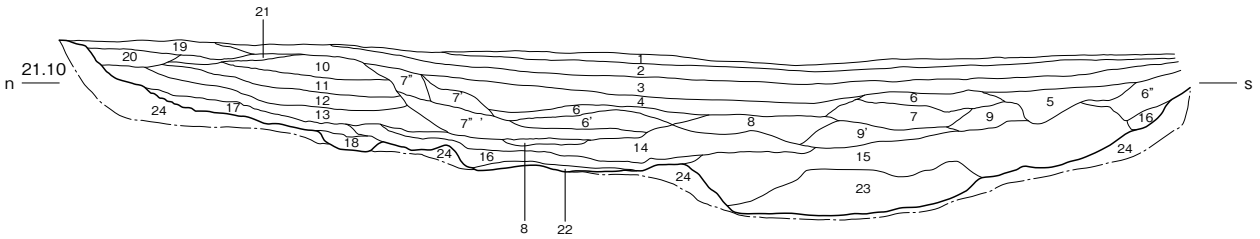
第 79 図　SR03　出土遺物実測図 (2)



第 80 図　SR06 ～ SR08　変遷図



第 81 図　SR06 ～ SR08 の分類図



Ⅰ・Ⅱ層 (SR07)
1　7.5YR5/6 明褐色粘質土
2　7.5R4/1 暗赤灰色粘質土（こぶし大の礫をまばらに含む）
3　7.5R2/1 赤黒色粘質土（こぶし大の礫をまばらに含む）

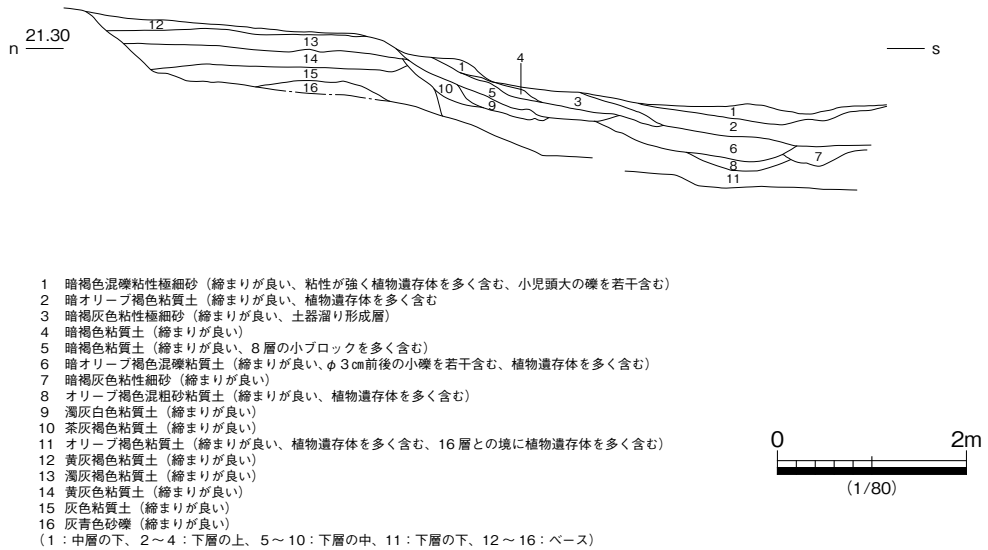
Ⅳ層 (SR06 中層)
4　N2/ 黒色粘土（φ３㎝～拳大の礫をまばらに含む）
5　2.5GY2/1 黒色混砂ブロック粘質土
6　10Y3/2 オリーブ黒色混礫砂粘質土（φ0.5 ㎝～幼児頭大の礫を密に含む）
6'　7.5GY2/1 緑黒色混粗砂粘質土（φ0.1 ～１㎝粗砂を密に含み拳大の礫をまばらに含む）
6"　N1.5/ 黒色混礫粘土（φ１～４㎝の礫を比較的多く含む）
7　2.5GY2/1 黒色混砂ブロック粘土（φ３㎝～拳大の礫をまばらに含む）
7'　N1.5/ 黒色粘土（φ２㎝程の礫をまばらに含む）
7"　N2/ 黒色粘土（南部に砂ブロックが多い、小礫をごくまばらに含む）
7"'　N3/ 暗灰色粘質土
8　5GY2/1 オリーブ黒色混砂ブロックシルト
9　10GY2/1 緑黒色混砂礫ブロック粘質土
9'　10G2/1 緑黒色混砂礫ブロック粘質土

SR06 下層
Ⅳ層
10　10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（φ１～５㎝の礫をまばらに含む）
11　10YR4/4 褐色粘質土（φ１～３㎝の礫をまばらに含む）
12　10YR4/1 褐灰色粘質土（φ１～２㎝の礫をまばらに含む）
13　10YR7/1 灰白色粘質土（φ１㎝～拳大の礫をまばらに含む）
Ⅴ層
14　5Y3/1 オリーブ黒色混シルト砂礫（流木 etc. 多く含む、ラミナ状）
15　5Y3/1 オリーブ黒色混シルト砂礫（17 に似るが拳大～人頭大の礫を多く含む）
Ⅵ層
16　7.5Y2/1 黒色混砂ブロック粘質土（木製品出土）
17　7.5Y2/2 オリーブ黒色混礫粘質土
18　粘質土

19　7.5YR5/8 明褐色粘質土
20　7.5YR3/2 黒褐色粘質土
21　7.5YR4/4 褐色粘質土
22　10Y2/1 黒色混シルト砂礫
23　N1.5/ 黒色混砂ブロック粘土（よし状草木を多く含む）
24　2.5Y4/1 黄灰色砂礫（ベース）

0　2m
(1/80)

第 82 図　SR06・SR07　断面図 (1)



1　暗褐色混礫粘性極細砂（締まりが良い、粘性が強く植物遺存体を多く含む、小児頭大の礫を若干含む）
2　暗オリーブ褐色粘質土（締まりが良い、植物遺存体を多く含む
3　暗褐灰色粘性極細砂（締まりが良い、土器溜り形成層）
4　暗褐色粘質土（締まりが良い）
5　暗褐色粘質土（締まりが良い、８層の小ブロックを多く含む）
6　暗オリーブ褐色混礫粘質土（締まりが良い、φ３㎝前後の小礫を若干含む、植物遺存体を多く含む）
7　暗褐灰色粘性細砂（締まりが良い）
8　オリーブ褐色混粗砂粘質土（締まりが良い、植物遺存体を多く含む）
9　濁灰白色粘質土（締まりが良い）
10　茶灰褐色粘質土（締まりが良い）
11　オリーブ褐色粘質土（締まりが良い、植物遺存体を多く含む、16 層との境に植物遺存体を多く含む）
12　黄灰褐色粘質土（締まりが良い）
13　濁灰褐色粘質土（締まりが良い）
14　黄灰色粘質土（締まりが良い）
15　灰色粘質土（締まりが良い）
16　灰青色砂礫（締まりが良い）
（1：中層の下、2～4：下層の上、5～10：下層の中、11：下層の下、12～16：ベース）

第 83 図　SR06・SR07　断面図 (2)

W15、W16 は近接して出土した。W15 は田下駄に類似する。方形の孔が２孔残る。孔の間隔は 4.5㎝程度である。W16 は摩耗しているものの方柱の形状。長さ 12㎝程度残る。方柱の断面の大きさと孔の大きさは概ね一致し、W16 は W15 の孔に挿入されたものと考えられる。W17 は直方体の材の内部を刳り､外面を削り出す。容器の一部と考えられる。W18 は櫂か。柄部分と身の半分は欠損すると思われる。身部分は緩く匙状に湾曲する。W19 はミカン割材製作時に生じた端材と考えられる。W5 と比べて幅はやや広いが長さはほぼ同じである。

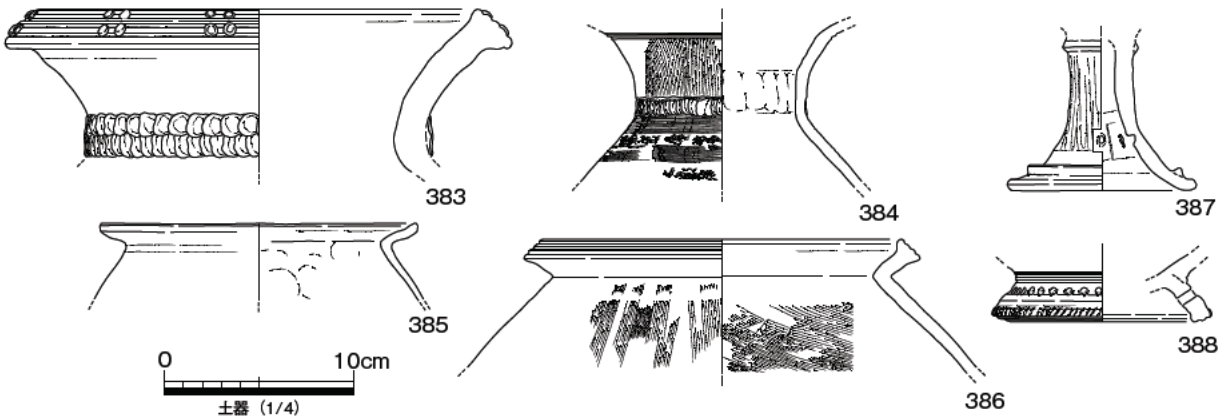
SR04、05（第 39 図）

３区(H10)のSR04は後述するSR06､07を切って北東方向に流れる旧河道である。幅20ｍ以上､深さ0.6ｍ以上で暗灰色系砂礫層を主とするが、遺物は極めて少なくトレンチ調査にとどめた。須恵器細片１点が出土し、SR06、07 及びその上位の中世包含層との関係から古代の河道と推定される。３区（H10）の SR05 は SR04 の西肩部を開削し、両岸を石垣で護岸する旧河道である。石垣推定線は現在の畦畔とほぼ一致し、北に先細りする傾向を示している。上流側に出水状施設が存在するものと考えている。石垣裏込めより陶器片が出土しており、近世の構築と考えられる。なお、両者についての写真、図面は残されていないため、本稿は概要報告の記述を転載した。

SR06 ～ 08（第 80 ～ 83 図）

平成 11 年度調査においては、SR01 ～ 03 の３条の旧河道が調査されているが、概要報告の段階では、SR01 と SR03 を連続するものとし、２条の旧河道として報告している。３条の旧河道については、各々の切り合い関係を確認するトレンチが入っているが、この点を検討する情報が不十分であり、平成 10 年度調査の SR01 との接続関係もよくわからない。このため、層によって取り上げられた遺物の年代観を比較検討し流路の復原を行った。

この結果、平成 10 年度調査では巨視的に SR01 のⅢ層、平成 11 年度調査では SR03 中層下段（下段というのは、中層の中で下に位置する層という意味）に弥生時代後期の遺物が包含され、この下層で



第 84 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (1)

は弥生時代中期の遺物、上層では古墳時代の遺物を中心とすると把握できた。平成 11 年度調査の SR01 においても、出土量は激減しているが、中層に弥生時代後期の遺物が含まれ、下層で弥生時代中期の遺物が含まれる関係が見られる。このため、平成 10 年度調査の SR01 のⅢ層以下は、平成 11 年度 SR03 の中層下段以下、平成 11 年度 SR01 の中層以下に連続するものと理解した。さらに、古墳時代の遺物は、平成 10 年度 SR01 のⅠ、Ⅱ層、平成 11 年度 SR03 の中層上段以上、平成 11 年度 SR02 の中層以下に見られ、平成 11 年度 SR02 上層で出土する古代以降の土器は、平成 11 年度 SR01 上層で若干量見られる以外は見られない。このことから、平成 11 年度調査区の旧河道は、時期の異なる流路が複雑に重なっていると理解される。これらを整理したのが第 81 図である。調査区で言えば､SR06 は３区（H10)、２区（H11)、１区（H11）を、SR07 は３区（H10), ２区（H11) をまたがり、SR08 は２区（H11) となっている。なお、本報告においては、整理によって把握した河道を項目立てし、調査年度および調査時の層認識による出土遺物毎に細分して報告する。

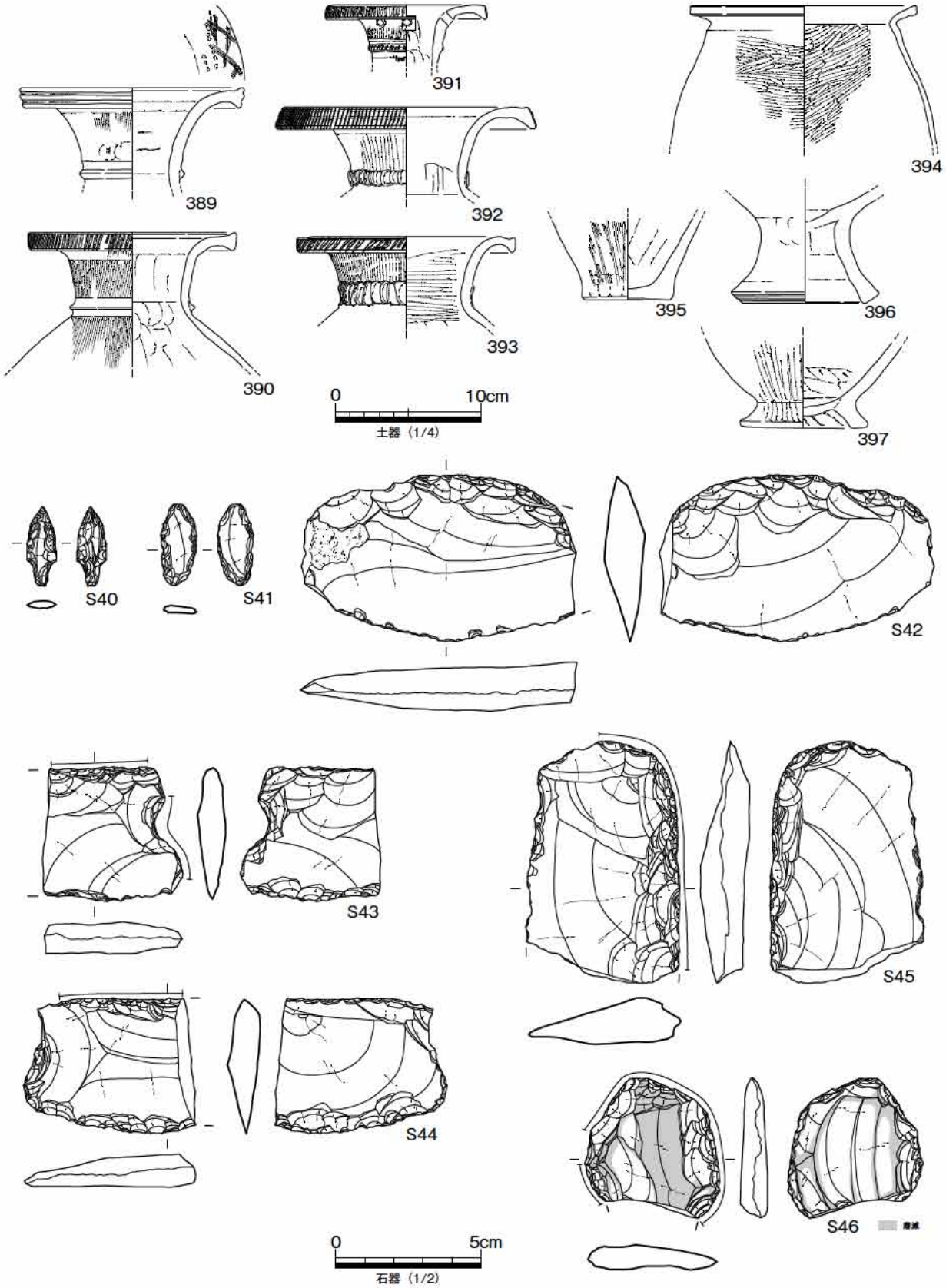
SR06 下層（第 84 ～ 94 図）

平成 10 年度調査 SR01 のⅣ～Ⅵ層､平成 11 年度調査 SR03 の下層下段と中段､SR01 の下層が該当する。

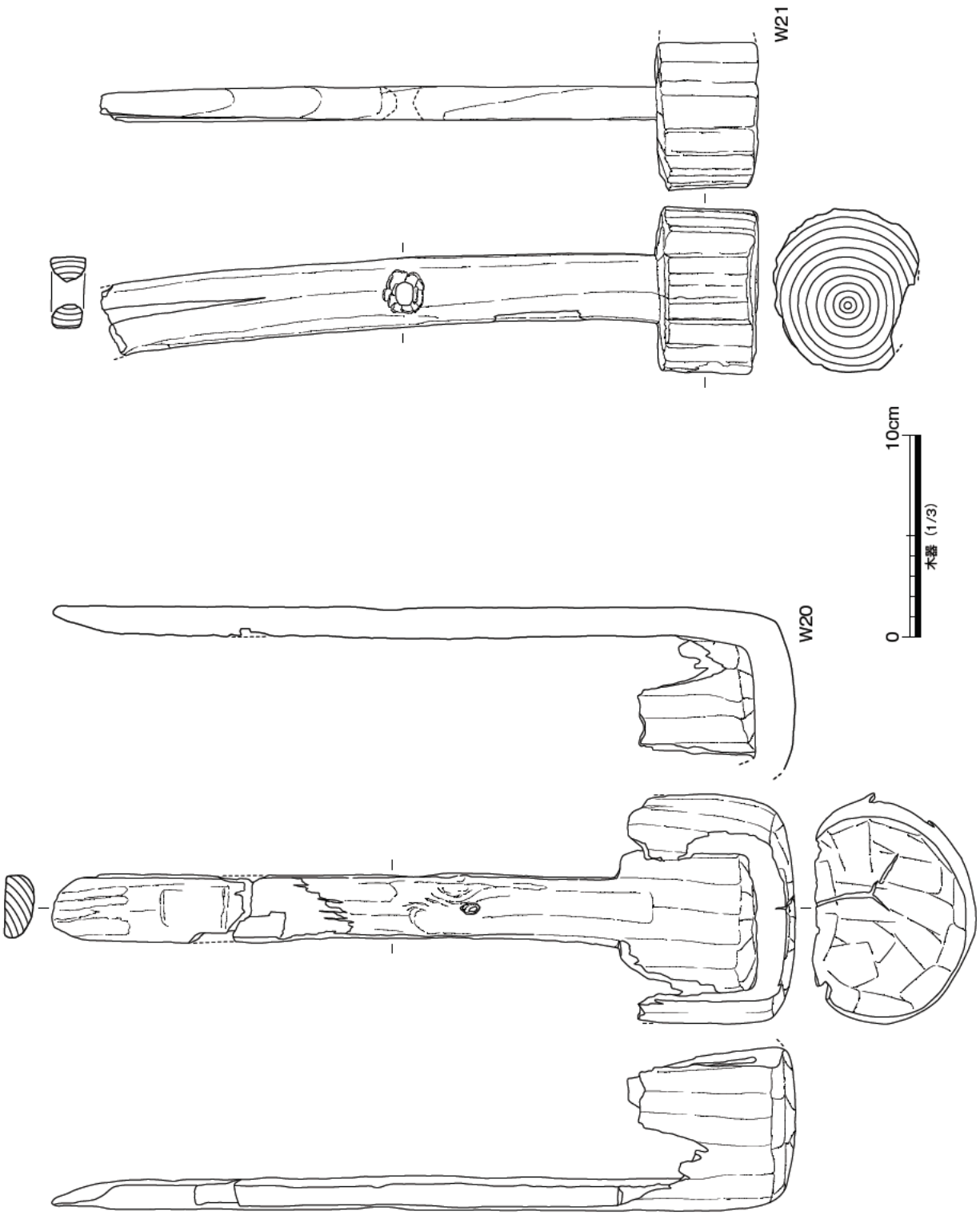
第 84 図は平成 10 年度に SR01 として調査され、Ⅵ層から出土した土器実測図である。本報告ではⅣ～Ⅵ層を SR06 下層として報告する。SR06 の南肩は調査区外となるため、規模は不明であるが、最大幅 11 mを測る。

383 は「く」の字状に屈曲し短く外反する口縁の壺である。端部を拡張し４条の凹線文と４個を一組とする円形浮文を付す。口縁部と胴部の境界に２条の押捺突帯文が見られる。384 の壺は頸部と胴部の境界に押捺突帯文、以下に櫛描きの直線文、波状文が見られる。385 は「く」の字に外反する口縁で無文の甕、386 は「く」の字状に外反する口縁の端部を拡張し凹線文を施すものである。387 は高杯の脚部。筒状の脚部から「ハ」字状に開く脚端部で、貼り付け突帯で加飾している。388 は鉢とした。外方向に開く脚台との境界に３条の沈線を巡らし、以下に列状に孔を穿つ。脚端には刻み目が見られる。なお、孔は貫通するものとしないものがある。

第85､86図は平成10年度調査のSR01のⅤ層として取り上げられた遺物実測図である｡389～393は壺。389 は口縁端面に２条の凹線文、口縁内面に斜格子文と列点文、頸部に断面三角形の貼り付け突帯が見られる。390 は口縁端部に櫛歯文、頸胴部の境界に断面三角形の突帯を付す。391 も端部に櫛歯文、頸

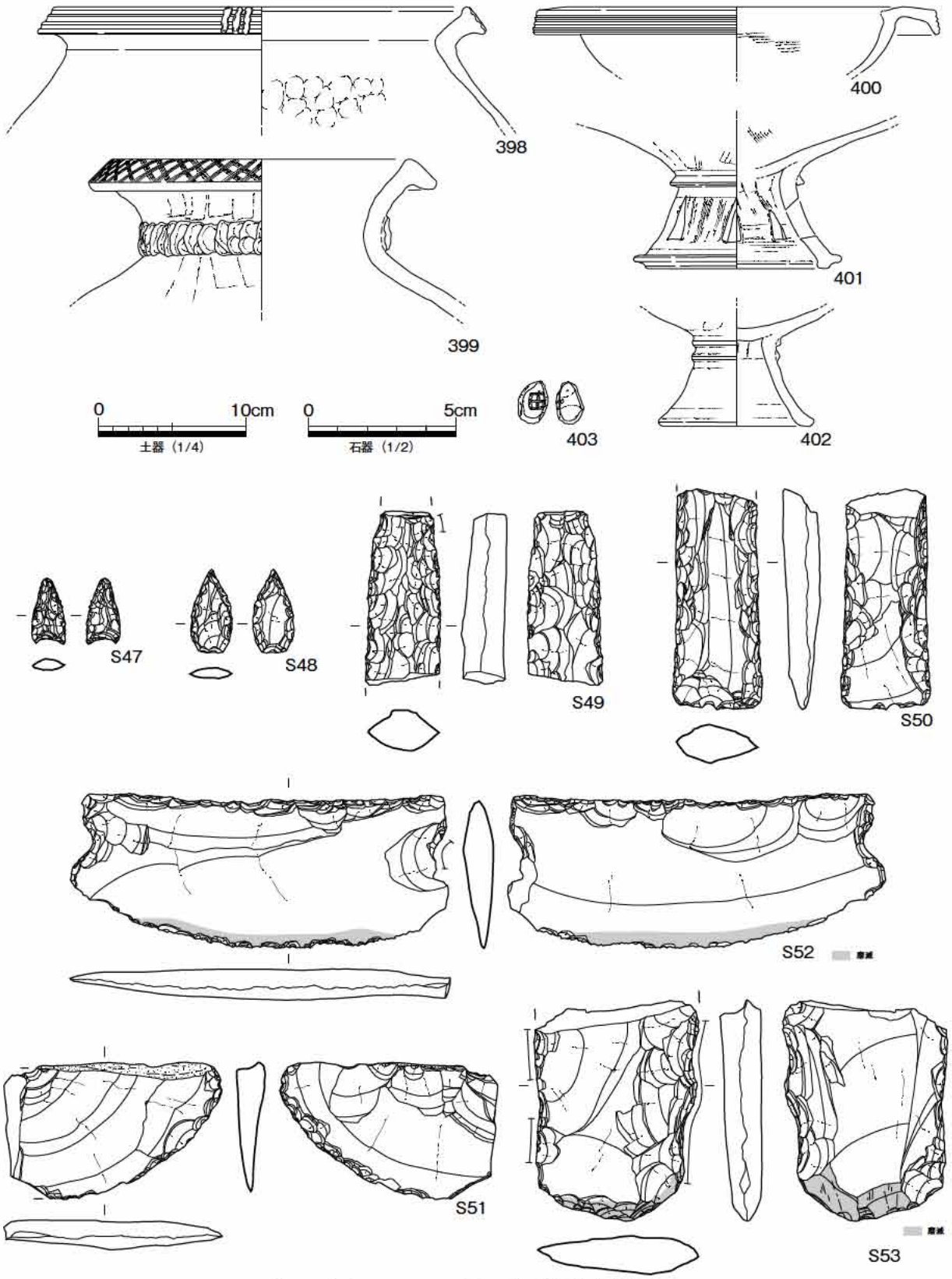


第 85 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (2)

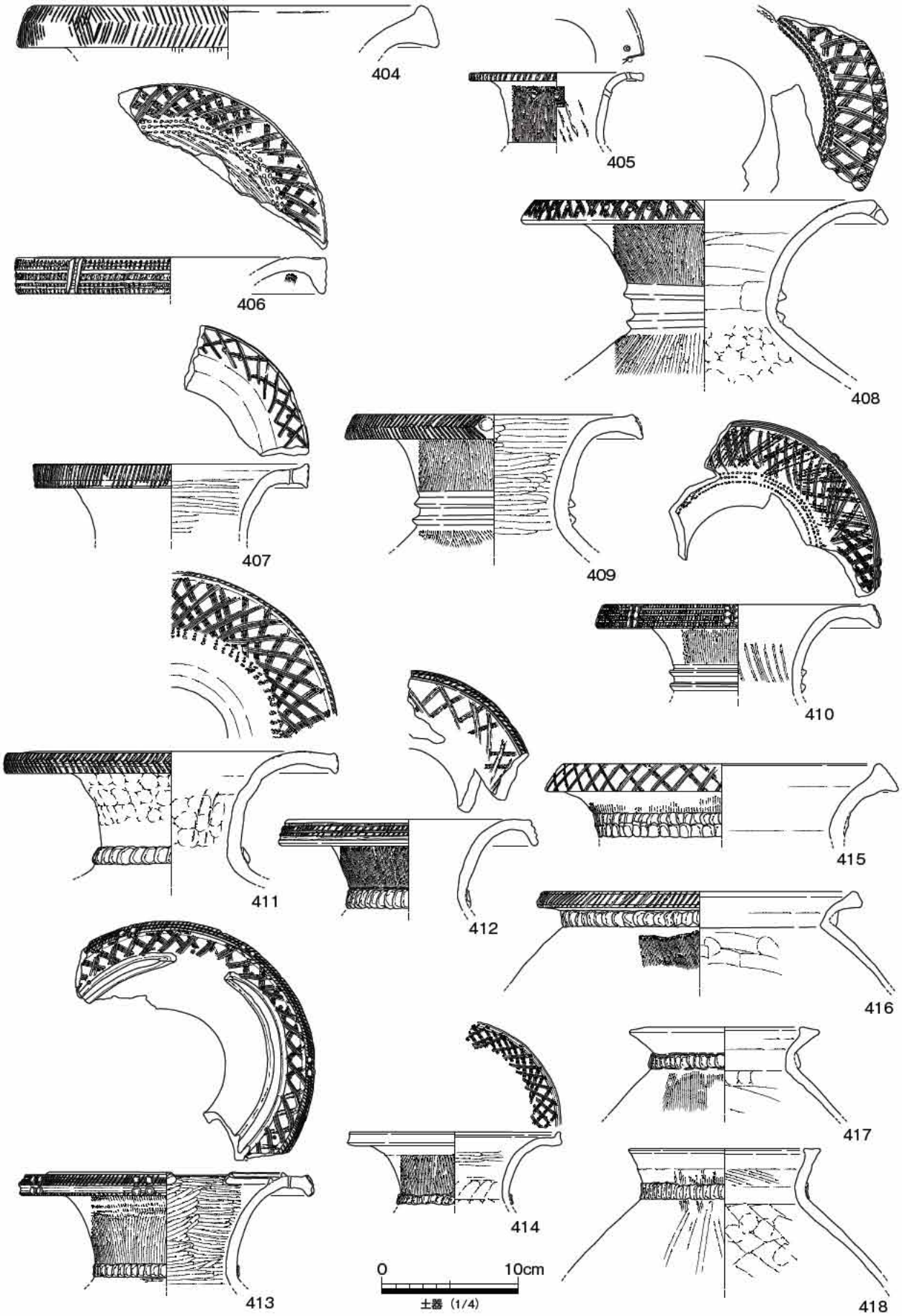


第 86 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (3)

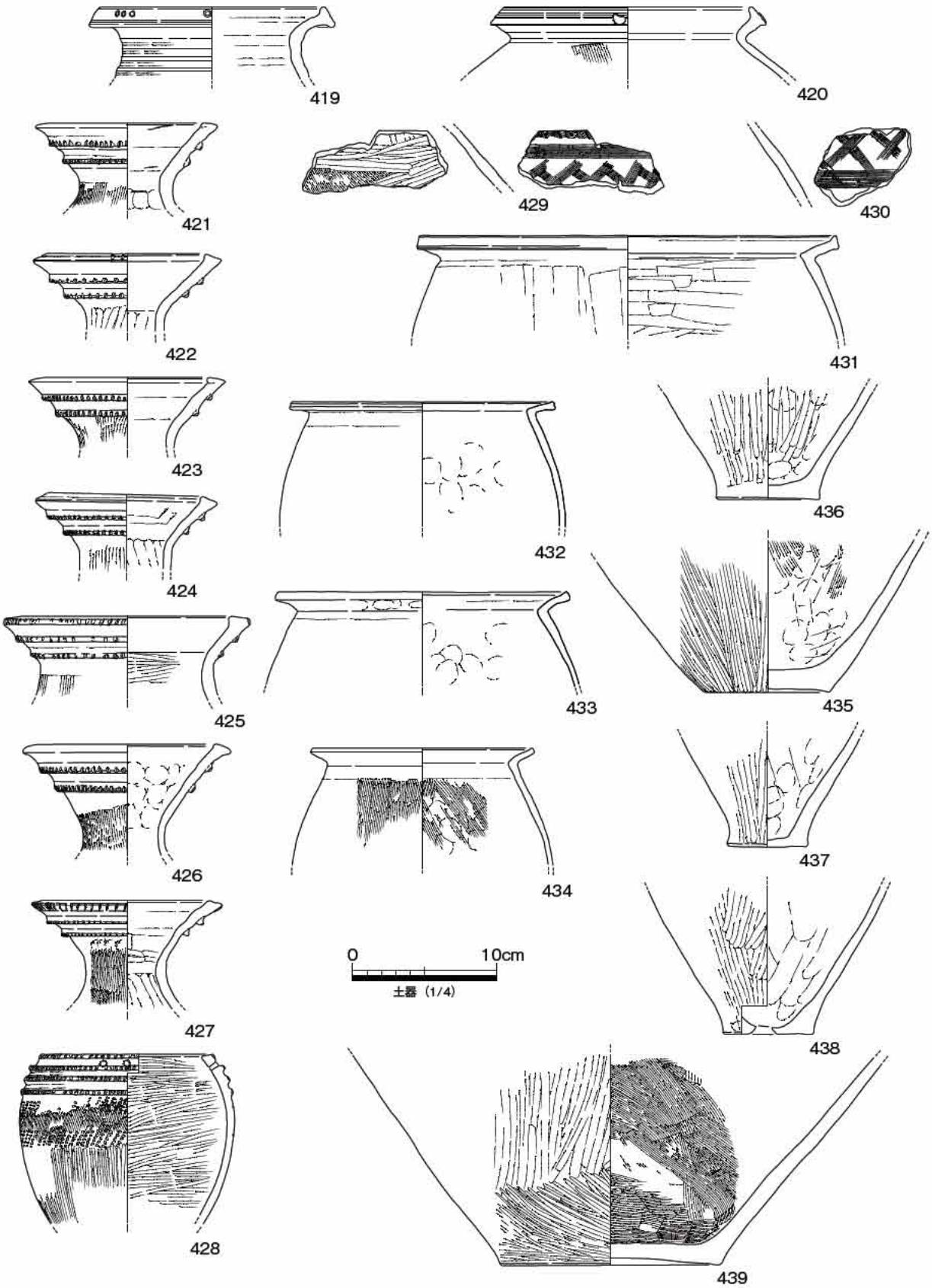
部に刻み目突帯を付し、口縁と頸部の移行部に２個一組の穿孔をもつ。392、393 は拡張した口縁端部に凹線文を施した後に櫛歯文を施し、頸胴部境に押捺突帯文を付す。394 は「く」字状に短く外反する口縁の無文の甕、396 は高杯脚部である。396 は脚端部に２条の凹線文が見られる。S42 はスクレイパーである。剥片を簡単に調整して刃部を作っている。S43、S44 は打製石庖丁、S45、S46 は打製石斧の基



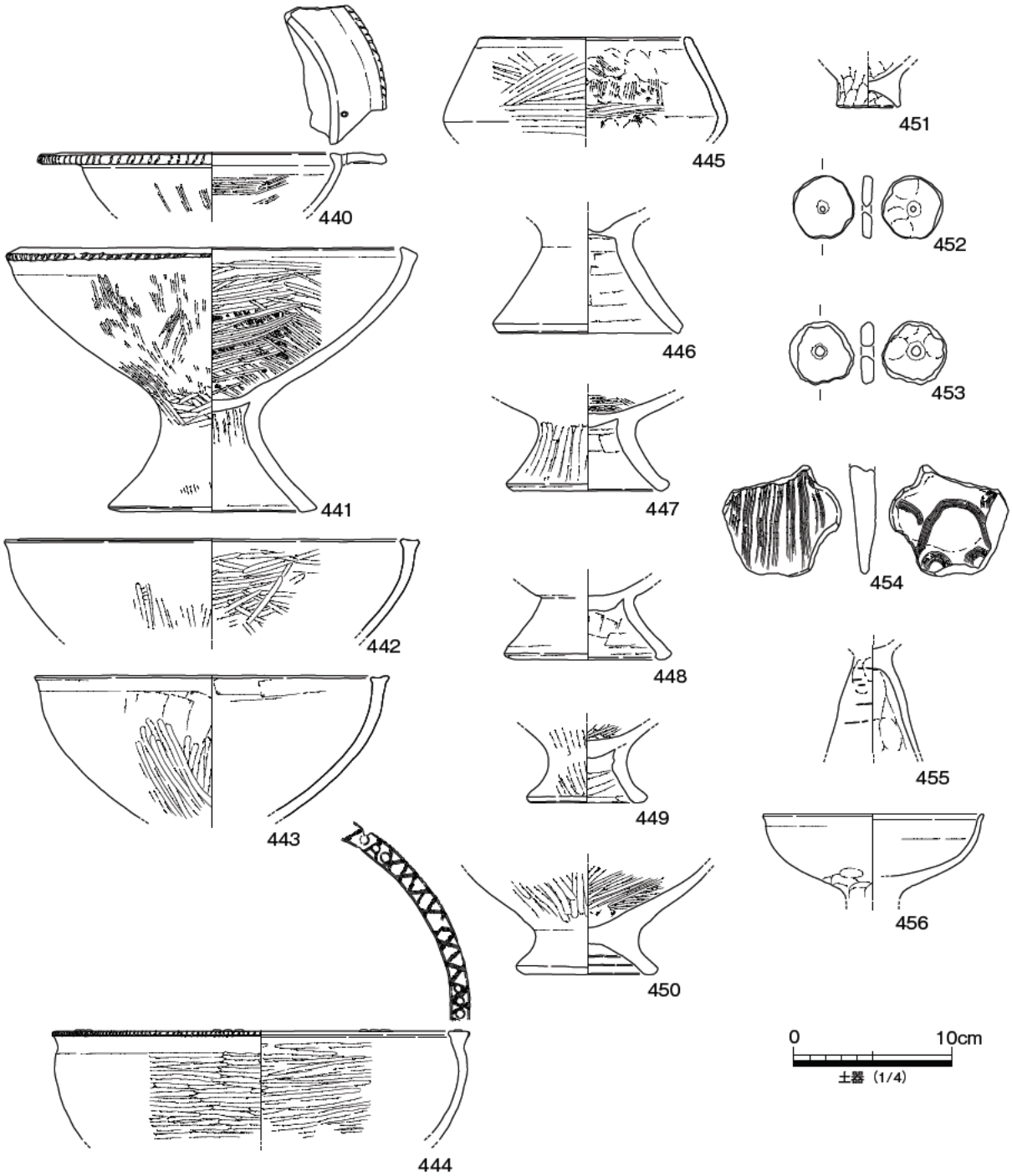
第 87 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (4)



第 88 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (5)



第 89 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (6)

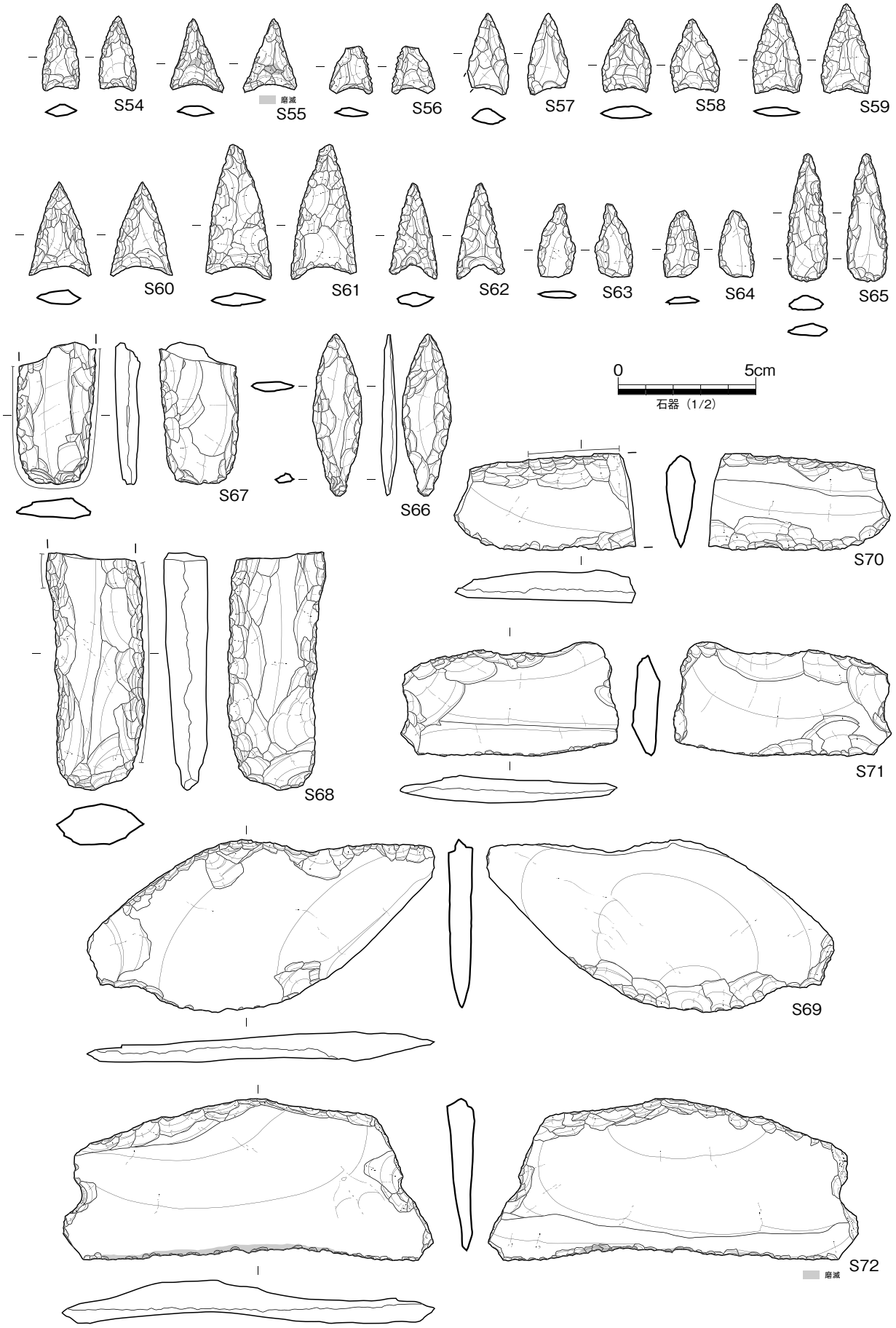


第 90 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (7)

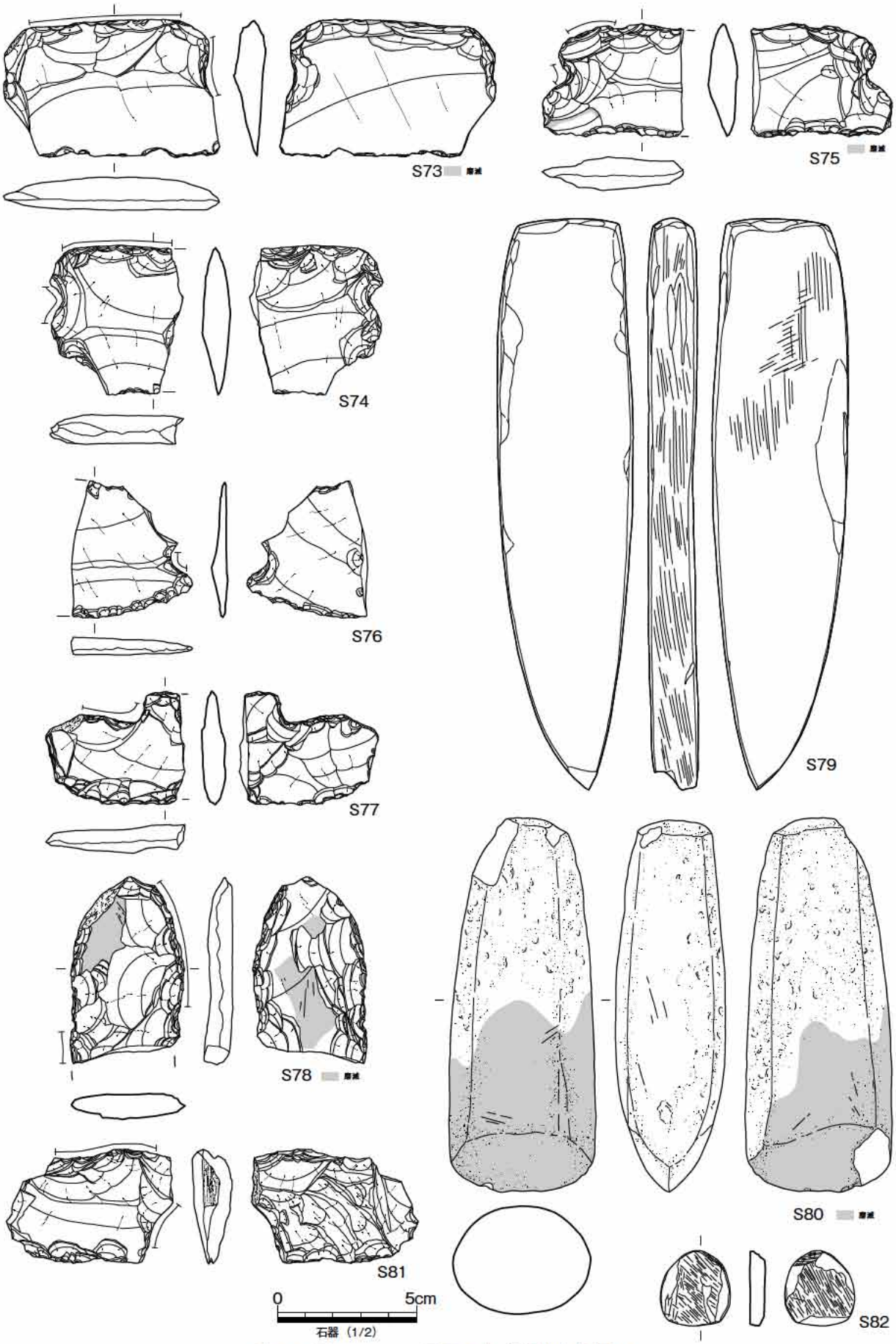
部の破片である。S46 は広範囲に摩滅が見られる。なお、概要報告では本層から組紐の出土を報告しているが、整理調査時には腐朽し原形を留めていなかったため報告できない。

W20 は縦杓子。W21 は円柱状の身の中央に柄を削り出す。1 本の木材で作り出す。柄の中央付近の孔が残る。用途不明。

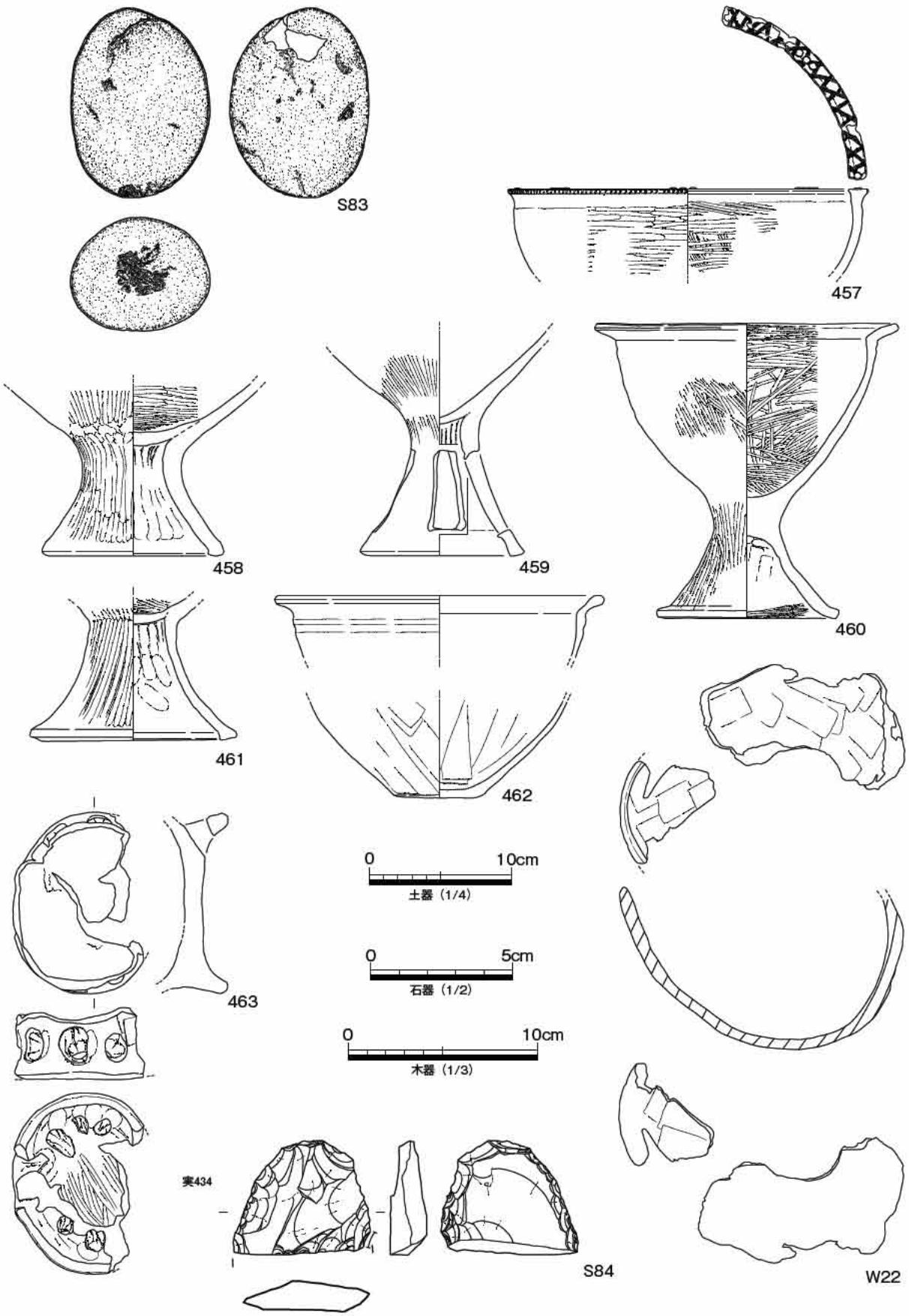
第 87 図は平成 10 年度調査の SR01 のⅣ層として取り上げられた遺物実測図である。398 は「く」字状に短く外反し、拡張した端部に 3 条の凹線文と棒状浮文を付した壺である。399 は口縁端部を下方に



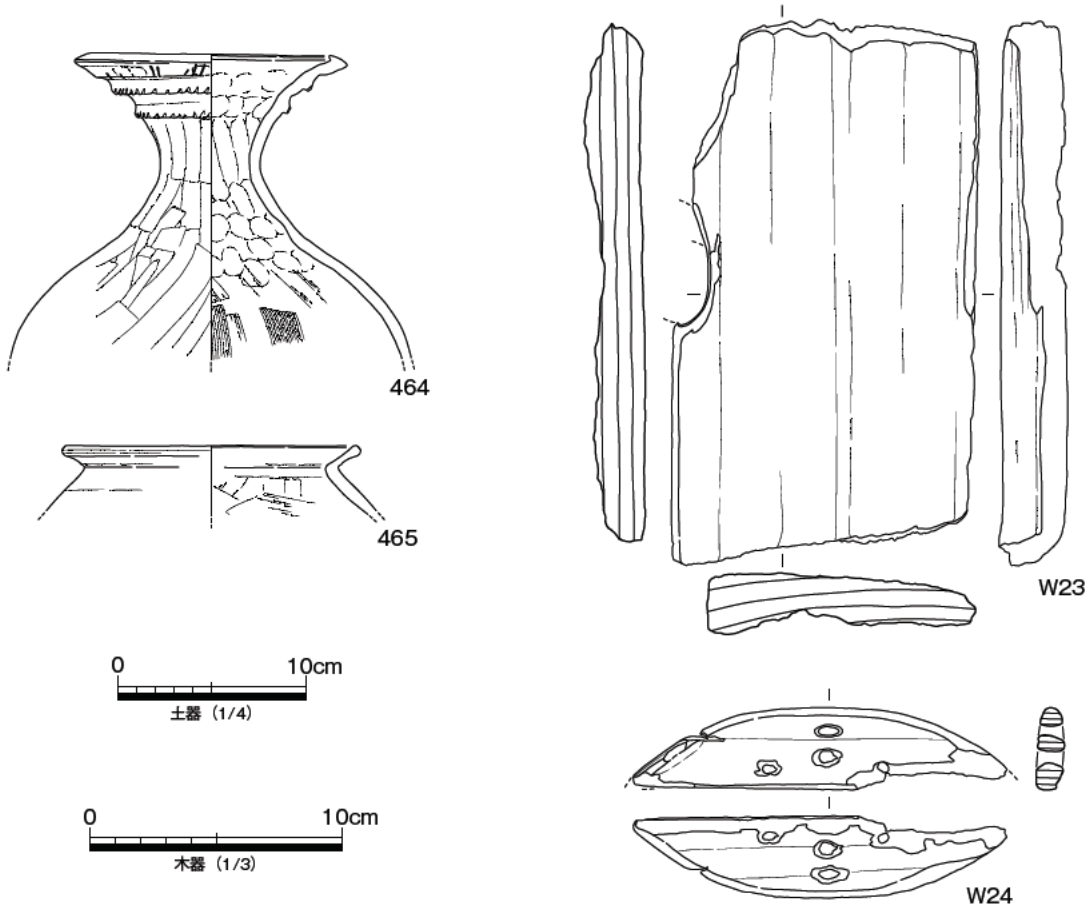
第 91 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (8)



第 92 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (9)



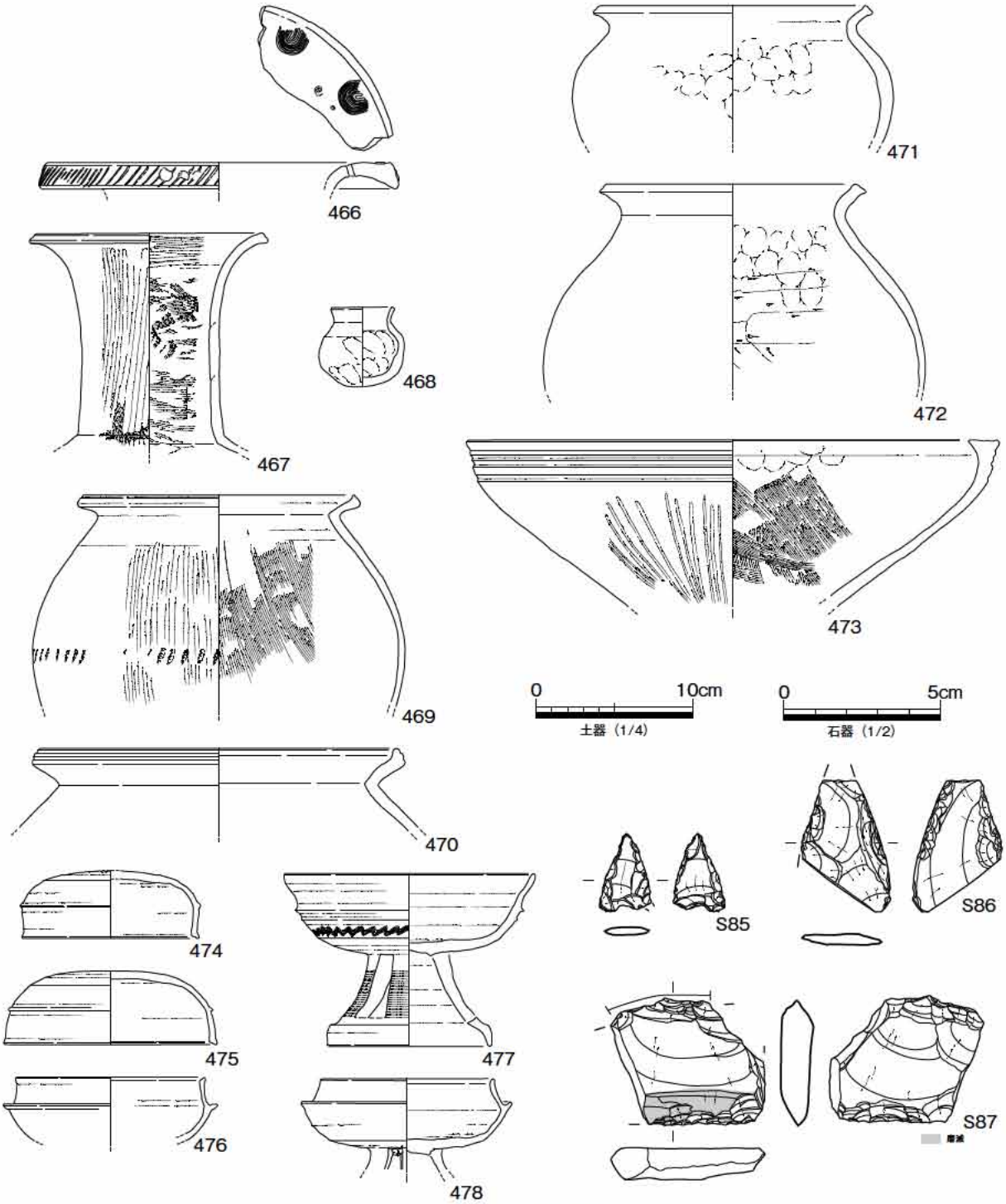
第93図　SR06　下層　出土遺物実測図(10)



第 94 図　SR06　下層　出土遺物実測図 (11)

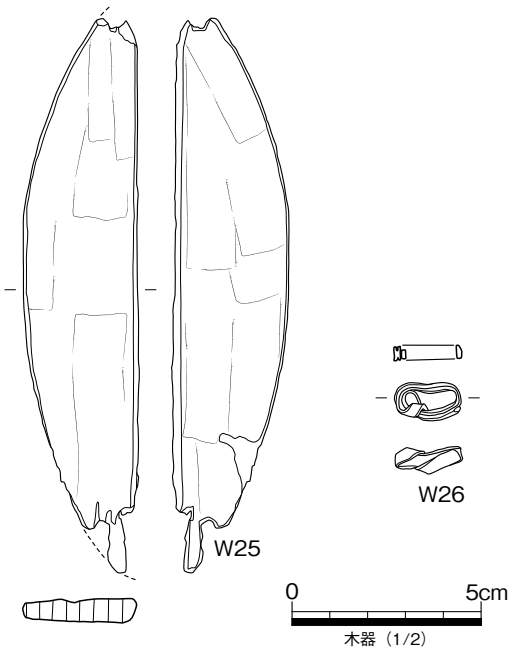
拡張し端部に斜格子文、頸部に押捺突帯文を付す。400 は半球状の杯部から水平方向に延びる口縁をもつ高杯である。口縁端部を下方に拡張させ、４条の凹線文を巡らす。401、402 は断面三角形の貼り付け突帯で加飾する高杯の脚部である。401 には８方向に三角形の透かし穴が開けられている。403 はヘラにより「田」状の記号をもつ細片である。器形はわからない。S49、S50 は肉厚であるが、形状から打製石剣の破片とした。S51 は外湾する刃部のスクレイパー、S52 も外湾する刃部をもつ打製石庖丁である。S52 は剥片に簡単な細部調整を加えて刃部としている。S53 は打製石斧の刃部。刃部先端付近に摩滅、擦痕が見られる。

第 88 ～ 92 図および第 93 図 S83 は、平成 11 年度調査区の SR03 下層下段（暗オリーブ褐色混礫粘質土、底部で灰褐色混礫細砂層に漸移）から出土した遺物実測図である。404 ～ 427 は壺である。404 は口縁端部を上下にわずかに拡張させ綾杉文を施す。405 は端部を拡張せずに刻み目を施す。口縁部に２個一組の小孔が見られる。406 は口縁端部を下方に拡張し、４条の凹線文、刻み目、棒状浮文を付す。口縁部内面には斜格子文、列点文が見られる。407 は口縁端部を上下にわずかに拡張し櫛歯文、口縁部内面に斜格子文と２個一組の小孔が見られる。408 ～ 410 は頸部に断面三角形の貼り付け突帯を付すものである。408 は口縁端部を下方に拡張し、端部に斜格子文と穿孔、口縁部内面に斜格子文と列点文が見られる。409 は口縁端部をわずかに拡張し端部に綾杉文と円形浮文が見られる。410 は口縁端部を下方に拡張し、端部に３条の凹線と刻み目、３個２列を一組とする円形浮文を付す。口縁部内面はやや乱れた斜格子文と列点文が見られる。411 ～ 414 は頸部に押捺突帯を付す壺である。411 は拡張しない口縁端



第 95 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (1)

部に綾杉文、口縁部内面に斜格子文と列点文が見られる。412 は下方に拡張した口縁端部に３条の凹線文を巡らせ、凹線文の間にのみ刻み目を施している。413 は下方に拡張した口縁端部に３条の凹線文、刻み目と２個２列を一組とする円形浮文を付す。口縁部内面には斜格子文、小孔と貼り付け突帯２条を巡らす。414 は口縁端部を上方に拡張し、口縁部内面に斜格子文を施している。415 ～ 418 は頸部に押捺突帯を巡らせ、短く開く口縁の壺である。415、416 は端部をわずかに拡張させ斜格子文、刻み目を施す。417、418 は口縁端部の上面に平坦面を作っている。419 は口縁端部を上下に拡張し、凹線文、竹管文



第 96 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (2)

が見られる。420 は口縁端部を上方に拡張し、凹線文、円形浮文が見られる。421 ～ 427 は漏斗状に開く口縁部をもつ壺である。いずれも外面に刻み目突帯を２条巡らせ、425、427 は口縁端部にも刻み目を施している。428 は無頸壺である。球形の胴部が内傾して口縁端部に至る。口縁端部に刻み目、口縁部付近に３条の刻み目突帯を巡らし、その下に斜め方向の原体圧痕文を巡らし、以下はヘラミガキしている。口縁端部直下には現存で２個の小孔が見られる。429、430 は櫛描きの波状文、直線文、斜格子文を施した壺の胴部片である。431 ～ 434 は甕の口縁部。「く」字状に短く屈曲する口縁をもつ無文の甕である。

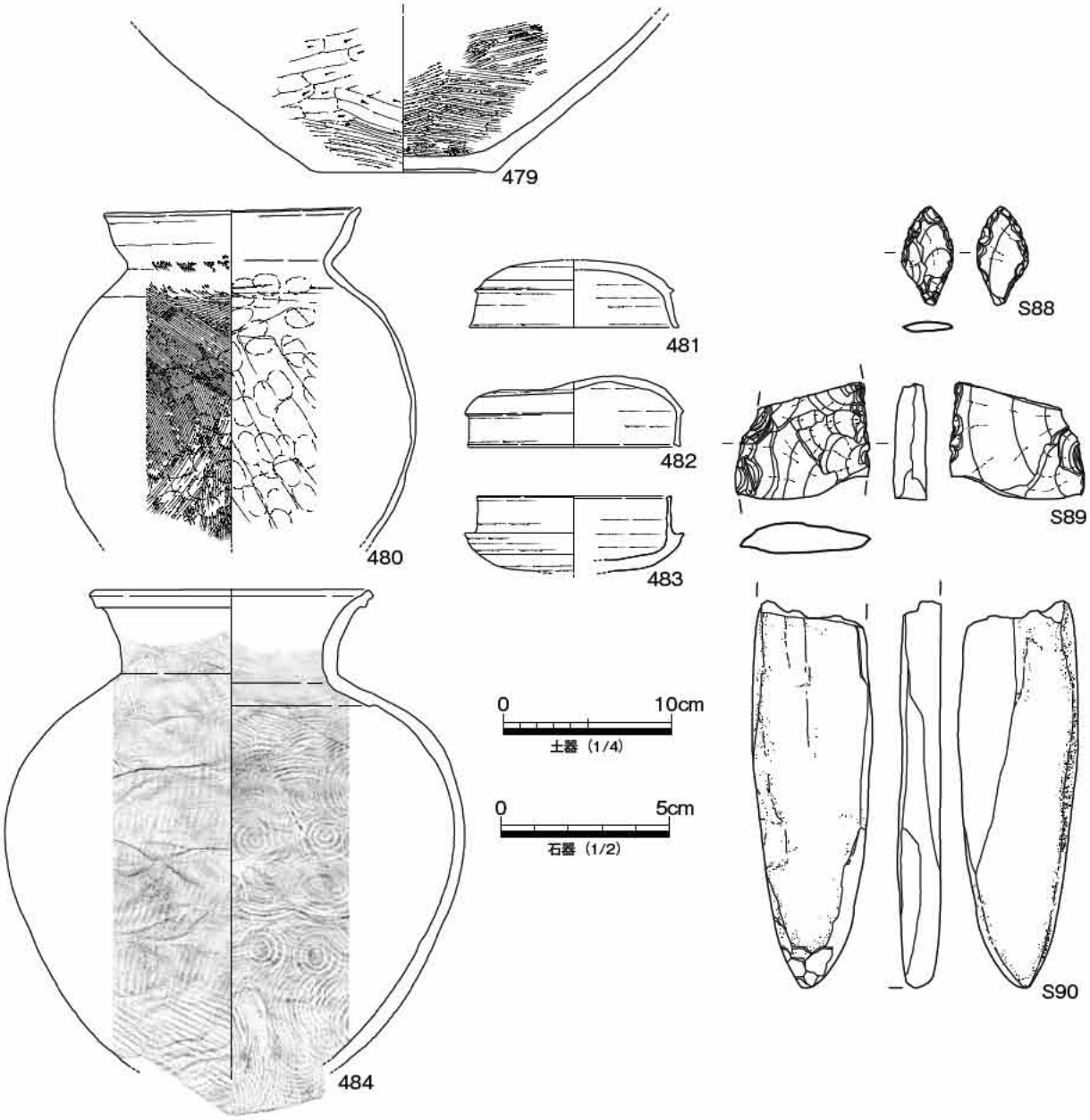
440、441 は高杯である。440 は半球状の杯部から水平方向に延びる口縁をもつもので、端部に刻み目、屈曲部に小孔が見られる。441 は半球状の杯部と「ハ」字状に開く脚部をもつ。442 ～ 444 は高杯の杯部もしくは鉢である。いずれも口縁端部上面に平坦面をつくり、444 は斜格子文と円形浮文が見られる。445 は内傾する口縁部をもつ高杯の杯部、446 は高杯の脚部である。447 ～ 450 は台付鉢の脚部である。454 は一面に櫛描きにより大きな半円を並列させ、内部に小さな半円を並列させる文様を描く。反対面には櫛描きで直線の文様を描いている。摩滅のため土製品の輪郭も定かではない。455、456 は土師器高杯、混入と考えられる。

S54 ～ S66 は打製石鏃。S66 は凸基有茎式のものである。S67、S68 は形状から打製石剣の基部と考える。S69、S70 はスクレイパー、S69 は主に剥片の片面に細部調整を行って刃部を作っている。S71 ～ S76 は打製石庖丁である。S71 ～ S74 は剥片を利用し、簡単な細部調整で刃部を作っている。S77 は形状から石匙と考える。S78 は打製石斧の基部、S79 は柱状片刃石斧、S80 は太型蛤刃石斧である。S81 は楔形石器。上面に潰れ、下面に階段状の剥離が見られる。S82 は石製円盤、S83 は砂岩の敲石である。

第 93 図 457 ～ 463、S84、W22 は平成 11 年度調査で SR03 の下層中段として取り上げられた遺物実測図である。457 は高杯の杯部か鉢である。半球状で口縁端部上面に平坦面を作り斜格子文、円形浮文が見られる。458 ～ 461 は高杯。いずれも「ハ」字状に開く脚部で、459 は長方形のやや粗雑な透かし穴を４方向に開けている。460 は半球状の杯部から屈曲し外上方に開く短い口縁をもつ。462 は接合不能であるが、同一個体の鉢、463 は脚台と思われ、側面から斜め下方に孔を穿っている。孔、全体の形状ともに粗雑である。S84 は打製石斧の基部である。

W22 は椀型の形状であるが正円ではない。椀の一方に柄が取りつく杓子の身の部分と考えられる。

第 94 図は平成 11 年度調査で SR01 の下層（暗オリーブ褐色混礫粘質土）として取り上げられた遺物実測図である。464 は漏斗状の口縁部をもつ壺で、口縁部外面に２条の刻み目突帯が巡る。465 は無文の甕である。



第 97 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (3)

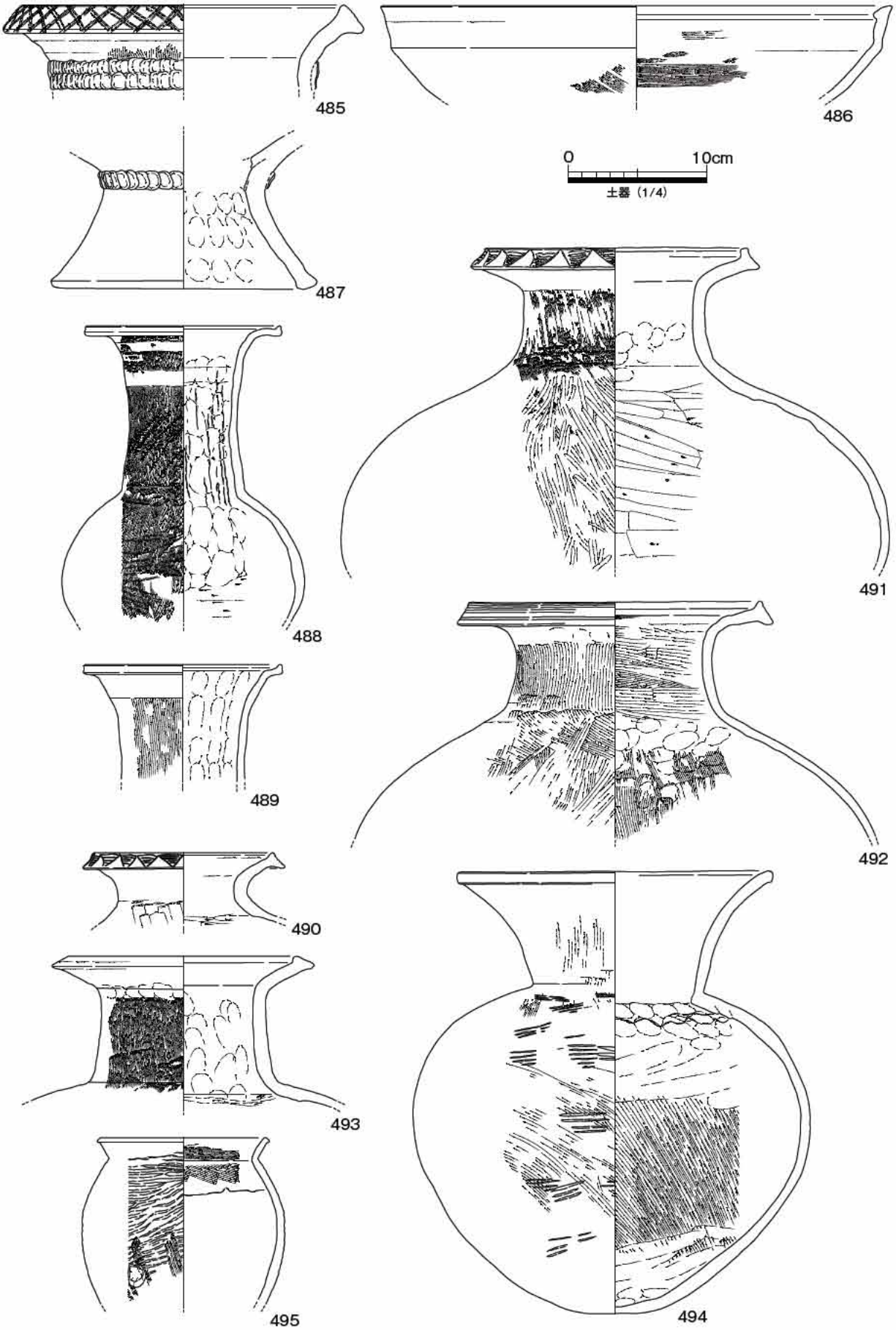
W23 は長方形の板で 1 か所に孔の痕跡がある。W24 は円盤状の板で、4 箇所に孔が残る。用途不明。以上のように SR06 下層は、弥生時代中期中葉の堆積層と理解される。

SR06 中層（第 95 ～ 100 図）

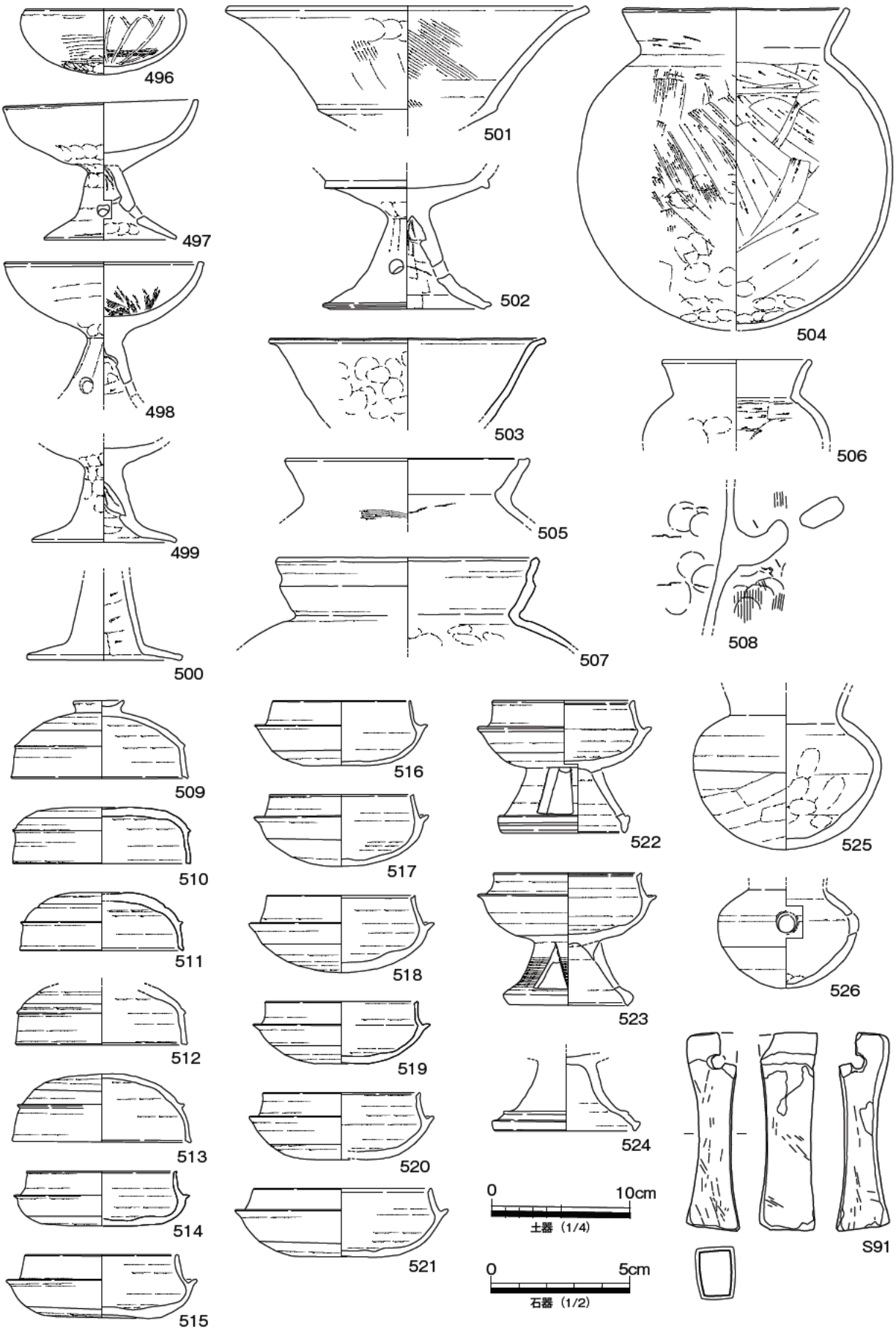
SR06 中層は時期幅のある遺物が混在することが特徴である。

平成 10 年度調査 SR01 のⅢ層、平成 11 年度調査 SR03 の下層の上段と中層の下段、SR01 の中層が該当する。

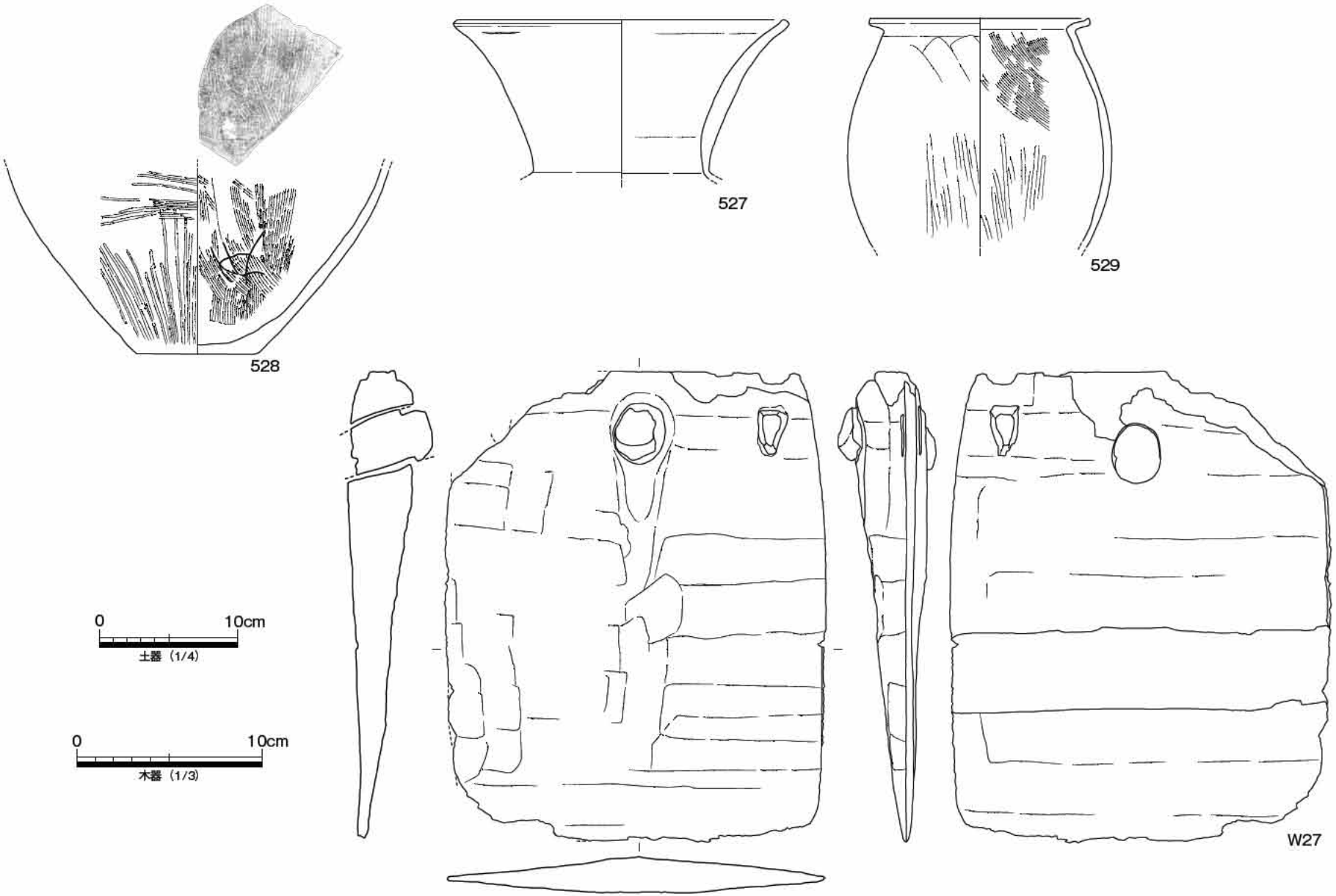
第 95、96 図は平成 10 年度調査で SR01 のⅢ層として取り上げた遺物の実測図である。466 は弥生時代中期中葉の壺である。口縁端部に斜行文と円形浮文、口縁内面に櫛描きの重弧文と小孔が見られる。467 は弥生時代後期前半の長頸壺である。469 ～ 472 は甕。469 は胴部最大径付近にハケ原体による圧



第 98 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (4)



第 99 図　SR06　中層　出土遺物実測図 (5)



第 100 図　SR06　中層　出土遺物実測図(6)

痕文を巡らす。470 は口縁端部に２条の凹線文が見られる。473 は高杯。口縁端部を内外に拡張して平坦面を作る。口縁部外面に４条の凹線文が見られる。474、475 は須恵器杯蓋。天井部と口縁部とを分ける稜は甘い。476 は須恵器杯身である。口縁端部のたちあがりは内傾している。477 は無蓋高杯。杯部の稜線の下に櫛描き波状文が見られる。478 は有蓋高杯。477､478 ともに３方向の透かし穴を開ける。S86 は形状から石鏃の未成品と考える。S87 は刃部に摩滅の見られるスクレイパーである。

W25、W26 は共伴して出土し、同一個体の一部の可能性がある。W25 は円盤状の板の一部と考えられる。W26 は木の皮で長軸２㎝足らず、短軸 0.7㎝程度に丸くまとめたもの。

第 97 図は平成 11 年度調査で SR03 下層上段として取り上げた遺物実測図である。480 は土師器甕、481、482 は須恵器杯蓋、483 は須恵器杯身、484 は須恵器甕である。S88 は凸基有茎式の石鏃、S89 は小片であるが、打製石斧片と考える。S90 は柱状片刃石斧片である。

第 98、99 図は平成 11 年度調査で SR03 の中層下段として取り上げられた遺物実測図である。485 の壺は口縁端部を拡張させ斜格子文を施し、頸部に２条の押捺突帯が見られる。486、487 は高杯である。488、489 は長頸壺である。488 の頸部にはハケ原体による圧痕文が斜め方向に施される。490 ～ 495 は弥生時代終末期から古墳時代前期に属すると考えられる。490 は口縁端部を上下に拡張しヘラ描きの鋸歯文、491 は上方に拡張し鋸歯文を施している。494 はラッパ状に開く口縁の壺である。ほぼ丸底で外面にタタキ目が残る。495 も外面にタタキの残る甕である。焼成時破裂と思われる痕跡が見られる。

496 は土師器杯。鉄鉢状の形態で内面に間歇するヘラミガキが見られる。497 ～ 502 は土師器高杯である。半球状の浅い杯部から途中で大きく屈曲する脚部をもつ形態と、これより大型で、水平もしくは斜め上方に開いたあと屈曲して外反気味に立ち上がる口縁をもつ形態がある。後者の屈曲外面には貼り付け突帯が見られるものが多い。503 は鉢、504 ～ 507 は土師器甕である。球状の胴部から外上方に開く口縁を持つ。505 は口縁端部上面に凹みが、507 の口縁部はナデにより屈曲している。

509 ～ 513 は須恵器杯蓋、514 ～ 521 は須恵器杯身である。509 は中くぼみのつまみを付す。510 の天井部は平坦で、513 は丸みを帯びること、杯身の口縁端部は丸くおさめるものと内傾するものがあること、杯身の口径は 9.9 ～ 12.8㎝とばらつきが見られることから時期幅があると思われる。522、523 は有蓋高杯である。522 は長方形、523 は三角形の透かし穴が３方向に開けられている。524 の高杯脚部は時期の下るものである。S91 は携帯用で穿孔をもつ砥石である。使用により各面が凹面となっている。

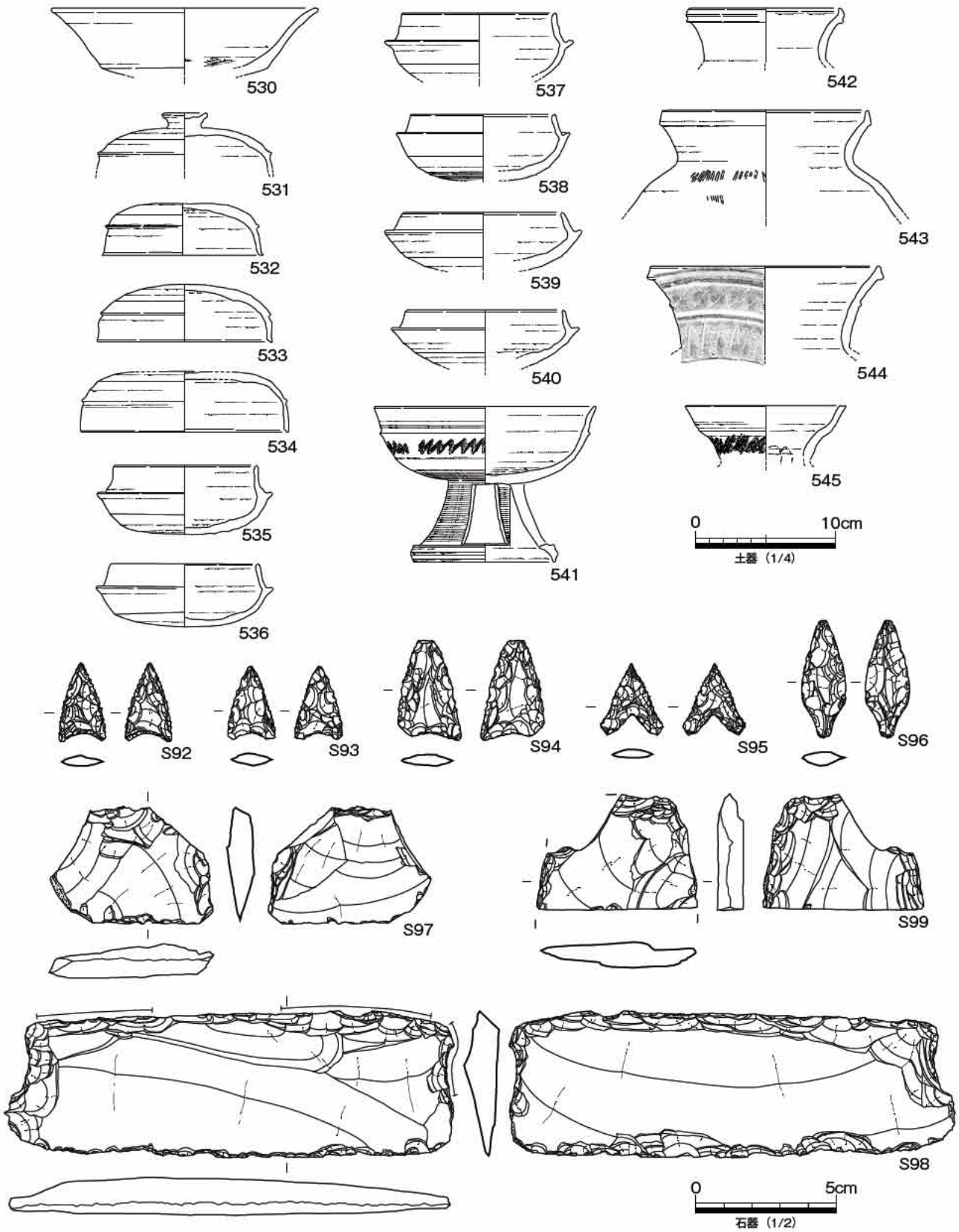
第 100 図は平成 11 年度調査において SR03 中層として取り上げられた遺物である。先述の SR03 中層下段との層位関係はよくわからない。ラッパ状に開く口縁をもつ壺（527）、胴部内面にヘラによる記号の描かれた壺（528）、甕（529）が出土している。

W27 は広鍬。身は方形に近い形状で、柄の取り付け部分の隆起は緩い。孔には柄の一部が残されていた。

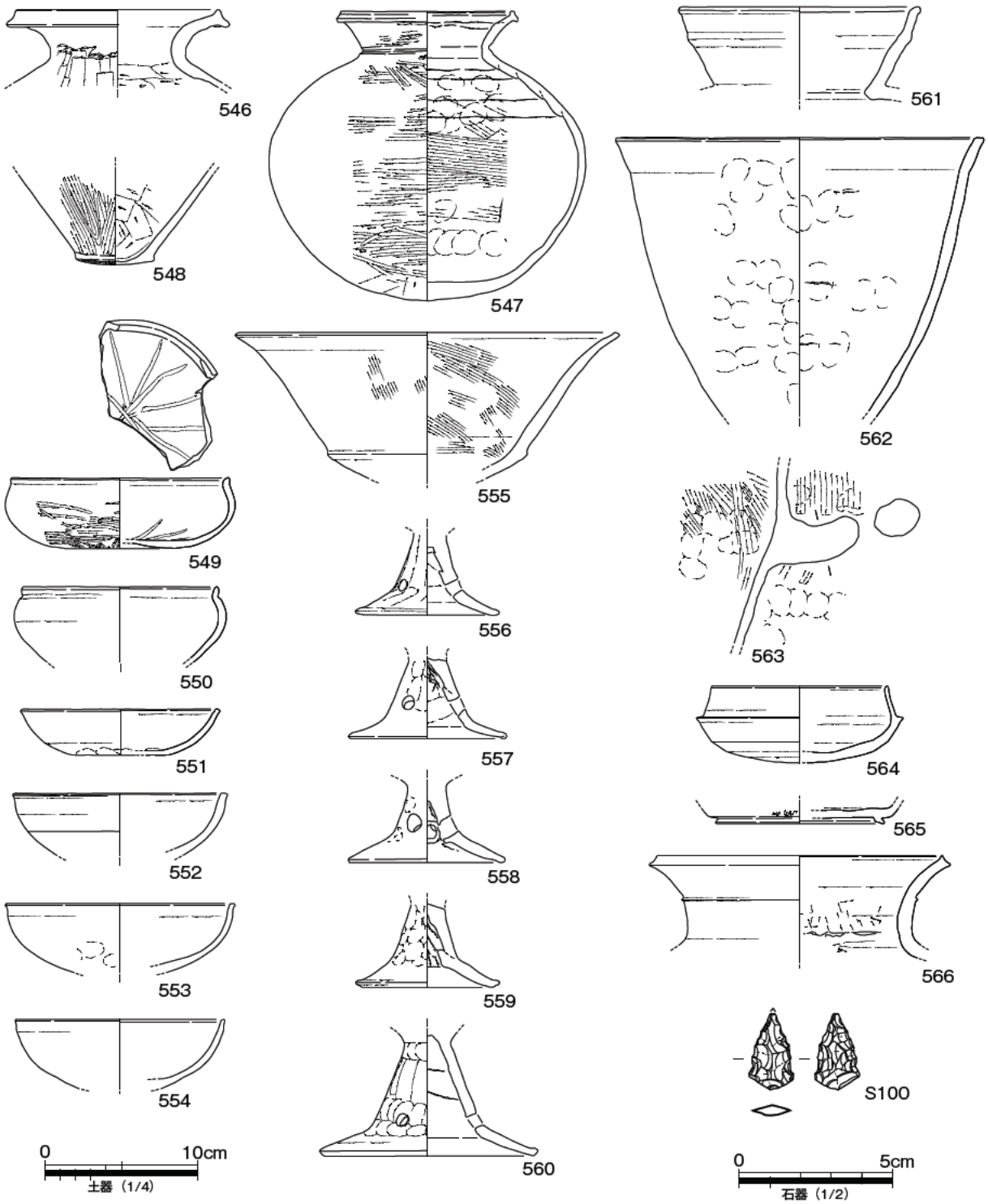
以上がSR06中層の遺物である。ここでは若干量の弥生時代中期中葉の遺物のほか､弥生時代後期前半、弥生時代後期終末から古墳時代前半、古墳時代後期の遺物が混在している。混在の理由はよくわからない。

SR07（第 80・101 ～ 109 図）

SR07 は、平成 10 年度調査 SR01 のⅠ、Ⅱ層、平成 11 年度調査 SR03 の中層、中層上段、SR02 の下層、中層が該当する。SR06 とは流路が異なると理解するため、別の遺構番号を付す。したがって SR06



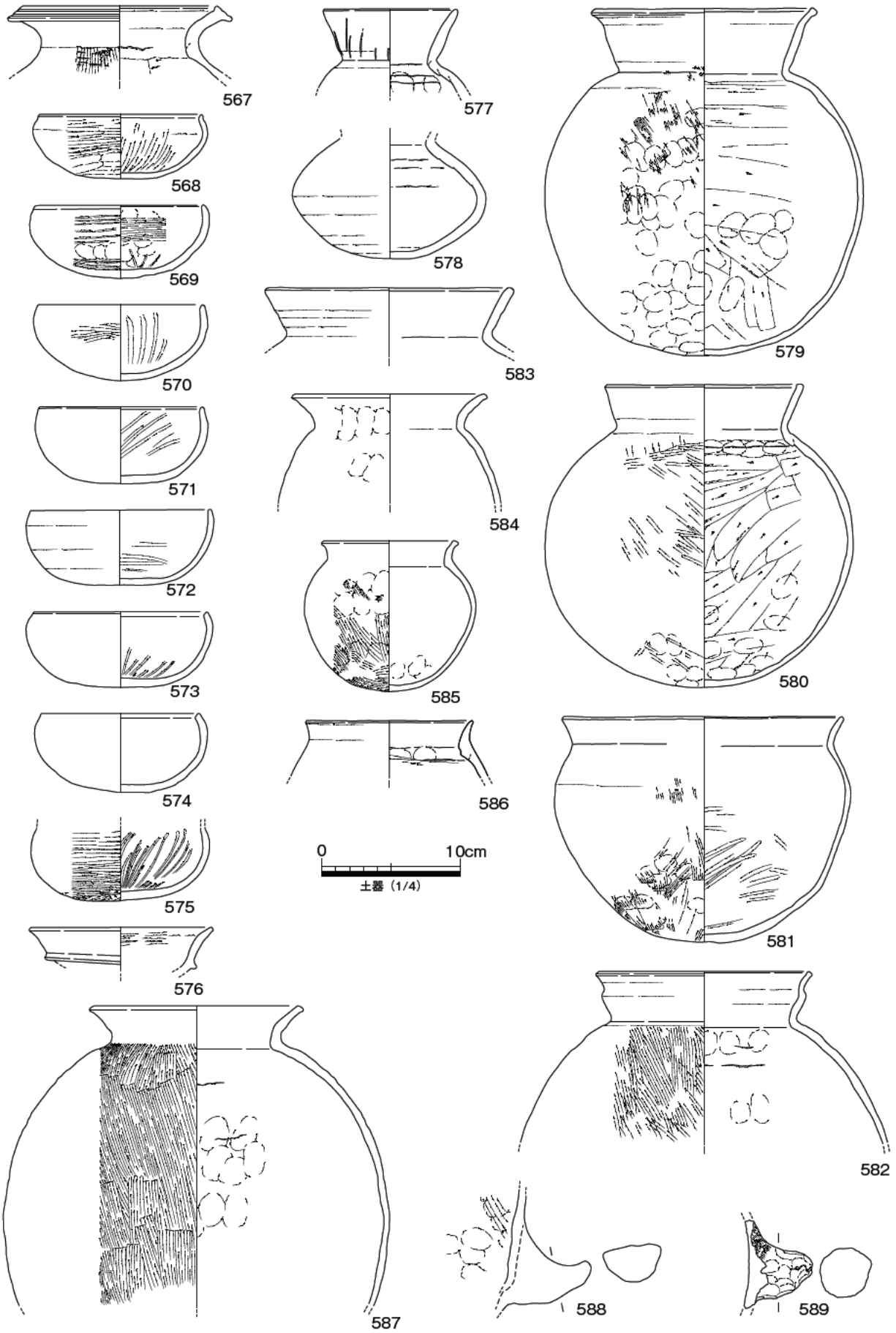
第 101 図　SR07　出土遺物実測図 (1)



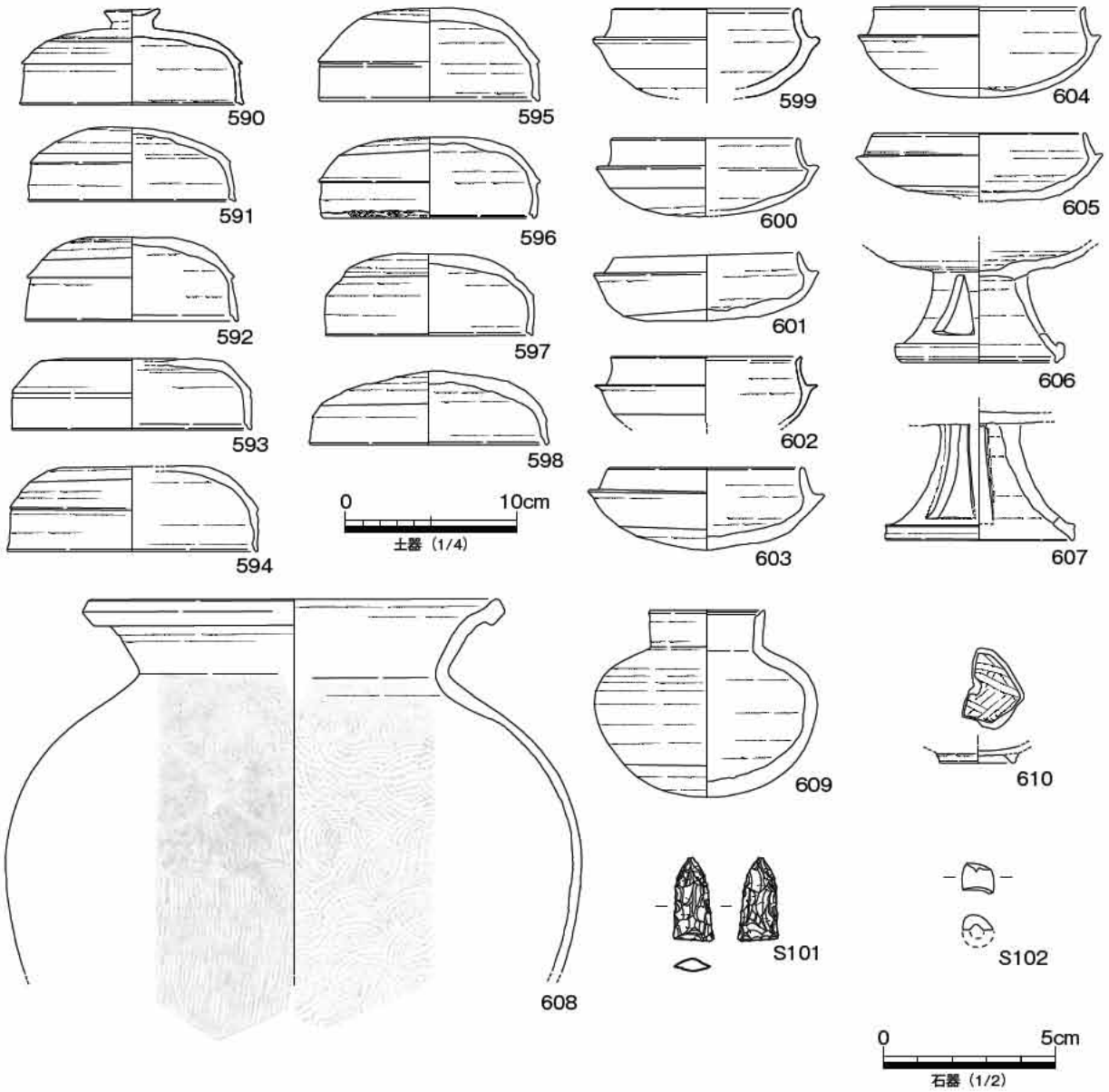
第 102 図　SR07　出土遺物実測図 (2)

上層は存在しないこととなる。

第 101 図は平成 10 年度調査において SR01 上層（Ⅰ～Ⅱ層）として取り上げられた遺物実測図である。530 は土師器高杯、531 ～ 534 は須恵器杯蓋、535 ～ 540 は須恵器杯身、541 は長方形の透かし穴を３方向にもつ無蓋高杯である。これらの須恵器の様相は SR06 中層と同じである。このほか須恵器の壺、甕、瑕が出土している。S92 ～ S96 は石鏃である。凹基式と凸基有茎式のものが出土している。S97 はスク



第 103 図　SR07　出土遺物実測図 (3)

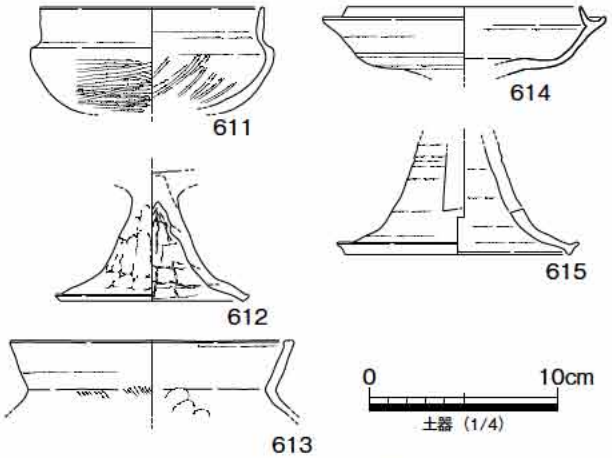


第104図　SR07　出土遺物実測図(4)

レイパー、S98は打製石庖丁である。S98の刃部の片面は強く、もう片面はそれよりも弱く細部調整を行って整えている。S99は形状から打製石斧の基部とした。

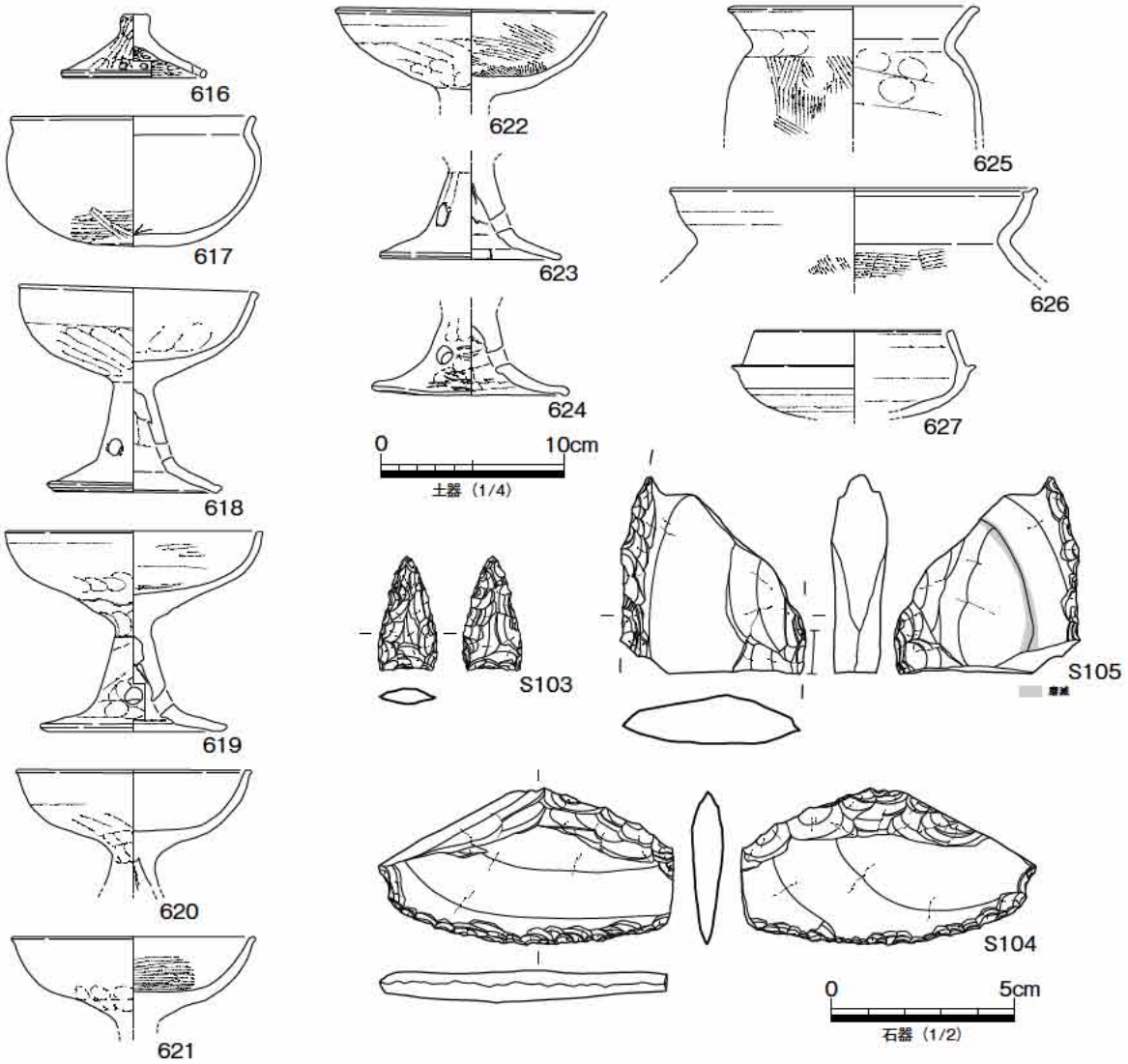
第102図は平成11年度調査においてSR03中層として取り上げられた遺物実測図である。546、547は弥生土器壺、548は弥生土器甕である。549～551は土師器杯。549、550は口縁端部を外側に摘み出している。552～560は土師器高杯と考えられる。半球状の杯部のものとやや大型で屈曲して外反する口縁をもつものがある。562は甑の胴部とした。565の須恵器底部は混入品である。

第103、104図は平成11年度調査においてSR03中層上段として取り上げられた遺物実測図である。ここでは南北約１、東西約２ｍの範囲で土師器、須恵器18個体からなる土器集中箇所が検出されている。調査担当者は概要報告において「土器の大半は完形率が高く正位を保って出土しているほか、概ね同一レベルに集中し、意図的に重ね置きしたような状況を呈していることから、これらは堆積作用によるまとまりではなく人為的なものであることが想定できる。これらの土器、特に土師器については表面

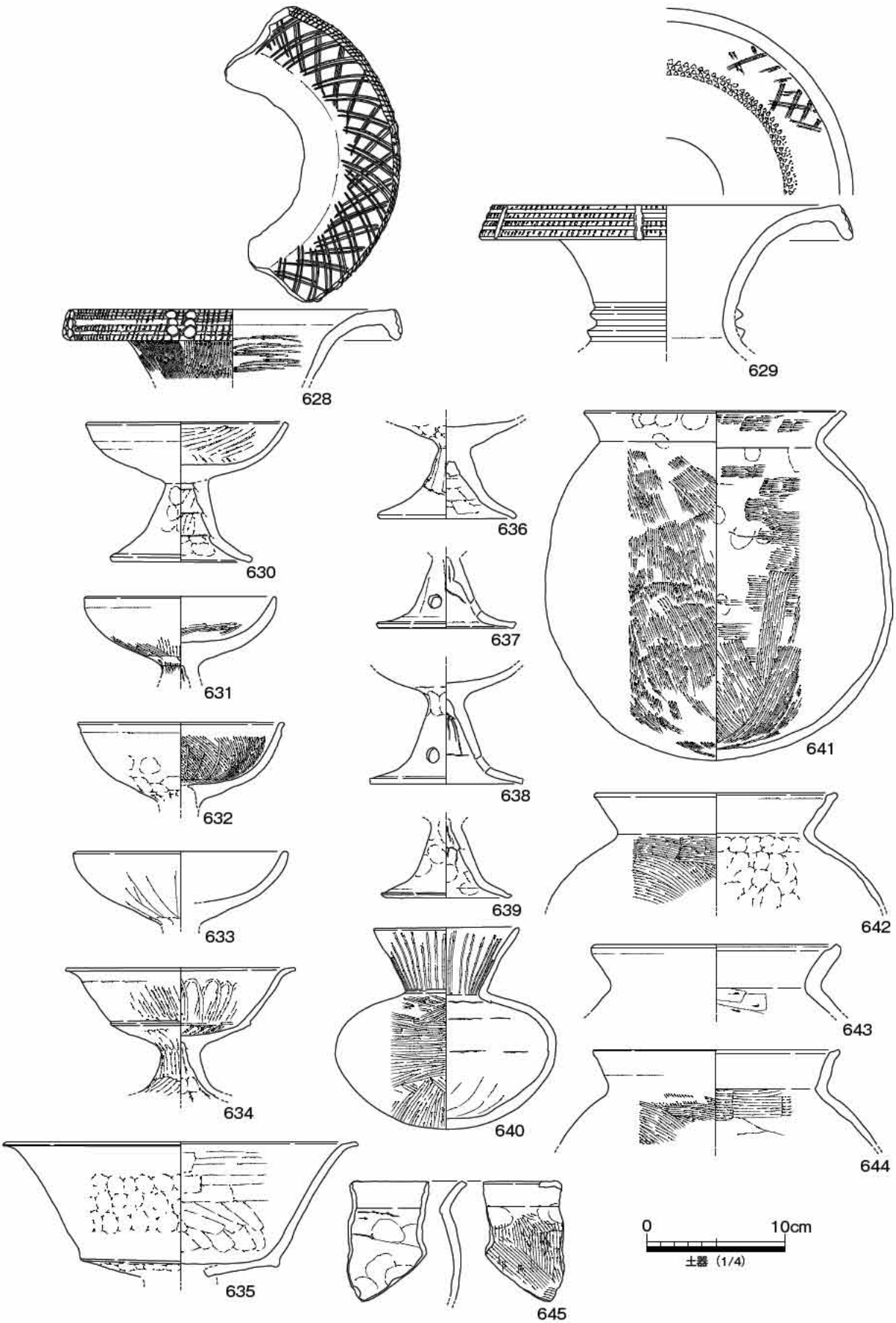


第 105 図　SR07　出土遺物実測図 (5)

が細かいひび割れに覆われており、調整作業の痕跡が見にくくなっている。この場に置かれた後、しばらく著しい堆積作用を受けず、土器が外気の影響を繰り返し受けたことが想定できる。また、1 点のみであるが滑石製臼玉の出土を見ることもあわせると、この土器集中箇所は河川祭祀的な性格を持つものと想定できよう」と述べているが詳細不明である。567 は弥生土器壺、568 ～ 575 は土師器杯である。口縁端部を外側にわずかに摘み出すものとそのままおさめるものがある。また、表面が剥落するものが多いが、内外面にヘラミガキが見られる。576 は内面にヘラミガキが見られることから高杯とした。579、580 は薄手の球胴の甕、581 は口径の大きな甕である。584、587 の甕は摩滅が著しく帰属時期に曖昧さが残る。



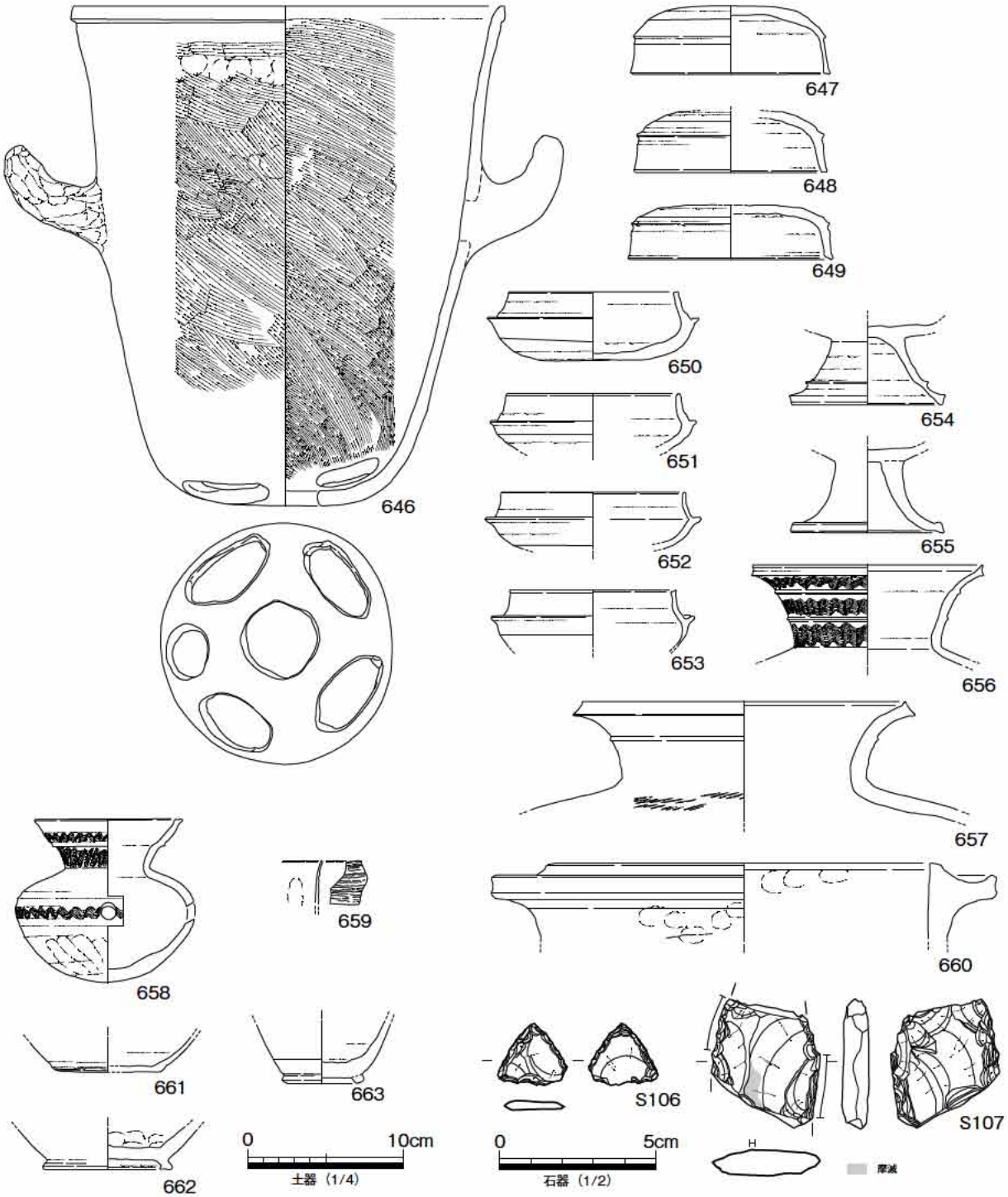
第 106 図　SR07　出土遺物実測図 (6)



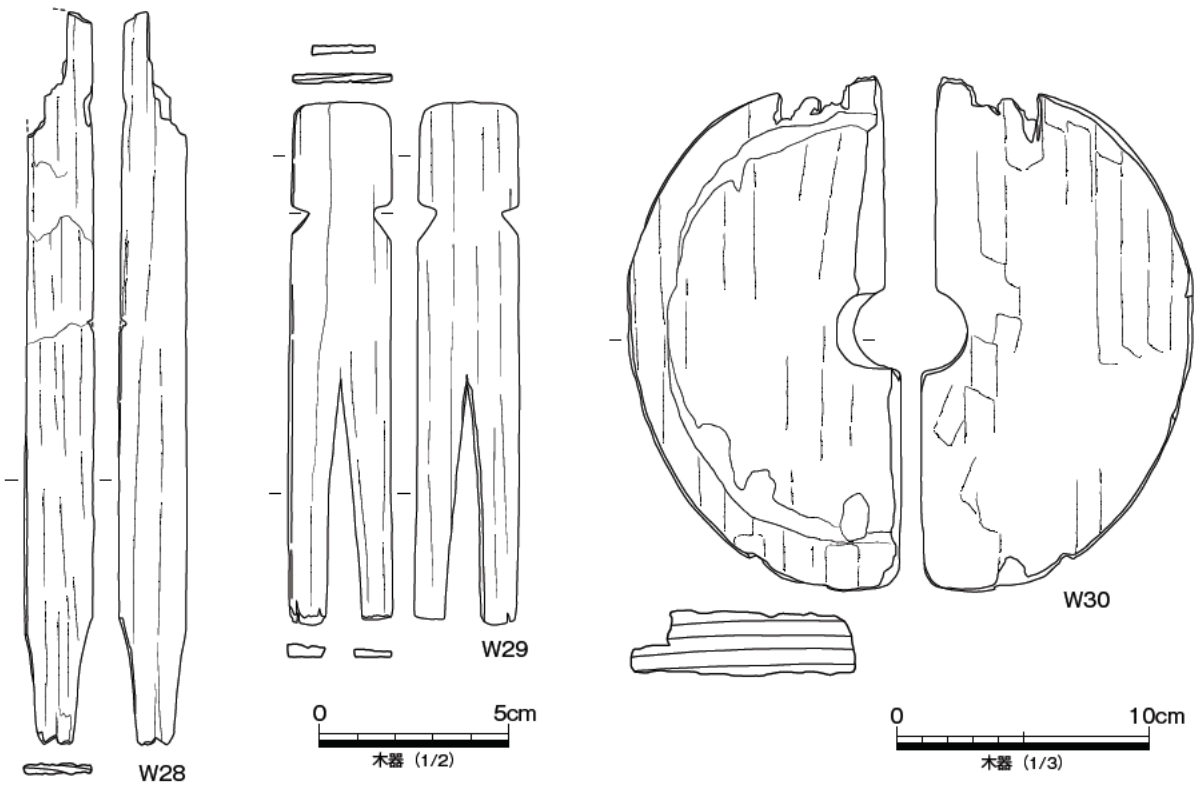
第107図　SR07　出土遺物実測図(7)

590 ～ 598 は須恵器杯蓋、599 ～ 605 は須恵器杯身である。590 は中くぼみの摘みがつく。591 の口径は 12.0cm、594 は 14.6cmを測る。また、597、598 は天井部と口縁部の境界の稜をもたないもので、時期幅があると見られる。杯身の口径は 10.7 ～ 12.3cmを測る。606、607 は三角形、長方形の透かし穴を 3 方向にもつ高杯脚部である。609 は小型の短頸壺、610 は瓦器椀の底部で混入である。S102 は滑石製の臼玉の破片である。土器集中箇所で検出したものである。

第 105 図は平成 11 年度調査において SR03 上層下段として取り上げられた遺物実測図である。611 の



第 108 図　SR07　出土遺物実測図 (8)



第 109 図　SR07　出土遺物実測図 (9)

土師器杯は、半球状の杯部が内側に屈曲したあと垂直方向に立ち上がる口縁をもつ。612 は土師器高杯の脚部、613 は土師器甕、614 は須恵器杯身、615 は須恵器高杯である。

第 106 図は平成 11 年度調査において SR02 中・下層として取り上げられた遺物実測図である。616 は弥生時代の蓋形土器、617 は口縁端部を外側に摘まむ土師器杯である。618 ～ 624 は半球状の杯部をもつ土師器高杯である。625 は土師器甕と考える。S104 は外湾する刃部をもつスクレイパー、S105 は形状から打製石斧の破片と考える。表面に摩滅が見られる。

第 107 ～ 109 図は平成 11 年度調査において SR02 中層として取り上げられた遺物実測図である。628、629 は弥生時代中期中葉の壺である。628 は口縁端部を下方に拡張し、凹線文、刻み目、円形浮文、口縁部内面は斜格子文が見られる。629 も口縁端部を下方に拡張し、凹線文、刻み目、棒状浮文、口縁部内面に斜格子文と三角形の刺突文を並べ、頸部には断面三角形の貼り付け突帯２条で加飾する。630 ～ 639 は土師器高杯である。634 は屈曲部をもつ形態で小型のものである。屈曲部に沈線を巡らせ突帯状に見せている。640 は直口壺、641 ～ 645 は土師器甕である。646 は甑。ほぼ完形で出土している。U 字形をなす器形で口縁端部はそのままおさめている。胴部中央付近に臍穴を開けて把手を取り付けている。底部には図示するとおり中央部の円孔と周囲に５つの孔を開けている。647 ～ 649 は須恵器杯蓋、650 ～ 653 は須恵器杯身である。杯身の口径は 10.7 ～ 11.0㎝を測る。654、655 の高杯は後出のもの、658 は甕、659 は薄手の製塩土器片である。660 の土師器羽釜、661 の須恵器杯、662、663 の須恵器壺は後出するもので混入と考えられる。S107 は形状から打製石斧とした。

W28 は斎串。上・下部が欠損するが、下端は尖らせ上端は圭頭または斜めに加工する。W29 は人形。頭部は加工をほとんど行わず、下部には切り込みを大きく入れて足を表現している。W30 は半分は欠損するが、円盤状で中央に円孔、側縁は１段低く削り出している。円孔部分に軸棒を差し込み台とした

ものか。

以上がSR07出土の遺物である。混入と考えられる遺物が若干量存在するが、古墳時代後期の遺物が主体となる。なお、須恵器杯から型式差があると見られるが、分離できていない。

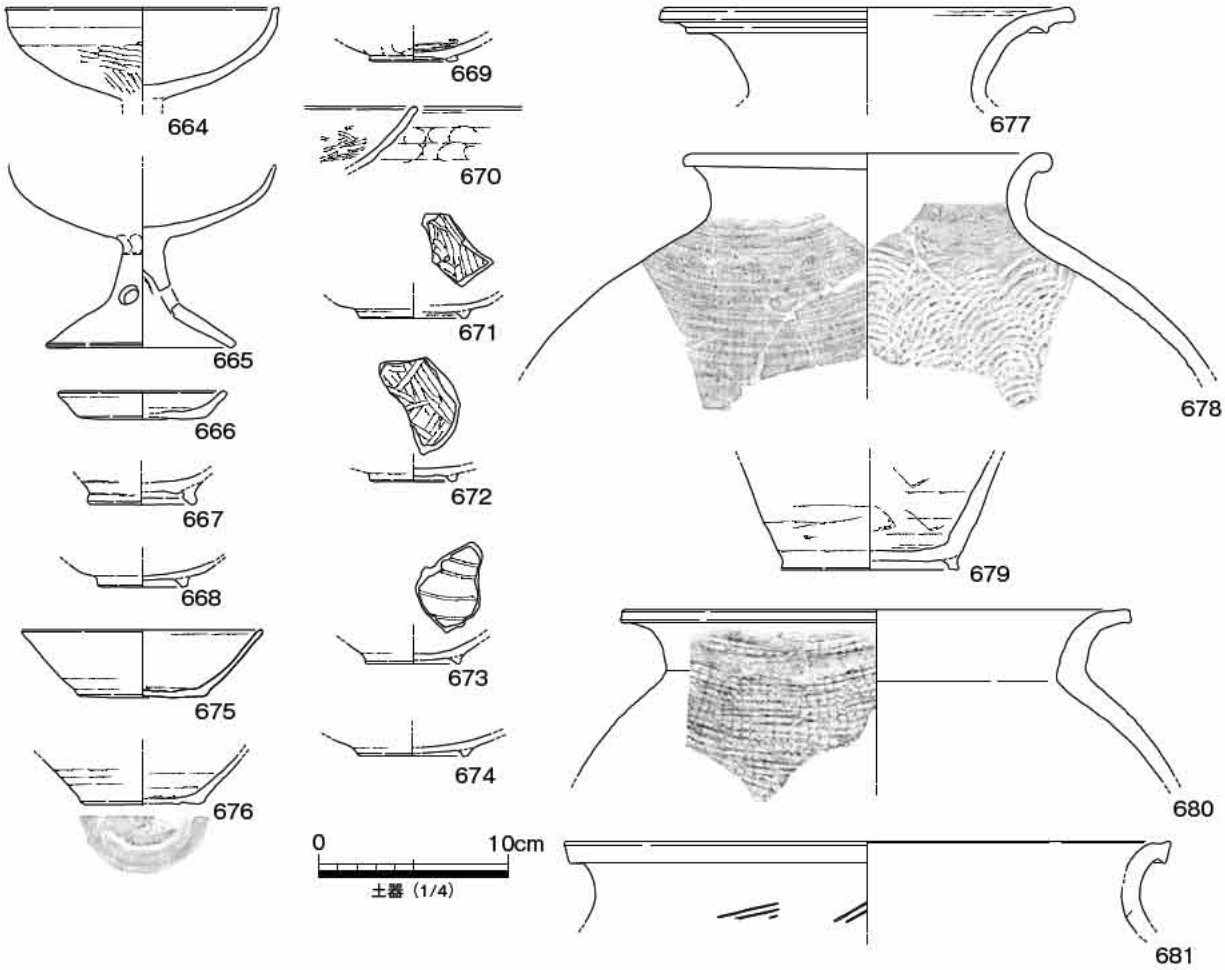
SR08（第80・110～112図）

SR08は、平成11年度調査SR02の上層が該当する。また、平成11年度調査のSR01上層もSR08の推定流路からははずれるが、同時期の堆積層と理解している。

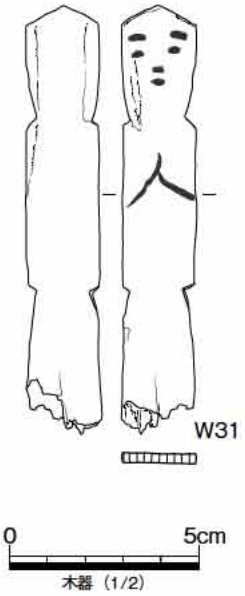
第110、111図は平成11年度調査でSR02上層として取り上げられた遺物実測図である。ここでは664、665の土師器高杯が混入遺物と考えられる。666は土師質土器小皿、667、668は土師質土器椀の底部、669～674は瓦器椀、675、676は須恵器杯である。いずれも小片で出土している。677～679は須恵器甕、680は須恵器壺、681は瓦質土器の甕である。

W31は人形。頭部は圭頭状に切り込み、両側縁2か所ずつ切れ込みを入れて頸部と胴部を表現する。墨により頭部には顔を、胴部には「人」を書く。

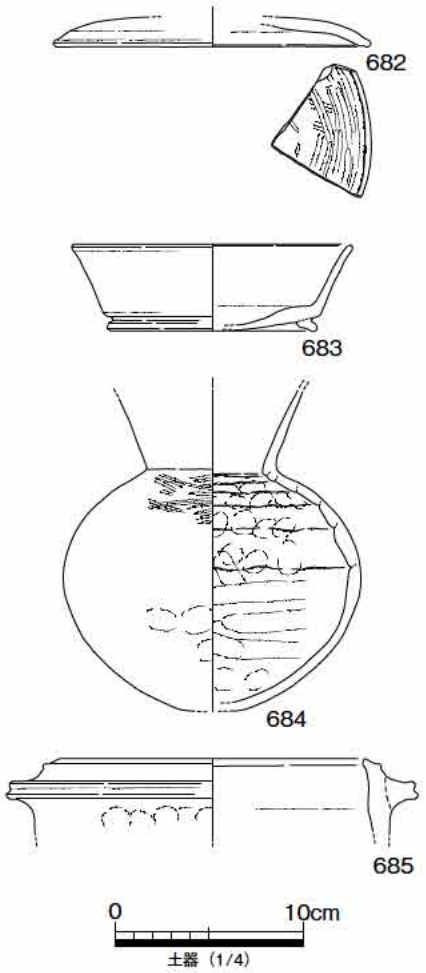
第112図は平成11年度調査でSR01上層として取り上げられた遺物実測図である。この平成11年度SR01上層は、本報告にいうSR08の想定流路上には無く、SR08流下時に凹地として残っていたSR06上面を埋没させた堆積層と理解する。遺物出土量は細片が多く、量は僅少で、中世までの遺物が含まれ



第110図　SR08　出土遺物実測図(1)



第 111 図　SR08　出土遺物実測図 (2)



第 112 図　SR08　出土遺物実測図 (3)

ている。

682 は土師器の蓋、683 は須恵器の杯、684 は土師器壺、685 は土師質土器羽釜である。

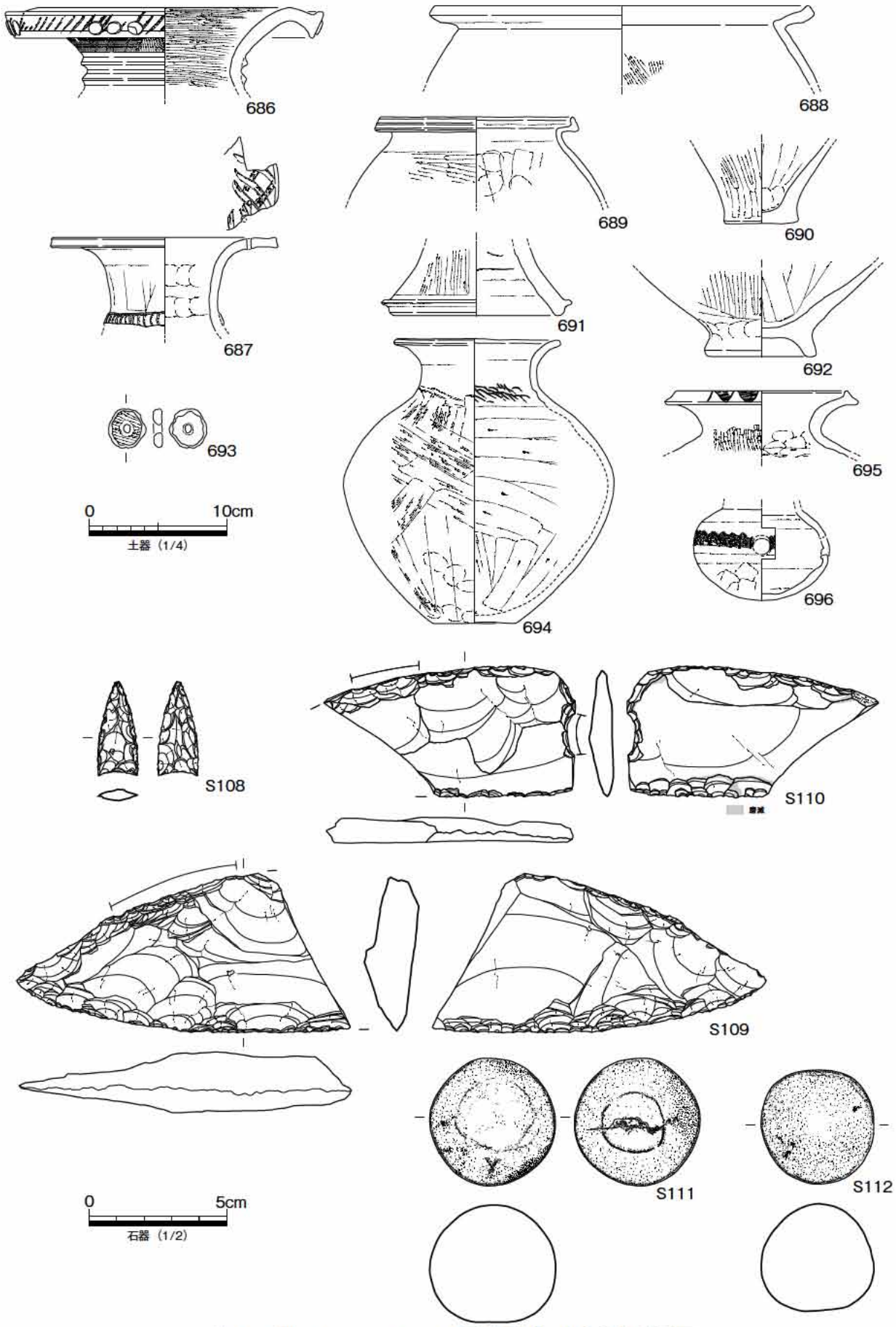
以上が SR08 の出土遺物である。中世の遺物を下限とし、古代、中世の遺物細片を包含している。

平成 10 年度調査における SR01 と平成 11 年度調査における SR01 ～ 03 は、出土遺物の年代観を根拠に SR06 ～ 08 に整理した。この結果、いずれの流路に帰属するのか不明な遺物を生むこととなった。第 113 図は SR06 もしくは SR07（層位不明）に属するもので、平成 10 年度調査の SR01 層位不明（692、696）と平成 11 年度調査の SR03 層位不明（686 ～ 691、693 ～ 695、S108 ～ S112）の遺物実測図である。686、687 は弥生時代中期の壺、688、689 は中期の甕である。694 は後期、695 は終末期の壺、696 は須恵器は瑳である。S109 はスクレイパーである。背面には刃潰れが見られ、一面に刃を作っている。ただし、背面も刃を作ろうとした形跡があり、形状から打製石剣の未成品を転用しているものと見られる。S110 は打製石庖丁、S111、S112 は磨り石である。

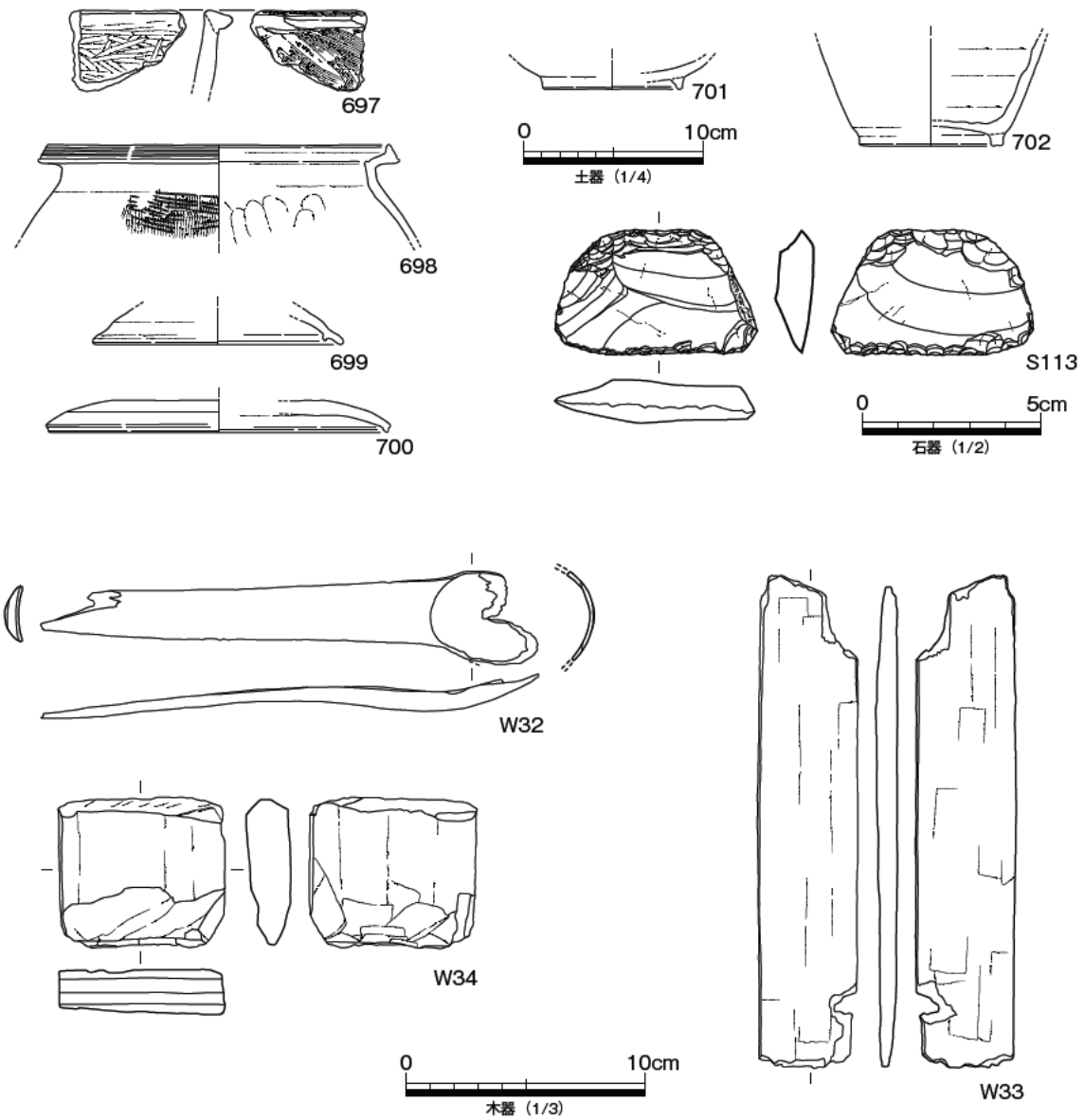
第 114 図は平成 11 年度調査で SR01 において地山直上として取り上げられたものと層位不明の遺物実測図である。地山直上として遺物を取り上げると河底部の地山直上と河岸部の地山直上では年代差が生じる可能性があるため注意が必要である。なお、平成 11 年度調査区の SR01 は、中・下層が本報告における SR06、上層が SR08 に分離しているため、以下の遺物は SR06 もしくは SR08 に帰属するものである。

697 は弥生時代前期の甕の小片、698 は口縁端部を上方に拡張した甕である。699、700 は須恵器の蓋、701 は内黒の黒色土器の椀、702 は須恵器壺の底部である。

W32 ～ W34 は、注記番号が不明となり、平成 10 年度調査において SR01 から出土したことしか分からない木製品である。W32 は匙。柄に対して匙部分はほぼ直線的に取り付く。W33 は長方形の板。上部にはなで肩状に抉りを入れ、側縁は刃状に細く削る。握り棒で柄部分と身の半分程度は欠損するものか。W34 は厚みのある方形の板。1 側縁のみ加工を多く施す。楔と考えられる。



第 113 図　SR06 か SR07　層位不明　出土遺物実測図

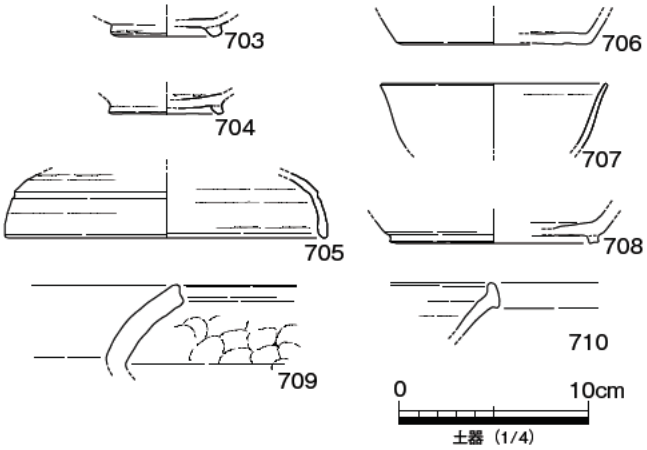


第 114 図　SR06 か SR08　層位不明　出土遺物実測図

第３節　遺構外の遺物

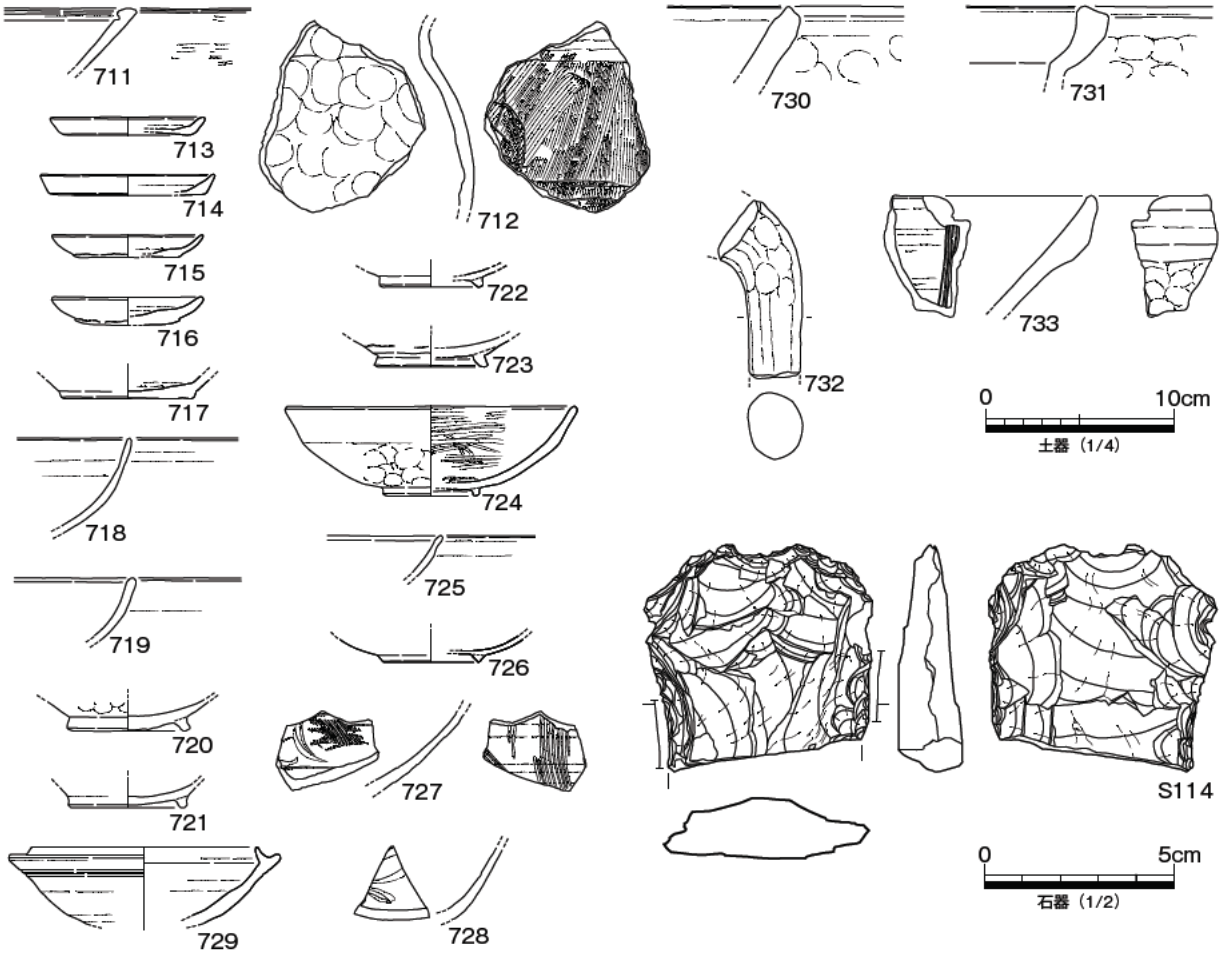
以下は、包含層および機械掘削、遺構面精査中に出土した遺物である。

第 115 図は、平成９年度調査区の SR03 上面において中世の水田層が存在する可能性が考えられた堆積層から出土した遺物実測図である（水田遺構は検出されなかった）。第５図柱状図その２の４～６層にあたる。古代から中世の土器小片が微量出土している。703、704 は内面黒色の黒色土器椀、705 は口径 17.0cmに復原される須恵器杯蓋、706、707 は須恵器杯、708 は須恵器壺である。このほか瓦質土器の甕口縁（709）、東播系の須恵器こね鉢片（710）が出土している。

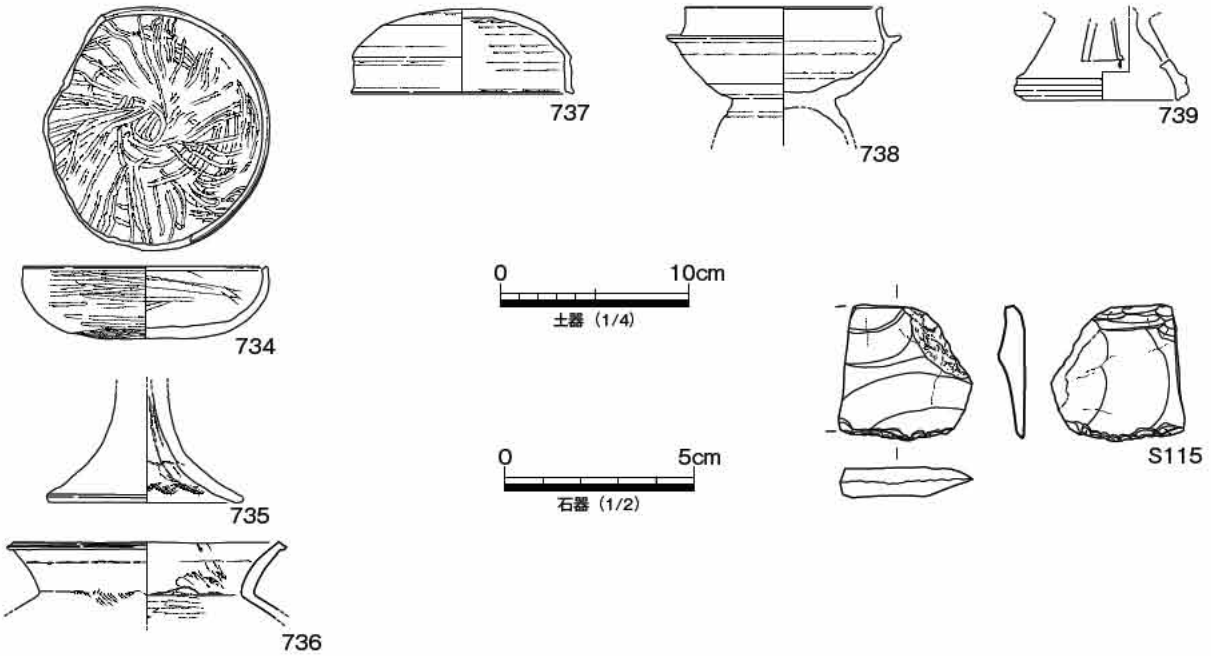


第 115 図　遺構外　出土遺物実測図 (1)

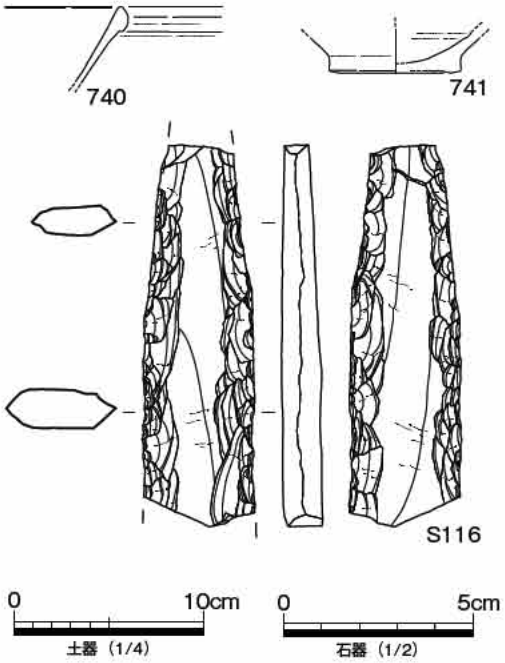
第 116 図は、平成９年度調査において機械掘削中、遺構面精査中、包含層等から出土した遺物実測図である。711 は縄文土器浅鉢の口縁部小片である。口縁端部の内面に沈線が１条巡る。712 は香東川下流域の胎土の壺胴部である。外面にヘラによる線刻が見られる。713 ～ 716 は土師質土器小皿、717 は土師質土器杯、718 ～ 721 は土師質土器椀、722 は両面黒色の黒色土器椀、723 は瓦質焼成の椀、724



第 116 図　遺構外　出土遺物実測図 (2)



第 117 図　出土位置不明の遺物実測図



第 118 図　遺構外　出土遺物実測図 (3)

～ 726 は瓦器椀、727、728 は青磁椀である。729 は内傾する低いたちあがりの須恵器杯身である。730、731 は土師質土器土鍋、732 は三足土釜の脚、733 は須恵器スリ鉢、S114 は打製石斧の基部である。

第 117 図は平成９年度調査において SR02 中層（砂層）として取り上げられた遺物である。SR02(砂層)から出土した遺物のうち、このひとまとまりだけが時期など異質なもので、何らかのトラブルにより別遺構の遺物と混乱したと判断した。734 は土師器杯である。黒色磨研のもので東北産である可能性が高い。739 の須恵器高杯の透かし穴は４方向に開けられている。

第 118 図は、平成 11 年度調査において機械掘削、遺構面精査等で出土した遺物である。740、741 は白磁椀、S116 は形状から打製石剣とした。

第４章　自然科学分析

第１節　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果 (1)

（株）吉田生物研究所

1. 試料

試料は香川県多肥宮尻遺跡から出土した農具８点、漁労具１点、食事具２点、容器１点、祭祀具３点の合計 15 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹５種、広葉樹６種）の第３表と顕微鏡写真図版１～４を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）イチイ科カヤ属カヤ（*Torreya nucifera Sieb.* et Zucc.）

（遺物 No.15）

（写真 No.15）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～４個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州（中・南部）、四国、九州に分布する。

２）イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ（*Cephalotaxus Harringtonia* K. Koch f. *drupacea* Kitamura）

（遺物 No.10）

（写真 No.10）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は漸進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で１分野に１～２個ある。仮道管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）して存在する。板目では放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州（岩手以南）、四国、九州に分布する。

３）コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ（*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.）

（遺物 No.6）

（写真 No.6）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州 (福島以南)、四国、九州 (宮崎まで) に分布する。

４）ヒノキ科ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）

（遺物 No.12,13）

（写真 No.12,13）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州 (福島以南)、四国、九州に分布する。

５）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis* sp.）

（遺物 No.9）

（写真 No.9）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

６）カバノキ科カバノキ属ミズメ（*Betula grossa* Sieb. et Zucc.）

（遺物 No.11B）

（写真 No.11B）

散孔材である。木口ではやや大きい道管（～ 190 μ m）が単独ないし２～４個が放射方向に複合して分布している。軸方向柔細胞は年輪界で顕著である。柾目では道管は階段穿孔を有する。放射組織は平伏細胞からなる同性と直立、平伏細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は小型である。板目では放射組織は１～４細胞列、高さ～ 450 μ m であった。ミズメは本州、四国、九州に分布する。

７）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）

（遺物 No.1,2,3,11A,14）

（写真 No.1,2,3,11A,14）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～ 200 μ m）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に１～３細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

８）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（*Zelkova serrata* Makino）

（遺物 No.7）

（写真 No.7）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～ 270 μ m）が１列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は１～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める６～７細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

９）ニレ科ムクノキ属ムクノキ（*Aphananthe aspera* Planchon）

（遺物 No.8）

（写真 No.8）

散孔材である。木口では中庸の道管（～ 170 μ m）が単独ないし２～３個放射方向に複合して年輪界に散らばっている。軸方向柔細胞は道管の周囲を取り囲んだものやそれらがつながって白い帯のように見えるもの（連合翼状～帯状柔組織）がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は篩状の壁孔が存在する。板目では放射組織は１～５細胞列、高さ～ 700 μ m からなる。ムクノキは本州、四国、九州に分布する。

10）クワ科クワ属（*Morus* sp.）

（遺物 No.4）

（写真 No.4）

環孔材である。木口では大道管（～ 280 μ m）が年輪界にそって１～５列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が２～６個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は１～６細胞列、高さ～ 1.1mm からなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

11）ツバキ科ツバキ属（*Camellia* sp.）

（遺物 No.5）

（写真 No.5）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～ 40 μ m）が、単独ないし 2 ～ 3 個接合して均等に分布する。放射組織は 1 ～ 3 細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は 1 ～ 4 細胞列、高さ～ 1mm 以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

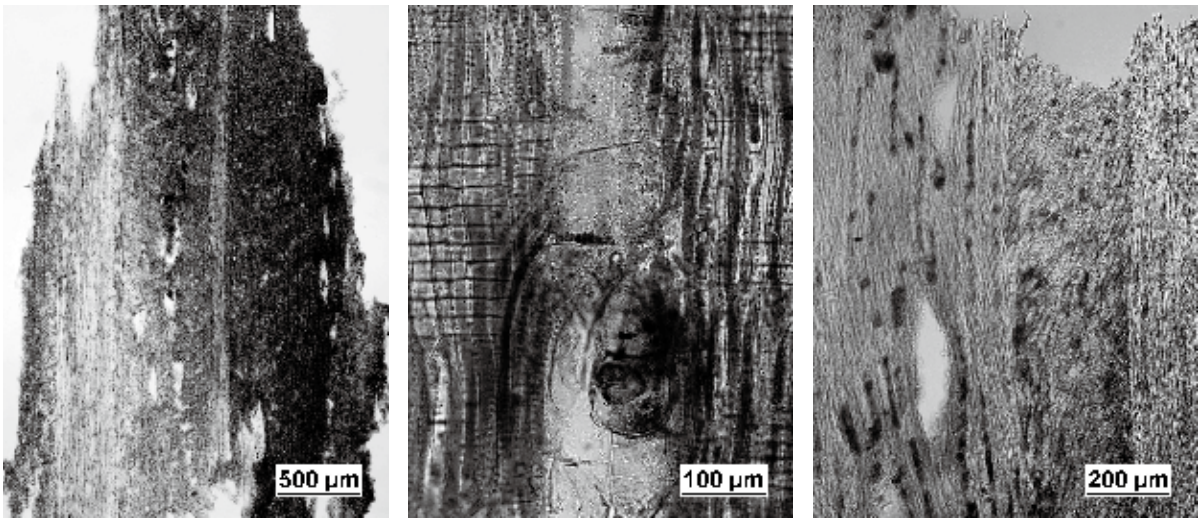
林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

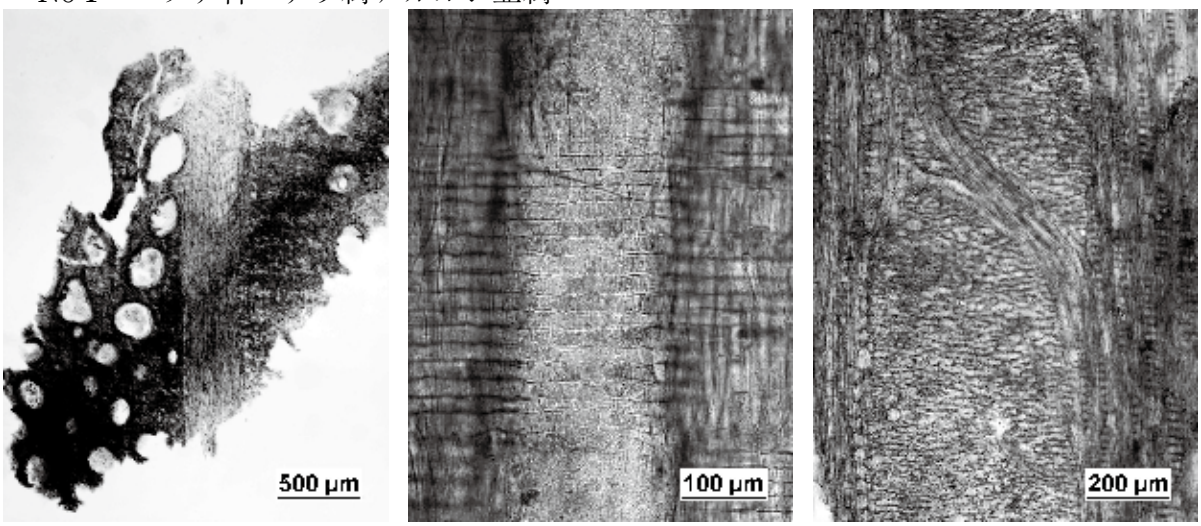
No.	報文番号	品名	樹種
1	W８	曲柄広鍬	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
2	W４	広鍬未成品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3	W14	広鍬	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
4	W15	田下駄	クワ科クワ属
5	W16	田下駄	ツバキ科ツバキ属
6	W18	櫂	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
7	W17	容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
8	W20	縦杓子	ニレ科ムクノキ属ムクノキ
9	W21	不明	ヒノキ科アスナロ属
10	W32	匙	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ
11	W27	A 鍬（身） B 〃（柄）	ブナ科コナラ属アカガシ亜属 カバノキ科カバノキ属ミズメ
12	W28	斎串	ヒノキ科ヒノキ属
13	W29	人形	ヒノキ科ヒノキ属
14	W3	広鍬	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
15	W31	人形	イチイ科カヤ属カヤ

第３表　多肥宮尻遺跡出土木製品同定表（平成 28 年度）



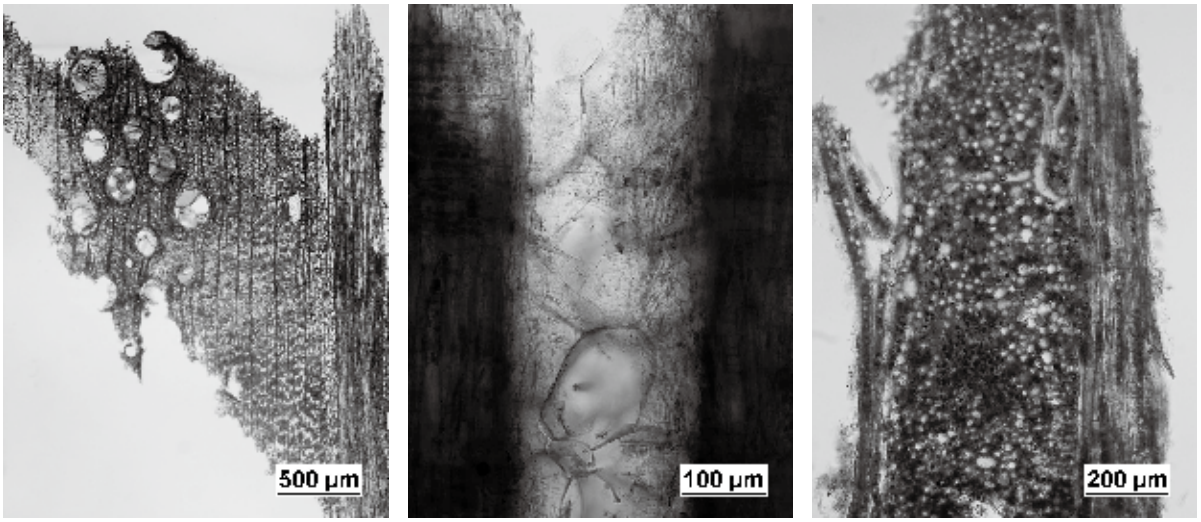
木口　　柾目　　板目

No-1　　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口　　柾目　　板目

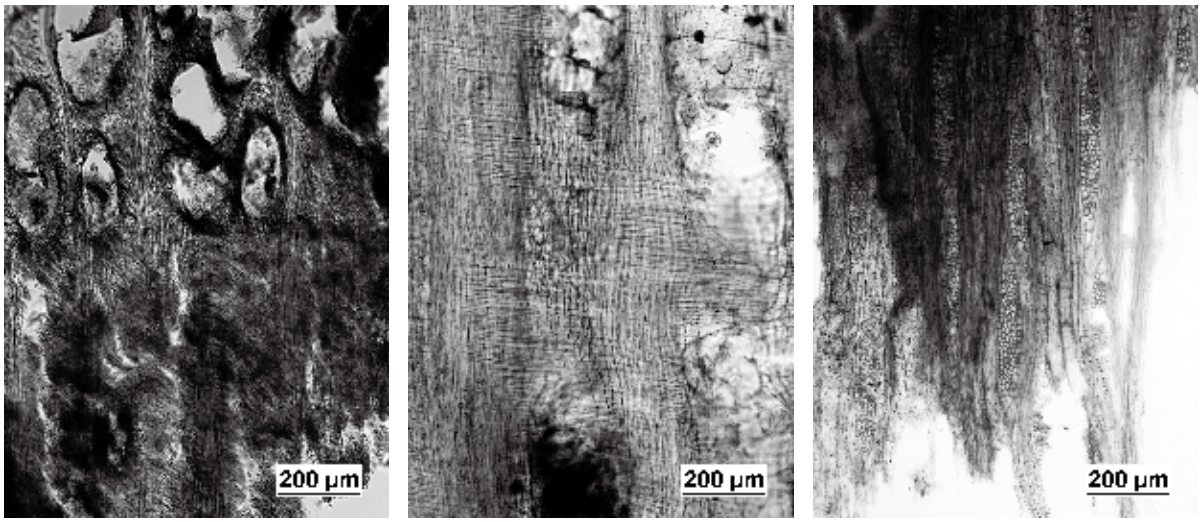
No-2　　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口　　柾目　　板目

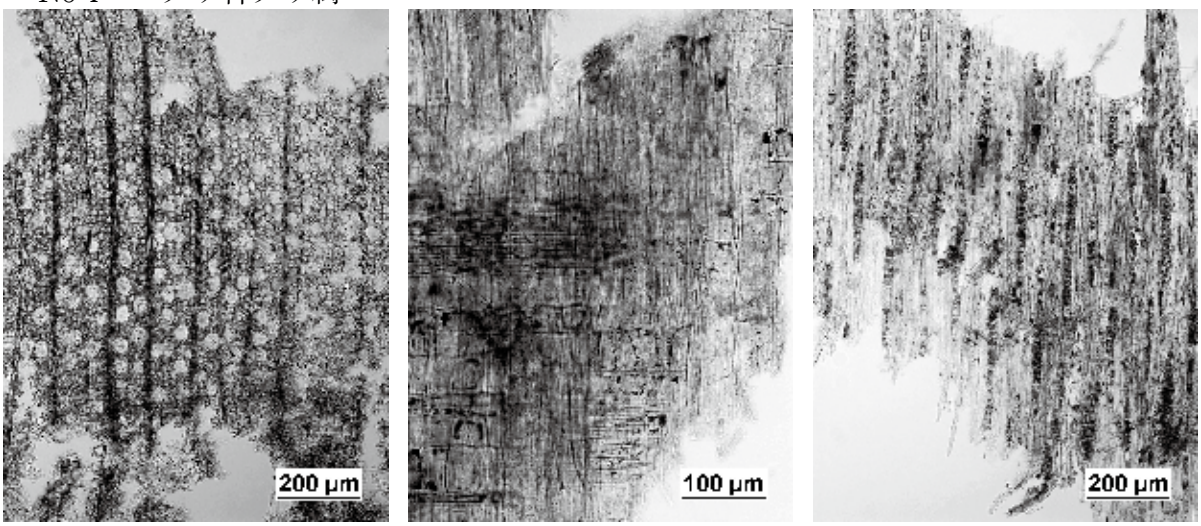
No-3　　ブナ科コナラ属アカガシ亜属

図版１　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真１



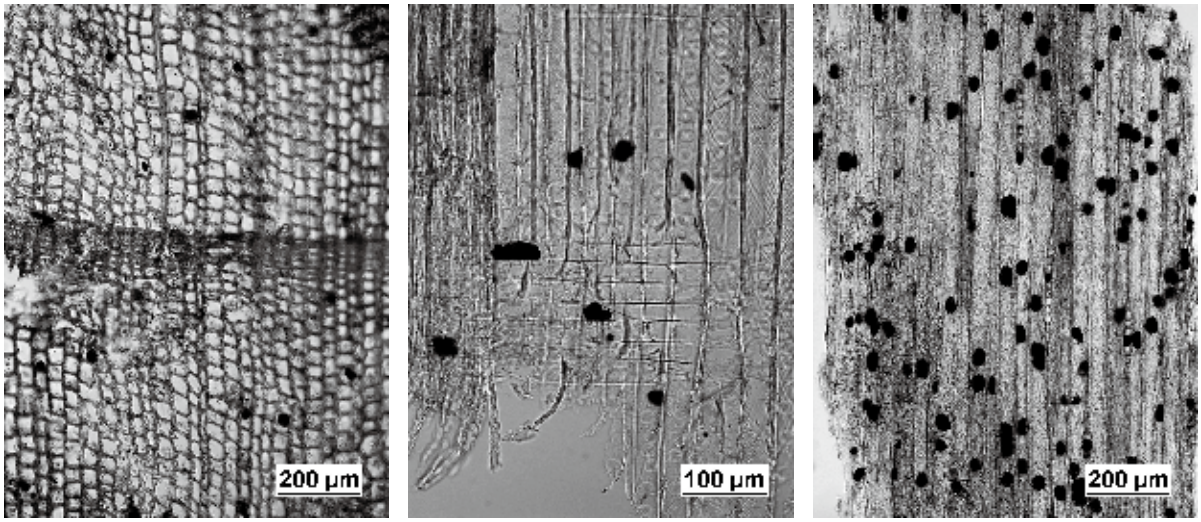
木口　　柾目　　板目

No-4　　クワ科クワ属



木口　　柾目　　板目

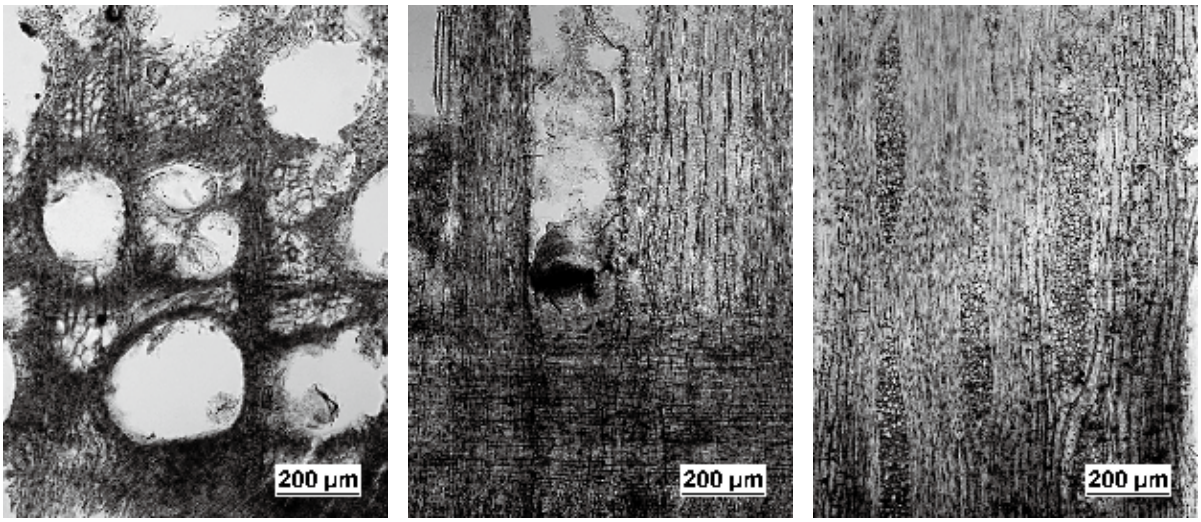
No-5　　ツバキ科ツバキ属



木口　　柾目　　板目

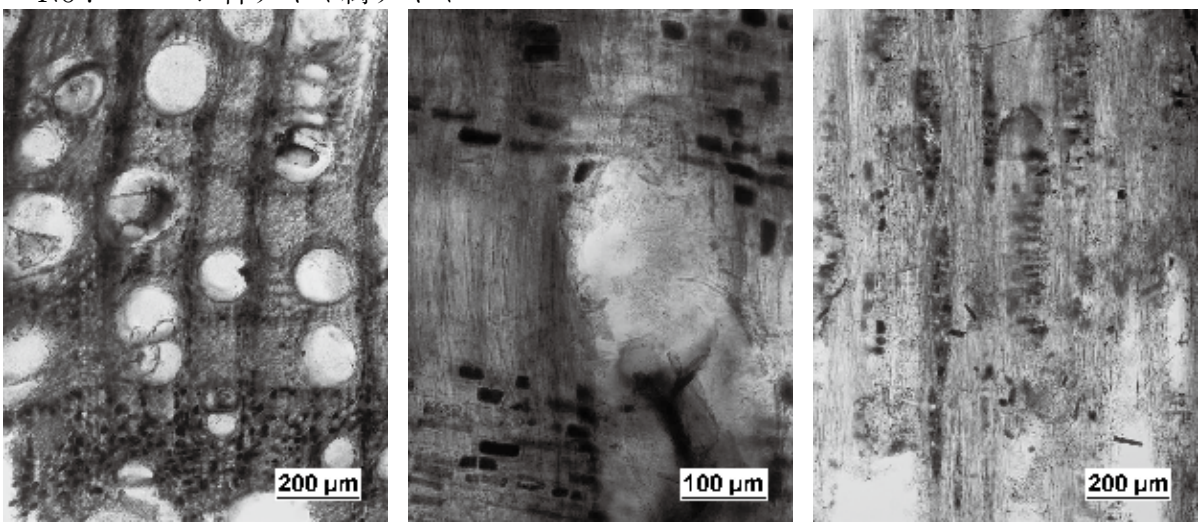
No-6　　コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ

図版２　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真２



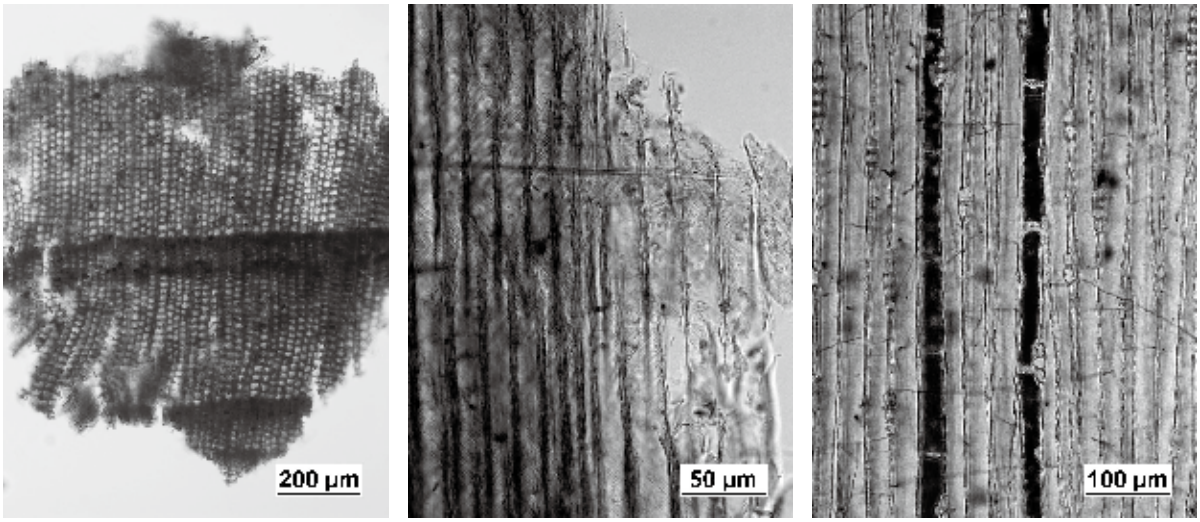
木口　　柾目　　板目

No-7　　ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口　　柾目　　板目

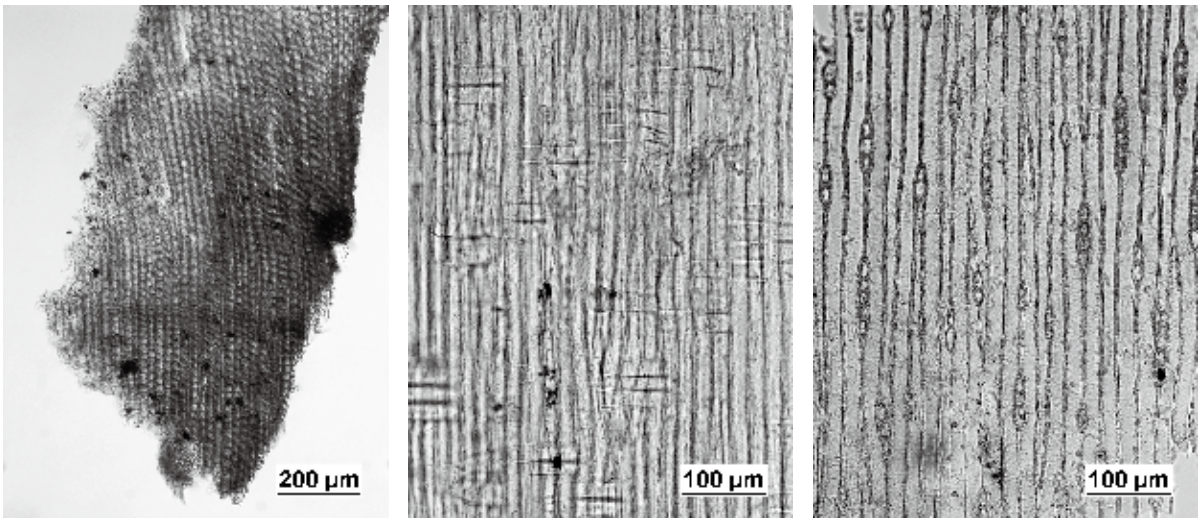
No-8　　ニレ科ムクノキ属ムクノキ



木口　　柾目　　板目

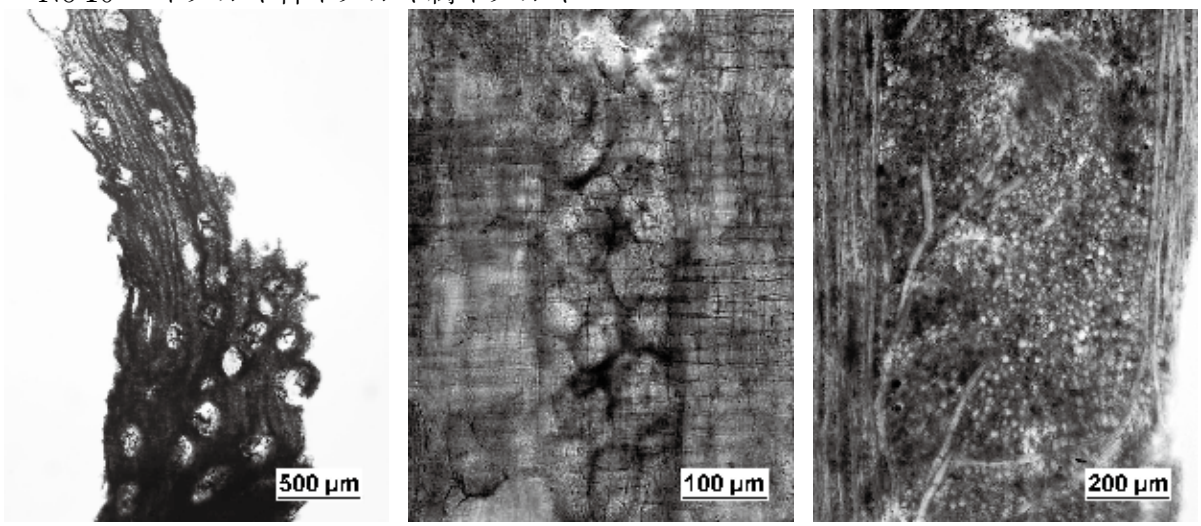
No-9　　ヒノキ科アスナロ属

図版３　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真３



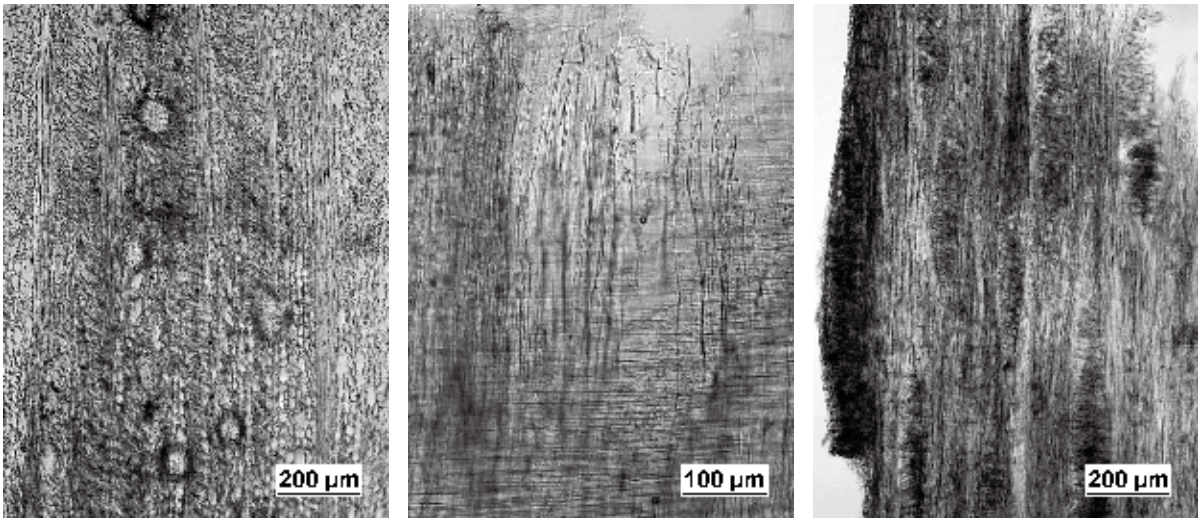
木口　　柾目　　板目

No-10　イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ



木口　　柾目　　板目

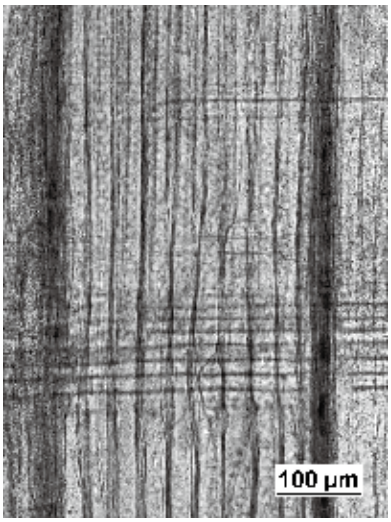
No-11A　ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口　　柾目　　板目

No-11B　カバノキ科カバノキ属ミズメ

図版４　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真４

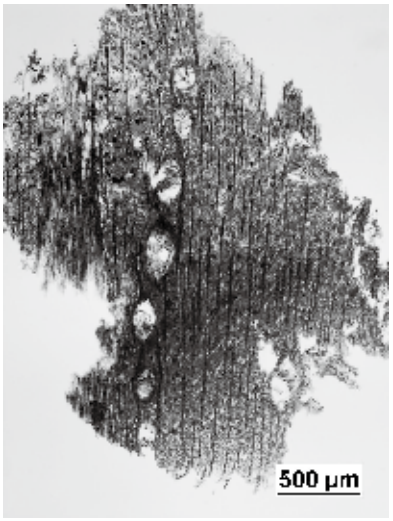


柾目　　板目

No-12　ヒノキ科ヒノキ属

柾目　　板目

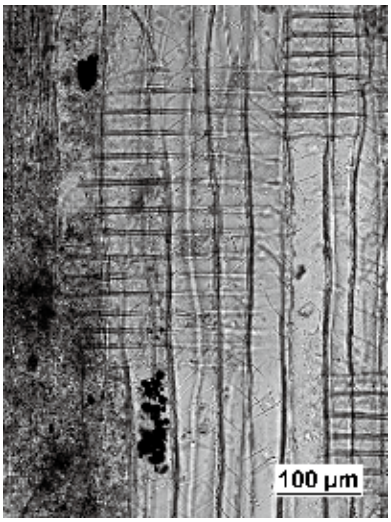
No-13　ヒノキ科ヒノキ属



木口　　柾目　　板目

No-14　ブナ科コナラ属アカガシ亜属

図版５　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真５



柾目　　板目

No-15　イチイ科カヤ属カヤ

図版６　多肥宮尻遺跡　顕微鏡写真６

第２節　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果 (2)

株式会社文化財サービス

1、分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

２、結果

樹種同定結果を第４表に示す。木製品は、針葉樹 5 分類群 (モミ属・ヒノキ・ヒノキ科) と広葉樹 13 分類群 (コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属・スダジイ・ヤマグワ・クスノキ科) に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属（Abies）マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩 材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ～ 4 個。放射組織は単列、1 ～ 20 細胞高。

・ヒノキ（Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.)Endlcher）ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 1 ～ 3 個。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ科（Cupressaceae）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。上記、ヒノキを含むヒノキ科のいずれかであるが、保存状態が悪く、分野壁孔が観察できないために属や種の区別できず、ヒノキ科とした。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris）ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis）ブナ科

放射孔材で、道管は単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。

放射組織は同性、単列、1 ～ 15 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・スダジイ（Castanopsis cuspidata var. sieboldii (Makino) Nakai）ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に 1 ～ 2 個幅で放射方向に配列する。孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高。

・ヤマグワ（Morus australis Poiret）クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は 3-5 列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または 2 ～ 4 個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1 ～ 6 細胞幅、1 ～ 50 細胞高。

・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で、道管は単独または 2 ～ 3 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は 交互状に配列する。放射組織は異性、1 ～ 2 細胞幅、1 ～ 20 細胞高。柔組織は周囲状および散在状。放射組織には油細胞が認められる。

３、考察

木製品は、縄文時代晩期～弥生前期の木錘、弥生時代中期の不明木製品、鍬、鋤、握り棒、杓子、古代末の曲物底板、弥生時代後期～古墳時代後期の底板、古墳時代後期の円盤状木製品がある。これらの木製品は、伊東・山田 (2012) の木器分類を参考にすれば、農耕土木具 (鍬・鋤・握り棒)、容器 (底板)、遊戯具・日用品 (不明木製品（栓か）)、その他 (板状木製品・不明木製品) に分けられる。

確認された各種類の材質をみると、針葉樹のモミ属は、木理が通直で割裂性が高く、強度と保存性は低い。ヒノキとヒノキ科は、木理が通直で、割裂性と耐水性が高い。広葉樹のクヌギ節、アカガシ亜属は重硬で強度が高い。ヤマグワは、重硬で強度と耐朽性が高い。クスノキ科は、多くの樹種が含まれ、比較的重硬な種類から軽軟な種類まで含まれる。時代別・器種別にみると、縄文時代晩期～弥生時代前期の木錘（か）はヤマグワが利用されている。用途は木錘かと考えられるが、ヤマグワの材質を考慮すれば、強度や耐朽性を必要とするような用途・器種が推定される。SR02 の鍬、鋤、握り棒は、4 点中 3 点がアカガシ亜属、1 点がスダジイであり、比較的強度の高い木材の利用が推定される。このうちアカガシ亜属は、伊東・山田 (2012) のデータベースで鍬・ 鋤の素材として最も多く確認されている樹種であり、本遺跡でも多用されていたことが推定される。不明木製品（栓か）は、クヌギ節であった。栓は加工性の高い針葉樹材が利用されることが多いが、本資料については、加工性よりも強度を考慮した可能性がある。弥生時代中期の杓子はクスノキ科に同定された。香川県内で容器にクスノキ科が含まれた例をみると、鴨部・川田遺跡の弥生時代早・前期とされる高杯、鉢、片口小型鉢、容器未成品等、多肥松林遺跡の弥生時代中期とされる高台付盤、槽、下川津遺跡の古墳時代末期～平安時代初期とされる円 形刳物、方形刳物などがある (伊東・山田 ,2012)。

弥生時代後期～古墳時代後期

第４表　多肥宮尻遺跡の樹種同定結果 (平成 28 年度)

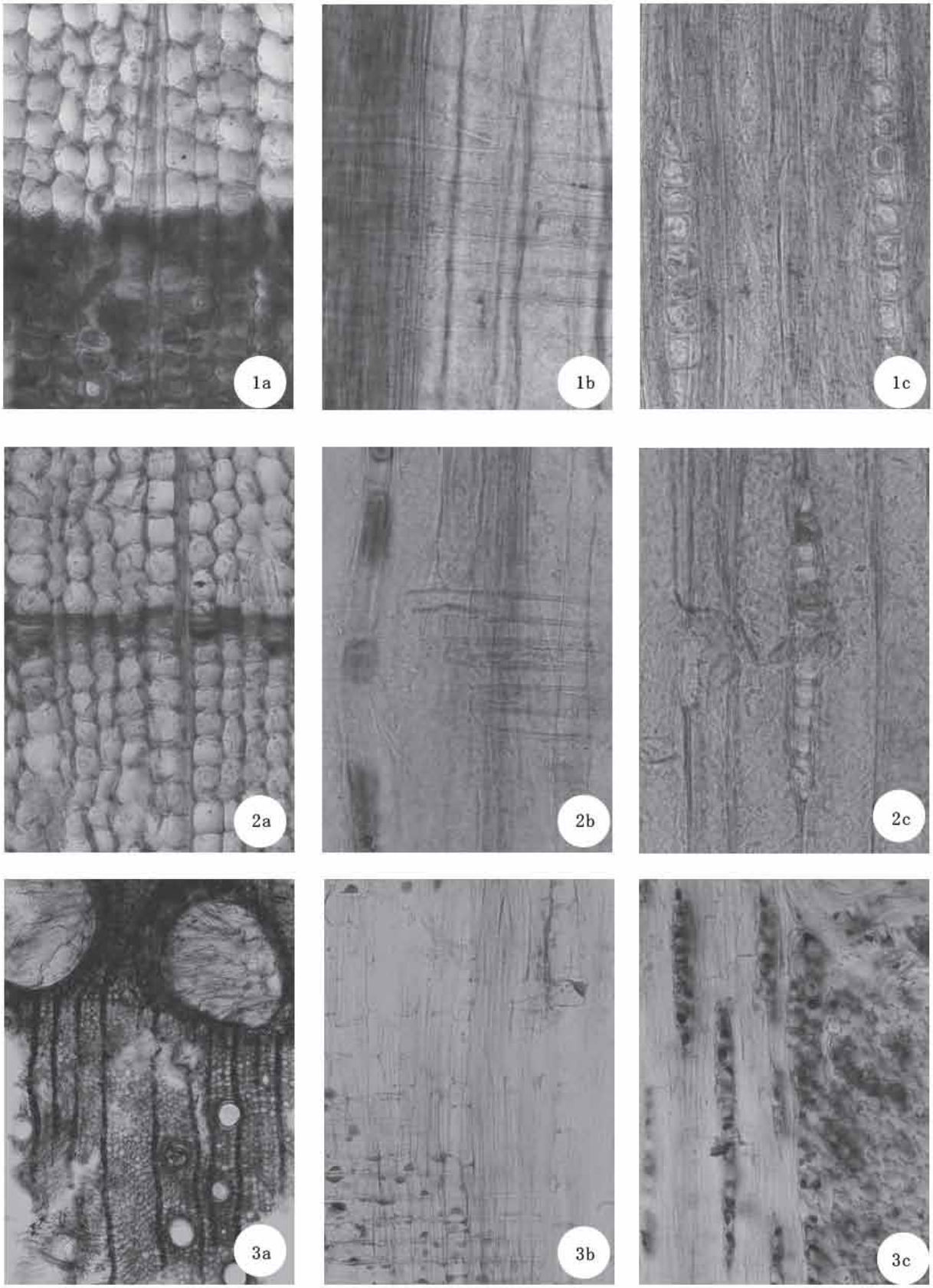
報文番号	遺構	器種	時期	樹種
W1	SD1203	曲物底板	11 世紀後半～ 12 世紀前半	ヒノキ
W2	SR01	木錘	縄文時代晩期～ 弥生時代前期	ヤマグワ
W6	SR02	鍬	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
W9	SR02	曲柄平鍬	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
W10	SR02	不明	弥生時代中期	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
W12	SR02	握り棒	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
W13	SR02	鋤	弥生時代中期	スダジイ
W22	SR06（下層）	杓子	弥生時代中期	クスノキ科
W25	SR06（中層）	底板	弥生時代後期～ 古墳時代後期	ヒノキ科
W30	SR07	円盤状木製品	古墳時代後期	モミ属

とされる底板はヒノキ科、不明木製品はモミ属に同定された。樹種は異なるが、いずれも分割加工が容易な樹種が利用されたと考えられる。底板については、ヒノキ科の材質から耐水性も考慮された可能性がある。

古代末の遺構から出土した曲物底板はヒノキであり、古墳時代の底板と同様の木材利用が推定される。

引用文献

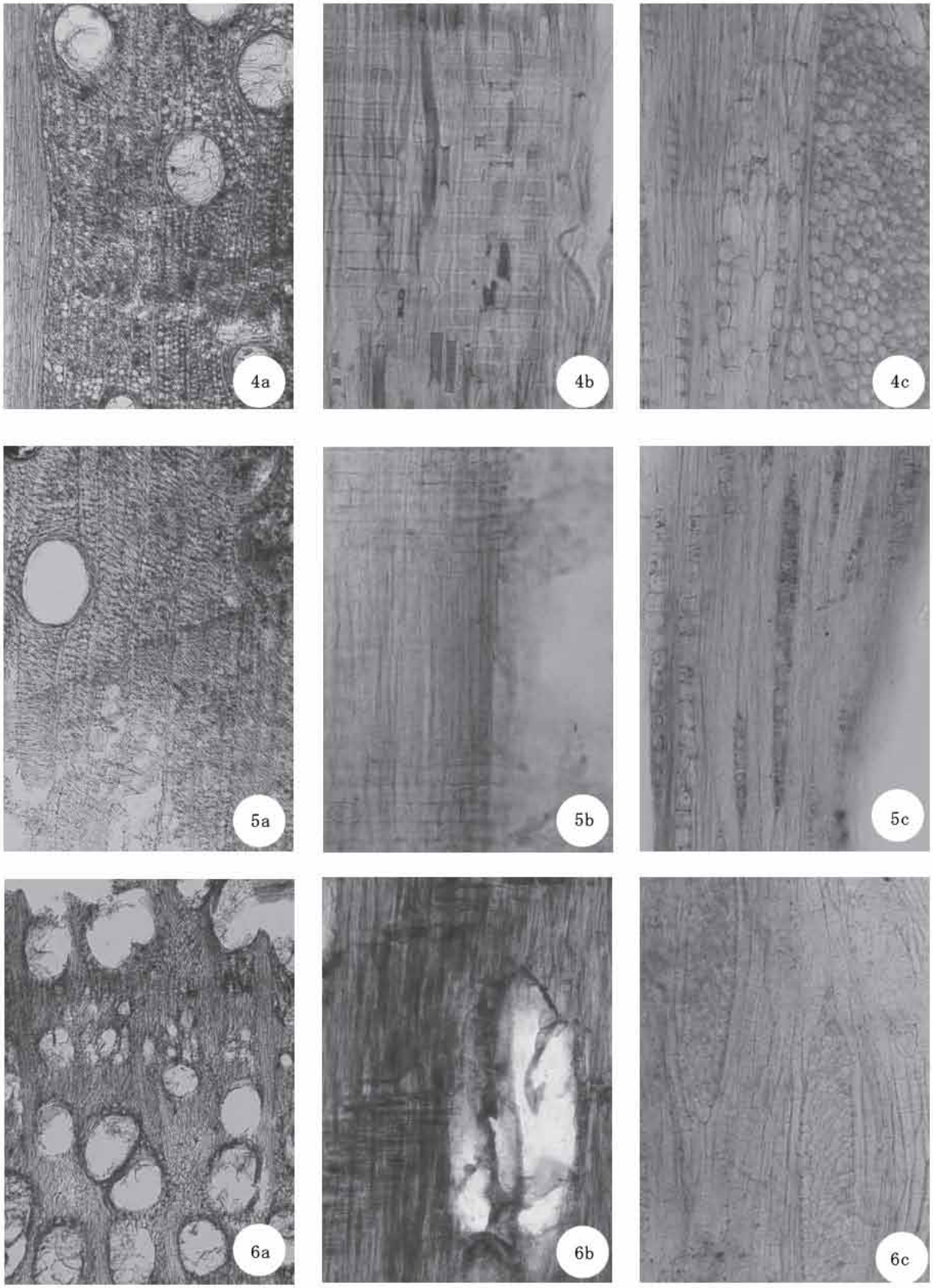
林 昭三 ,1991, 日本産木材 顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .
伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.
伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.
伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.
伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.
伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.
伊東隆夫・山田昌久 (編),2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース . 海青社 ,449p.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学 顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青 社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地 謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴 リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.



1. モミ属（報告No. W30）
2. ヒノキ（報告No. W1）
3. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（報告No. W10）
a:木口、b:柾目、c:板目

100μm:a
100μm:b,c

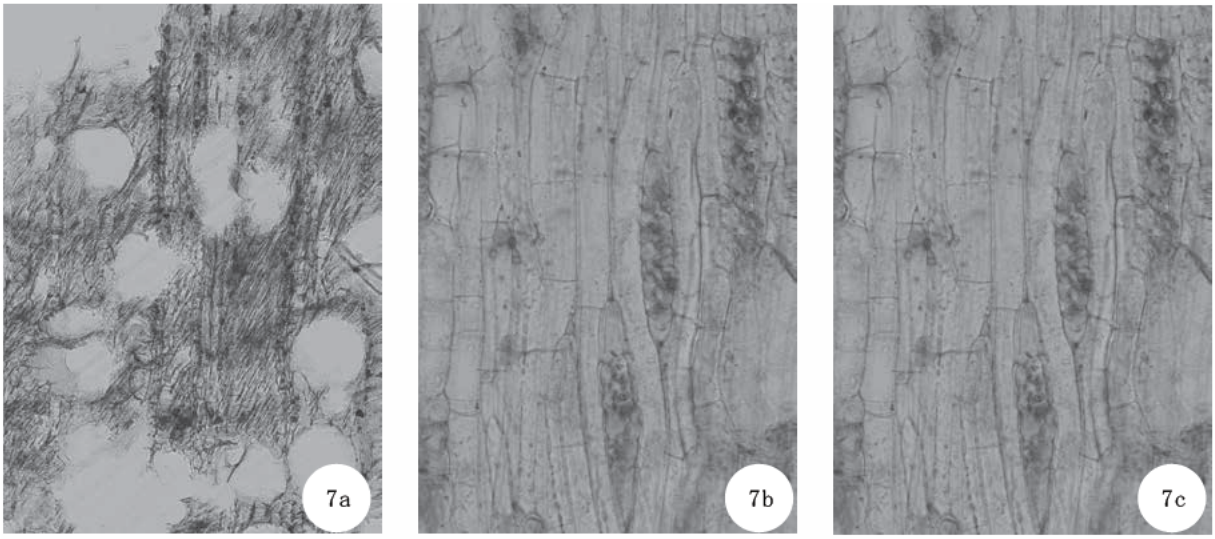
図版７　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真（1）



4. コナラ属アカガシ亜属（報告No. W12）
5. スダジイ（報告No. W13）
6. ヤマグワ（報告No. W2）
　a：木口、b：柾目、c：板目

100μm:3a
100μm:1-2a,3b,c
100μm:1-2b,c

図版８　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真 (2)



7. クスノキ属（報告No. W22）
　a:木口、b:柾目、c:板目

100μm:a
100μm:b,c

図版９　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真 (3)

第３節　多肥宮尻遺跡出土木材の樹種同定結果

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

香東川の扇状地上に位置する多肥宮尻遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、河川である SR01 と SR03 から出土した木材 9 点である。発掘調査所見では、SR01 は弥生時代前期～後期前半、SR03 は古墳時代と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹であるスギとヒノキ、アスナロの３分類群と、広葉樹であるコナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属と呼ぶ）とコナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節と呼ぶ）の２分類群の、計５分類群がみられた。また、材の保存が悪く、広葉樹までの同定となった試料が１点みられた。同定結果を第５表に、一覧を第６表に示す。

	時期	弥生時代前期～後期前半					近世		
樹種	器種	鍬	板	板？（穴あり）	ミカン割材	柱	板	ミカン割材	合計
スギ		1					1		2
ヒノキ			1						1
アスナロ				1				1	2
コナラ属アカガシ亜属		1	1						2
コナラ属クヌギ節					1				1
広葉樹						1			1
	合計	2	2	1	1	1	1	1	9

第５表　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1) スギ　*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don　ヒノキ科　図版 10　1a-1c(No.133)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ２～15 列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1 分野に普通 2 個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(2) ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版 10　2a-2c(No.137)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ１～15 列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1 分野に 2 個み

られる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(3) アスナロ　Thujopsis dolabrata (L.f.) Siebold et Zucc.　ヒノキ科　図版 10　3a-3c(No.135)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ 2 ～ 13 列となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、1 分野に 2 ～ 4 個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また精油分が多く、耐朽性に優れている。

(4) コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図版 10　4a-4c(No.138)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靭で、耐水性があり、切削加工は困難である。

(5) コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図版 10　5a-5c(No.134)

年輪のはじめに大型の道管が 1 ～ 3 列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

(6) 広葉樹　Broadleaf-wood　図版 10　6b(No.140) 道管を有する広葉樹であるが、材組織の保存が悪いため他の特徴が確認できず、広葉樹までの同定に留めた。

4. 考察

SR02 から出土した縄文時代晩期～弥生時代前期（弥生時代後期の遺物も一部含む）の木製品では、鍬にはアカガシ亜属が利用されていた。アカガシ亜属はとても堅硬な樹種である（伊東ほか，2011）。香川県域の木製品の集成では、弥生時代前期～中期の鍬では、アカガシ亜属が多くみられる。

ミカン割材はクヌギ節であった。クヌギ節は堅硬な樹種であるが、軸方向に割裂しやすいという材質を持つため（伊東ほか，2011）、ミカン割材として利用されたと考えられる。

SR03 から出土した弥生時代後期～古墳時代中期の板はスギであった。スギの材質は、真っ直ぐで加工性が良い（伊藤ほか，2011）。

ミカン割材はアスナロであった。真っ直ぐで加工性が良いアスナロを、ミカン割材として利用していたと考えられる。

SR06 下層から出土した弥生時代中期の木製品では、板状木製品がスギ、円盤状木製品はアスナロであった。

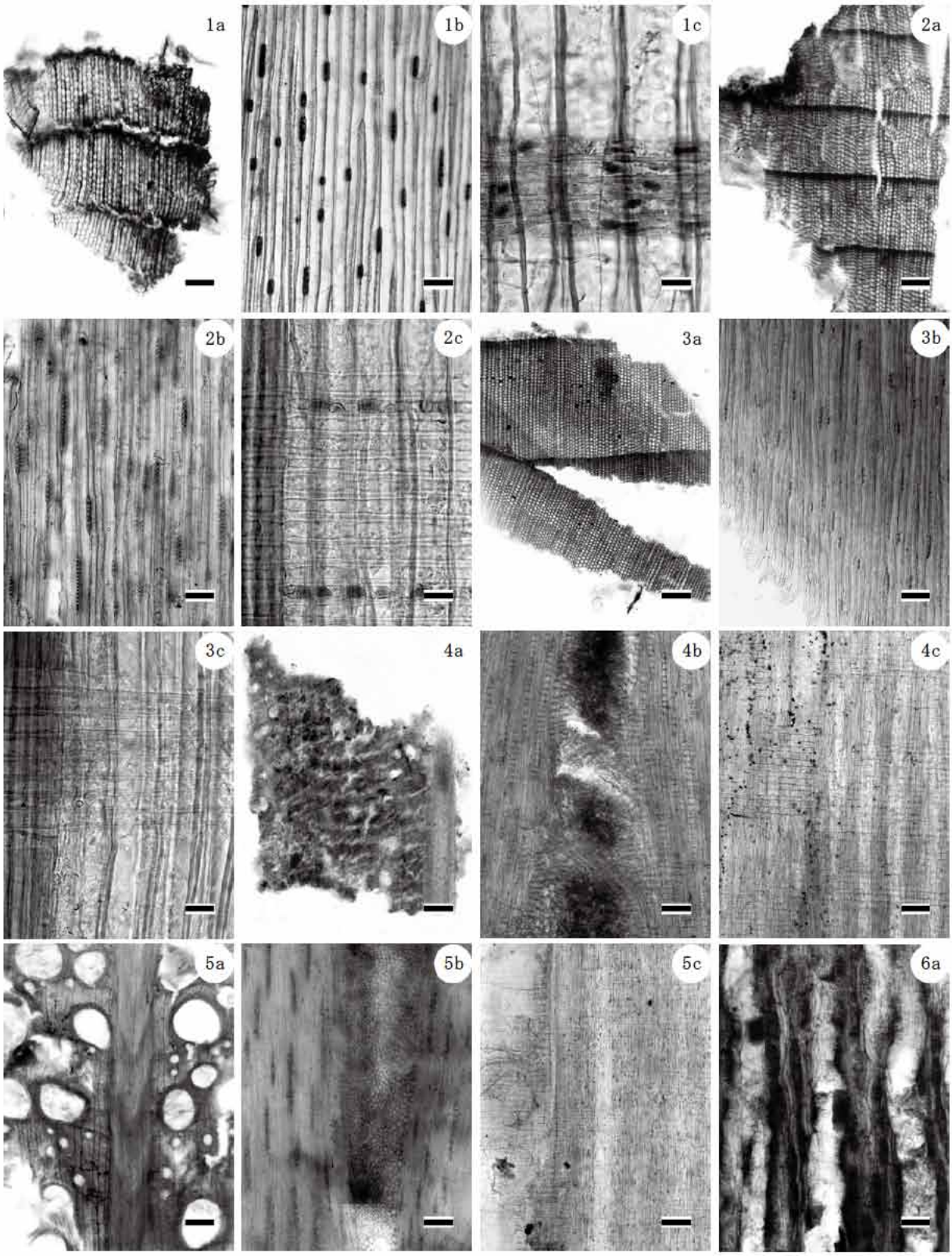
引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学―出土木製品用材データベース―．449p，海青社.

多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧						
試料番号	報文番号	出土遺構	器種	樹種	木取り	時期
132	W7	SR02	広鍬	コナラ属アカガシ亜属	柾目	縄文時代晩期～弥生時代前期・弥生時代後期
133	W23	SR06	板状木製品	スギ	柾目	弥生時代中期
134	W5	SR02	ミカン割材（端材）	コナラ属クヌギ節	みかん割り	縄文時代晩期～弥生時代前期・弥生時代後期
135	W24	SR06	円盤状木製品	アスナロ	柾目	弥生時代中期
136	W19	SR03	ミカン割材（端材）	アスナロ	みかん割り	弥生時代後期～古墳時代中期
137	W33	SR06or08	板	ヒノキ	柾目	
138	W34	SR06or08	楔	コナラ属アカガシ亜属	柾目	
139	-	SR03	板	スギ	追柾目	弥生時代後期～古墳時代中期
140	-	SD1203	板	広葉樹	追柾目	

第６表　多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧（平成 28 年度）



1a-1c. スギ(No. 133)、2a-2c. ヒノキ(No. 137)、3a-3c. アスナロ(No. 135)、4a-4c. コナラ属アカガシ亜属(No. 138)、5a-5c. コナラ属クヌギ節(No. 134)、6b. 広葉樹(No. 140)

a:横断面(スケール=250 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)、c:放射断面(スケール=1-3:25 μm・4、5:100 μm)

図版 10　多肥宮尻遺跡　光学顕微鏡写真

第５章　まとめ

第１節　遺構の変遷

１．縄文時代晩期末～弥生時代前期前葉

遺跡東端付近の１区（H9) 東端を南東から北西に流れる SR01 を検出した。分ヶ池に南接する位置である。弥生時代前期及び弥生時代後期の遺物を含む SR02 により消失する。

２．弥生時代前期～後期

遺跡東部の１区 (H9) 北部、1 区 (H10) 南部、2 区 (H9) にわたって西から東へ流れる SR02 を検出した。SR01 と同じく分ヶ池に南接する位置である。埋土中からは、層位に関わらず摩滅を受けない状態の縄文時代晩期末～弥生時代前期前葉、弥生時代前期中葉、弥生時代後期前葉を主体とする遺物が混在して出土した。SR02 からは鍬などの木製品が一定量出土している。

遺跡西部の低地である３区（H10) 南部及び１・２区（H11) 南部を流れる SR06 を検出した。下層で弥生時代中期、その上層で若干量の弥生時代中期・後期、古墳時代後期の遺物が混在して出土した。

SR06 の北側では、弥生時代前期末～中期初頭の遺構である SK3202、SD2301、SD2302 を検出した。

３．古墳時代後期

遺跡西部の低地である３区（H10) 南部及び１・２区（H11) 南部を流れる SR07 を検出した。東半部では SR06 と概ねかさなるが、西半部分では北西へ方向を変える。

2 区（H9) では SR03 の上面から掘削された SD1205 がある。SR03 との区別がつきがたく、ほぼ断面観察のみで確認できたものであるが、概ね SR03 と流路方向は同じと考えられる。６世紀初頭及び７世紀前半の遺物が出土した。

４．古代～中世

遺跡中央付近の３区（H10) で検出した SR04 及び遺跡西部の低地である１・２区（H11) で検出した SR08 がある。SR04 は調査区中央付近から南から北へ流れる旧河道で、遺物は極めて少なかったが、SR06・07 及びその上位の中世包含層から古代と考えられる。

SR08 は SR07 西半部分とほぼ河道を同じくする。遺物量は少なく、古代～中世の遺物を包含する。埋土中からは人形木製品が出土しており、付近で何らかの祭祀が行われたと考えられる。

遺跡東部の分ヶ池付近の低地と３区（H10) 以西の旧河道群のある低地に挟まれた微高地３区（H9)、３区（H11) でピット、土坑、小規模の溝等を検出した。概ね 11 世紀後半～ 13 世紀前半のものであるが、遺構密度は低く、具体的な集落の様相を掴むことはできなかった。

５．近世

３区（H10) で検出した SR05 が挙げられる。SR04 の西肩部を開削し、両岸を石組で護岸する。石組みの推定線は現在の畦畔の位置と一致する。

その他、当該期の水路として１区（H11) 西端付近、５区（H9) では暗渠 SD3101、SD1502、SD1502

の西側では SD1501, ３区（H10) では SD2303・2304 を検出した。

SR06 ～ 08 北側の微高地（２区（H11)) では不定形の土坑３基を検出した。規模や形状が類似し、互いに近接することから類似した性格を持つ遺構と考えられる。

３区(H9), ３区(H11) に広がる微高地からも近世の土坑や溝を検出しているが、遺構密度は疎らである。

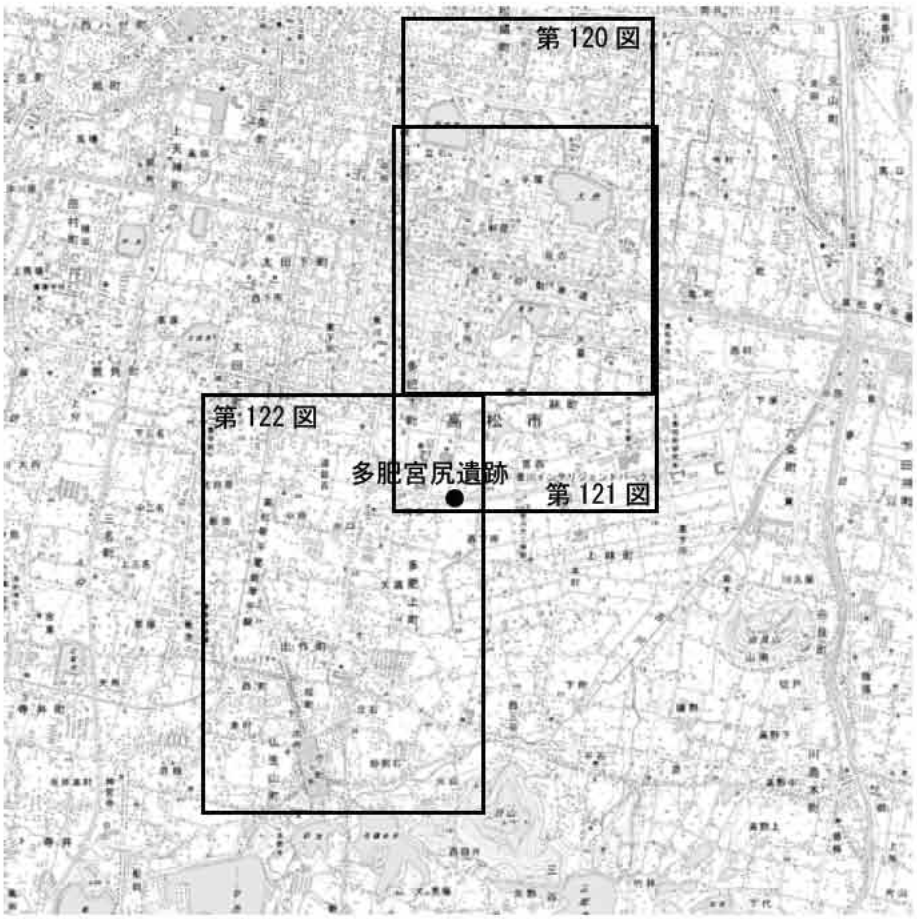
第２節　多肥宮尻遺跡の旧河道

検討の視点

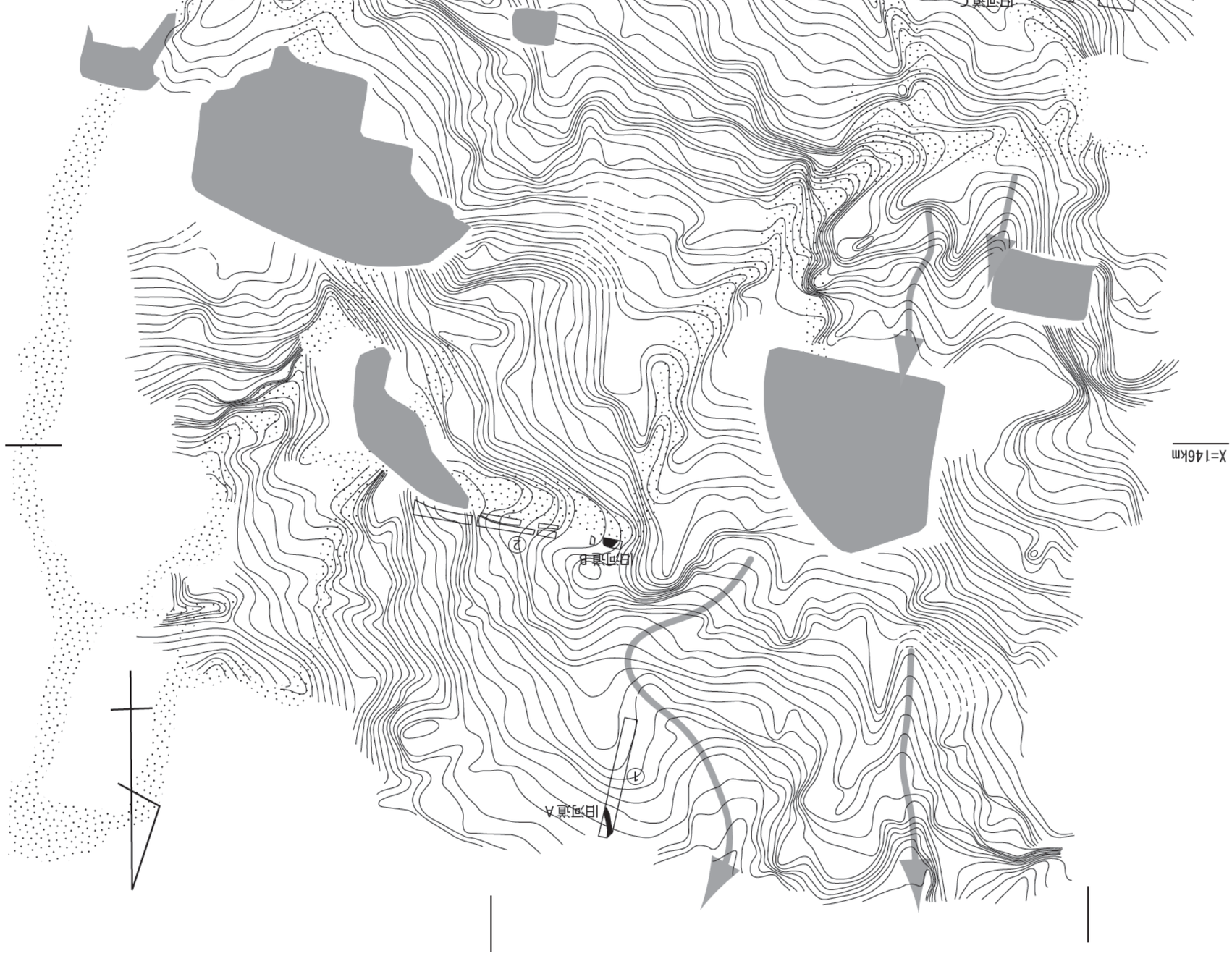
今回の調査区からは、SR01 ～ 08 の８条の旧河道が検出されている。SR01 は、川底付近に縄文時代晩期末から弥生時代前期の遺物を包含する。SR01 を壊して流れる SR02 は、弥生時代前期と後期の遺物が混在する状況で出土している。SR03 は、SR02 を壊して流れる。数点の木製品が出土しているが、土器の出土は僅少であり年代を押さえることができない。SR04 は古代、SR05 は近世と見られるが、遺物がほとんど包含されていない。

SR06 ～ 08 は、遺物の包含状況から復原した。SR06 は下層が弥生時代中期、その上層が若干の弥生中期とともに弥生時代後期、古墳時代後期の遺物が混在する。SR07 は古墳時代後期、SR08 は古代～中世の遺物を包含する。これらは、時代によって交錯する流路をとっていたものと考えられる。

多肥宮尻遺跡の旧河道は、調査着手前に現地表面に明瞭な凹地、つまり、旧河道と認識できるところから検出されている。これは、多肥宮尻遺跡では、地表面を掘り込んで河道が形成されたのち、その掘り込み部分のなかで河道の流下・埋積が繰り返されたことを示している。したがって、一度形成された



第 119 図　地域概念図（国土地理院 1/25,000 地形図「高松南部」を縮小）



第 120 図　10cm 等高線図（高松市役所「太田第 2 土地区画整理事業図」より作成）

旧河道が、のちの時代の人間生活（土地開発・水利・生活圏等）に何らかの影響を与えた可能性が考えられる。このことを検討する出発点として、以下にまとめにかえて、旧河道をできるだけ正確に把握することを目指し、多肥宮尻遺跡の北側で実施された土地区画整理事業地内の 10㎝間隔の等高線図を作成し、これと空中写真判読を合わせて旧河道の抽出を行い、発掘調査データとの突合せを行った後、多肥宮尻遺跡周辺の旧河道の抽出を空中写真判読によって行った結果を記述する。

太田第２土地区画整理事業地の 10㎝等高線図

多肥宮尻遺跡の北側に広がる太田・木太・林・多肥の４地区において総面積 360ha にわたる土地区画整理事業が行われている。この事業地内に、初期荘園図として名高い「弘福寺領讃岐国山田郡田図」の比定地が含まれていることから、昭和 61 年度に「太田地区周辺遺跡詳細分布調査」が実施され、以後、昭和 62 年度から平成３年度と平成６年度から 10 年度に国庫補助事業として「弘福寺領讃岐国山田郡田図調査事業」が実施された。これは、考古学・文献史学・地理学・民俗学等の関連分野の専門家による学際的な調査が行われた点が特色である。この調査によって、香東川、春日川・新川等が形成した高松平野の地形分類、太田第２土地区画整理事業地の微地形分類図が作成され、発掘調査地の堆積層の分析から環境変遷や土地利用の変遷が論じられている。

高橋学氏によって作成された微地形分類図は、水田や畑の標高をもとに作成した 10㎝間隔の等高線図と 5000 分の１程度の空中写真判読および現地踏査により作成されたものである。水田は灌排水のため地形に順応して造成されるという前提にたつと、水田の標高をもとに作成した等高線は、元の地形の微起伏を反映したものとなる。したがって、等高線に現れる微起伏から微地形が判断できることになる。また、空中写真を実体視することにより地表面の微起伏が判読できるほか、白黒空中写真に現れる色調（濃淡）から、土地の含水状況の差が相対的に把握される（微高地は明るく、旧河道は暗い）ことにより微地形が判読できるのである。

高橋氏が作成した微地形分類図は、太田第２土地区画整理事業地およびその周辺部についてであるが、10㎝等高線図は、「弘福寺領讃岐国山田郡田図」の北部比定地付近が公開されているほか、高松市教育委員会が実施した一般国道 11 号高松東道路建設関連の報告書において、遺跡周辺の等高線図が公開されている。このような等高線図は、なるべく広範囲に作成されることが望ましいため、今回、改めて区画整理事業全域の等高線図を作成した。なお、標高データは、高松市役所都市計画課が保管する昭和 59 年測量（昭和 62 年補正）の 500 分の１図面を利用させていただいた。なお、現地は事業が完了しており、かつての土地の起伏は改変されている。

第 120 図は、10㎝等高線図による等高線のパターンと空中写真（1962 年国土地理院撮影）判読により旧河道を判読し、既往の発掘調査地のうち検出された旧河道の概要を記入したものである。空中写真判読は、立体視による微起伏の判読と写真の濃淡による判読を行った。白黒空中写真においては相対的に湿った部分が暗く写り、乾いた部分が明るく写る傾向がある。第 121 図は、白黒空中写真において家屋などのノイズとなる部分を白抜きにしたあと、濃淡を強調したものである。後述する旧河道が暗い帯となっていることがわかる。なお、第 121 図は肉眼で見える以上の差を抽出することは難しい。

当地域の旧地形と遺跡内容との関係については、すでに高松教育委員会による検討がなされているが、ここでは判読された旧河道と発掘調査で検出された旧河道との関連について検討する。

第 121 図　白黒空中写真の濃度強調図（国土地理院 1948 撮影 M746-50 を加工）

天満・宮西遺跡では、微高地から弥生時代前期中頃の環濠、弥生時代後期の集落が検出されているほか、微高地北側の谷に弥生時代前期から後期にかけての多量の遺物を包含する旧河道 A（SR01）が検出されている。等高線図のパターンから遺跡の所在する微高地の範囲を推定することができるが、北側

の谷は等高線図の境界となるため判然としない。なお、遺跡東側は西北から東南方向へ等高線の間隔が密になるが、概ねこの付近が香東川扇状地の扇端となり、天満・宮西遺跡は、香東川扇状地の扇端付近に立地している。

境目・下西原遺跡では西端で弥生時代後期から中世の遺物を包含する旧河道Ｂが検出されている。流向については疑問点が残るものの、幅 40 m以上、確認面からの深さは 0.9 ～ 1.0 mを測る。弥生時代後期から中世の遺物を包含する（境目・下西原遺跡ではもう１条の旧河道を検出しているが、深さ 0.1 ～ 0.15 mと浅いものであり、流水を伴う河道であるかどうか疑わしいので検討対象からはずしている）。境目・下西原遺跡の旧河道は、10㎝等高線図では野田池の東側を北上する凹地が、やや不明瞭となった後に東方向に方向を転ずる屈曲点付近に当たるものと思われる。

旧河道Ｃ～Ｅは、居石遺跡で検出された旧河道である。旧河道Ｃ（SR01）は、幅 23 m前後、深さ 1.5 mほどの規模で、縄文時代晩期、古墳時代前期、古代～中世の遺物が出土している。古墳時代前期の小型仿製鏡３面が河川から用水を取り入れる取水口付近で検出されている。旧河道Ｄは（SR02）は、幅 20 ～ 22 m、深さ 1.2 mの規模で、縄文時代晩期から古墳時代前期の遺物を含む層と古代以降の層に大別されるという。旧河道Ｅ（SR03）は、幅 10 m、深さ１mの規模で、縄文時代晩期、６世紀末～７世紀初頭以降の遺物を包含する層が確認されている。これらの旧河道は、10㎝等高線図においても明瞭な凹地として把握することができる。

Ｆは、井手東Ⅱ遺跡で検出された溝状遺構（SD01）である。幅 10 m、深さ 0.7 mほどの規模で、下層から縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物が出土している。調査地内では不明瞭であるが、調査地北側の流路延長部分には明瞭な等高線の凹地が連続しており、現地表に痕跡を残す遺構と考えられる。

井手東Ⅰ遺跡からは、幅 30 ～ 40 mほどの旧河道Ｇが検出され、埋土中に 6㎝ほどの厚さで喜界アカホヤ火山灰層が堆積している。この旧河道は等高線図においては明瞭に把握できない。

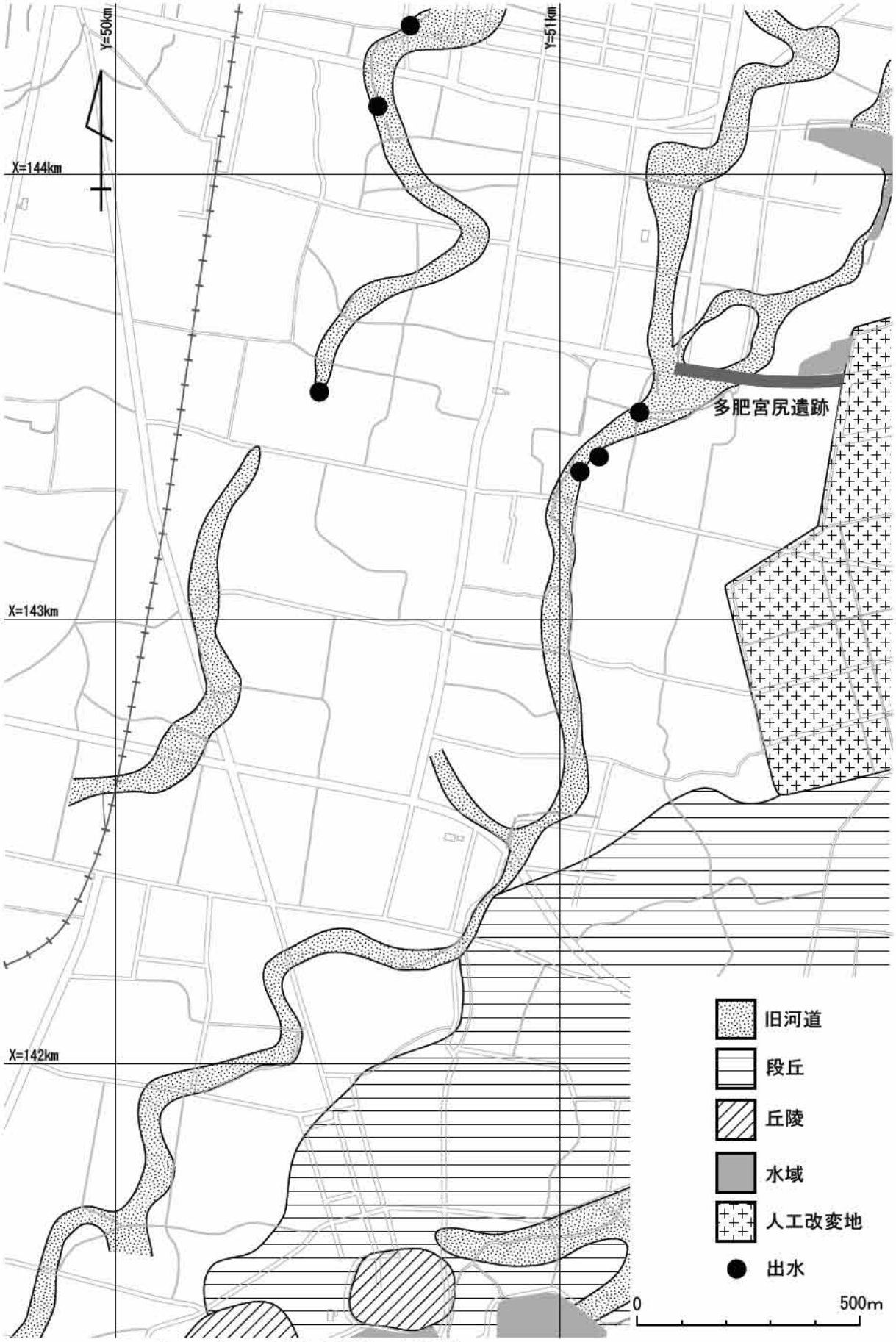
さこ・長池Ⅰ遺跡では、西端で幅約 20 m、川底に縄文時代晩期～弥生時代前期を包含し、弥生時代前期から中期にかけて埋没した旧河道Ｈ（SR02）、東部で最深部に弥生時代中期の遺物を包含する幅 150 mに及ぶ河道帯（I）（SR01）が検出されている。

さこ・松ノ木遺跡では、西端でさこ・長池Ⅰ遺跡の旧河道（SR01）の続き（SR03）と、中央部で幅 60 m弱、深さ 3.5 mで、弥生時代後期の遺物を包含する旧河道Ｊが検出されている。

凹原遺跡では、南端で旧河道Ｋが一部検出されている。

以上、発掘調査で検出された旧河道と現地表に認められる凹地との関係を見ると、両者にかなりの整合性があることが指摘できる。旧河道Ａは、等高線図の作成範囲の端にあたるため検討できないが、旧河道Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅは現地表の凹地と整合する。また溝状遺構と報告されるＦも、北側に凹地が発現している。アカホヤ火山灰層が検出された旧河道Ｇは､暗示的な凹地として把握できるが不明瞭である。また、旧河道Ｈも現地表では明瞭に把握できない。幅 150 mに及ぶ旧河道Ｉは、東側の旧河道Ｊが隣接するためか、空中写真判読で抽出する凹地と等高線図の凹地とが複雑な関係になる。さこ・松ノ木遺跡で検出された旧河道Ｋは空中写真判読では抽出が難しい。

このほか、等高線図では凹地の連続として把握できるものの、空中写真判読では旧河道と判断することが困難なものを矢印で示している。このように、旧河道の認定は、不確実性がついて回るため、どのような方法で行ったかを明示するとともに、等高線図などの判断の根拠を示すことは意味のあることと



第 122 図　多肥宮尻遺跡の旧河道（基図は国土地理院基盤地図情報を使用）

考える。

多肥宮尻遺跡付近の旧河道

第 122 図は、太田第２土地区画整理事業地内の空中写真判読の結果を参考にしながら、多肥宮尻遺跡付近の旧河道を空中写真判読で抽出したものである。この図から明らかなように､北流してきた河道が、３条に分岐する地点に多肥宮尻遺跡が位置している。このことが、調査区の河道の状況を複雑にしている要因と考えられる。なお、ため池（分ヶ池）に南接する位置で検出した SR02 および SR01 は、現地表では痕跡を把握することができない。また、図示していないが、多肥宮尻遺跡で検出した旧河道は、高松市香川町大野付近まで追跡することができる。

このほか、多肥宮尻遺跡付近の旧河道の平面形を観察すると、著しく蛇行しているものがある。一般に扇状地上の河道は直線状、その下流側にひろがる自然堤防帯（中間地帯）の河道は蛇行することが知られている。これは、砂礫質の地盤では直線状、砂やシルトが卓越する地盤では蛇行すると言い換えることができる。つまり、これらの旧河道が流下した年代は、扇状地の形成が終了し、その上面を細粒堆積物が覆った時代である可能性が考えられる。高橋学氏は、瀬戸内海沿岸の臨海平野の縄文海進最盛期以降における微地形環境の変化を検討したなかで、縄文時代後期から晩期の間に、扇状地帯および三角州帯の一部において自然堤防を構成する砂・シルトが堆積することを指摘している。香東川扇状地上の特徴的な平面形をもつ河道の形成要因と関係する可能性がある。

第 122 図には、主要な出水も図示している。出水とは香川県固有の名称で、井壺を掘って用水を湧出させ用水路で下流を灌漑する施設である。これらの所在地は旧河道と密接な位置関係にある。個々の出水の歴史性については、近世以前は不明瞭となるが、遺物のうえでは縄文時代晩期以降、地表面を掘り込んで河道が流れ、その河道が固定されて古代頃まで機能していたことを考えると、出水による灌漑も古くに遡る可能性がある。多肥宮尻遺跡の旧河道では、比較的残りの良い遺物が時期幅をもって混在する様相が見られたが、これは、廃川化した後、湧水があったために長期間にわたり凹地として残されたか、浚渫によって用水維持が図られていた可能性を考えることができる。今回の調査では、この点を明らかにすることはできなかったが、今後の調査において留意すべき視点であろう。

参照文献

川畑聰編　2002『天満・宮西遺跡～集落・水田編～太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第六冊』高松市教育委員会
山本英之・中西克也編　1998『境目・下西原遺跡　太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
藤井雄三・山元敏裕　1995『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第七冊　居石遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕・中西克也　1995『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊　井手東Ⅱ遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕・中西克也　1995『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第四冊　井手東Ⅰ遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕・中西克也　1994『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第三冊　さこ・長池Ⅱ遺跡』高松市教育委員会
藤井雄三・山本英之・山元敏裕・中西克也　1993『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第一冊　さこ・長池Ⅰ遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕・中西克也　1994『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第二冊　さこ・松ノ木遺跡』高松市教育委員会
川畑聰　2001『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊　凹原遺跡』高松市教育委員会
山本英之ほか　1992 『讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会
高橋学　1995 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」日下雅義編『古代の環境と考古学』古今書院

観 察 表

第７表　土器観察表 (1)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
1	SK3202		弥生土器	底部	マメツ	ヘラミガキ	7.5YR6/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並							(10.9)		2/8	
2	SD2301		弥生土器	壺	マメツ・貼付凸帯・刻み目	マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗・多					(19.0)				2/8	
3	SD2301		弥生土器	甕	ナデ・刻み目・ヘラ描き沈線７条以上	マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗・並					(25.8)				1/8 未満	
4	SD2301		弥生土器	甕	ナデ・ヘラ描き沈線 10 条	ナデ・板ナデ・指押え	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	中・多					(24.2)				1/8 未満	
5	SD2301		弥生土器	甕	ヨコナデ→ヘラ描き沈線 (10 条以上)	ヘラミガキ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・並				(17.8)				1/8	
6	SD2301		弥生土器	甕	マメツ・刻み目・ヘラ描き沈線	マメツ・ヘラミガキ	7.5YR5/6 明褐	5YR6/6 橙	中・並					(18.0)				1/8 未満	
7	SD2301		弥生土器	甕	ヘラ描き沈線 10 条	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	細・少									1/8 未満	
8	SD2301		弥生土器	甕	ナデ・刻み目・ヘラ描き沈線８条以上	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	5YR6/6 橙	中・少									1/8 未満	
9	SD2301		弥生土器	甕	ナデ・マメツ・刻み目･ヘラ描沈線 (8 条)	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	細・少									1/8 未満	
10	SD2301		弥生土器	甕	マメツ・板ナデ	マメツ・板ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	粗・並	中・並						8.4		2/8	
11	SD1205		弥生土器	壺	ヨコナデ・凹線 (3 条)	ヨコナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄	中・多					(19.8)				2/8	
12	SD1205		弥生土器	鉢	指押え・板ナデ・ナデ	板状圧痕・板ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	細・並	細・少						3.2		8/8	
13	SD1205		土師器	高杯	指押え・ナデ・板ナデ	ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄					中・少	15.4				4/8	
14	SD1205		土師器	高杯	板ナデ	指ナデ・板ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・少			(9.2)		4/8	
15	SD1205		土師器	壷	ヨコナデ・ヘラミガキ・貼付突帯・マメツ	ヨコナデ・マメツ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄					中・並	(16.1)				2/8	
16	SD1205		土師器	壺	マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					細・少					6/8	
17	SD1205		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y5/1 黄灰					中・少	(16.0)				2/8	
18	SD1205		土師器	甕	ヘラミガキ・ハケ目	板ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙					粗・少	(15.9)				2/8	
19	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(13.1)	4.3			2/8	
20	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄橙					中・少	(13.0)	4.4			3/8	やや焼成不良
21	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	5Y5/1 灰					細・少	(11.6)	4.5			2/8	
22	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N4/ 灰	N6/ 灰					中・少	(12.2)	4.6			5/8	
23	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	(12.2)				2/8	

第８表　土器観察表 (2)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
24	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					無	(11.6)				3/8	
25	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N3/ 暗灰	N6/ 灰					中・少	(12.0)	4.6			5/8	
26	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰					細・少	(15.0)				1/8 未満	
27	SD1205		須恵器	高杯	回転ナデ・透かし 3 ケ所	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					中・少			(7.6)		4/8	
28	SD1205		須恵器	壷	自然釉・回転ナデ	自然釉・回転ナデ	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰					細・少					2/8	
29	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N3/ 暗灰	10Y5/1 灰					細・少	(17.2)				1/8	
30	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ・波状文・タタキ目	回転ナデ・指押え→板ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					中・少					2/8	
31	SD1205		弥生土器	壷	ナデ・板ナデ・外面に煤付着	ナデ・ヨコナデ・板ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	中・少				16.8				1/8	
32	SD1205		土師器	椀	マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ヘラミガキ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙					細・少	(14.2)				1/8	
33	SD1205		土師器	高杯	ヘラミガキ	回転ナデ→ヘラミガキ	2.5Y5/1 黄灰・7.5Y5/1 灰	2.5Y4/1 黄灰					細・少	(12.3)				4/8	
34	SD1205		土師器	甕	回転ナデ→ヘラミガキ	回転ナデ・指押え・ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰					中・少	(20.1)				2/8	
35	SD1205		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐					細・少	(19.8)				1/8 未満	
36	SD1205		土師器	甕	マメツ・ヨコナデ	マメツ・指押え	2.5Y8/2 灰白	2.5Y6/2 灰黄					中・多	(15.5)				3/8	
37	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・少	(12.2)				2/8	
38	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	11.4	4.4			6/8	
39	SD1205		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					中・少	(12.8)				1/8	
40	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(13.4)				2/8	
41	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	5Y6/1 灰	N6/ 灰					中・少	(11.6)				4/8	
42	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰					細・少	(11.1)				1/8	
43	SD1205		須恵器	蓋杯？（ヘラ描き）	回転ヘラケズリ・ヘラ記号	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰					粗・少					8/8	
44	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白					細・少	(14.1)	5.8	(10.1)		1/8	
45	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白					細・少	(13.2)				2/8	
46	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	7.5Y5/1 灰	2.5Y5/2 暗灰黄					細・少	(13.6)				1/8 未満	
47	SD1205		須恵器	蓋杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰					細・少	(10.8)				2/8	
48	SD1205		須恵器	高杯	回転ナデ・カキ目	回転ナデ	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰					細・少	(12.0)				1/8	

第９表　土器観察表 (3)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
49	SD1205		須恵器	高杯	回転ナデ・透かし 4 カ所	回転ナデ	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰					細・少			(8.2)		2/8	
50	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白					中・並	(16.6)				1/8 未満	
51	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ・指押え	N4/ 灰	N5/ 灰					中・少	(15.0)				1/8	
52	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ・カキ目	回転ナデ	N5/ 灰	N4/ 灰					細・少	(20.0)				4/8	
53	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ・凹線 (2 条)・カキ目	回転ナデ	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰					細・少	(18.1)				2/8	
54	SD1205		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	(22.1)				1/8	
55	SP1352		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(8.8)	1.2	(6.6)		4/8	
56	SP1352		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	8.8	1.6	5.3		5/8	
57	SP1352		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	8.4	1.3	7.0		8/8	
58	SP1352		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					細・少	(8.3)	1.6	(6.4)		4/8	
59	SP1352		黒色土器 A 類	椀	ナデ・マメツ・指押え・ヘラミガキ	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	5Y4/1 灰					細・少	(14.8)				1/8	
60	SP1352		黒色土器 A 類	椀	マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	5Y4/1 灰					細・少	(13.3)				2/8	
61	SP1374		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	9.0	1.8	5.0		8/8	
62	SP1374		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	8.9	1.4	7.0		5/8	
63	SP1374		土師質土器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少			(8.3)		2/8	
64	SP1374		土師質土器	椀	マメツ・回転ナデ	マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(14.0)				1/8	
65	SP1374		瓦器	椀	回転ナデ・指押え	マメツ	10YR6/4 にぶい黄橙	5Y8/1 灰白					中・少	(14.0)				1/8	
66	SP1382		土師質土器	椀	ナデ	マメツ・ヘラミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白					細・少					1/8	
67	SP3301		須恵器	椀	回転ナデ	ヘラミガキ	5Y8/1 灰白	10YR6/2 灰黄褐					細・少	(6.0)				2/8	
68	SP3367		黒色土器 A 類	椀	ヘラミガキ・マメツ	ヘラミガキ	2.5Y8/1 灰白	N2/ 黒					細・少	(16.0)				1/8	
69	SP3372		土師質土器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少			(9.0)		2/8	
70	SK1304		黒色土器 A 類	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	N3/ 暗灰	5Y8/1 灰白・N3/ 暗灰					中・少	(16.2)				1/8	
71	SK1307		須恵器	甕	ヨコナデ・タタキ目→ヨコナデ	ヨコナデ	N6/ 灰	7.5Y6/1 灰					無	(32.6)				1/8	
72	SK3303		黒色土器 A 類	椀	マメツ	ヘラミガキ	2.5Y8/3 淡黄	N2/ 黒					中・少	(16.0)				1/8	
73	SD1101		土師質土器	椀	マメツ	マメツ・ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・多			(7.0)		1/8	
74	SD1201		須恵器	皿	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰					細・少			(13.8)		1/8 未満	

第 10 表　土器観察表 (4)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
75	SD1202		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					中・少	8.4	9.0	7.0		7/8	
76	SD1202		土師質土器	椀	ナデ→ヘラミガキ・回転ナデ・ナデ	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少			(6.4)		6/8	
77	SD1202		須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰					細・少			(8.0)		2/8	
78	SD1202		黒色土器Ａ類	椀	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	5Y2/1 黒					細・少			6.6		8/8	
79	SD1203		土師器	竈	指押え・ナデ	指押え・ナデ・マメツ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐					中・多					1/8 未満	
80	SD1203		黒色土器Ａ類	椀	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	5Y3/1 オリーブ黒	5Y3/1 オリーブ黒					細・少	(13.9)				1/8	
81	SD3301		土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	9.4	1.5	6.6		7/8	
82	SD3301		土師質土器	杯	回転ナデ・マメツ	回転ナデ・マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	(13.0)				2/8	
83	SD3301		瓦器	椀	指押え・ナデ	ヘラミガキ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少			4.4		8/8	
84	SD3301		瓦器	椀	マメツ	マメツ・ヘラミガキ	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白					細・少			5.1		3/8	
85	SD3302		瓦器	皿	指押え→ナデ	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少	9.0	2.2	7.1		7/8	
86	SD3303		土師質土器	杯	回転ヘラ切り・マメツ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・多			(8.0)		2/8	
87	SD3303		黒色土器Ａ類	椀	マメツ	ヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙	N2/ 黒					細・少	(14.4)				1/8 未満	
88	SD3304		土師質土器	杯	ナデ・マメツ・指押え→ナデ	マメツ・ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄					中・少	(14.8)				1/8 未満	
89	SD3305		土師質土器	杯	マメツ・ナデ	マメツ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少					1/8 未満	
90	SK1303		陶器	椀	回転ナデ→施釉・回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ→施釉	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少			(3.0)		4/8	
91	SX3303		弥生土器	甕	板ナデ→ヘラミガキ	板ナデ→指押え	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	細・少	細・少		細・並				7.8		1/8	
92	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	深鉢	ナデ・刻目突帯・ヘラ描沈線文	ナデ・ヘラケズリ→指押え	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y5/4 黄褐	細・少					(26.9)				1/8	
93	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	深鉢	刻目突帯・ヘラ描沈線文	板ナデ→ナデ・ヘラケズリ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並									1/8 未満	94 と同一個体か？
94	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	深鉢	ヘラ描沈線文・貝殻条痕	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	中・並			細・少						1/8 未満	93 と同一個体か？
95	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	深鉢	ヘラミガキ→ヘラ描沈線文・貝殻条痕	ヘラケズリ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/2 灰黄	細・並			細・少						1/8 未満	
96	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	深鉢	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヨコナデ・刻目突帯	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並			細・少						1/8 未満	
97	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	中・並			中・少				7.1		8/8	

第 11 表　土器観察表 (5)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
98	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	壷	ヘラミガキ・穿孔 1 ヶ所・ヘラ描沈線文	ヘラミガキ・マメツ	N2/ 黒	N2/ 黒	細・少					(7.7)				2/8	
99	SR01	最下層（混小石砂質土）	縄文土器	浅鉢	ヨコナデ・ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラ描沈線文 (2 条)・ヘラミガキ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・並		細・少							1/8 未満	
100	SR01	最下層（混小石砂質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ→ヘラ描沈線文・ヘラ描沈線文 (2 条)	ヘラミガキ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・並			中・少		(17.8)				2/8	
101	SR01	最下層（混小石砂質土）	弥生土器	甕	板ナデ・ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	中・並			細・少				(6.0)		1/8	
102	SR02	グリッド F（砂質土）	縄文土器	深鉢	ヨコナデ・刻目突帯・ヘラ描沈線文	ヘラミガキ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y4/1 黄灰	中・並		細・少								
103	SR02	グリッド F（砂質土）	弥生土器	壺	ナデ・マメツ・ヘラ描沈線 (7 条)	マメツ・指押え	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	粗・多					(18.8)				2/8	
104	SR02	グリッド F（砂質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・ヘラ描沈線 (3 条)・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・板ナデ	N2/ 黒	10YR6/2 灰黄褐	中・並									1/8 未満	
105	SR02	グリッド F（砂質土）	弥生土器	鉢	ヨコナデ・板ナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	中・並					(28.8)				1/8	
106	SR02	グリッド F（砂質土）	弥生土器	蓋	ナデ・板ナデ→ナデ	指押え・ナデ	10YR8/2 灰白	N3/ 暗灰	中・並			細・少				4.6		8/8	
107	SR02	グリッド E（砂質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・指押え→ナデ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・並					14.9				6/8	
108	SR02	グリッド E（砂質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並			中・多		(9.8)				2/8	香東川下流胎土
109	SR02	グリッド E（砂質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・少			細・少		(29.3)				1/8	香東川下流胎土
110	SR02	グリッド E（砂質土）	弥生土器	高杯	板ナデ・穿孔 (上段 2 ヶ所・下段 2 対 3 ヶ所)	ヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・少			細・並				7.1		5/8	
111	SR02	グリッド C（砂質土）	縄文土器	深鉢	刻目・ヨコナデ・刻目突帯	ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	中・並			細・少		(25.2)				1/8	外面煤付着
112	SR02	グリッド C（砂質土）	縄文土器	深鉢	ヨコナデ・刻目突帯・ヨコナデ→ヘラ描沈線文	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	中・並		細・少							1/8 未満	
113	SR02	グリッド C（砂質土）	弥生土器	甕	刻目・ナデ→ヘラ描沈線文	指押え・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/1 黄灰	中・並	中・少								1/8 未満	
114	SR02	グリッド I(混砂粘質土)	弥生土器	壺	ナデ・竹管文・貼付突帯文・マメツ	ハケ目→ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	中・並									1/8 未満	
115	SR02	グリッド I(混砂粘質土)	弥生土器	壺	ヘラ描沈線 (現存 21 条)	マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・多	中・少								1/8 未満	
116	SR02	グリッド I(混砂粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ヘラ描沈線 (2 条)・円形浮文	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・多									1/8 未満	
117	SR02	グリッド V(混砂粘質土)	弥生土器	鉢	ハケ目 (マメツ)・ナデ	指押え・ナデ (マメツ)・板ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	粗・多					9.9	9.2	5.4		5/8	

第 12 表　土器観察表 (6)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
118	SR02	グリッド I(混砂粘質土)		(注口)	マメツ	-	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並									8/8	
119	SR02	下層	縄文土器	深鉢	ナデ・刻目・ヘラ描沈線	指押え・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並				細・少					1/8 未満	
120	SR02	下層	縄文土器	深鉢	ナデ・刻目突帯・マメツ	ナデ・板ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多		細・少	細・少						1/8 未満	
121	SR02	下層	縄文土器	深鉢	刻目突帯文・マメツ	マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y4/1 黄灰	中・並									1/8 未満	
122	SR02	下層	縄文土器	深鉢	ヘラ描文	指押え・ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・多									1/8 未満	
123	SR02	下層	縄文土器	壺	マメツ・ヘラ描文	マメツ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	細・並			細・少		(9.5)				1/8	
124	SR02	下層	弥生土器	壺	ナデ・指押え→ナデ・ヘラ描沈線 (1 条)	ナデ・マメツ・指押え→ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並					(17.9)				1/8	
125	SR02	下層	弥生土器	甕	刻目・ヘラ描沈線 (2 条)・マメツ	マメツ	5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・多									1/8 未満	
126	SR02	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・指押え→ナデ	ヨコナデ・指押え→ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐	中・多			細・並						1/8 未満	
127	SR02	下層	弥生土器	甑	マメツ・ナデ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	粗・多							7.4		6/8	
128	SR02	下層	弥生土器	甑	指押え→ナデ	指押え→ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	粗・多			細・少				8.4		7/8	
129	SR02	下層	弥生土器	高杯	指押え・ナデ	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y6/2 灰黄	中・多							6.6		8/8	
130	SR02	下層	弥生土器	蓋	ナデ・指押え・マメツ	指押え・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多			細・少				4.6		6/8	
131	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ハケ目→ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (現存 4 条)	ヨコナデ・マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並			細・少		(21.0)				4/8	
132	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラ描沈線 (12 条)・刺突文・指押え→ヘラミガキ	指押え→ヘラミガキ (マメツ)	10YR8/3 浅黄橙	10YR5/2 灰黄褐	粗・多	細・少	細・少			(20.7)	27.8	6.8		4/8	
133	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・ヘラ描沈線 (8 条)・マメツ・ヘラミガキ	ナデ・指押え→ナデ・マメツ・ヘラミガキ	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並					(19.2)				2/8	
134	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ・ナデ	マメツ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	中・少					(19.2)				2/8	
135	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・指押え・マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並					(22.0)				1/8	口縁部突帯剥落
136	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	マメツ・ヘラミガキ・マメツ	マメツ・ヘラミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並	中・少				(16.3)				2/8	
137	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	蓋	マメツ・穿孔有	指押え→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・多	中・少					2.3	10.9		6/8	
138	SR02	グリッド G（黒色粘質土）		(注口)	マメツ	-	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並									8/8	
139	SR02	グリッド G（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ナデ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	粗・少		中・並		(13.0)				2/8	香東川下流胎土

第 13 表　土器観察表 (7)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
140	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラミガキ	貼付突帯・ヘラミガキ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少					(21.4)				3/8	
141	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・マメツ・ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (8 条以上)	ナデ・マメツ・ヘラミガキ・貼付突帯	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・少					(21.6)				2/8	
142	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (6 ～ 7 条)・ヘラ描沈線 (1 条)	ヨコナデ・ヘラミガキ・ナデ・指押え	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	粗・多					(17.3)				2/8	
143	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラ描沈 線 (4 条)・ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (4 条)・マメツ	ヨコナデ・板ナデ→指押え・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	粗・多	中・少				(16.0)				4/8	
144	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラ描沈線（4 条・2 ヶ所）・ヘラ描沈線 (4 条)・ナデ	指押え→ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	中・少									1/8	
145	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラミガキ・指押え・ナデ	ナデ・指押え・ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	粗・多			細・少				(11.5)		4/8	
146	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目･ヘラ描沈線 (4 条)・マメツ	ナデ・指押え→ナデ	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・並					(17.8)				1/8	
147	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目・ヨコナデ・ヘラ描沈線 (14 条)	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰	細・少		細・少			(23.8)				1/8	外面煤付着
148	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目・マメツ・ハケ目→ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (8 条)・ヘラ描刺突文	マメツ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多	細・少				(26.7)				1/8	外面煤付着
149	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目・ハケ目・ヘラ描沈線 (11 条)	指押え・板ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	中・少					(23.3)				1/8	外面煤付着
150	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	マメツ・貼付突帯・ヘラ描沈線・鋸歯文	マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・多									4/8	
151	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	蓋	指押え・ヘラミガキ	板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少							7.7		5/8	
152	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	蓋	ナデ・ヘラミガキ (マメツ)	板ナデ→ナデ・ヘラミガキ (マメツ)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多							6.1		3/8	
153	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ・ハケ目→列点文・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・板ナデ→指押え・指押え	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/3 にぶい黄褐	細・少		-	細・並		(17.8)				2/8	香東川下流胎土
154	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少			細・少		(16.3)				2/8	香東川下流胎土
155	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ハケ目・ヘラミガキ	マメツ・ヨコナデ・ハケ目→指押え・ナデ・ヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並	中・少	細・少	中・少		(15.2)				2/8	香東川下流胎土
156	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目・ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並		細・少	細・少		(13.6)				1/8	香東川下流胎土
157	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並	細・少		細・少		(26.3)				1/8	香東川下流胎土
158	SR02	グリッドＦ（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・板ナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少					(28.0)				3/8	香東川下流胎土

第 14 表　土器観察表 (8)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
159	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	中・並	細・少		細・少		26.7				6/8	
160	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・ヘラミガキ (マメツ)	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・多		細・少	細・少		(19.9)				1/8	香東川下流胎土
161	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	2.5Y5/3 黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並			細・少		19.1				8/8	香東川下流胎土
162	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	マメツ・板ナデ・ナデ	ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・並							(16.6)		2/8	香東川下流胎土
163	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	粗・並			細・少				(17.7)		2/8	香東川下流胎土
164	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ハケ目・ヨコナデ・穿孔現存 3 ヶ所	ヘラケズリ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・並	中・少		細・並				13.6		8/8	香東川下流胎土
165	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ナデ・穿孔 (1 ヶ所)	ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並							(18.4)		2/8	香東川下流胎土
166	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	マメツ・ハケ目・ヨコナデ・穿孔（現存 5 ヶ所）	板ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少		細・少					13.6		6/8	香東川下流胎土
167	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・板ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並			細・少						1/8 未満	
168	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	弥生土器	鉢	ナデ・指押え・ヘラケズリ	指押え・板ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並		細・少	細・少		(12.6)	8.0	4.8		5/8	香東川下流胎土
169	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	製塩土器	-	ヘラケズリ・指押え・ナデ	指押え・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・多							3.7		7/8	
170	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	製塩土器	-	ヘラケズリ・ナデ	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並							4.9		7/8	香東川下流胎土
171	SR02	グリッドF（黒色粘質土）	製塩土器		指押え・ナデ	板ナデ・ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	細・少	細・少		細・少				4.9		8/8	
172	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	縄文土器	深鉢	ナデ・刻目突帯・ヘラ描文	板ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/2 暗灰黄	中・並									1/8 未満	
173	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	刻目・ヘラミガキ	刻目・ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・少					(20.8)				1/8 未満	
174	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・板ナデ (マメツ)	ヘラミガキ・指押え・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多					(9.2)				2/8	
175	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	刻目突帯・ヘラ描沈線 (2 条・4 条・7 条)・マメツ・ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	粗・多									3/8	
176	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (4 条 2 段)	指押え→ナデ	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並									2/8	
177	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・貼付突帯・ヘラミガキ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並									2/8	
178	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (3 条)・列点文	マメツ・ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・並									1/8 未満	
179	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラ描沈線・刻目突帯・ヘラミガキ	マメツ・指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多									1/8 未満	
180	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラ描沈線・刻目突帯	指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・多									1/8 未満	
181	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・ヘラ描沈線 (1 条)・板ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	7.5Y2/1 黒	中・多					(32.0)				1/8	

第 15 表　土器観察表 (9)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
182	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・ハケ目・ヘラ描沈線 (9 条)	ヨコナデ・ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並					(21.6)				1/8	
183	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目・板ナデ→ヘラ描沈線 (4 条)	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y7/2 灰黄	細・少					(17.6)				1/8	
184	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・刻目・ヘラ描沈線 (3 条)	ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並									1/8 未満	
185	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・ヘラ描沈線 (8 条以上)	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多									1/8 未満	
186	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・刻目・ヘラ描沈線 (8 条)	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並					(20.0)				1/8	
187	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラ描沈線 (9 条)・ハケ目・ナデ	ヨコナデ・板ナデ・ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	中・並					18.9				6/8	外面煤付着
188	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・マメツ・指押え→ナデ (マメツ)	指押え→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・多							7.4		3/8	
189	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ	板ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並							(7.3)		3/8	
190	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ナデ・ヘラケズリ・指押え→ナデ	ナデ・板ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	細・並					(19.0)	13.9	(6.3)		4/8	
191	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	板ナデ→ナデ・指押え→ナデ・ナデ	板ナデ→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	N3/ 暗灰	粗・多	中・並						(5.8)		4/8	
192	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	鉢	ハケ目	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・並							(5.9)		5/8	
193	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ナデ	マメツ・指押え	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	細・少									3/8	
194	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ・ハケ目	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並		細・少			(13.0)				3/8	香東川下流胎土
195	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコナデ→ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並		細・少	細・少		(15.6)				3/8	香東川下流胎土
196	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	壷	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え→ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・少		細・少			(11.7)				1/8	香東川下流胎土
197	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ナデ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並		細・少			(16.6)				3/8	
198	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ・ハケ目	ヨコナデ・マメツ・指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	中・並		細・少		(13.2)				2/8	香東川下流胎土
199	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・ハケ目→ナデ・ハケ目→指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並		細・少	細・並		(14.6)				1/8	香東川下流胎土
200	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・指押え・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え→ハケ目・指押え・ヘラケズリ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	細・少		細・少			(12.9)				2/8	香東川下流胎土
201	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え→ヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並		細・少			(17.0)				2/8	香東川下流胎土
202	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並			細・少		(28.9)				1/8	香東川下流胎土
203	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヨコナデ・分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	中・並	中・並	細・少	細・少		(19.4)				4/8	香東川下流胎土

第 16 表　土器観察表 (10)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
204	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	製塩土器	-	ヘラケズリ	指押え・ナデ	2.5Y5/3 黄褐	2.5Y5/3 黄褐	中・並							5.3		8/8	
205	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	製塩土器	-	板ナデ・ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・少							4.2		7/8	
206	SR02	グリッドE（黒色粘質土）	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(12.1)				2/8	
207	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	弥生土器	壺	刻目突帯文・マメツ	マメツ	10YR8/2 灰白	10Y4/1 灰	粗・多									1/8 未満	
208	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・貼付突帯・ヘラ描沈線 (3 条)・ハケ目 (マメツ)	指押え (マメツ)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR8/1 灰白	粗・並	中・少								1/8 未満	
209	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	弥生土器	甕	マメツ・ヘラ描沈線 (3 条)	マメツ・指押え	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	中・多	中・少				(19.8)				1/8	
210	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ･刻目･マメツ･ハケ目	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	中・少					(20.2)				1/8	
211	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ハケ目 (マメツ)・ハケ目→ナデ・指押え (マメツ)	指押え (マメツ)	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/2 明褐灰	粗・多	中・少						10.1		6/8	
212	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ナデ・ハケ目→指押え	板ナデ (マメツ)	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR8/2 灰白	中・並	中・並						4.6		6/8	
213	SR02	グリッドM(黒色粘質土)	円盤状土製品		板ナデ	指押え	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並					5.8	5.4	1.1		7/8	
214	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	縄文土器	深鉢	刻目・刻目突帯・ナデ	ナデ・板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	細・並					(31.8)				1/8 未満	
215	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	縄文土器	深鉢	ヨコナデ→ヘラ描沈線文	ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	中・並									1/8 未満	
216	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・指押え→ナデ・ヘラ描沈線 (4 条)	ナデ・ヘラミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白	中・並									1/8 未満	
217	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・指押え・ヘラミガキ	ヘラミガキ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・多					(22.0)				2/8	
218	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ヘラ描沈線 (9 条以上)	マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並					(21.2)				1/8	
219	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ハケ目・ヘラ描沈線 (2 条)・刻目突帯	マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多					(14.6)				1/8	
220	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壷	ナデ・円形浮文	ヘラミガキ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR3/1 黒褐	細・少									1/8 未満	
221	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壺	木葉文	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並									1/8 未満	
222	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	壺	櫛描沈線文	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	中・並									1/8 未満	
223	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	甕	マメツ・ヘラ描沈線 (3 条)	マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並	細・少								1/8 未満	
224	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・竹管文・ヘラ描沈線	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多									1/8 未満	
225	SR02	グリッドD（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目・指押え・ナデ	指押え・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多					(27.0)				1/8	外面煤付着

第 17 表　土器観察表 (11)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
226	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ･マメツ･刻目･ヘラ描沈線 (8 条)・板ナデ	ナデ・マメツ・板ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	細・少					(34.0)				4/8	
227	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・ハケ目→ヘラ描沈線 (6 条)	ヨコナデ・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐	中・少			細・少		(18.9)				1/8	
228	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・刻目・ヘラ描沈線 (8 条)・刺突文・ヘラミガキ	指押え	2.5Y3/1 黒褐	10YR6/2 灰黄褐	細・並					(19.1)				1/8 未満	外面煤付着
229	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	刻目・板ナデ・ナデ	指押え・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多			中・少						1/8 未満	
230	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・竹管文・刻目	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・少									1/8 未満	
231	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・マメツ・ヘラ描沈線 (7 条)	ナデ・指押え	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	細・少					(19.2)				1/8	
232	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	粗・多	中・並				(19.3)				1/8	
233	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・ヘラ描沈線 (4 条)	板ナデ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並							(7.2)		2/8	
234	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガキ・指押え・ナデ	指押え・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	粗・多							7.8		6/8	
235	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガキ・指押え・ナデ	指押え・ナデ	10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・多	中・少		細・少				11.0		4/8	
236	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	指押え→ナデ	指押え→ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	中・並			細・少				8.3		8/8	
237	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	板ナデ ?(マメツ)・ナデ (マメツ)	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	粗・多							7.6		6/8	
238	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	板ナデ (マメツ)・指押え→ナデ	板ナデ→ナデ (マメツ)	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	粗・並	中・少						7.3		6/8	
239	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甑	ヘラミガキ ?(マメツ)	指押え (マメツ)	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・多							(7.8)		4/8	
240	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ヘラミガキ・板ナデ・ナデ	ヘラミガキ・板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並							6.6		8/8	
241	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	蓋	指押え・マメツ	板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並							(5.8)		2/8	
242	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	紡錘車		ナデ		7.5YR6/3 にぶい褐		中・多					6.4	6.5	1.4		8/8	
243	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	紡錘車		板ナデ→ナデ		10YR6/3 にぶい黄橙		中・多					6.0	5.8	1.3		8/8	
244	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	紡錘車		指押え・ナデ		10YR5/2 灰黄褐		中・並					4.8	4.7	1.1		8/8	
245	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ･擬凹線 (2 条)・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並					(13.4)				4/8	
246	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・マメツ・ハケ目→ハケ原体圧痕文・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・指押え・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	細・少				15.5	28.6	5.5		7/8	香東川下流胎土
247	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ・指押え・ナデ・ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	粗・並	中・少				(13.4)				5/8	

第 18 表　土器観察表 (12)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
248	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・板ナデ	マメツ・指押え	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	細・少							(2.9)		6/8	
249	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・ハケ目	ナデ・指押え	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	細・少					(15.4)				1/8	香東川下流胎土
250	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ	ナデ・指押え→ナデ・板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・少					(17.6)				2/8	
251	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	マメツ・板ナデ・指押え	7.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並					(12.6)				2/8	
252	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	板ナデ	ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y4/1 黄灰	細・多							6.5		7/8	
253	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・穿孔（上段現存1ヶ所・下段2対現存2ヶ所）・ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・少					(22.3)	17.5	(15.7)		5/8	香東川下流胎土
254	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・少	中・少		細・少		(24.8)				3/8	香東川下流胎土
255	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・穿孔 (3ヶ所)	ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並			細・少						8/8	香東川下流胎土
256	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マメツ・ナデ・穿孔 (3ヶ所)	ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少	細・少		細・少				14.7		6/8	香東川下流胎土
257	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ヨコナデ・板ナデ	ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	細・並	細・少				(42.4)				2/8	
258	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ハケ目→ヘラミガキ・ナデ・ヘラケズリ	ハケ目→ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	細・少				18.1	8.0	5.6		8/8	
259	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	タタキ目→ナデ・ナデ	指押え・ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	中・少							4.0		2/8	
260	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	製塩土器		ヘラケズリ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y7/3 浅黄	中・少							5.0		8/8	
261	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	製塩土器	-	指押え・ナデ・マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・少							(3.8)		4/8	
262	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	製塩土器		指押え	指押え	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・並							4.6		8/8	
263	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	土師器	高杯	指押え・ナデ・板ナデ	ナデ→ヘラミガキ・絞目・ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・少					6/8	
264	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰					細・少	(11.8)				1/8	
265	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ヘラ描沈線 (9条)・貼付突帯	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・多					(22.4)				6/8	
266	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	貼付突帯（3条）・刻目・ハケ目・マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並									2/8	
267	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・貼付突帯 (3条) か？	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	粗・並									2/8	
268	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・線刻・ヘラ描縦線文	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並			細・少						1/8 未満	

第 19 表　土器観察表 (13)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
269	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	甕	刻目・ヨコナデ・ヨコナデ→ヘラ描沈線 (8 条)・列点文・ヘラミガキ	指押え・ナデ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/2 暗灰黄	中・少					(23.0)				2/8	外面煤付着
270	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・刻目・ハケ目・ヘラ描沈線 (9 条)	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	中・少					(18.2)				1/8	外面煤付着
271	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	蓋	指押え・ナデ・マメツ	指押え・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・多	中・少						4.7		4/8	
272	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	円形浮文・刻目・ヨコナデ	櫛描斜格子文・円形浮文 2 列・マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 淡黄	中・並	粗・少				(23.3)				1/8	
273	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	ナデ・板ナデ・ヘラケズリ・ヘラケズリ→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多					(12.8)				6/8	
274	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ	マメツ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・多	細・少				15.1				6/8	
275	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	中・並					8.9				8/8	
276	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少			細・少		11.7				6/8	香東川下流胎土
277	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ハケ目・線刻	指押え・ヘラケズリ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR4/2 灰黄褐	細・少									2/8	香東川下流胎土
278	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	甕	マメツ・ハケ目？	マメツ・ヘラケズり	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	中・並	細・少				(16.0)				2/8	
279	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	ヘラミガキ ?(マメツ)	ヘラミガキ (マメツ)	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多	中・少				(28.3)				1/8	
280	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	マメツ・ヨコナデ・ヘラミガキ・穿孔 (3 ヶ所)	マメツ・ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並			細・少		(24.4)				8/8	香東川下流胎土
281	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ヨコナデ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	中・少		細・少		(20.8)				2/8	香東川下流胎土
282	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	高杯	板ナデ・マメツ・穿孔 (現存 2 ヶ所)	マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並			細・少				(16.6)		3/8	
283	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	弥生土器	小型丸底壺	ナデ・板ナデ・ヘラケズリ	ナデ・指押え	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・少					(8.7)	8.5			4/8	
284	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	土師器	高杯	マメツ・貼付突帯	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					粗・並	(23.1)				3/8	
285	SR02	グリッドC（黒色粘質土）	土師器	高杯	マメツ・ナデ	マメツ・板ナデ・ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄					粗・並	(20.0)				1/8	
286	SR02	グリッドK（黒色粘質土）	弥生土器	壺	貼付突帯（現存 2 条）・マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	粗・多							(8.0)		3/8	
287	SR02	グリッドK（黒色粘質土）	弥生土器	甕	指押え→ナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並									1/8 未満	外面煤付着
288	SR02	グリッドK（黒色粘質土）	弥生土器	甕	マメツ・ヘラミガキ・竹管文・穿孔 (2 ヶ所)・刻目	マメツ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並	中・少				(19.9)				1/8	
289	SR02	グリッドK（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・ヘラ描沈線 (8 条)・列点文	ヨコナデ・板ナデ→ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/3 にぶい黄褐	細・並			細・少		(16.2)				2/8	外面煤付着

第 20 表　土器観察表 (14)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
290	SR02	グリッド K (黒色粘質土)	弥生土器	甕	刻目・ヘラ描沈線 (9 条)・マメツ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	細・少					(20.2)				2/8	外面煤付着
291	SR02	グリッド K (黒色粘質土)	弥生土器	甕	指押え→ハケ目・ナデ	指押え・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並							8.3		3/8	
292	SR02	グリッド K (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並									5/8	
293	SR02	グリッド K (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ヨコナデ・板ナデ・指押え・ナデ→ヘラミガキ	指押え・ナデ・マメツ	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y7/2 灰黄	中・並	中・少				(11.7)				2/8	
294	SR02	グリッド J(黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ハケ目・刻目突帯文（3 条）	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	粗・多	粗・少				(17.0)				2/8	
295	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目・ヘラ描沈線 (1 条)	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・少					(20.6)				2/8	
296	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・円形浮文	指押え・ナデ	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y2/1 黒	中・並									1/8 未満	
297	SR02	グリッド J(黒色粘質土)	弥生土器	甕	刻目・ヘラ描沈線 (9 条)・ハケ目	マメツ・ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並					(19.8)				1/8	
298	SR02	グリッド J(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・ヘラ描沈線 (21 ～ 22 条)・列点文	ナデ・マメツ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y8/2 灰白	中・少					(20.4)				1/8	
299	SR02	グリッド J(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・貼付突帯・マメツ・ヘラミガキ	指押え・マメツ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少					(21.2)				1/8	
300	SR02	グリッド J(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ナデ・指押え・マメツ	指押え→ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・多	中・少						6.2		7/8	
301	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・擬凹線（2 条）	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR7/4 にぶい黄橙	中・多					(15.0)				2/8	
302	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラ描沈線・マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	粗・多					(15.4)				2/8	
303	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナデ・ハケ目	ナデ	2.5Y5/3 黄褐	2.5Y5/3 黄褐	細・少			細・少		(15.3)				1/8	
304	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ハケ目・ハケ目→ヘラミガキ	指押え・ナデ・ヘラケズリ・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並							6.0		4/8	香東川下流胎土
305	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ハケ目・ヘラミガキ	指押え・ナデ・ヘラケズリ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並		細・少	細・少				7.0		8/8	香東川下流胎土
306	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・ハケ目	ナデ・指押え・ヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少		細・少			(16.5)				1/8	香東川下流胎土 外面煤付着
307	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え→板ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並		細・少	細・少		(16.2)				2/8	香東川下流胎土
308	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並		細・少	細・少		(14.4)				2/8	香東川下流胎土
309	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・マメツ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	中・多		細・並			(14.6)				1/8	香東川下流胎土
310	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ・ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並									1/8 未満	
311	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヘラミガキ・マメツ	ヘラケズリ→指押え・ナデ	7.5YR2/1 黒	7.5YR3/2 黒褐	中・並		細・並					5.2		6/8	香東川下流胎土
312	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並		細・少	細・並		(21.1)				8/8	香東川下流胎土

第 21 表　土器観察表 (15)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
313	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並		細・少			(19.8)				1/8	香東川下流胎土
314	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並			細・少		23.9				8/8	香東川下流胎土
315	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並		細・少	細・並		(20.0)				1/8	香東川下流胎土
316	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヘラケズリ→ヘラミガキ・マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	中・並		細・少	細・並						2/8	香東川下流胎土
317	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マメツ・ヘラミガキ・穿孔 (4 ヶ所)	マメツ・ヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並	細・少	細・少	細・少						2/8	香東川下流胎土
318	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マメツ・穿孔（上段 3 ヶ所　下段 3 ヶ所）	ヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	粗・並		細・少	細・少				15.1		7/8	香東川下流胎土
319	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マメツ・ヨコナデ・穿孔 (1 ヶ所)	ヘラケズリ	2.5Y5/3 黄褐	2.5Y5/3 黄褐	中・並		細・少					(15.6)		2/8	香東川下流胎土
320	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	鉢	板ナデ・指押え・ナデ	板ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・並	中・少	細・少			(9.5)	6.7	4.2		4/8	香東川下流胎土
321	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	鉢	指押え・ナデ・マメツ	ハケ目	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	細・少					13.6	7.4	3.7		5/8	香東川下流胎土
322	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	弥生土器	鉢	マメツ・指押え	マメツ・指押え	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並							3.3		7/8	
323	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	製塩土器		ヘラケズリ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y7/3 浅黄	細・並							5.0		8/8	
324	SR02	グリッド B(黒色粘質土)	製塩土器		指押え	指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並							4.0		8/8	
325	SR02	グリッド I（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・櫛描波状文・櫛描文	ナデ・指押え	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・並									1/8 未満	
326	SR02	グリッド I（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヘラミガキ・マメツ・ヘラミガキ	剥落	10YR7/3 にぶい黄橙	-	粗・多	中・少						(18.0)		4/8	
327	SR02	グリッド A（黒色粘質土）	弥生土器	甕	マメツ・ヘラ描沈線 (8 条)・ヘラ刺突文	マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・多	中・並				(19.2)				1/8	
328	SR02	グリッド T（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ヨコナデ・板ナデ	ヨコナデ・ナデ・板ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	細・少			細・少		12.0				7/8	
329	SR02	グリッド A（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・剝離・ヘラミガキ・指押え	マメツ・指押え (マメツ)・ハケ→指ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗・多	中・並				15.3	27.8	5.7		8/8	
330	SR02	グリッド A（黒色粘質土）	弥生土器	壺	マメツ・ハケ目・ハケ目→ヘラミガキ	指押え・ナデ・ヘラケズリ	2.5Y5/3 黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・少			細・少						3/8	香東川下流胎土
331	SR02	グリッド A（黒色粘質土）	弥生土器	壺	ハケ目→ヘラミガキ・ナデ	指押え・ナデ・ハケ目	2.5Y7/2 灰黄	10YR5/1 褐灰	細・並							5.2		6/8	
332	SR02	グリッド A（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ナデ・擬凹線・ハケ目	ナデ・指押え	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	細・並		細・少			(16.8)				2/8	香東川下流胎土
333	SR02	グリッド A（黒色粘質土）	弥生土器	甕	ハケ目・ナデ	マメツ・指押え・ヘラケズリ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	中・並							6.0		8/8	

第 22 表　土器観察表 (16)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
334	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・板ナデ→指押え・ナデ・ヘラケズリ→指押え	ヨコナデ・指押え→板ナデ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	中・少	細・少			15.7	16.0	7.1		7/8	香東川下流胎土
335	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	甕	剥離・マメツ	ナデ・ハケ目・ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	粗・並					(14.6)	16.3	4.6		5/8	
336	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・指押え→ナデ	ナデ・板ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・少			細・少		(14.4)	11.0	4.1		6/8	
337	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	甕	マメツ・指押え・ナデ	ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多	細・少						4.9		5/8	
338	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケ目→ヘラミガキ・ヨコナデ・穿孔（上段３ケ所下段６ケ所）	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ・ヨコナデ・ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	粗・並	中・並	細・少			25.6	19.9	17.6		7/8	香東川下流胎土
339	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデヘラミガキ・ヨコナデ・穿孔（上段３カ所下段３カ所）	杯部：ヨコナデ・ヘラミガキ　脚部：ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	粗・並	中・少				25.6	20.2	16.0		7/8	香東川下流胎土
340	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ・穿孔（上段３ケ所下段３ケ所）・ハケ→ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ナデ・ヘラケズリ→ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	粗・並	粗・少	細・並			25.3	19・5	15.7		6/8	香東川下流胎土
341	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・マメツ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・少		細・少		(25.0)				5/8	
342	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	粗・少			細・少		20.2				5/8	香東川下流胎土
343	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	マメツ・ヨコナデ・指押え→ハケ目→ナデ	マメツ・ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並			細・少		18.7	10.0	6.2		6/8	
344	SR02	グリッドＡ (黒色粘質土)	弥生土器	器台	板ナデ・ヨコナデ	ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	細・少					16.3	11.4	(13.5)		6/8	
345	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ→ヘラミガキ・板ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ・板ナデ→ヘラミガキ・指押え→ヘラミガキ・指押え→板ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並					14.6				3/8	
346	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラ描沈線 (9 条以上)・刺突文・ヘラミガキ (マメツ)	ヘラミガキ・指押え→ヘラミガキ	10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・並	細・少								4/8	
347	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・指頭圧痕・ハケ目・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・板ナデ・ヘラミガキ・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並			細・少		(41.0)				1/8	
348	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナデ・ハケ目	ナデ・指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・少			細・少		(13.4)				1/8	香東川下流胎土
349	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	土師器	甕	ナデ・指押え・ナデ	ナデ・指押え・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐					細・少	(14.5)				2/8	外面煤付着
350	SR02	上層	縄文土器	深鉢	刻目・刻目突帯・ヘラ描沈線文	ヘラミガキ	10YR2/1 黒	10YR6/4 にぶい黄橙	細・少	細・少		細・少		(29.8)				2/8	
351	SR02	上層	縄文土器	深鉢	ヘラ描沈線文	ヘラミガキ	10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰	細・少			細・少						1/8 未満	外面煤付着

第 23 表　土器観察表 (17)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
352	SR02	上層	縄文土器	深鉢	マメツ・刻目突帯・ヘラ描沈線文	マメツ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並									1/8 未満	
353	SR02	上層	縄文土器	浅鉢	刻目・貝殻条痕	ヘラミガキ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y5/1 黄灰	中・並			細・少						1/8 未満	
354	SR02	上層	弥生土器	壺	ナデ・ヘラ描沈線 (1 条・2 条)	ナデ・マメツ・指押え・板ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並	中・並				(15.0)				1/8	
355	SR02	上層	弥生土器	壺	指押え→ナデ→ヘラミガキ	指押え→ナデ→ヘラミガキ	10YR4/1 褐灰	10YR6/2 灰黄褐	中・並	中・並		細・並						1/8 未満	
356	SR02	上層	弥生土器	壺	刻目突帯・ナデ	ハクリ・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	粗・並									1/8	
357	SR02	上層	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・指押え→ナデ	ヨコナデ・指押え→ナデ	2.5Y2/1 黒	10YR6/2 灰黄褐	中・多			細・少						1/8 未満	外面煤付着
358	SR02	上層	弥生土器	甕	指押え	指押え→ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・少					(31.2)				1/8	
359	SR02	上層	弥生土器	甕	刻目・ヘラ描沈線 (1 条)・指押え・ナデ	ナデ・指押え	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y8/3 淡黄	中・並					(20.0)				2/8	
360	SR02	上層	弥生土器	甕	刻目・マメツ・ハケ目	マメツ・ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・多					(18.8)				1/8	外面煤付着
361	SR02	上層	弥生土器	甕	刻目・指押え (マメツ)	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多									1/8 未満	
362	SR02	上層	弥生土器	壺	ナデ・指押え→板ナデ・ナデ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・多							7.6		6/8	
363	SR02	上層	弥生土器	壺	ナデ・指押え・ナデ	ナデ	2.5YR2/1 赤黒	2.5YR2/1 赤黒	中・多			細・少				4.1		7/8	
364	SR02	上層	弥生土器	甕	ナデ・指押え・ナデ (マメツ)	マメツ・指押え	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多							7.6		8/8	
365	SR02	上層	弥生土器	甕	ヘラミガキ・ナデ	マメツ・指押え	10YR2/1 黒	10YR5/2 灰黄褐	中・多			細・少				5.4		7/8	
366	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	マメツ・刻目突帯 (2 条)	マメツ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	粗・多					(17.4)				1/8	
367	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	マメツ・貼付突帯 (3 条)	マメツ・指押え	10YR8/2 灰白	10YR8/1 灰白	中・並	中・少								1/8 未満	
368	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	ナデ→木葉文	指押え	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y5/1 黄灰	中・並									1/8 未満	
369	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	円形浮文・ヘラ描沈線文	ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	細・少			細・少						1/8 未満	
370	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	ヨコナデ・刻目・ヘラケズリ→指押え・ナデ	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・多					(19.5)				2/8	
371	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ・ヘラ描沈線 (1 条)	ヨコナデ・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並					(15.6)				1/8	
372	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	刻目・マメツ・ヘラ描沈線 (6 条)	マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	粗・多	中・少				(34.0)				1/8 未満	
373	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	ヨコナデ・指押え・指押え→ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y5/1 黄灰	中・並									1/8 未満	
374	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	ナデ・ヘラ描沈線 (9 条)	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y8/3 淡黄	中・並					(24.8)				1/8	

第 24 表　土器観察表 (18)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
375	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	マメツ・指押え→ナデ	ヘラケズリ・ヘラケズリ→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・多	中・少						5.8		7/8	
376	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	甕	ハケ目・指押え・ナデ	マメツ・指押え（マメツ）	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	粗・多							5.9		6/8	
377	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	ハケ目→ヨコナデ・ハケ目・ヘラミガキ	ヨコナデ・ハケ目・マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多					(30.0)				4/8	
378	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	指押え (マメツ)・ナデ	指押え (マメツ)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	粗・多	中・少						6.6		6/8	
379	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並		細・少	細・少		(26.2)				2/8	香東川下流胎土
380	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	高杯	ヨコナデ・マメツ・ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・並			細・少		(23.0)				3/8	香東川下流胎土
381	SR02	グリッド・層位不明	製塩土器	-	ヘラケズリ	指押え・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・多							5.0		8/8	
382	SR03	埋土	須恵器	甕	回転ナデ→波状文	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少					1/8 未満	
383	SR06	下層	弥生土器	壷	凹線 (4 条) →円形浮文（4 対現存 3 ヶ所）・マメツ・押捺突帯文	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・多	中・少		中・少		(23.0)				2/8	
384	SR06	下層	弥生土器	壺	凹線（現存 2 条）・ハケ目・押捺文・櫛描直線文・櫛描波状文	ヨコナデ・指押え・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並			細・並						1/8	
385	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・指押え・ナデ	7.5YR4/4 褐褐	7.5YR4/3 褐	中・多	細・少	細・並	中・並		(16.5)				1/8	香東川下流胎土か？
386	SR06	下層	弥生土器	甕	凹線文 (3 条)・ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ハケ目	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	中・並	中・少		細・少		(19.0)				2/8	
387	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ヨコナデ・貼付突帯・ナデ	板ナデ→ナデ・未貫通の穿孔（4 ヶ所）	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並			細・並				10.0		6/8	
388	SR06	下層	弥生土器	鉢	ヨコナデ・穿孔・刻目・沈線 (3 条)	マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y3/1 黒褐	細・多			細・少				(9.7)		3/8	
389	SR06	下層	弥生土器	壺	凹線 2 条・ナデ・指押え→ハケ目・貼付突帯	列点文（2 列）・櫛描斜格子文・ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並			細・少		(15.2)				2/8	香東川下流胎土
390	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ描縦線文・ヨコナデ・ハケ目・貼付突帯	ヨコナデ・ナデ・指押え→ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	細・少			細・並		(13.7)				2/8	
391	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ描縦線文・ナデ・穿孔 (2 対 2 ヵ所)・ハケ目・刻目突帯	ナデ・指押え→ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・並					(10.5)				5/8	
392	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラ描縦線文・ヘラミガキ・押捺突帯文	ヨコナデ・ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	細・少			細・少		(16.0)				4/8	
393	SR06	下層	弥生土器	壺	原体圧痕文・ハケ目・押捺突帯文	ナデ・ヘラミガキ	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	中・少			細・少		(14.7)				3/8	
394	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y4/2 暗灰黄	中・少					(14.8)				2/8	

第 25 表　土器観察表 (19)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
395	SR06	下層	弥生土器	甕	ハケ目・指押え・ナデ	板ナデ・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10Y2/1 黒	中・多		細・少	中・少				6.5		7/8	香東川下流胎土
396	SR06	下層	弥生土器	高杯	マメツ・指押え・ヨコナデ・凹線文 (2 条)	マメツ・ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	細・多	中・少				8.4				7/8	
397	SR06	下層	弥生土器	鉢	マメツ・ヘラミガキ	ナデ・板ナデ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	中・並							8.1		8/8	
398	SR06	下層	弥生土器	壷	ヘラ描沈線 (3 条)→棒状浮文（2 ヵ所現存）・ナデ	ヨコナデ・指押え→ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	中・少		中・並		(27.6)				3/8	香東川下流胎土
399	SR06	下層	弥生土器	壷	櫛描斜格子文・ヨコナデ・板ナデ→ヨコナデ・押捺突帯・板ナデ・ナデ	ヨコナデ・マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・多	中・少		中・並		20.2				7/8	
400	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラ描沈線 (4 条)・マメツ	ヘラミガキ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	中・並	中・少		中・多		(27.0)				3/8	香東川下流胎土
401	SR06	下層	弥生土器	高杯	ハケ目→ナデ・ヨコナデ・三角形透かし (8 ヶ所)	マメツ・ハケ目	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・多	細・少		細・少				(14.1)		5/8	
402	SR06	下層	弥生土器	高杯	マメツ・ナデ・指押え・貼付突帯（2 条）	マメツ・ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多							10.0		6/8	
403	SR06	下層	不明		ナデ	-	2.5Y5/2 暗灰黄	-						(2.9)	(2.0)	(1.9)		8/8	「田」ヘラ描
404	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ描綾杉文・ナデ・ナデ→ハケ目	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	細・少					(28.4)				1/8	香東川下流胎土
405	SR06	下層	弥生土器	壺	刻目・ヨコナデ・ハケ目・ヘラ描沈線・穿孔 (現存 4 ヶ所)	ヨコナデ・絞目→ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・並			中・少		(12.8)				2/8	
406	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ描沈線 (4 条）・刻目・棒状浮文・ハケ目	櫛描斜格子文・列点文（3 列）・ヘラミガキ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	細・少					(22.7)				2/8	
407	SR06	下層	弥生土器	壺	凹線（1 条）→刻目・ヨコナデ・穿孔（現存 2 対 2 ヶ所）	櫛描斜格子文・ナデ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	中・並			細・少		(20.2)				2/8	
408	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目・貼付突帯 (2 条)・ヘラミガキ・穿孔 (現存 6 ヶ所)	櫛描斜格子文・櫛列点文・ナデ・板ナデ・指押え	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・並			中・並		(27.0)				4/8	
409	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ描羽状文→円形浮文（現存 1 ヶ所）・ナデ・ハケ目・貼付突帯 (2 条)	マメツ・ヘラミガキ・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・多	粗・少		中・少		(20.4)				4/8	
410	SR06	下層	弥生土器	壺	刻目→凹線 (3 条)→円形浮文・ヨコナデ・ハケ目・貼付突帯 (2 条)	櫛描斜格子文・列点文（3 列）・ナデ・ヘラミガキ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/2 灰黄	細・並			細・少		(19.7)				2/8	
411	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ描羽状文・ヨコナデ・指押え・ナデ・押捺突帯文	櫛描斜格子文・原体圧痕文・ヨコナデ・絞目→指押え・ナデ	2.5Y5/3 黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並	中・少	細・少	細・並		(24.5)				4/8	

第 26 表　土器観察表 (20)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
412	SR06	下層	弥生土器	壺	刻目→沈線 (3 条)・ヨコナデ・ハケ目・押捺突帯文	櫛描斜格子文・ヨコナデ	10Y3/1 オリーブ黒	2.5Y7/2 灰黄	細・並			中・少		(17.8)				3/8	
413	SR06	下層	弥生土器	壺	凹線 (3 条)→刻目・円形浮文（4 対 7 ヶ所？）穿孔（現存 12 ヶ所）・ハケ目→ヨコナデ・ハケ目・押捺突帯文	櫛描斜格子文・貼付突帯文・ヘラミガキ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少			細・少		(20.6)				4/8	
414	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目・押捺突帯文	ヨコナデ・櫛描斜格子文・マメツ・ヘラミガキ・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	細・少			細・少		(15.4)				2/8	
415	SR06	下層	弥生土器	壺	櫛描斜格子文・ヨコナデ→ハケ目・押捺突帯文	ヨコナデ・ナデ	2.5Y5/3 黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・少	細・少	細・少	細・少		(23.2)				2/8	
416	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・刻目・押捺突帯文・ハケ目	ヨコナデ・板ナデ・指押え	10YR6/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	中・並			細・少		(23.0)				3/8	
417	SR06	下層	弥生土器	壺	ナデ・押捺突帯文・マメツ・ハケ目	ヨコナデ・指押え→板ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	細・少	細・少				(11.6)				1/8	
418	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マメツ・ハケ目・押捺突帯文・マメツ・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・ハケ目・ナデ・板ナデ→ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並			細・多		(13.8)				3/8	
419	SR06	下層	弥生土器	壷	ナデ・竹管文・凹線 (4 条)	ナデ・ヨコナデ	10YR4/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並					(15.2)				2./8	
420	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・凹線 (2 条)・円形浮文・マメツ・ハケ目	ナデ・板ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・少			細・少		(17.2)				1/8	
421	SR06	下層	弥生土器	壺	ナデ・刻目突帯 (2 条)・ハケ目	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	細・少					10.8				6/8	
422	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・刻目突帯 (2 条)	ヨコナデ・ナデ・指押え	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	中・並			細・多		11.0				7/8	
423	SR06	下層	弥生土器	壺	ナデ・刻目突帯 (2 条)・マメツ・ハケ目	ナデ・板ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	細・少			細・並		11.4				4/8	
424	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・刻目突帯 (2 条)・ハケ目	ヨコナデ・ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	細・少			細・少		10.6				8/8	
425	SR06	下層	弥生土器	壺	刻目・マメツ・刻目突帯 (2 条)・ハケ目	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	細・並					(14.6)				2/8	
426	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・刻目突帯（2 条）・ハケ目	指押え→ナデ・絞目→ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・並			中・並		12.2				8/8	
427	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・刻目・刻目突帯 (2 条)・ハケ目	ヨコナデ・ヘラミガキ・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	細・少			細・少		11.4				8/8	
428	SR06	下層	弥生土器	壷	刻目・穿孔（現存 2 ヶ所）・刻目突帯（3 条）・原体圧痕文・ハケ目・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	細・少					(12.0)				3/8	

第 27 表　土器観察表 (21)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
429	SR06	下層	弥生土器	壺	櫛描波状文・ナデ・櫛描直線文・櫛描斜格子文	ハケ目→ヘラミガキ	2.5Y5/2 暗灰黄	10Y3/1 オリーブ黒	中・並			細・少						1/8 未満	
430	SR06	下層	弥生土器	壺	ナデ・櫛描文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少	細・少								1/8 未満	
431	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・板ナデ→ナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・多			中・多		(28.9)				1/8	香東川下流胎土
432	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・指押え→ナデ	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR4/2 灰褐	中・並			細・少		(18.1)				2/8	外面煤付着　香東川下流胎土
433	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・指押え→ヨコナデ・ナデ(マメツ)	ヨコナデ・指押え→ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	中・多			中・多		(20.0)				1/8	香東川下流胎土
434	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え→ハケ目	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/3 オリーブ褐	細・少			細・少		(15.3)				4/8	
435	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ	指押え→板ナデ・ハケ目	2.5Y8/3 淡黄	5Y3/1 オリーブ黒	中・並			細・少				8.7		8/8	外面煤付着
436	SR06	下層	弥生土器	甕	ヘラミガキ・ナデ	指押え・ナデ→ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並			細・少				7.0		5/8	
437	SR06	下層	弥生土器	甕	ヘラミガキ・ナデ	指押え→板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・多	細・少		細・並				5.4		6/8	
438	SR06	下層	弥生土器	甑	ヘラミガキ・指押え→ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	細・並							6.1		5/8	
439	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラミガキ	ハケ目・指押え．ナデ	2.5Y3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	中・多			細・少				15.2		7/8	香東川下流胎土
440	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・刻目	ヨコナデ・ヘラミガキ・穿孔（現存 1 ヶ所）	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並			細・並		(22.1)				1/8	香東川下流胎土
441	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・刻目・ヘラミガキ・剝離・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ目→ヘラミガキ・ナデ・板ナデ・剝離・ヨコナデ	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	中・並			中・少		(24.2)	16.7	11.4		6/8	
442	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ(マメツ・剝離)	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR3/1 黒褐	10YR2/1 黒	粗・多			細・少		(24.2)				2/8	
443	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・板ナデ→ヘラミガキ	板ナデ→ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・並			細・並		(22.2)				3/8	
444	SR06	下層	弥生土器	高杯	櫛描斜格子文→円形浮文・刻目・ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/2 にぶい黄橙	細・少					(24.0)				2/8	
445	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え→ハケ目・ヘラミガキ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	細・並		細・少	中・多		(12.8)				1/8	香東川下流胎土
446	SR06	下層	弥生土器	高杯	マメツ・剝離・ナデ	マメツ・板ナデ(マメツ)	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	粗・多	中・並		細・少				11.3		8/8	
447	SR06	下層	弥生土器	高杯	マメツ・ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラミガキ・ナデ・板ナデ・マメツ・ヨコナデ	10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	中・多			細・少				9.4		7/8	
448	SR06	下層	弥生土器	鉢	マメツ・ナデ	マメツ・板ナデ→ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・多			細・多				9.5		8/8	
449	SR06	下層	弥生土器	鉢	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ・ナデ・板ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並			細・並				7.2		7/8	香東川下流胎土

第 28 表　土器観察表 (22)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
450	SR06	下層	弥生土器	鉢	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ・ハケ→ナデ・ナデ	10Y2/1 黒	10YR2/3 黒褐	中・並			細・少				8.0		6/8	
451	SR06	下層	製塩土器		指押え・ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	細・少			細・少				4.0		8/8	
452	SR06	下層	紡錘車		指押え→ナデ		10YR2/1 黒		中・並		細・少	中・多		4.0	3.9	0.6		8/8	香東川下流胎土
453	SR06	下層	紡錘車		指押え→ナデ		10YR5/3 にぶい黄褐		中・並			細・多		4.0	4.0	0.8		8/8	香東川下流胎土
454	SR06	下層	土製品		櫛描文様・マメツ	櫛描文様・マメツ	2.5Y 7/2 灰黄	2.5Y 7/2 灰黄	中・多			細・少		7.1	7.5	1.7		1/8 未満	
455	SR06	下層	土師器	高杯	タタキ目→指押え・ナデ	ナデ・指押え・ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	中・並									7/8	
456	SR06	下層	土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ・指押え	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					細・少	(13.9)				1/8	
457	SR06	下層	弥生土器	高杯	櫛描斜格子文→円形浮文・刻目・ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	細・少					(25.2)				2/8	
458	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・指押え・ナデ	ヘラミガキ・絞目・ナデ・ヨコナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・並		細・少	細・並				(12.8)		5/8	香東川下流胎土
459	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・マメツ・透かし (4 ヶ所)	ナデ・絞目・マメツ・ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	細・少			中・少				11.5		6/8	香東川下流胎土
460	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ (剝離)・ヨコナデ	ヘラミガキ・板ナデ→ナデ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	粗・多	細・少		細・少		(20.9)	20.8	12.5		7/8	
461	SR06	下層	弥生土器	高杯	ハケ目→ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラミガキ・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/1 黒褐	中・並			細・並				14.6		8/8	
462	SR06	下層	弥生土器	鉢	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y6/4 にぶい黄	中・少					(22.8)				3/8	
463	SR06	下層	弥生土器	脚台部	指押え・板ナデ・ヘラミガキ	指押え	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄	細・少					12.8	9.1	4.5		8/8	透孔有
464	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・刻目突帯 (2 条)・板ナデ	ヨコナデ・指押え・ハケ目→ナデ	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	中・並			中・多		12.6				3/8	
465	SR06	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	中・多			中・多		(15.5)				1/8	
466	SR06	中層	弥生土器	壺	ヘラ描斜行文・円形浮文痕・ナデ	ナデ・櫛描重弧文・穿孔 (2 ヵ所)	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	細・少			細・少		(22.0)				1/8	香東川下流胎土
467	SR06	中層	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガキ・ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ・ハケ目→ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並			細・少		14.4				7/8	
468	SR06	中層	弥生土器	小型丸底壺	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/6 明褐	細・少					(3.8)	5.1			6/8	
469	SR06	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ・ハケ原体圧痕文	ヨコナデ・ハケ目	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・少					(17.4)				2/8	香東川下流胎土
470	SR06	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線 (2 条)・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	中・並					(22.6)				2/8	
471	SR06	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・指押え・マメツ	マメツ・指押え	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	中・並	中・少		細・少		16.8				7/8	
472	SR06	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・マメツ	マメツ・指押え・ナデ・ヘラケズリ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	中・少				16.0				7/8	

第 29 表　土器観察表 (23)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
473	SR06	中層	弥生土器	高杯	ナデ･凹線文(4 条)･ヘラミガキ	ナデ・指押え・ハケ目	5YR6/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	中・多			細・少		(34.0)				2/8	
474	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰					細・多	(11.2)				2/8	
475	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	(13.5)	4.7			2/8	
476	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N8/ 灰白					中・少	(12.0)				1/8	
477	SR06	中層	須恵器	高杯	回転ナデ・波状文・回転ヘラケズリ・回転ナデ・カキ目・透かし (3 ヶ所)	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少	(15.8)	11.1	(10.2)		6/8	
478	SR06	中層	須恵器	高杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ→回転ナデ・回転ナデ・透かし (3 ヶ所)	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	10.9				8/8	
479	SR06	中層	弥生土器	壷	ヘラケズリ・ヘラケズリ→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ・ヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・少			細・少				10.9		5/8	香東川下流胎土
480	SR06	中層	土師器	甕	ヨコナデ・指押え→ハケ	ヨコナデ・指押え→板ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙					細・多	15.0				3/8	
481	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ→ナデ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白					中・少	(12.4)	4.0			2/8	
482	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・少	12.5	4.2			8/8	
483	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・少	(11.4)				2/8	
484	SR06	中層	須恵器	甕	回転ナデ・タタキ目	回転ナデ・青海波文	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	16.3				5/8	
485	SR06	中層	弥生土器	壷	櫛描斜格子文・ヨコナデ・ハケ目・押捺突帯文	マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	粗・多				-	(23.2)				2/8	
486	SR06	中層	弥生土器	鉢	ナデ・ハケ目→ナデ	ナデ・ハケ目→ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並	中・少	細・少	細・少		(37.0)				2/8	香東川下流胎土
487	SR06	中層	弥生土器	高杯	マメツ・ナデ・押捺突帯文	指押え・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	中・多	中・少		中・並				19.1		8/8	
488	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目→ヨコナデ・ハケ目・ハケ原体圧痕文・タタキ目→ハケ目	ヨコナデ・絞目・指押え・ヘラケズリ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐	中・並			細・並		(14.0)				3/8	香東川下流胎土
489	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目→ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・少			細・少		(14.0)				2/8	香東川下流胎土
490	SR06	中層	弥生土器	壺	ヘラ描鋸歯文・ヨコナデ・板ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・並	中・少	細・少	細・並		13.0				7/8	香東川下流胎土
491	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラ描鋸歯文・ハケ目・ハケ目→ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	中・多	中・少	細・並			18.7				3/8	香東川下流胎土
492	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目・指押え→ハケ	ヨコナデ・ハケ目・指押え→ハケ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	粗・並	中・並				20.8				5/8	

第 30 表　土器観察表 (24)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
493	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目・指押え	ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並					16.7				7/8	香東川下流胎土
494	SR06	中層	弥生土器	壺	マメツ剝離・タタキ目→ハケ・マメツ剝離	マメツ・剝離・指押え・指ナデ・ハケ目・指押え・ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	粗・多	中・並	中・少	中・並		22.2	32.0	4.4		7/8	
495	SR06	中層	弥生土器	甕	ナデ・タタキ目→一部ハケ目	ナデ・ハケ目	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少					(12.4)				4/8	焼成破裂有り
496	SR06	中層	土師器	杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・指押え→ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					細・少	11.1	4.8			2/8	
497	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え→ナデ・穿孔 (3 ヶ所)	マメツ・板ナデ・ナデ・指押え	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄					細・少	13.7	9.9	9.4		7/8	
498	SR06	中層	土師器	高杯	ナデ・板ナデ・マメツ・指押え・穿孔 (3 ヶ所)	ナデ・指押え・ハケ目・ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	(14.5)				2/8	
499	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ナデ	マメツ・絞目・板ナデ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					中・少			(10.4)		5/8	
500	SR06	中層	土師器	高杯	板ナデ→ナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄					中・少			(11.0)		6/8	
501	SR06	中層	土師器	高杯	ナデ・指押え・マメツ・ハケ目	ナデ・ハケ目→ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(25.8)				1/8 未満	
502	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・板ナデ・ヨコナデ・穿孔 (3 ヶ所)	マメツ・絞目・板ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少			(12.2)		4/8	
503	SR06	中層	土師器	鉢	ヨコナデ・指押え・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					中・多	(19.8)				3/8	
504	SR06	中層	土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目→ナデ・指押え→板ナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ・指押え→ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	中・並					(15.9)	23.3			6/8	
505	SR06	中層	土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					中・少	(17.6)				3/8	
506	SR06	中層	土師器	甕	ヨコナデ・指押え・ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					中・多	(10.7)				6/8	
507	SR06	中層	土師器	甕	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押え・マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・多	(18.6)				2/8	
508	SR06	中層	土師器	(把手)	指押え→ハケ目	指押え	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・多					8/8	
509	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(12.6)	5.6		つまみ径：3.2	5/8	
510	SR06	中層	須恵器	杯蓋	ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・少	(12.8)	4.5			4/8	
511	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(11.7)	4.2			3/8	
512	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白					細・少	(12.3)				3/8	
513	SR06	中層	須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	12.6	5.0			7/8	

第31表　土器観察表(25)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量(cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)長さ	器高(cm)幅	底径(cm)厚	その他(cm)		
514	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					細・少	(10.8)	3.9	(4.4)		3/8	
515	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					細・少	11.0	4.6	6.7		8/8	
516	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少	9.9	4.7	5.4		7/8	
517	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/灰	N5/灰					中・少	10.4	5.2			8/8	
518	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少	10.8	5.6			8/8	
519	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少	(11.0)	4.5	(3.9)		4/8	
520	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					細・多	(11.3)	4.9	(6.2)		3/8	
521	SR06	中層	須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰					細・少	12.8	5.0	5.5		8/8	内面に付着物
522	SR06	中層	須恵器	高杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ・透かし(3ヶ所)	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					細・少	10.2	9.6	8.8		8/8	
523	SR06	中層	須恵器	高杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ・透かし(3ヶ所)・カキ目・回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					細・少	(10.7)	9.7	8.6		6/8	
524	SR06	中層	須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N5/灰					無			(10.1)		6/8	
525	SR06	中層	須恵器	壺	回転ナデ・回転ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ・回転ナデ→ナデ	7.5Y5/1灰	7.5Y6/1灰					細・少					8/8	
526	SR06	中層	須恵器	甕	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ・穿孔(1ヶ所)	回転ナデ・回転ナデ→ナデ	7.5Y5/1灰	7.5Y6/1灰					無					8/8	
527	SR06	中層	弥生土器	壺	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	細・少		細・少	細・少		(23.3)				2/8	香東川下流胎土
528	SR06	中層	弥生土器	(壺)	ヘラミガキ・ナデ	ハケ目・ヘラ描	2.5Y4/2暗灰黄	2.5Y4/2暗灰黄	細・多			細・少				8.5		3/8	
529	SR06	中層	弥生土器	甕	マメツ・ナデ・ヘラミガキ	ハケ目・マメツ・ヘラミガキ	2.5Y4/1黄灰	2.5Y4/1黄灰	細・少			中・少		(15.8)				2/8	
530	SR07		土師器	高杯	ナデ・ヨコナデ・マメツ	ナデ・マメツ・ヨコナデ・ハケ目	2.5Y7/2灰黄	2.5Y6/2灰黄					細・多	(19.0)				1/8	
531	SR07		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・少				つまみ径：3.2	1/8	
532	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・多	(11.5)	3.7			2/8	
533	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					粗・少	12.4	4.1			7/8	
534	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰					中・少	(14.6)				2/8	
535	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・多	(10.1)	4.9			7/8	
536	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N4/灰	5YR5/1褐灰					中・多	(10.5)	4.5			6/8	受け部に重ね焼き痕あり

第 32 表　土器観察表 (26)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
537	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(10.8)				1/8	
538	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰					中・少	(10.2)	(4.7)			2/8	
539	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	7.5Y5/1 灰	N6/ 灰					中・多	(11.2)				3/8	外面自然釉
540	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(11.2)				1/8	
541	SR07		須恵器	高杯	回転ナデ・波状文・カキ目・透かし (3 ヶ所)	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(15.6)	11.1	9.9		5/8	
542	SR07		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	10.7				7/8	
543	SR07		須恵器	甕	回転ナデ・タタキ目→回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(14.4)				3/8	
544	SR07		須恵器	甕	回転ナデ→櫛描波状文	回転ナデ	N7/ 灰白	N5/ 灰					中・少	(16.1)				2/8	
545	SR07		須恵器	甑	回転ナデ・波状文	回転ナデ・指押え	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(11.5)				2/8	
546	SR07		弥生土器	壺	ヨコナデ・板ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	2.5Y5/3 黄褐	2.5Y5/3 黄褐	中・並	中・少			細・少	(13.0)				2/8	香東川下流胎土
547	SR07		弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ→ヘラミガキ・ヘラケズリ (マメツ)	ヨコナデ・指押え・ナデ・ハケ目・指押え・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並					(10.9)	18.9			7/8	
548	SR07		弥生土器	甕	ヘラミガキ・ナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ→ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	粗・並			細・少				5.1		6/8	香東川下流胎土
549	SR07		土師器	杯	回転ナデ・回転ナデ→ヘラミガキ・ヘラミガキ	回転ナデ・回転ナデ→ナデ→ヘラミガキ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少	(14.2)	4.6	(8.9)		3/8	
550	SR07		土師器	杯	マメツ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙					細・多	(12.6)				3/8	
551	SR07		土師器	杯	回転ナデ・指押え・ナデ	回転ナデ・回転ナデ→指押え	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白					中・多	(12.5)				1/8	
552	SR07		土師器	杯	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ・回転ナデ→ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・多	(13.6)				3/8	
553	SR07		土師器	杯	回転ナデ・指押え・ナデ	回転ナデ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					細・少	(14.6)				1/8 未満	
554	SR07		土師器	杯	ヨコナデ・マメツ	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白					細・少	(13.5)				3/8	
555	SR07		土師器	高杯	ナデ・マメツ・ハケ目→ナデ	ナデ・マメツ・ハケ目	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(24.4)				1/8	
556	SR07		土師器	高杯	マメツ・板ナデ・穿孔 (3 ヶ所)	板ナデ・ヨコナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐					細・少			9.4		6/8	
557	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ・ヨコナデ・穿孔 (3 ヶ所)	絞目・板ナデ・ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(10.2)				4/8	
558	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ	絞目・ナデ	25YR8/2 灰白	25YR8/2 灰白					中・少			(10.2)		4/8	
559	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ	ナデ・絞目	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄					中・少			(9.4)		6/8	

第 33 表　土器観察表 (27)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
560	SR07		土師器	高杯	指押え・指ナデ・穿孔 (3 ヶ所)	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					細・少			13.6		7/8	
561	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					中・多	(15.6)				2/8	
562	SR07		土師器	甕	ヨコナデ→指押え→ナデ	ヨコナデ・指押え→ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐					中・多	(23.1)				1/8	
563	SR07		土師器	(把手)	指押え・ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					粗・多					8/8	
564	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・少	(11.5)	5.0			3/8	
565	SR07		須恵器	杯	板ナデ・回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ→ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少			(10.9)		1/8	
566	SR07		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ・板ナデ→回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	(18.6)				2/8	
567	SR07		弥生土器	壺	ヨコナデ・凹線 (2 条)・タタキ目→ハケ目	ヨコナデ・ヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並			細・並		(13.9)				3/8	香東川下流胎土
568	SR07		土師器	杯	マメツ・ヘラミガキ・板ナデ	マメツ・ヘラミガキ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					細・少	11.6	4.6	5.8		8/8	
569	SR07		土師器	杯	指押え・ヘラミガキ	指押え・ヘラミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					細・少	12.2	5.3	3.5		8/8	
570	SR07		土師器	杯	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙					中・少	11.8	5.5			6/8	
571	SR07		土師器	杯	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					細・少	11.7	5.6			7/8	
572	SR07		土師器	杯	ナデ・マメツ	マメツ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					細・少	13.0	5.5			7/8	
573	SR07		土師器	杯	ナデ	ナデ・ヘラミガキ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙					細・少	12.4	5.5			8/8	
574	SR07		土師器	杯	ナデ	ヨコナデ・マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・少	11.3	5.7			7/8	
575	SR07		土師器	杯	ヘラミガキ・ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰					細・少		5.5	9.2		7/8	
576	SR07		土師器	高杯	マメツ	マメツ・ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙					細・少	13.0				8/8	
577	SR07		土師器	壺	ナデ・ヘラ描	ナデ・指押え	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐					中・少	9.5				6/8	
578	SR07		土師器	壺	マメツ・ヨコナデ	ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙					中・多			5.6		8/8	
579	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・指押え→ハケ目・指押え・ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラケズリ→指押え・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					粗・多	(15.6)	25.1	(2.5)		5/8	
580	SR07		土師器	甕	ヨコナデ、板ナデ→ヘラミガキ?・指押え→ヘラミガキ (マメツ)	ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ→指押え・ナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR6/4 にぶい橙					粗・多					7/8	
581	SR07		土師器	甕	マメツ・剝離・指押え→ハケ目 (マメツ)	マメツ・剝離・ヘラミガキ (マメツ)	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR5/1 褐灰					粗・多	20.1	16.4			7/8	

第 34 表　土器観察表 (28)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
582	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・マメツ・ハケ目	ヨコナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					細・多	(15.1)				2/8	
583	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					粗・多	(17.2)				1/8	
584	SR07		土師器	甕	マメツ・指押え・ナデ	マメツ	7.5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙					中・多	(14.0)				2/8	
585	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・指押え→ハケ目	ヨコナデ・指押え・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄					中・多	(9.9)	10.9			7/8	
586	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・指押え→ナデ・板ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐					中・多	(12.0)				2/8	
587	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					粗・多	(14.6)				2/8	
588	SR07		土師器	(把手)	マメツ・指押え・ナデ・板ナデ	ハケ目・指押え・ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白					中・多					8/8	
589	SR07		土師器	(把手)	ハケ目・指押え	-	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄					中・多					8/8	
590	SR07		須恵器	杯蓋	ナデ・回転ヘラケズリ→ナデ・回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・少	(12.9)	5.6		つまみ径：3.2	3/8	
591	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・少	12.0	4.3			8/8	
592	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白					細・少	12.3	5.9			8/8	
593	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(13.8)	4.2	(10.6)		1/8	
594	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ→ナデ・回転ナデ	回転ナデ	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰					中・多	14.6	5.0	8.8		6/8	
595	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ→ナデ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	12.7	5.5			8/8	
596	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ→ナデ・回転ナデ・ハケ目	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・少	12.3	4.7			7/8	
597	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	12.5	4.8			8/8	
598	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・多	13.8	4.3			8/8	
599	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(10.7)				3/8	
600	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	10.8	4.6			6/8	
601	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・多	10.9	4.0	6.6		7/8	
602	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(11.0)				1/8	
603	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					粗・多	11.3	4.8			7/8	
604	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y8/1 灰白					細・少	(12.2)	5.3			2/8	

第 35 表　土器観察表 (29)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
605	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・多	12.3				7/8	
606	SR07		須恵器	高杯	回転ナデ・透かし (3 ヶ所)	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少			9.1		7/8	
607	SR07		須恵器	高杯	回転ナデ・透かし (3 ヶ所)	回転ナデ・ナデ	5Y6/1 灰	N5/ 灰					細・少			(10.7)		7/8	
608	SR07		須恵器	甕	回転ナデ・タタキ目→回転ナデ	回転ナデ・青海波文	N6/ 灰	N4/ 灰					中・少	(23.7)				3/8	自然釉付着
609	SR07		須恵器	壺	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					細・少	6.7	10.9			7/8	
610	SR07		瓦器	椀	マメツ	ヘラミガキ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少			(4.4)		4/8	
611	SR07		土師器	杯	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	(11.8)				1/8	
612	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ・ヨコナデ	絞目・板ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					細・少			10.2		8/8	
613	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目→ナデ	ヨコナデ・指押え	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐					細・多	(14.9)				1/8	
614	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ・回転ナデ→ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・多	(12.3)				2/8	
615	SR07		須恵器	高杯	回転ナデ・透かし有	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・多			(10.7)		2/8	
616	SR07		弥生土器	蓋	ヘラミガキ・穿孔 (現存 2 ヵ所)	ヘラミガキ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	細・少			細・少		7.6	3.5			6/8	
617	SR07		土師器	杯	ナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ	ナデ・当て具痕	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					中・少	13.4	7.2	5.6		6/8	
618	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ・マメツ・穿孔 (3 ヶ所)	ナデ・板ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	12.7	11.4	9.0		8/8	
619	SR07		土師器	高杯	ナデ・指押え・穿孔 (3 ヶ所)	マメツ・ヘラミガキ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐					細・少	(14.0)	11.0	(10.2)		6/8	
620	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ	マメツ・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					細・少	(12.7)				4/8	
621	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・指押え・ナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					細・少	(13.3)				2/8	
622	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ	マメツ・ヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y4/2 暗灰黄					細・少	14.4				6/8	
623	SR07		土師器	高杯	板ナデ→ナデ・穿孔 (3 ヶ所)	板ナデ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					細・少			9.6		8/8	
624	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ・工具痕・穿孔 (3 ヶ所)	ヘラケズリ・板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・少			(10.8)		6/8	
625	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・指押え→ハケ目	ヨコナデ・指押え	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					中・少	(13.8)				1/8	
626	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ目	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄					中・少	(20.0)				4/8	
627	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰					中・少	(10.8)				2/8	
628	SR07		弥生土器	壺	刻目→凹線(3 条)→円形浮文・ヨコナデ・ハケ目	ヘラ描斜格子文・ヘラミガキ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	細・並		細・少	細・少		(23.4)				3/8	

第 36 表　土器観察表 (30)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
629	SR07		弥生土器	壺	凹線（3 条）・刻目・棒状浮文・ヨコナデ・貼付突帯（2 条）	マメツ・三角刺突文	10YR5/3 にぶい黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	中・多		細・少			(25.0)				5/8	
630	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・指押え→ナデ	マメツ・ヘラミガキ・ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					細・少	14.2	10.0	9.9		8/8	
631	SR07		土師器	高杯	ナデ・ハケ目・指押え	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y5/3 黄褐					細・少	(13.6)				6/8	
632	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・指押え・ナデ・指押え→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ目→ヨコナデ→ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・少	14.9				8/8	
633	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・板ナデ・指押え	ヨコナデ・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					中・少	(15.0)				6/8	
634	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ・指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙					細・少	(16.3)				2/8	
635	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ	板ナデ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					中・少	(25.6)				5/8	
636	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ・板ナデ・ヨコナデ	ナデ・板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					中・少			10.0		5/8	
637	SR07		土師器	高杯	板ナデ→ナデ・穿孔 (3 ヶ所)・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐					細・少			(9.6)		3/8	
638	SR07		土師器	高杯	マメツ・指押え・ナデ・穿孔 (3 ヶ所)	マメツ・指押え・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少			(11.0)		6/8	
639	SR07		土師器	高杯	指押え→ナデ	絞目・指押え→板ナデ・ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					細・少			8.8		6/8	
640	SR07		土師器	壺	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					細・少	(10.4)	14.6			7/8	
641	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・指押え・ハケ目	ヨコナデ・指押え・ハケ目	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・少	18.5	25.3			8/8	
642	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え・ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄					中・多	(17.0)				4/8	
643	SR07		土師器	甕	ナデ・マメツ	マメツ・ナデ・ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	(17.3)				2/8	
644	SR07		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ハケ目・板ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙					中・少	17.7				6/8	
645	SR07		土師器	甕	ナデ・指押え・ハケ目	ナデ・指押え・板ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR7/2 にぶい黄橙					細・少					8/8	
646	SR07		土師器	甑	ヨコナデ・指押え・ハケ目・ナデ・マメツ・孔 (6 ヶ所)	ヨコナデ・ハケ目	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・少	27.5	32.1			7/8	
647	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	2.5Y3/1 黒褐					中・少	12.6	4.4			6/8	
648	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰					細・少	(12.2)				2/8	
649	SR07		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	N7/ 灰白					細・少	(12.8)				2/8	
650	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・少	10.8	4.4	7.0		7/8	

第37表　土器観察表(31)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量(cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)長さ	器高(cm)幅	底径(cm)厚	その他(cm)		
651	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・少	(11.0)				2/8	
652	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N4/灰	N6/灰					中・少	(10.7)				2/8	
653	SR07		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少	(10.7)				4/8	
654	SR07		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少			(9.6)		5/8	
655	SR07		須恵器	高杯	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	10Y6/1灰	10Y6/1灰					中・少			9.8		8/8	
656	SR07		須恵器	甕	回転ナデ・波状文・ヨコナデ	回転ナデ・ナデ	N6/灰	N5/灰					細・少	(14.8)				2/8	
657	SR07		須恵器	甕	回転ナデ・タタキ目→ナデ	回転ナデ・ナデ	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/2灰黄					中・少	(20.6)				2/8	
658	SR07		須恵器	甑	回転ナデ・波状文・回転ナデ→板ナデ・穿孔(1ヶ所)	回転ナデ	N4/灰	N4/灰					細・少	9.5	10.5			8/8	
659	SR07		製塩土器		タタキ目	ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	細・少									1/8未満	
660	SR07		土師質土器	羽釜	ヨコナデ・指押え・マメツ	ヨコナデ・指押え・マメツ	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐					粗・多	(25.3)				1/8未満	
661	SR07		須恵器	杯	回転ナデ・ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	5Y2/1黒	10YR4/2灰黄褐					細・少			6.9		4/8	
662	SR07		須恵器	壺	回転ナデ・ナデ・ヘラ切り→ナデ	指押え・ナデ・板ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少			(8.1)		4/8	
663	SR07		須恵器	壺	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白					細・少			5.1		7/8	
664	SR08		土師器	高杯	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙					細・少	(14.3)				3/8	
665	SR08		土師器	高杯	マメツ・穿孔(3ヶ所)	マメツ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					中・少			9.7		6/8	
666	SR08		土師質土器	小皿	ナデ・ヘラ切り→ナデ	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙					細・多	(8.7)	1.5	(6.8)		1/8	
667	SR08		土師質土器	椀	ヘラ切り→ナデ	ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					細・少			(5.6)		3/8	
668	SR08		土師質土器	椀	マメツ・ヘラ切り→ナデ	マメツ	10YR7/3にぶい黄橙	5YR6/4にぶい橙					中・少			(4.8)		2/8	
669	SR08		黒色土器	椀	マメツ・指押え・ナデ	ナデ→ヘラミガキ	N3/暗灰	N4/灰					中・少	(4.7)				6/8	両面黒色
670	SR08		瓦器	椀	ナデ・指押え→ナデ(マメツ)	ナデ・ナデ→ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					細・少					1/8未満	
671	SR08		瓦器	椀	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	ヘラミガキ	N6/灰	N6/灰					細・少			(5.8)		2/8	
672	SR08		瓦器	椀	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	ヘラミガキ	2.5Y7/1灰白	N5/灰					中・少			(4.6)		4/8	
673	SR08		瓦器	椀	マメツ	ナデ→ヘラミガキ	N5/灰	N5/灰					細・少			(4.8)		2/8	
674	SR08		瓦器	椀	回転ナデ	マメツ	N4/灰	N4/灰					細・少			(5.6)		3/8	
675	SR08		須恵器	杯	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	10YR7/1灰白	10YR7/1灰白					中・少	(12.6)	3.6	(6.8)		3/8	
676	SR08		須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	N8/灰白	N8/灰白					細・少			6.1		2/8	内外面に火襷

第38表　土器観察表(32)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量(cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)長さ	器高(cm)幅	底径(cm)厚	その他(cm)		
677	SR08		須恵器	甕	回転ナデ	自然釉	10Y5/1灰	10Y4/1灰					中・少	(21.4)				2/8	
678	SR08		須恵器	甕	回転ナデ・タタキ目→カキ目	回転ナデ・青海波文	N6/灰	N6/灰					中・少	19.5				6/8	
679	SR08		須恵器	壺	回転ヘラケズリ→ナデ・ナデ	回転ナデ→板ナデ・回転ナデ	N6/灰	5PB7/1明青灰					細・少			(9.3)		2/8	
680	SR08		瓦質土器	甕	ヨコナデ・タタキ目	マメツ・ナデ	10Y5/1灰	N4/灰					中・少	(26.8)				2/8	
681	SR08		瓦質土器	甕	ナデ・マメツ・タタキ目	ナデ・マメツ	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白					細・少	(31.8)				1/8	
682	SR08		土師器	蓋	マメツ・剝離・回転ナデ	ヘラミガキ・回転ナデ	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙					細・少	(16.6)				1/8	
683	SR08		須恵器	杯	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ・回転ナデ→ナデ	10YR5/1褐灰	10YR4/1褐灰					細・少	(14.7)	4.6	(10.7)		2/8	
684	SR08		土師器	壺	マメツ・ヘラミガキ・マメツ	マメツ・指押え・ナデ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙					中・多					5/8	
685	SR08		土師質土器	羽釜	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ	10YR4/2灰黄褐	10YR4/1褐灰					中・多	(16.2)				2/8	
686	SR06or07	層位不明	弥生土器	壺	原体圧痕文・円形浮文・ハケ目・貼付突帯	ヘラミガキ	2.5Y6/2灰黄	2.5Y4/1黄灰	細・少			細・並		(18.2)				3/8	
687	SR06or07	層位不明	弥生土器	壺	ナデ・板ナデ・押捺突帯文・穿孔（現存2ヶ所）	櫛描斜格子文・指押え→ナデ	2.5Y6/2灰黄	2.5Y5/2暗灰黄	細・並					(16.2)				3/8	
688	SR06or07	層位不明	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ目	5YR5/6明赤褐	2.5Y7/3浅黄	中・多			細・少		(27.4)				3/8	
689	SR06or07	層位不明	弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・板ナデ→ナデ	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	中・並			細・並		(14.0)				1/8	
690	SR06or07	層位不明	弥生土器	甕	ヘラミガキ・ナデ	指押え・ナデ	10YR3/2黒褐	10YR3/1黒褐	中・並			細・並				5.4		6/8	
691	SR06or07	層位不明	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ナデ	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	細・少		細・少					(16.2)		2/8	
692	SR06or07	層位不明	弥生土器	鉢	ヘラミガキ・指押え→ナデ	板ナデ	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y6/3にぶい黄	細・少			中・並				8.0		6/8	香東川下流胎土
693	SR06or07	層位不明	紡錘車		ヘラミガキ		10YR4/1褐灰		細・並			細・少		2.9	2.7	0.7		8/8	
694	SR06or07	層位不明	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目(マメツ)・マメツ	ヨコナデ・ヘラケズリ	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐	中・並	中・多	中・多			11.4	20.7	6.0		7/8	香東川下流胎土
695	SR06or07	層位不明	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラ描鋸歯文(2ヶ所)・ハケ目	ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	中・並	中・少		細・少		(12.2)				3/8	香東川下流胎土
696	SR06or07	層位不明	須恵器	甑	回転ナデ・波状文・回転ヘラケズリ・ナデ・穿孔(1ヶ所)	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					細・少					7/8	
697	SR06or08	層位不明	弥生土器	甕	ハケ・ナデ・ハケ	ヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	中・多	細・少								1/8未満	
698	SR06or08	層位不明	弥生土器	甕	ヨコナデ・沈線(3条)・タタキ目→ハケ目	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	中・多		細・少	細・並		(18.9)				1/8	香東川下流胎土
699	SR06or08	層位不明	須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					細・少	(13.7)				1/8	

第 39 表　土器観察表 (33)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
700	SR06or08	層位不明	須恵器	蓋	回転ヘラケズリ→ナデ・回転ナデ	回転ナデ→ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・少	(18.9)				1/8	
701	SR06or08	層位不明	黒色土器	椀	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	N3/ 暗灰					中・少			(7.6)		1/8	内面黒色
702	SR06or08	層位不明	須恵器	壺	回転ナデ→ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・多			(8.0)		2/8	
703	包含層		黒色土器	椀	マメツ	マメツ	10YR8/2 灰白	N4/ 灰					中・少			(5.8)		3/8	内面黒色
704	包含層		黒色土器	椀	マメツ・ヘラ切り→ナデ (マメツ)	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	N3/ 暗灰					粗・多			(6.0)		2/8	内面黒色
705	包含層		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰					粗・少	(17.0)				1/8	
706	包含層		須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少			(9.7)		2/8	
707	包含層		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(11.9)				1/8	
708	包含層		須恵器	壺	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N8/ 灰白					細・少			(11.0)		1/8	
709	包含層		瓦質土器	甕	ヨコナデ・剝離・指押え	マメツ	N4/ 灰	N4/ 灰					中・多					1/8 未満	
710	包含層		須恵器	こね鉢	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					細・少					1/8 未満	東播系
711	遺構外		縄文土器	浅鉢	ヘラミガキ ?(マメツ)	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・多									1/8 未満	
712	遺構外		弥生土器	(壺)	ハケ目・ヘラによる絵画	指押え	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少	中・少		中・多						1/8 未満	香東川下流胎土
713	遺構外		土師質土器	小皿	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・多	(8.0)	1.0	(6.8)		3/8	
714	遺構外		土師質土器	小皿	マメツ・ヘラ切り→ナデ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	(9.1)	1.1	(8.3)		2/8	
715	遺構外		土師質土器	小皿	回転ナデ (マメツ)・ヘラ切り→ナデ (マメツ)	回転ナデ (マメツ)	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙					中・多	(7.8)	1.2	(5.3)		3/8	
716	遺構外		土師質土器	小皿	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・多	(8.0)	1.5	(5.6)		2/8	
717	遺構外		土師質土器	杯	回転ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ→ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少			(7.1)		4/8	
718	遺構外		土師質土器	椀	マメツ	マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少					1/8 未満	
719	遺構外		土師質土器	椀	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰					中・少					1/8 未満	
720	遺構外		土師質土器	椀	指押え・ヘラ切り→ナデ	マメツ	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/2 明褐灰					中・少			6.5		7/8	
721	遺構外		土師質土器	椀	マメツ・ヘラ切り→ナデ	マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/1 灰白					中・少			(6.1)		3/8	
722	遺構外		黒色土器	椀	マメツ	マメツ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					細・少			(5.4)		2/8	両面黒色
723	遺構外		瓦質土器	椀	ナデ・ヘラ切り→ナデ (マメツ)	マメツ	N5/ 灰	2.5Y8/1 灰白					細・少			(5.7)		2/8	
724	遺構外		瓦器	椀	ヨコナデ・指押え (マメツ)・ナデ	ヘラミガキ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少	(15.2)	4.7	(5.1)		1/8	
725	遺構外		瓦器	椀	マメツ	マメツ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					細・少					1/8 未満	

第 40 表　土器観察表 (34)

報文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm) 長さ	器高 (cm) 幅	底径 (cm) 厚	その他 (cm)		
726	遺構外		瓦器	椀	マメツ	マメツ	10YR5/1 褐灰	2.5Y7/2 灰黄					中・多			(5.2)		2/8	
727	遺構外		青磁	椀	回転ナデ→櫛状工具による文様→施釉	回転ナデ→櫛状工具による文様→施釉	釉：透明	胎土：5Y7/1 灰白					細・少					1/8 未満	
728	遺構外		青磁	椀	回転ナデ→施釉	文様→施釉	釉：7.5Y5/2 灰オリーブ	胎土：7.5Y7/1 灰白					無					1/8 未満	
729	遺構外		須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(11.9)				2/8	
730	遺構外		土師質土器	土鍋	指押え・ナデ	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐					中・多					1/8 未満	
731	遺構外		土師質土器	土鍋	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・多					1/8 未満	
732	遺構外		土師質土器	土釜脚	指押え・指ナデ	-	10YR6/2 灰黄褐	-					中・多	9.4	2.9	3.5		3/8	
733	遺構外		須恵器	擂鉢	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ・板ナデ・おろし目	10YR6/1 褐灰	10YR5/1 褐灰					中・多					1/8 未満	
734	出土位置不明		土師器	杯	ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	細・並					(12.7)	3.8	(5.2)		6/8	
735	出土位置不明		土師器	高杯	板ナデ→ナデ・マメツ	マメツ・ハケ目→ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	細・少							10.0		8/8	
736	出土位置不明		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目	板ナデ→ヨコナデ・板ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰					中・少	(13.9)				2/8	
737	出土位置不明		須恵器	杯蓋	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	11.8	4.5			7/8	
738	出土位置不明		須恵器	高杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	5Y5/1 灰	7.5Y6/1 灰					細・少	(10.3)				7/8	
739	出土位置不明		須恵器	高杯	回転ナデ・透かし (4 ヶ所)	回転ナデ	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰					粗・少			(8.0)		4/8	
740	遺構外？		白磁	椀	回転ナデ・施釉	回転ナデ・施釉	釉：7.5Y7/1 灰白	胎土：N8/ 灰白					細・少					1/8 未満	
741	遺構外？		白磁	椀	回転ヘラケズリ	回転ナデ・施釉	釉：5Y8/1 灰白	胎土：N 8/ 灰白					細・少			(7.0)		2/8	図化部分外面は露胎

第 41 表　石器観察表（1）

報文番号	遺構名	層位等	器種	材質	法量				備考
					長さ（ｃｍ）	幅（ｃｍ）	厚（ｃｍ）	重量（ｇ）	
S1	SD2301		管玉	碧玉	0.3	0.5	0.5	0.1	色調：5G3/1 暗緑灰
S2	SD2301		打製石鏃	サヌカイト	2.6	1.2	0.4	0.9	
S3	SD1205	上層	石庖丁 or スクレイパー	サヌカイト	12.9	6.8	2.0	189.8	
S4	SR01	最下層 (混小石砂質土)	打製石斧	サヌカイト	(5.5)	(5.3)	1.5	55.6	
S5	SR01	最下層 (混小石砂質土)	打製石斧	サヌカイト	(6.5)	3.8	1.0	26.3	
S6	SR02	グリッド F(砂質土)	スクレイパー	サヌカイト	6.2	2.9	1.1	16.4	
S7	SR02	グリッド F(砂質土)	打製石斧	サヌカイト	(5.2)	(3.7)	1.0	31.0	
S8	SR02	グリッド E(砂質土)	打製石斧	サヌカイト	(3.5)	(4.0)	1.1	17.5	
S9	SR02	グリッド D(砂質土)	打製石鏃	サヌカイト	3.4	1.9	0.3	2.2	
S10	SR02	グリッド D(砂質土)	未成品 (石槍？)	サヌカイト	(5.6)	3.4	0.9	22.0	
S11	SR02	グリッド I(混砂粘質土)	未成品 (石槍？)	サヌカイト	(4.8)	(3.3)	0.6	8.6	
S12	SR02	グリッド I(混砂粘質土)	打製石斧	サヌカイト	(8.8)	(5.6)	1.6	96.3	
S13	SR02	下層	打製石庖丁	サヌカイト	8.9	4.8	1.5	72.0	
S14	SR02	グリッド G(黒色粘質土)	打製石庖丁	サヌカイト	(8.6)	5.4	0.7	44.3	
S15	SR02	グリッド E (黒色粘質土)	打製石鏃	サヌカイト	2.7	1.7	0.4	1.6	
S16	SR02	グリッド E(黒色粘質土)	太型蛤刃石斧	安山岩の脈岩	(19.0)	(8.8)	5.1	1230.0	
S17	SR02	グリッド D(黒色粘質土)	打製石鏃	サヌカイト	2.2	1.9	0.3	1.4	
S18	SR02	グリッド D(黒色粘質土)	打製石庖丁	サヌカイト	(7.8)	4.8	1.0	41.4	
S19	SR02	グリッド D(黒色粘質土)	磨製石庖丁	安山岩	(7.0)	(5.1)	0.6	37.0	
S20	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	打製石鏃	サヌカイト	4.4	2.7	0.8	7.6	
S21	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	スクレイパー	サヌカイト	(4.4)	(4.2)	0.8	17.8	
S22	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	打製石庖丁	サヌカイト	9.2	4.6	0.9	52.5	
S23	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	打製石庖丁	結晶片岩	8.2	4.5	0.6	27.2	
S24	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	楔形石器	サヌカイト	3.4	2.9	1.0	12.6	
S25	SR02	グリッド K(黒色粘土層)	凹石	砂岩	18.1	17.7	5.9	2738.2	
S26	SR02	グリッド J(黒色粘質土)	石槍？	サヌカイト	(4.5)	2.6	0.6	8.9	
S27	SR02	グリッド B (黒色粘質土)	凹石	砂岩	11.5	11.3	5.1	1011.9	
S28	SR02	グリッド I(黒色粘質土)	楔形石器	サヌカイト	5.1	5.8	1.5	59.1	
S29	SR02	グリッド I(黒色粘質土)	楔形石器	サヌカイト	3.5	4.2	0.9	18.4	
S30	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	打製石鏃	サヌカイト	2.0	1.6	0.3	0.9	
S31	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	打製石槍	サヌカイト	(3.3)	(1.8)	0.6	4.7	
S32	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	スクレイパー	サヌカイト	(5.9)	4.1	0.8	28.1	
S33	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	打製石庖丁	サヌカイト	6.9	4.0	1.1	37.7	
S34	SR02	グリッド不明 (黒色粘質土)	打製石斧	サヌカイト	(6.6)	(6.1)	1.0	50.1	
S35	SR02	上層	打製石斧	サヌカイト	(5.8)	(4.7)	1.1	37.2	
S36	SR02	グリッド・層位不明	打製石鏃	サヌカイト	2.4	1.4	0.4	1.0	
S37	SR02	グリッド・層位不明	打製石庖丁	結晶片岩	8.3	4.9	0.9	61.7	
S38	SR02	グリッド・層位不明	打製石斧	サヌカイト	(6.4)	(3.5)	1.3	35.7	
S39	SR02	グリッド・層位不明	叩き石	砂岩	13.2	7.2	5.1	642.4	
S40	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	2.8	1.0	0.3	0.8	
S41	SR06	下層	打製石鏃 (未成品)	サヌカイト	2.8	1.3	0.3	1.5	
S42	SR06	下層	スクレイパー	サヌカイト	(9.5)	1.7	1.4	86.2	
S43	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	(4.8)	4.6	1.0	30.3	

第 42 表　石器観察表（2）

報文番号	遺構名	層位等	器種	材質	法量				備考
					長さ（ｃｍ）	幅（ｃｍ）	厚（ｃｍ）	重量（ｇ）	
S44	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	(5.9)	4.7	1.1	36.3	
S45	SR06	下層	打製石斧	サヌカイト	(8.4)	(5.3)	1.7	78.8	
S46	SR06	下層	打製石斧？	サヌカイト	(4.8)	(4.6)	0.9	26.5	
S47	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	2.3	1.1	0.4	0.8	
S48	SR06	下層	打製石斧	サヌカイト	2.8	1.6	0.4	1.5	
S49	SR06	下層	打製石剣	サヌカイト	(5.9)	2.5	1.4	29.3	
S50	SR06	下層	打製石剣	サヌカイト	(7.5)	3.0	1.8	35.0	
S51	SR06	下層	スクレイパー	サヌカイト	7.4	4.6	1.0	35.1	
S52	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	12.8	5.2	1.0	75.3	
S53	SR06	下層	打製石斧	サヌカイト	(7.5)	(5.6)	1.3	67.7	
S54	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	2.7	1.4	0.4	1.2	
S55	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	2.7	1.9	0.4	1.3	
S56	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	1.8	1.5	0.8	0.8	
S57	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	3.0	1.5	0.6	1.9	
S58	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	2.7	1.8	0.5	2.0	
S59	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	3.2	1.8	0.3	1.9	
S60	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	3.4	2.2	0.5	2.7	
S61	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	4.9	2.4	0.4	4.1	
S62	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	3.5	1.8	0.4	1.8	
S63	SR06	下層	打製石鏃（未成品）	サヌカイト	2.7	1.4	0.2	1.0	
S64	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	2.3	1.3	0.3	0.9	
S65	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	4.7	1.5	0.5	3.9	
S66	SR06	下層	打製石鏃	サヌカイト	5.9	1.8	0.6	5.5	
S67	SR06	下層	打製石剣	サヌカイト	(5.2)	(2.9)	0.9	15.7	
S68	SR06	下層	打製石剣	サヌカイト	(8.7)	3.6	1.5	59.7	
S69	SR06	下層	スクレイパー	サヌカイト	12.6	6.3	1.1	88.2	
S70	SR06	下層	スクレイパー	サヌカイト	(6.6)	(3.5)	1.1	30.5	
S71	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	4.2	8.0	1.0	37.4	
S72	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	13.5	5.9	1.6	86.6	
S73	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	5.0	7.8	0.7	54.2	
S74	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	4.7	(5.4)	1.0	35.0	
S75	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	3.1	(5.1)	1.2	27.5	
S76	SR06	下層	打製石庖丁	サヌカイト	(4.3)	(5.0)	0.6	12.3	
S77	SR06	下層	石匙	サヌカイト	4.1	(5.0)	1.0	21.2	
S78	SR06	下層	打製石斧	サヌカイト	(6.7)	4.1	0.9	37.4	
S79	SR06	下層	柱状片刃石斧	結晶片岩	20.6	4.9	1.8	410.5	
S80	SR06	下層	太型蛤刃石斧	安山岩の脈岩	13.5	5.3	4.9	476.5	
S81	SR06	下層	楔形石器	サヌカイト	4.1	6.0	1.4	32.7	
S82	SR06	下層	石製円盤	緑泥岩	2.7	2.6	0.6	7.2	
S83	SR06	下層	叩き石	砂岩	6.7	4.9	4.0	164.3	
S84	SR06	下層	打製石斧	サヌカイト	(4.0)	(4.9)	1.3	23.3	
S85	SR06	中層	打製石鏃	サヌカイト	2.5	1.7	2.5	1.1	
S86	SR06	中層	打製石鏃	サヌカイト	(4.2)	(2.7)	0.4	5.2	

第 43 表　石器観察表（3）

報文番号	遺構名	層位等	器種	材質	法量				備考
					長さ（ｃｍ）	幅（ｃｍ）	厚（ｃｍ）	重量（ｇ）	
S87	SR06	中層	スクレイパー	サヌカイト	(4.9)	4.1	1.0	27.0	
S88	SR06	中層	打製石鏃	サヌカイト	2.9	1.5	0.3	1.2	
S89	SR06	中層	打製石斧	サヌカイト	(3.0)	(3.9)	0.9	18.2	
S90	SR06	中層	柱状片刃石斧	緑泥岩	(11.5)	3.6	1.3	92.0	
S91	SR06	中層	砥石	凝灰岩	7.2	2.0	1.6	31.3	
S92	SR07		打製石鏃	サヌカイト	2.8	1.7	0.4	1.3	
S93	SR07		打製石鏃	サヌカイト	2.6	1.7	0.4	1.4	
S94	SR07		打製石鏃	サヌカイト	(3.6)	(2.3)	0.4	3.2	
S95	SR07		打製石鏃	サヌカイト	2.5	2.2	0.3	1.0	
S96	SR07		打製石鏃	サヌカイト	4.2	1.6	0.5	2.5	
S97	SR07		スクレイパー	サヌカイト	4.2	5.8	1.2	27.9	
S98	SR07		打製石庖丁	サヌカイト	15.8	5.2	1.3	126.2	
S99	SR07		打製石斧	サヌカイト	(4.1)	(5.7)	0.9	25.3	
S100	SR07		打製石鏃	サヌカイト	(2.5)	1.6	0.3	1.1	
S101	SR07		打製石鏃	サヌカイト	2.4	1.2	0.3	0.9	
S102	SR07		玉	滑石	0.5	0.5	0.1	0.0	
S103	SR07		打製石鏃	サヌカイト	3.1	1.6	0.4	2.0	
S104	SR07		スクレイパー	サヌカイト	8.1	4.3	0.9	33.6	
S105	SR07		打製石斧	サヌカイト	(5.3)	(5.1)	1.3	44.5	
S106	SR07		打製石鏃	サヌカイト	2.0	2.2	0.3	1.5	
S107	SR07		打製石庖丁	サヌカイト	(4.1)	4.0	0.9	15.7	
S108	SR06orSR07	層位不明	打製石鏃	サヌカイト	3.9	1.5	0.4	2.1	
S109	SR06orSR07	層位不明	スクレイパー	サヌカイト	(12.1)	(5.8)	1.7	133.0	
S110	SR06orSR07	層位不明	打製石庖丁	サヌカイト	(9.1)	4.8	0.9	42.2	
S111	SR06orSR07	層位不明	磨り石	礫岩	4.7	4.6	4.4	126.9	
S112	SR06orSR07	層位不明	磨り石	砂岩	4.1	4.1	3.9	86.1	
S113	SR06orSR08	層位不明	スクレイパー	サヌカイト	5.6	3.5	1.2	25.5	
S114	遺構外		打製石斧	サヌカイト	(6.0)	(6.1)	1.6	63.0	
S115	位置不明		スクレイパー	サヌカイト	(3.5)	(3.6)	0.8	11.1	
S116	遺構外？		打製石剣	サヌカイト	(10.1)	(3.0)	1.0	45.9	

第 44 表　木器観察表

報文番号	遺構名	層位等	器種	法量 現存長 (cm)	法量 最大幅 (cm)	法量 最大厚 (cm)	木取り	樹種	備考
W1	SD1203		曲物底板	36.6	12.8	0.7		ヒノキ	
W2	SR01	最下層 (混小石砂質土)	木錘	14.6	7.2	6.5		ヤマグワ	
W3	SR02	グリット A(砂質土)	広鍬	35.0	16.3	柄：3.5 平：1.0		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W4	SR02	グリット A(砂質土)	広鍬未製品	23.4	17.9	2.9		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W5	SR02	グリット A(砂質土)	ミカン割材（端材）	58.7	6.0	2.6	みかん割り	コナラ属クヌギ節	
W6	SR02	グリッド D(黒色粘質土)	鍬	15.8	5.8	3.4		コナラ属アカガシ亜属	
W7	SR02	グリッド D(黒色粘質土)	広鍬	17.8	13.6	3.1	柾目	コナラ属アカガシ亜属	
W8	SR02	グリッド D(黒色粘質土)	曲柄平鍬	51.0	13.2	0.9		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W9	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	曲柄平鍬	17.9	7.6	1.6		コナラ属アカガシ亜属	
W10	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	不明	6.3	6.8	1.6		コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
W11	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	削りくず					同定対象外	
W12	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	鋤または掘り棒	44.4	13.3	1.5		コナラ属アカガシ亜属	
W13	SR02	グリッド C(黒色粘質土)	鋤	39.7	13.3	1.5		スダジイ	
W14	SR02	グリッドＣ	広鍬	33.1	22.0	0.8		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
W15	SR03		田下駄	15.5	3.8	5.0		クワ科クワ属	
W16	SR03		田下駄	12.1	2.1	1.2		ツバキ科ツバキ属	
W17	SR03		容器	24.1	15.7	6.8		ニレ科ケヤキ属ケヤキ	
W18	SR03		櫂	59.8	8.7	2.4		コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	
W19	SR03		ミカン割材（端材）	58.0	7.3	3.6	みかん割り	アスナロ	
W20	SR06	下層	縦杓子	36.8	柄：3.3 杓：11.4	1.6		ニレ科ムクノキ属ムクノキ	
W21	SR06	下層	不明	32.4	柄：3.4 槌：8.2	1.7		ヒノキ科アスナロ属	
W22	SR06	下層	杓子	15.0		0.8		クスノキ科	2 片を図上で復元
W23	SR06	下層	板状木製品	21.6	12.1	2.6	柾目	スギ	
W24	SR06	下層	円盤状木製品	3.3	14.8	1.1	柾目	アスナロ	
W25	SR06	中層	底板	14.7	3.1	0.6	柾目	ヒノキ科	
W26	SR06	中層	綴じ具	0.7	1.8	0.3			
W27	SR06	中層	広鍬	25.3	19.6	3.8		"A 鍬（身）：ブナ科コナラ属アカガシ亜属 B〃（柄）：カバノキ科カバノキ属ミズメ"	
W28	SR07		斎串	19.4	1.8	0.3		ヒノキ科ヒノキ属	
W29	SR07		人形	13.8	2.7	0.35		ヒノキ科ヒノキ属	
W30	SR07		円盤状木製品	20.4	10.8	2.5		モミ属	
W31	SR08		人形	11.3	2.0	0.3		イチイ科カヤ属カヤ	表裏：平坦に削り出し　特に人面部薄く 1 ミリ近くまで削られる。 側面：削り。人面部と脚部は 2 回程度に分けて削る。体部の作り出しは木目に直交に近い角度で切り込み。
W32	SR06or08		匙	20.8	3.9	0.8		イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ	
W33	SR06or08		板	20.6	4.2	0.9	柾目	ヒノキ	
W34	SR06or08		楔	6.3	7.0	1.9	柾目	コナラ属アカガシ亜属	

写真図版

写真１　遺構上空から北を望む（平成９年７月 17 日撮影）

写真２　多肥宮尻遺跡（南から）（平成９年７月 17 日撮影）

写真３　多肥宮尻遺跡（南から）（平成 10 年 12 月８日撮影）

写真４　多肥宮尻遺跡（北から）（平成 11 年７月 16 日撮影）

写真５　SK3202　断面 (南から)

写真６　SD2302　断面 (南から)

写真７　SD2301　断面 (東から)

写真８　SD2301　断面 (東から)

写真９　SD2301　断面 (東から)

写真 10　SD2301　断面 (東から)

写真 11　SD1205　断面 (北東から)

写真 12　SD1205　断面 (東から)

写真 13
SD1205 断面 (西から)

写真 14
SD1205　断面 (東から)

写真 15
SD1205　断面 (南西から)

写真 16
11 ～ 13 世紀代
ピット群 (南東部)(H9(3 区))
(南西から)

写真 17
11 ～ 13 世紀代ピット群
(南部)(H9(3 区))(東から)

写真 18
11 ～ 13 世紀代ピット群
(西部)(H9(3 区))　(東から)

写真 19　SB2301　全景 (南から)

写真 20　SB2301 内 P1 断面 (南から)

写真 21　SB2301 内 P2 断面 (南から)

写真 22　SB2301 内 P3 断面 (南から)

写真 23　SB2301 内 P4 断面 (南から)

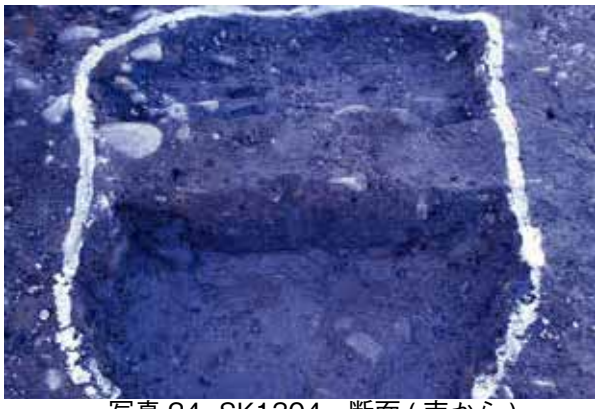


写真 24　SK1304　断面 (南から)

写真 25　SK1306　断面 (北西から)

写真 26　SK1307　断面 (西から)

写真 27　SD1101　断面 (西から)

写真 28　SD1202　断面 (南から)

写真 29　SD1203　断面 (北から)

写真 30　SD3301　断面 (北から)

写真 31　SD3302　断面 (北から)

写真 32　SD1304　断面 (南から)

写真 33　SD3303　断面 (南から)

写真 34　SD3304　断面 (北から)

写真 35　SX3201　断面 (南東から)

写真 36　SX3202　断面 (西から)

写真 37　SD2303　断面 (東から)

写真 38　SD2303 石組検出状況 (東から)

写真 39　SD2303 石組検出状況 (南から)

写真 40　SD1502　全景 (東から)

写真 41　SP2302　断面 (南から)

写真 42
SR01　完掘状況（東から）

写真 43
SR01　断面（東南から）

写真 44
SR02　完掘状況
（西南から）

写真 45
SR02　完掘状況（西から）

写真 46
SR02　断面（西から）

写真 47
SR02（グリッド C）
上層黒色粘質土
遺物出土状況

写真 48
SR02（グリッド A）
上層黒色粘質土
遺物出土状況

写真 49
SR02（グリッド A）
上層黒色粘質土
遺物出土状況

写真 50
SR02（右）・SR03
完掘状況（東から）

写真 51
SR03　掘削状況
（手前が木器集中地点）
（南から）

写真 52
SR02・03　断面
（北東から）

写真 53
SR05　完掘状況（南から）

写真 54
SR06・07　掘削状況
（東から）

写真 55
SR06 ～ 08 等　掘削状況
（東から）

写真 56
SR06　掘削状況
（西から）

写真 57
SR07・08　掘削状況
（北から）

写真 58
SR06・07 等　掘削状況
（東から）

写真 59
SR06 中層
遺物出土状況　（南から）

写真 60
SR06 中層
遺物出土状況　（西から）

写真 61
SR07　遺物出土状況
（南から）

写真 62
SR07　遺物出土状況
（南から）

写真 63
SR07　遺物出土状況
（南から）

写真 64
SR07　遺物出土状況
（南から）

写真 65
SR07　遺物出土状況
（北東から）

写真 66　出土遺物（1）

写真 67　出土遺物（2）

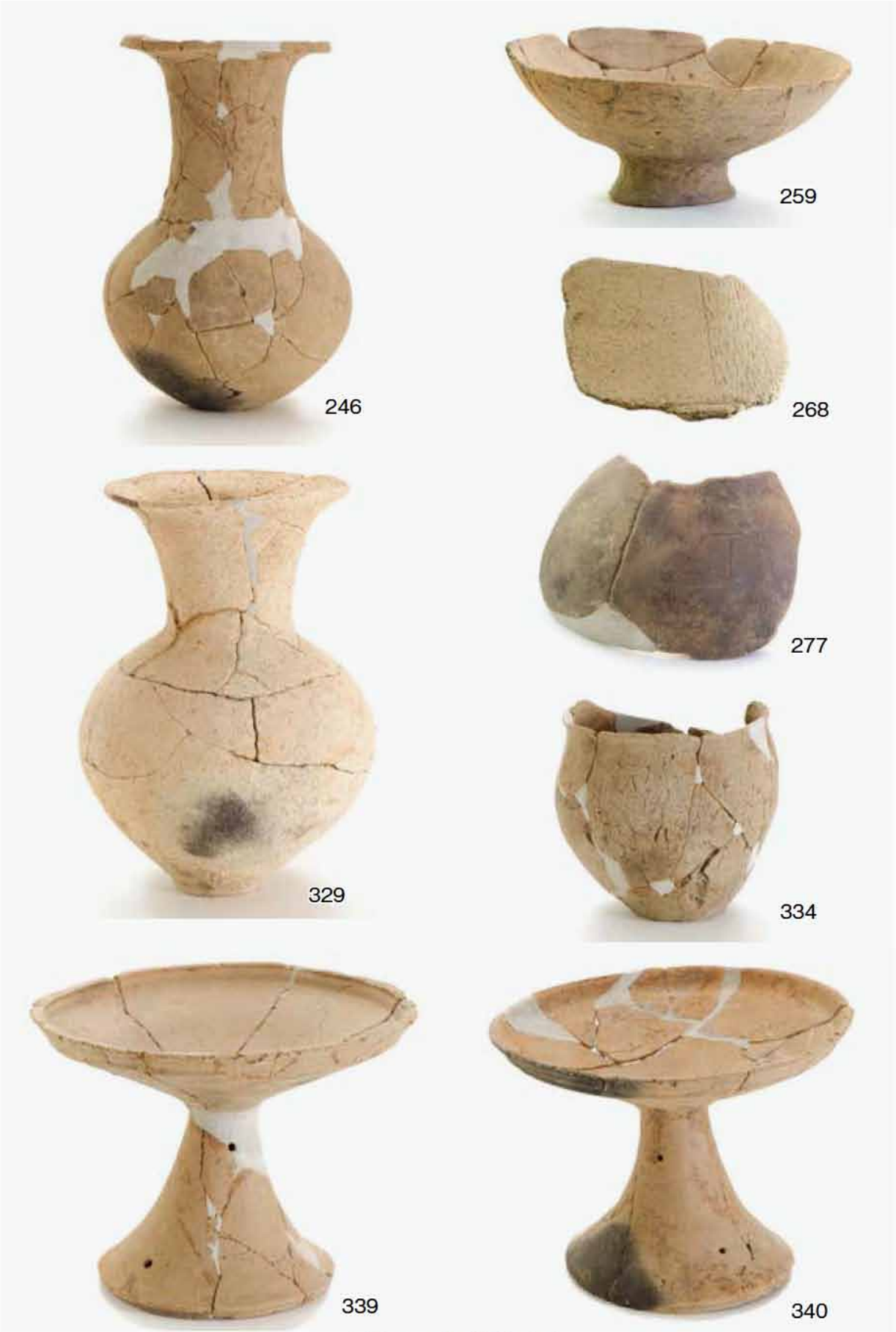


写真 68　出土遺物（3）

写真 69　出土遺物（4）

写真 70　出土遺物（5）

写真 71　出土遺物（6）

写真 72　出土遺物（7）

写真 73　出土遺物（8）

写真 74　出土遺物（9）

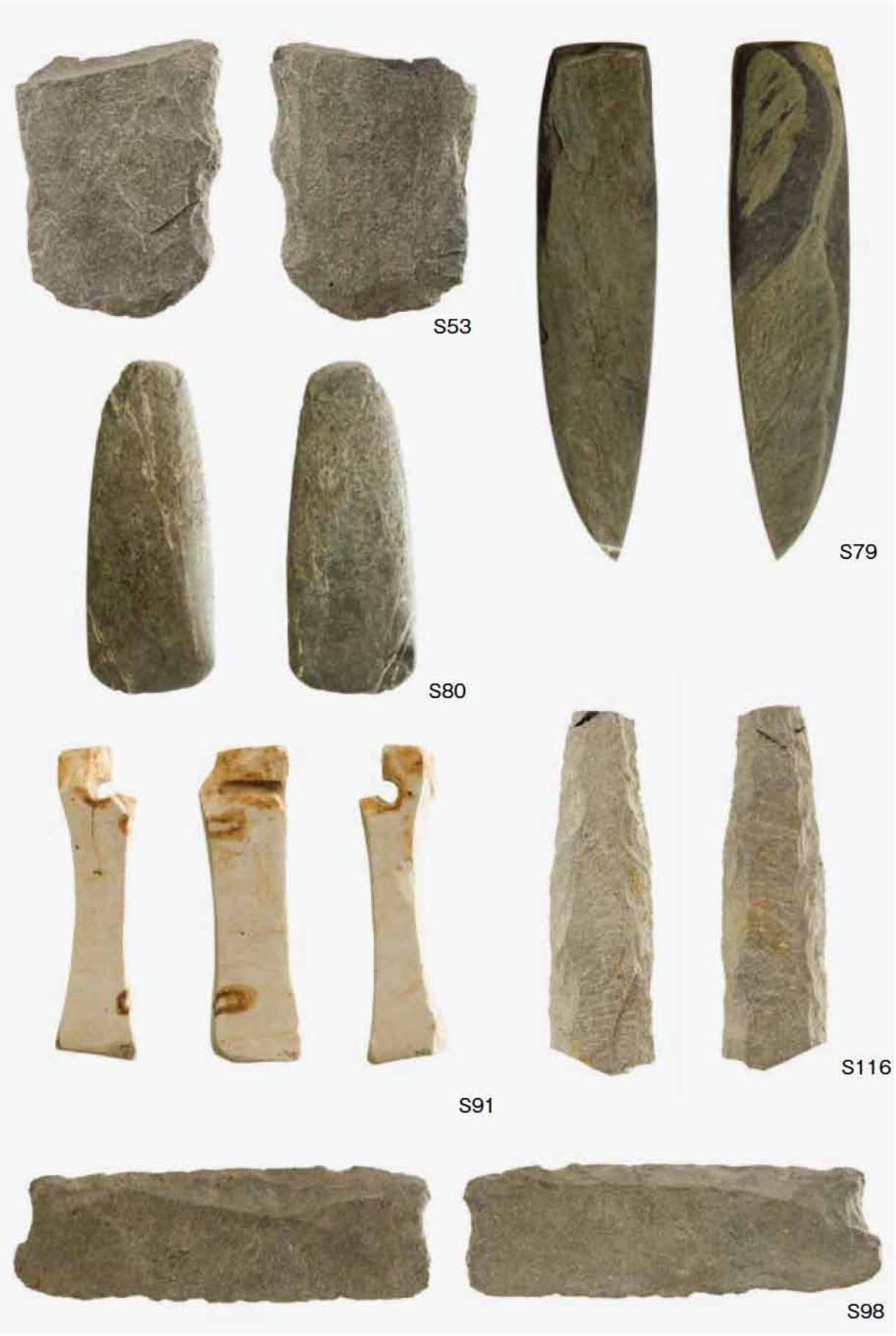


写真 75　出土遺物（10）

写真 76　出土遺物（11）

写真 77　出土遺物（12）

写真 78　出土遺物（13）

写真 79　出土遺物（14）

写真 80　出土遺物（15）

写真 81　出土遺物（16）

報告書抄録

ふりがな	たひみやじりいせき
書名	多肥宮尻遺跡
副書名	県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	木下晴一、山元素子
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762-0024　香川県坂出市府中町字南谷5001番地4　　TEL 0877-48-2191（代）
発行機関	香川県教育委員会
発行年月日	2018（平成30）年3月6日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
たひみやじりいせき 多肥宮尻遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 たひかみまち 多肥上町	37201		34度 17分 35秒	134度 3分 35秒	19970401 ～ 19990930	10,845	県道太田上町 志度線 道路改築

	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	集落	縄文晩期 弥生前期 弥生中期 弥生後期 古代 中世	旧河道 ピット 土坑 溝状遺構	縄文晩期土器 弥生土器 土師器 須恵器 木製農具 石器	

要　約	本遺跡は、香東川扇状地上を開折する有力な旧河道が調査対象となった。旧河道からは縄文時代晩期、弥生時代前期・中期中葉・後期、古墳時代後期、古代、中世の遺物が出土しているが、出土層位によっては、異なる時期の遺物が混在する特徴がある。また、旧河道両岸には、掘立柱建物、ピット、土坑、溝状遺構が検出されている。時期は中世以降のものが主体となり、旧河道出土遺物から存在が推定される縄文時代晩期～古墳時代後期の遺構は削平を受けていると考えられる。

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

多肥宮尻遺跡

2018 年 3 月 6 日

編集　香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001 番地 4
TEL　0877-48-2191（代）
E-Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行　香川県教育委員会
印刷　ワールド印刷株式会社